

2018年度

事業報告書

社会福祉法人

聖隷福祉事業団

# 2018年度 事業報告書 目次

2018年度事業報告にあたり	…	1
2018年度事業成績報告	…	4
聖隷三方原病院	…	7
聖隷おおぞら療育センター	…	11
三方原ベテルホーム	…	15
聖隷浜松病院	…	17
聖隷淡路病院	…	21
聖隷横浜病院	…	23
聖隷佐倉市民病院	…	25
保健事業部	…	27
聖隷健康診断センター	…	28
聖隷予防検診センター	…	30
聖隷健康サポートセンター <i>Shizuoka</i>	…	32
地域・企業健診センター	…	34
浜松市リハビリテーション病院	…	36
聖隷袋井市民病院	…	38
在宅・福祉サービス事業部	…	40
<和合せいれいの里> 特別養護老人ホーム和合愛光園 和合愛光園デイサービスセンター 障害者支援施設みるとす 障害者相談支援事業所くすのき 生活支援ハウスやまぶき 和合愛光園和合サテライト 訪問看護ステーション住吉		
聖隷ヘルパーセンター	…	44
聖隷巡回ヘルパーぐるり和合 聖隷ケアプランセンター浜松 聖隷ケアプランセンター和 地域包括支援センター和合 聖隷厚生園チャレンジ工房 聖隷放課後クラブはなえみ和合		
聖隷めぐみ保育園	…	49
<聖隷ケアセンター初生> 和合愛光園初生サテライト		
聖隷デイサービスセンター初生	…	51
聖隷ヘルパーセンター初生	…	
いなさ愛光園	…	54
聖隷厚生園讃栄	…	57
聖隷厚生園信生	…	59
聖隷厚生園ナルド工房	…	61
浜松市生活自立相談支援センターつながり	…	63

# 2018年度 事業報告書 目次

< 聖隷ぴゅあセンター磐田 > 聖隷こども発達支援センターかるみあ 聖隷放課後クラブはなえみ磐田 相談支援事業所磐田みなみ 聖隷チャレンジ工房磐田	...	65
聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田・ 磐田市発達支援センターはあと	...	67
浜北愛光園	...	68
森町愛光園	...	71
もくせいの里	...	74
< 聖隷ケアセンターいなさ > 地域包括支援センター細江 聖隷ケアプランセンターいなさ南部 聖隷リハビリプラザいなさ 訪問看護ステーション細江サテライト	...	76
< 細江地区在宅複合事業 > 訪問看護ステーション細江 聖隷ケアプランセンター細江	...	79
< 聖隷ケアセンター三方原 > 訪問看護ステーション三方原 聖隷ケアプランセンター三方原 聖隷デイサービスセンター三方原	...	80
< 聖隷ケアセンター高丘 > 訪問看護ステーション高丘 聖隷リハビリプラザIN高丘 地域包括支援センター高丘 聖隷放課後クラブはなえみ高丘	...	81
< 浅田地区在宅複合事業 > 訪問看護ステーション浅田 聖隷ケアプランセンター浅田	...	83
訪問看護ステーション住吉第二	...	84
聖隷デイサービスセンター住吉	...	85
聖隷コミュニティケアセンター	...	87
松戸愛光園	...	88
< 浦安市高洲高齢者福祉施設及び 猫実高齢者デイサービスセンター > 浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護 浦安市高洲高齢者デイサービスセンター 浦安市高洲地域包括支援センター 浦安市ケアハウス 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター	...	90
浦安愛光園	...	93
浦安ベテルホーム	...	95
浦安せいれいクリニック	...	97
聖隷ケアプランセンター浦安	...	98
聖隷訪問看護ステーション浦安	...	99
横須賀愛光園	...	100

# 2018年度 事業報告書 目次

聖隷訪問看護ステーション油壺	… 103
宝塚すみれ栄光園	… 104
ケアハウス宝塚	… 106
結いホーム宝塚	… 108
宝塚栄光園	… 110
＜聖隷ケアセンター宝塚第1＞	
聖隷ヘルパーステーション宝塚	
聖隷逆瀬川デイサービスセンター	
聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹	… 112
聖隷ケアプランセンター宝塚	
聖隷訪問看護ステーション宝塚	
逆瀬川地域包括支援センター	
＜北神戸地区在宅複合事業＞	
聖隷訪問看護ステーション北神戸	… 116
聖隷ケアプランセンター北神戸	
聖隷逆瀬台デイサービスセンター	… 118
聖隷デイサービスセンター結い	… 119
聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	… 121
花屋敷栄光園	… 122
ケアハウス花屋敷	… 124
＜聖隷ケアセンター宝塚第2＞	
聖隷ケアプランセンター花屋敷	… 126
聖隷訪問看護ステーション山本	
聖隷カーネーションホーム	… 127
淡路栄光園	… 129
＜聖隷ケアセンター津名＞	
聖隷訪問看護ステーション淡路	… 131
聖隷ケアプランセンター淡路第二	
聖隷ヘルパーステーション淡路	
聖隷こども園夢舞台	… 133
奄美佳南園	… 135
のぞみ園	… 137
春日保育園	… 139
聖隷かがやき	… 141
＜聖隷ケアセンター沖縄＞	
聖隷訪問看護ステーションゆい	… 143
聖隷居宅介護支援センターゆい	
聖隷デイサービスセンターゆい	
聖隷こども園わかば	… 145
聖隷こども園桜ヶ丘	… 147
聖隷こども園ひかりの子	… 149
聖隷こども園めぐみ	… 151
聖隷浜松病院ひばり保育園	… 153
こうのとり保育園	… 155
磐田市子育て支援総合センター「のびのび」	… 157
聖隷こども園こうのとり東	… 159
聖隷こども園こうのとり豊田	… 161

# 2018年度 事業報告書 目次

野上あゆみ保育園	…	163
野上児童館	…	165
逆瀬川あゆみ保育園	…	167
御殿山あゆみ保育園	…	169
御殿山児童館	…	171
高齢者公益事業部	…	173
浜名湖エデンの園	…	175
宝塚エデンの園	…	177
松山エデンの園	…	179
油壺エデンの園	…	181
浦安エデンの園	…	183
横浜エデンの園	…	185
< 聖隷藤沢ウェルフェアタウン > 藤沢エデンの園一番館 藤沢エデンの園二番館 藤沢愛光園		
聖隷デイサービスセンター藤沢	…	187
聖隷ケアプランセンター藤沢		
聖隷ヘルパーステーション藤沢		
聖隷訪問看護ステーション藤沢		
奈良ニッセイエデンの園	…	192
松戸ニッセイエデンの園	…	196
明日見らいふ南大沢	…	199
法人本部	…	201
2018年度施設整備事業報告	…	205
法人の概要	…	206
実施する事業の概要	…	207
役員の状況／理事会、評議員会運営の状況	…	219
附属明細書	…	220

# 2018 年度事業報告にあたり

理事長 山本敏博

2018 年度は診療報酬、介護報酬そして障害福祉サービス等報酬の 3 つの同時改訂が行われました。また働き方改革についても議論が進みました。大きな環境変化と言えますが聖隷福祉事業団（以下聖隷）では病院・施設等の新設・増改築といった大規模な投資を行いつつ、各事業部の協調により総合力を発揮し、よりよいサービスの提供や経営の安定、労働環境の改善につなげることができました。また、聖隷おおぞら療育センターが天皇陛下より御下賜金を拝受しました。従来からの活動をお認めいただいたことに感謝すると共に、社会福祉法人としての使命を果たすべく、責任感を新たにいたしました。

将来の医療福祉人材の確保が課題と考えていますが、就職志望者の地元志向に対応して、自身の選択した地域で採用され、働き続けられる新人事制度をスタートしました。キャリア形成支援や処遇向上も図り、今後の人材確保に向けての強力な基盤ができました。障がいを持った職員についても法定数以上の雇用拡大を行い、地域での働く場の提供に努めています。外国人雇用では EPA 以外に、国内ですでに働いている外国人が聖隷に転職してくれるなど、多様なチャンネルから優秀で意欲的な人材を雇用することに成功しています。また、2017 年度に引き続いて、経済産業省が推進する健康経営優良法人「ホワイト 500」に認定されました。着実に労働環境の整備が進んでいます。

社会福祉法人の地域における公益的な取組の一例として配食サービス「聖隷キッチン和合」から学習支援をしている子供たちへの夕食提供を開始しました。生活困窮家庭への食を通じて総合的なサービスに発展をさせていきます。また、西日本豪雨災害に際して看護師、介護福祉士等を派遣し、被災地に対して大きな貢献をすることができました。一方で、浜松地域を中心に台風 24 号による大規模停電を経験し、より充実した災害対策の必要性を痛感しました。

2018 年度決算では過去最高となるサービス活動収益約 1,161 億円となり、約 39 億円の経常増減差額となりました。事業規模を拡大しつつ利益を確保することができ、健全な成長を継続できたと言えます。3 報酬同時改定という大きな外部環境変化に柔軟に対応すると共に、計画的な事業の推進ができたことと、将来に向けた投資をした事業を他の事業が支える体制が整っていることが事業成績につながりました。財務内容だけではなく、人事制度改革や労働環境整備、災害支援など大規模社会福祉法人として責任ある組織体制、地域貢献ができたことは大きな成果でした。各事業部が協力しつつ、さらなるサービスの質の向上を追求する、聖隷らしい事業展開ができ、地域共生社会の実現に向けて貢献ができたと考えています。地域の皆様をはじめ、ご支援、ご指導をいただいた方々に厚く御礼を申し上げ、ご報告とさせていただきます。

基本理念

キリスト教精神に基づく  
「隣人愛」

使命

- ・いのちと尊厳のために
- ・利用される人々のために
- ・地域社会とともに
- ・未来を築く
- ・最高のものを

ビジョン2020

人・地域・社会・時代が必要とする  
ヒューマンサービスを追求し、  
新たな価値を創造する

中期事業計画

事業部中期事業計画

事業団年度目標

事業部年度目標

職員行動指針

わたしたちは、  
ひとりひとりの  
命と尊厳を守ります

わたしたちは、  
サービスを求める  
すべての人々に、  
誠実かつ献身的に仕え、  
その自立を支援します

わたしたちは、  
「保健・医療・福祉・介護」  
サービスを通して  
社会に貢献し、  
地域の人々との  
強い絆を育みます

わたしたちは、  
先駆的・開拓的精神で  
新たなニーズの発見に努め、  
常に課題に挑戦します

わたしたちは、  
ひとりひとりが専門職としての  
倫理と誇りを持ち、  
最高の技術を提供します

次ページへ

【用語の定義】

○使命：職員は何を大切に考えて仕事をするか ○ビジョン2020：2020年にどのような組織であるべきか

ビジョン2020  
人・地域・社会・時代が必要とする  
ヒューマンサービスを追求し、  
新たな価値を創造する

1. 最高の質を追求し提供する
2. 社会福祉法人としての使命を追求する
3. 職員は高い専門性と経営的視点を持ち、能力を発揮する
4. 多様な能力、価値観を持った人材や女性の活躍を推進する
5. 社会のニーズに応える先駆的な事業・サービスを創造する
6. 地域包括ケアシステムを構築し、シームレス<sup>※1</sup>なサービスを提供する
7. 事業を継続し発展するためにサービス活動収益 年2.5%<sup>※2</sup>成長を維持する

2016年度

2017年度

2018年度

2019年度

2020年度

1. 最高の質を追求し提供する	6. 地域包括ケアシステムを構築し、シームレス <sup>※1</sup> なサービスを提供する
①利用者視点に立った良質なサービス提供の実践	①地域枠での聖隷独自の事業展開と事業部の融合
②人口動態の変化に伴うサービスの変革	②聖隷と他法人の連携による地域包括ケアシステムの構築
③最新医療・介護技術、システムの導入・構築	③地域包括ケアシステムにおける連携の仕組み作り
2. 社会福祉法人としての使命を追求する	7. 事業を継続し発展するためにサービス活動収益 年2.5% <sup>※2</sup> 成長を維持する
①社会福祉法人としての公益活動の推進・情報発信	<2020年度到達目標>
②新たな組織体制の追求	①サービス活動収益 対2015年度比 112.5%以上
3. 職員は高い専門性と経営的視点を持ち、能力を発揮する	②経常増減差額率 5か年累計平均 3.0%以上
①サービスの質を意識し、専門職としての知識・技術・価値の追求	③職員一人あたりサービス活動収益 対2015年度比 107.0%以上
②経営を担う人材、新たな価値を創造する人材の育成	④職員一人あたり経常増減差額 対2015年度比 112.0%以上
③中期事業計画を理解し、自ら考えて行動する人材の育成	⑤実質資金増加額 5か年累計 60億円以上
4. 多様な能力、価値観を持った人材や女性の活躍を推進する	⑥純資産比率(自己資本比率) 40.0%以上
①多様な働き方の創出	⑦人件費率 58.0%以内
②女性の活躍を推進するためのキャリア形成支援	⑧有利子負債比率(対サービス活動収益) 30.0%以内
5. 社会のニーズに応える先駆的な事業・サービスを創造する	
①効果的な投資による経営資源の最大活用	※1 シームレス：地域において保健・医療・福祉・介護サービスを事業団内、他法人との連携により継ぎ目なく受けられること。
②社会環境の変化を先取りした事業の展開	※2 成長率 年2.5%：新たな事業展開、医療・福祉人材の確保等を行う中で、安定的な経営を行うために年2.5%以上の成長が必要である。
③地域に求められるサービスの提供	2020年度終了時、サービス活動収益対2015年度比112.5%以上

(2015.11.27 理事会承認)



# 2018年度 事業成績報告

常務執行役員 青木 善治

## (1) 事業の経過及びその成果

当期は、診療報酬、介護報酬の同時改定という中、投資環境は狭間の年であり、今後の新規事業に向けて財務状況の改善が更に実行された年であった。収益面においては医療・介護・保健・エデン事業ともに稼働率が高かったことや、診療・介護報酬改定をプラスに導く努力が功を奏し、順調な増益となった。一方、費用面においては、「医療用医薬品流通改善ガイドライン」の影響により、医薬品価格の上昇や、人事院勧告が5年連続でプラス改定となり、月例給改定率としては+0.2%となる等、人件費のアップが続く年度であった。しかしながら働き方改革の推進により、生産性の向上と仕事の効率化への対応を行い、最終的にサービス活動収益は1,161億円、2017年度より25.2億円(2.2%増)の増収を達成することができ、経常増減差額においても、予算を大幅に上回る+39.3億円(経常増減差額率3.3%)を計上することができた。

## (2) 医療・保健事業

医療事業において、聖隷三方原病院は、地域障がい者総合リハビリテーションセンターの着工や新たな放射線治療装置、新電子カルテシステムの稼働などハード・ソフト面の充実と、更なる質の向上に取り組み、地域の方々により良い医療を提供している。特に聖隷おおぞら療育センターが医療型障害児入所施設/療養介護(重症心身障がい児施設)として長年の活動が評価され優良社会福祉事業施設として、天皇陛下より御下賜金を拝受した。経営的には、引き続き着実な経営実績(税引前当期活動増減差額(以下、税前増減差額)+6.44億円)を上げることができた。

聖隷浜松病院においては、入院・外来患者の受け入れ態勢の充実に取り組み、断らない医療の提供体制の更なる強化と婦人科のダヴィンチ手術の開始など高度専門医療の推進にも力を入れ、質の高い安全な医療の提供することに取り組みだ。経営的には、税前増減差額において、改修計画の進捗により固定資産廃棄費用と控除対象外消費税の期ずれにより、予算には未達であったが、2017年度並みの実績を上げることができた(税前増減差額+4.71億円)

聖隷淡路病院においては、3月に出産数累計500件の達成し、また高齢化率が高い淡路市においてリハビリテーション科を新設し、地域のニーズを反映した病院運営を行った。特に経営改善に対する強力な取り組みは、税前増減差額において予算には未達ではあるが、2017年度を上回ることができた。(税前増減差額 2017年度▲1.00億円→▲0.73億円)

聖隷横浜病院は、新外来棟建築工事の最中の年度であり経営的には厳しい状況が続いている。救急診療体制の強化と再編、地域連携にも精力的に活動を強化したが、引き続き更なる経営改善への取り組みが必要である。(税前増減差額▲3.76億円)

聖隷佐倉市民病院においては患者支援センターの開設や、高齢化社会で求められる充実した診療体制を構築するなか、手術室や健診センターの充実を目指す第4期工事が着工された。経営的には人件費と医薬品費の増加により、税前増減差額において2017年度・予算を下回る結果となり、建築計画の最中ではあるが強力な経営改善への取り組みが必要である(税前増減差額▲1.40億円)

保健事業部では、人間ドックの午後実施やファーストママ検診などの午後の時間帯の有効活用や、特定健診・特定保健指導等の積極的実施により、受診者や医療保険者から良い評価がなされ、経営課題であった静岡地区に関しても、受診者数が増加し予算を達成することができ、保健事業

部全体でも、産業保健・健康経営への継続した質の高い取り組みが結果となって表れ、税前増減差額において予算を達成することができた（税前増減差額 予算+2.06億円→実績+2.81億円）

指定管理を受け11年が経過した浜松市リハビリテーション病院は、地域ニーズへ対応し、地域と連携し、更なる質の向上を追求し続けている。経営的には診療報酬改定の厳しいスタートであったが、病院全体での取り組みにより上位の施設基準の取得がなされ、順調な運営が行われた。

袋井市立聖隷袋井市民病院は、引き続き5年間の指定管理を受託することができ、中東遠医療圏の地域包括ケアシステムの一員として地域と連携し、地域全体として効率的な医療提供体制の後方支援としての役割を充分発揮することができた。経営的にも入院患者の増加や業務改善により順調な運営が行われた。

### (3) 在宅・福祉サービス事業

静岡県立浜松学園の指定管理者を受託し、障害福祉の取り組みが大きく進む年度となり、和合愛光園に弁当宅配事業「聖隷キッチン和合」の開設や精神障害者の総合的支援の為にグループホームの開設準備等、各地域において障害福祉ニーズの発見と把握に努めたことを始めとして、保育事業についても、「聖隷こども園夢舞台」新規開設等の障害福祉・保育事業の拡充がなされた。また、介護・障害・保育システムが、導入から運用の改善へと習熟が進み、生産性の向上と効率化を更に進めている。

経営的な面としては、高齢者福祉・介護保険事業、障害者福祉事業において、それぞれの報酬改定への対応と、各種報酬加算のための体制や人員配置基準等の見直しを行い、実績を残すことができた。また、介護福祉施設全体では、2017年度と同様に各地において特別養護老人ホーム増設がなされた結果、入所対象者が激減した。これに対して利用者情報を集約し、待機者確保を行った結果、経営的に大きな影響を受けることなく運営ができた。事業部全体でサービス活動収益において、196億円（対2017年度102.7%）を達成し、税前増減差額+7.87億円となり着実な実績を残すことができた。

### (4) 高齢者公益事業

浜名湖エデンの園の耐震対策建替工事において、増築4号館が完成し、1・2号館の解体工事が終了し、引き続き新1・2号館が着工された。入居者募集については、2019年度10月の消費税導入の影響が考えられるものの、新規契約数（目標127件→実績141件）、契約金額（目標36.5億円→実績45.2億円）とも予算を達成した。入居率も3月時92.2%と4月スタート時（88.8%）と比較して3.4%増加することができた。これらはシニアライフセミナー開催やTVコマーシャルを活用した営業努力の他にも、浜名湖エデンの増築4号館の販売開始と油壺エデンの園がテレビ番組で取り上げられ、社会的に反響があったことも引き続き影響している。これらの結果、税前増減差額が+2.99億円であったが、キャッシュ・フローは11.02億円（対2017年度+13.44億円）もの実績を上げることができた。

### (5) 財務の状況

2018年度は事業団全体で77.9億円の固定資産整備を行った。内訳は、建築工事、高額備品等の特別整備が38.6億円、備品更新等の通常整備が34.5億円、リース債務の支払いが4.8億円となっている。中でも、浜名湖エデンの園建替工事14.2億円、聖隷横浜病院新外来棟工事12.6億

円、聖隷佐倉市民病院第4期工事5.2億円等、有料老人ホーム事業および病院事業への投資を積極的に行った。

これらの固定資産整備に伴う新規長期借入額は41.2億円であり、一方、長期借入金並びにファイナンスリース債務等の返済額は61.5億円である。この結果、長期借入金残高は293億円となり、サービス活動収益に対する長期借入金比率を26.0%（2017年度28.2%）に下げることができた。

また、賞与資金については2017年度に引き続き全額を自己資金で賄う等、財務体質の健全化を進めることができた。

《直近5年間のサービス活動収益及び経常増減差額》

（単位：百万円）

【サービス活動収益】	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
医療・保健事業 計	75,207	79,831	83,437	85,908	88,101
高齢者公益事業	9,034	9,333	9,405	9,353	9,456
在宅・福祉サービス事業	17,747	17,269	17,820	19,093	19,613
本部会計	2,705	307	508	655	377
内部取引	-	▲1,237	▲1,331	▲1,422	▲1,444
合 計	104,693	105,503	109,839	113,587	116,103

【経常増減差額】					
医療・保健事業 計	1,231	1,780	2,685	2,870	2,575
高齢者公益事業	245	1,160	1,277	996	840
在宅・福祉サービス事業	502	788	871	1,041	1,119
本部会計	1,288	▲795	▲156	▲80	▲606
合 計	3,266	2,933	4,675	4,827	3,928

※医療・保健事業には浜松市リハビリテーション病院及び袋井市立聖隷袋井市民病院含む

※2015年度より新会計基準に変更

➤ 中期事業目標(2016年～2020年度)進捗状況

経営分析指標	目標	2017年度	2018年度
サービス活動収益 対2015年度比	2020年度 112.5%以上	107.7%	110.0%
経常増減差額率(累計)	3.0%以上	4.3%	4.0%
一人あたりサービス活動収益 対2015年度比	2020年度 107.0%以上	101.3%	101.7%
一人あたり経常増減差額 対2015年度比	2020年度 112.0%以上	154.8%	123.7%
実質資金増加額 5年累計	2020年度 60億円以上	30.2億円 (累計45.6億円)	25.6億円 (累計71.2億円)
純資産比率(自己資本比率)	2020年度 40.0%以上	40.6%	41.1%
人件費率	58.0%未満	57.4%	57.4%
有利子負債比率	2020年度 30.0%未満	28.6%	27.8%

## 医療保護施設 総合病院 聖隷三方原病院

6年に1度の医療・介護の同時改定の年度であった。地域医療構想や地域包括ケアシステムの構築に向けた大幅な改定が予測されたが、変更はあったものの病院の体制に大きな影響はなかった。また1年遅れていた新専門医制度の初年度として、4月に6診療科が基幹病院としてスタートし、10月には1診療科が追加された。当初の予想通り大学指向、都市部集中の傾向が顕著に表れ、専攻医となる若い医師の確保が厳しい1年となった。初期研修医については14名のフルマツチとなり、2019年度へつなげることができた。

政府が進めている働き方改革については、初期研修医の勤務体制の整備をはじめ、医師の面談時間の変更、会議・委員会時間の短縮、夜勤体制の導入など積極的に取り組みを行った。まだまだ行政の動きも不明確のため、今後も特に勤務医の動向を中心に注視していきたい。

院内の行った事業としては、約1年半かけて準備を進めてきた地域障がい者総合リハビリテーションセンターが無事着工を迎えることができた。12月12日に起工式が開催され、順調に進めば2019年9月末完成予定となる。最新医療機器の導入としては、2017年12月にハイブリッド手術室が完成し、2018年7月にはTAVI手術の実施施設として認定を取得後、現在も指導医のもと症例を重ねている。また10月には放射線治療装置も稼働し、今後も地域の方々により良い医療を提供できるよう体制の確立に取り組んでいきたい。

ソフト面では12月から1月にかけて電子カルテシステムの更新が行われた。事前準備としてリハーサルを重ね、特に大きな問題もなくスムーズに更新をすることができた。

2018年8月には西日本災害豪雨の被災地へ8月1日～9月2日の1ヶ月間で計6名の看護師を現地に派遣し、被災者の健康管理、避難所への巡回訪問を行った。

聖隷おおぞら療育センターは、ご家族からの要望を受け、生活介護の朝の受け入れ時間帯を拡大し体制を整えた。また2017年度に引き続き防犯対策として、不審者進入を想定した警察との合同の防犯訓練を行い強化に努めた。12月には開設以来45年にわたる活動が評価され、2018年度優良民間社会福祉事業施設として天皇陛下より御下賜金を拝受した。

最後に2018年度入院・外来ともに高単価となり、2017年度比で入院単価は約1,000円プラス、外来単価は約2,000円のプラスとなった。一方費用は、産休・育児休暇の取得者増の影響もあり人件費が大きく抑えられた。年間患者数の推移については、外来患者は増加傾向、入院は上半期の落ち込みが目立ったが、結果的にはほぼ例年通りに推移した。

結果、2018年度も予算を達成することができた。職員が頑張ってくれた結果であると心より感謝したい。

	予 算	実 績	対予算	対前年		予 算	実 績	対予算	対前年
入院患者数	630名	622名	98.7%	98.0%	外来患者数	1,000名	1,004名	100.4%	100.6%
入院単価	63,500円	64,102円	100.9%	100.6%	外来単価	17,400円	18,014円	103.5%	100.6%
職員数	1,443名	1,409名	97.6%	98.1%	病床利用率	82.5%	81.3%	98.5%	97.8%
サービス活動収益	20,817 百万円	20,971 百万円	100.7%	99.0%	サービス活動費用	20,309 百万円	20,227 百万円	99.6%	99.6%

(注：外来患者数、外来単価は歯科を除く)

## 1. 安全で質の高い医療の提供

### (ア) 安全な医療の提供

#### ①医療安全管理体制の評価と充実

医療安全管理室会議、医療安全管理委員会を定期的開催するとともに、IA レポート・オカレンス報告より、医療安全管理室会議・医療安全管理委員会内で検討を行い、必要時にはメディカル・リスクマネジメントマニュアルの改訂・追加・削除を実施した。医療事故報告制度への対応は、2016年度に2件の医療事故報告制度への報告を実施し、1例目は今年度、調査報告書を医療事故調査・支援センターへ提出し完了した。2例目も年度内に調査報告書を提出する見込みである。

### (イ) 新たな病院機能の提供

#### ①電子カルテシステム更新

旧システム稼働より7年目を迎えたため、2018年度は電子カルテシステムの更新を行った。関連部署が参加する各種検討会、操作説明会を経て年末にはおおがかりなりハールを開催し、予定通り新システム稼働を行うことができた。

#### ②地域障がい者総合リハビリテーションセンター建築

2018年8月に入札執行、その後造成工事を経て同年12月に起工式を執り行い、建築工事に着手した。また多職種が参画する運用検討プロジェクトを発足し、2019年度の開設に向けた運用体制の構築を進めている。

## 2. 人づくり文化の継承と働く支援

### (ア) 医師・看護師・介護職の人材確保と定着

初期研修医については、新たに地域医療研修病院を追加して、プログラムの魅力アップ、研修機会の多様性を増すことができた。また日当直体制、手当の見直しを行い、勤務環境の充実を実施し、採用活動に活かした。看護師採用については、インターンシップ、就職説明会への参加者数を増加させることで、結果エントリー数71名（2017年度比+9名）、採用者数58名（2017年度比+9名）につながった。また聖隷おおぞら療育センター介護職の就職説明会を新たに開催し、採用者数は8名（2017年度比+5名）となった。新専門医制度への対応については、4月の6診療科の基幹施設に加えて泌尿器科の基幹施設としてプログラムの立ち上げを行った。今後は、2020年度精神科基幹施設に向けての準備を進めている。

### (イ) 働き方改革の検討

医師の面談時間の変更、各種会議・委員会の開催時間の変更や時間短縮の取り組みを行った。また研修医の勤務態勢の整備を行い、労働環境の改善を図った。その他、臨床検査部の夜勤体制の導入、看護部の2交代勤務導入なども行い労働環境の改善に努めた。

## 3. 地域における多施設連携の取り組みと社会貢献

### (ア) 地域包括ケアシステムの推進

日本看護協会「地域包括ケアフォーラム」、静岡県看護協会「浜松市北区の意思決定支援プロジェクト研修」、北区天竜区看護介護職地域連携会議（精神科領域）に参加し、在宅医療の実際や地域の動向を知る機会となった。ERと訪問看護との意思決定支援シー

トの作成や交流会を通じて、新たなネットワークが構築できた。

(イ) 利用者サービスの向上

利用者へよりよい情報公開ができるよう病院ホームページのリニューアルを行った。より使いやすいホームページとなるようページ構成やデザインの全面的な見直しを行った。

(ウ) 病院ボランティアの充実

2018年度は新たにホスピス病棟でアロマセラピストのボランティアが加入し、心と体の癒しを提供し、患者がリラックスでき、とても喜んで頂いている。また病院ボランティア説明会を3回開催し、感染・車椅子介助・認知症と高次脳機能障害など病院ボランティアに必要な知識に関する講義を実施し、新たに一般5名、学生16名のボランティア登録者を得た。

(エ) 省エネルギー活動の継続

C号館熱源機器更新の効果等により2017年度に比べエネルギーの使用量が削減された。またA・B号館病棟共用部の照明LED化を実施した。

4. 地域に望まれる病院機能の整備

(ア) 高度救命救急センターの体制充実

ドクターヘリの運航をはじめとして、救急医療の実践を円滑に行うために、地域医療機関や消防機関など関係各機関と連携をしている。例年に引き続いて管内の各消防機関に向いての訓練や勉強会を実施し顔の見える関係作りを継続している。高度救命救急センターとして熱傷・急性中毒・指肢切断などの特殊疾患にも各診療科と連携し対応している。近隣で発生した局所災害に、速やかに多数傷病者受入体制を作り、傷病者を受け入れた。

(イ) 認知症疾患医療センターの体制充実

地域活動での連携を視野に入れ、浜松市と共に市内認知症サポート医を対象としたアンケートを実施、活動状況や意向を把握・共有した上で、事例検討会や出張相談会を開催し、多職種との連携を深めると共に、認知症対応力向上や地域の実情の把握に努めた。

(ウ) 精神科病棟の体制充実

静岡県精神科救急身体合併症対応事業における県内唯一の身体合併症対応施設であり、全域拠点機関としての役割を担った。また精神科救急においては、西部圏域の常時対応型病院として精神科救急における基幹的役割を果たした。

(エ) 地域がん診療連携拠点病院の体制充実

2018年度は市民公開講座を3回、医療従事者研修会を2回開催した。がん患者の就労支援に関しては、2018年度の新たな取り組みとして浜松公共職業安定所と長期療養者就職支援事業実施協定書を交わし、病院内で就職支援ナビゲーターによる就職相談会を開催した。

また県西部地区がん診療連携拠点病院の4病院により支持療法部会を立ち上げ、持ち回りで医療従事者向けの勉強会を開催した。

(オ) 地域医療支援病院の体制充実

かねてより近隣開業医からの要望に応え患者紹介の一助となるべく「診療のご案内」を10年ぶりに発行した。病診連携の推進及び地域医療支援病院の役割として、市民公開講座・院内外の研修会・勉強会などを延べ27回開催し、多くの方に参加いただいた。地域連携ク

リニカルパス推進では、静岡県西部地区の連携パス運用検討会に積極的に参加し、連携医療機関と常に情報共有を図っている。現在、脳卒中連携パスの運用開始にむけて、院内で関係者と検討を進めている。

(カ) 災害拠点病院としての体制充実

静岡県防災訓練、緊急消防援助隊中部ブロック訓練等に当院 DMAT が参加し、静岡県防災計画の中で重要な役割を担い県庁などの関係機関と連携しながら活動することができた。また、当院は 2017 年度、災害派遣精神医療チーム (DPAT) にも指定病院となり訓練にも参加した。また、院内では、事業継続計画 (BCP) を策定し BCP に基づく地震総合訓練を実施した。2018 年 7 月西日本豪雨災害に対して、8 月から 3 回に亘って当院看護師計 6 名を被災地支援として派遣した。

(キ) 聖隷おおぞら療育センター体制充実

台風 24 号被害によって 27 時間に渡って停電したが、非常用自家発電機等による電源供給により事業継続ができた。また 2016 年度より継続している警察署との合同防犯訓練を実施し、強化に努めた。催事としては、第 45 回日本重症心身障害福祉協会東日本施設協議会を開催し、12 月には優良民間社会福祉事業施設に選定され、当事業団施設としては初となる天皇陛下の御下賜金を拝受という栄にあずかった。

5. 安定した経営基盤の確保

(ア) 診療報酬・介護報酬改定への対応

細かく作り込まれた新しい入院料の区分に対して人員配置及び重症度、医療・看護必要度の適正管理を実施し対応を行った。また、入院時支援加算の届出など入院前からの支援強化及び退院時の地域連携の推進に努めた。

6. その他公益事業、地域における公益的な取組

院内ボランティアの受け入れや、高校生の看護体験 94 名、高校生・中学生の職業体験 64 名を受け入れた。また静岡県看護協会から委託を受けて開催した「看護師の再就職準備講習会」は 3 年目となり、2018 年度は 9 名が参加した。開催日は院内保育園を開放し、参加しやすい環境を整えた。

市民公開講座は計 3 回実施し 128 名が参加した。その内、患者・一般利用者対象の栄養講座は 34 名が参加した。がん就労支援事業としては、医療従事者研修会 (アピアランスケア) やがんと仕事の両立支援をテーマにした公開講座を実施した。また産後ケア事業としては 1 名の利用があった。

<医療保護施設・無料低額事業>

生活困窮者、無保険者、外国人労働者などに対する医療費・室料の減免を行った。引き続き福祉施設などへの医師・薬剤師・理学療法士などの派遣協力を行った。

## 聖隷おおぞら療育センター

### 「医療型障害児入所施設／療養介護（重症心身障害児施設）・短期入所 ショートステイ」

聖隷おおぞら療育センターの施設入所サービスは、2012年の障害者総合支援法の成立以降、医療型障害児入所施設（18歳未満）と療養介護（18歳以上）の並立施設運用になっている。2018年度の利用実績は、4月時点の入所者は133名であったが2019年3月末では129名（期間限定の入所者3名を含む）となった。

また、保護者など家族の事情により一時的な入所が必要と判断したケースで実施している期間限定入所の受け入れは2018年度が7名となり、緊急時など必要な時に安心して利用できる施設としての役割を果たすことができた。

ショートステイの2018年度利用実績は、1日平均利用者数が13.4名（定員20名）、新規契約者は11名で契約者総数は278名となり、在宅の重症心身障害児者及びその家族を支援する為の重要なサービスとして地域の期待に応えることができた。

台風24号被害により市内各所が停電となり、当施設も27時間の全館停電となったが、聖隷三方原病院との連携体制や非常用自家発電機が機能したことにより通常事業が継続できた。

利用者の安全を確保するための防犯対策として、2019年2月に細江警察署の指導の下、不審者侵入に対する防犯訓練及び護身術訓練を実施した。

2018年12月優良民間社会福祉事業施設に選定され、天皇陛下より御下賜金を拝受した。

### あさひ「生活介護」

2018年度は利用者数52名からスタートし、年度途中の利用開始者0名、利用終了者が5名あり、47名で年度を終了した。利用実績は、1日平均利用者数33.0名（定員35名）となった。職員配置では、常勤専従の看護師を2名以上配置する体制を継続し、医療的ケアの必要な利用者に安全なサービスを提供できた。また、常勤専従の生活支援員の配置を維持し、安定した日中活動支援を継続的に提供することができた。重度の医療的ケアの必要な方が増えている中で、小グループ単位で日中活動に重きを置いたサービスを提供することができた。

利用者家族からの要望もあり、日中一時支援事業として8:30～9:00営業時間を新設した。

### 児童発達支援センターひかりの子

#### 「児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・障害児相談支援・特定相談支援」

児童発達支援センターは、通所利用の障害児への支援だけでなく、在宅障害児の支援を積極的に行い地域の中核的な療育支援施設としての役割を果たす必要がある。

児童発達支援は、障害や発達に沿った遊びや保育を重視して実践した。2018年度は利用者数19名からスタートし、年度内の利用開始者が5名、利用終了者0名で、最終的には24名となった。利用実績は、1日平均利用者数12.1名（定員15名）となった。

放課後等デイサービスは、静岡県西部圏域の特別支援学校に通う医療的ケアのある重症心身障害児を主な対象とし、学校の授業終了後や休日に利用できるサービスである。

2017年度より実施した特別支援学校の長期休暇中等の休日枠の拡大運用についても継続した。利用者数は48名からスタートし、年度内の利用開始者が1名、利用終了者が1名あり、最終的



には48名となった。利用実績は、1日平均利用者数5.7名（定員5名）となった。

相談支援事業所おおぞらは、児童を対象とした障害児相談支援と主に成人を対象とした特定相談支援を行っている。2018年度は新規契約者8名、契約終了者11名で、最終的な登録者数は190名となった。

	入 所		短期入所		あさひ		ひかりの子	
	予 算	実 績	予 算	実 績	予 算	実 績	予 算	実 績
入院患者・利用者数	140名	134名	16名	13名	—	—	—	—
入院単価（医療）	28,500円	29,028円	—	—	—	—	—	—
入院単価（福祉）	8,680円	8,637円	24,270円	28,528円	—	—	—	—
外来患者・利用者数	54名	51名	—	—	36名	36名	20名	20名
外来単価（医療）	5,100円	5,004円	—	—	13,640円	13,001円	14,430円	14,144円
サービス活動収益	2,139,000 千円	2,088,050 千円	左記含む	左記含む	123,000 千円	116,532 千円	78,000 千円	75,823 千円
サービス活動費用	1,876,000 千円	1,781,012 千円	左記含む	左記含む	137,000 千円	132,769 千円	74,000 千円	65,143 千円

（注：外来患者数、外来単価は歯科を除く）

#### その他の公益的事業

- ・ボランティアの受け入れ（延人数96人）

1. 科別入院状況

項目	総診	腎内	ホスピス	消化	循環	呼内	結核	内分	脳卒	呼外	外科	整形	形成	産科	婦人	小児	泌尿
入院	186	169	137	1,030	1,274	1,487	18	84	306	832	1,115	1,432	276	407	243	891	932
退院	182	204	279	1,133	1,265	1,505	20	94	304	835	1,159	1,488	281	408	240	895	936
延入院	4,890	3,744	8,992	16,431	15,443	28,117	1,174	1,854	7,434	11,004	13,931	28,214	4,357	3,061	1,486	5,628	6,600
1日平均	13.4	10.3	24.6	45.0	42.3	77.0	3.2	5.1	20.4	30.1	38.2	77.3	11.9	8.4	4.1	15.4	18.1
平均在院日数	25.6	19.0	41.9	14.1	11.2	17.8	60.7	19.8	23.4	12.2	11.2	18.3	14.6	6.5	5.2	5.3	6.1
項目	眼科	耳鼻	皮膚	脳外	精神	麻酔	救急	神内	リハ	心外	肝臓	放治	化療	感り	血内	お小	合計
入院	1,814	302	53	424	399	5	1,124	9	20	214	-	1	3	12	237	500	15,936
退院	1,825	309	64	427	412	5	572	10	60	237	-	1	2	20	248	498	15,918
延入院	4,879	2,151	1,194	9,885	22,070	20	7,244	575	3,025	3,529	-	5	31	556	9,223	48,808	275,555
1日平均	13.4	5.9	3.3	27.1	60.5	0.1	19.8	1.6	8.3	9.7	-	-	0.1	1.5	25.3	133.7	754.9
平均在院日数	1.7	6.0	19.3	22.2	53.4	3.0	7.9	59.5	74.1	14.6	-	4.0	11.6	33.5	37.0	96.8	16.3

2. 月別一日平均入院・外来患者数

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院	634.5	622.6	608.0	593.9	585.1	607.5	639.0	623.0	622.5	609.8	659.5	652.7	621.2
入院【おおよそ合算】	771.9	758.4	743.3	727.5	720.9	739.3	771.2	757.2	755.3	741.4	791.5	784.8	754.9
外来(医科)	955.3	1,033.6	959.2	1,016.3	1,026.9	996.7	997.2	1,011.7	1,049.5	1,029.7	981.8	991.8	1,003.8
外来(医科)【おおよそ合算】	1,008.2	1,086.8	1,011.0	1,069.2	1,074.8	1,047.7	1,046.2	1,063.1	1,099.6	1,079.1	1,031.1	1,041.1	1,054.5
外来(医・歯科)	980.0	1,059.0	981.2	1,039.0	1,051.7	1,022.0	1,022.5	1,041.0	1,074.6	1,054.8	1,008.3	1,016.5	1,028.8
外来(医・歯科)【おおよそ合算】	1,035.0	1,114.4	1,035.1	1,094.1	1,102.3	1,075.6	1,073.6	1,095.0	1,126.0	1,106.3	1,060.1	1,067.4	1,081.7

3. 月別入院状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院	1,291	1,396	1,351	1,357	1,345	1,273	1,397	1,276	1,248	1,407	1,282	1,313	15,936
退院	1,324	1,364	1,361	1,353	1,365	1,258	1,345	1,315	1,376	1,250	1,256	1,351	15,918

4. 科別外来患者数

項目	総診	ホスピス	心内	外科	呼内	精神	婦人	産科	小児	耳鼻	眼科	整形	形成	泌尿
新来	313	277	-	431	929	521	277	330	3,223	1,056	1,223	1,209	487	624
再来	3,128	143	47	11,551	18,191	17,854	4,074	3,937	8,048	11,143	15,646	33,184	6,791	10,743
延患者数	3,441	420	47	11,982	19,120	18,375	4,351	4,267	11,271	12,199	16,869	34,393	7,278	11,367
1日平均	11.8	1.4	0.2	41.0	65.5	62.9	14.9	14.6	38.6	41.8	57.8	117.8	24.9	38.9
項目	循環	脳外	皮膚	呼外	麻酔	消化	腎内	腎透	心外	脳卒	神内	内分	救急	放治
新来	635	508	901	236	32	1,765	153	-	104	128	161	173	8,588	4
再来	6,961	5,389	13,648	6,744	5,815	13,587	3,196	11,879	3,278	1,962	1,515	9,513	5,576	5,638
延患者数	7,596	5,897	14,549	6,980	5,847	15,352	3,349	11,879	3,382	2,090	1,676	9,686	14,164	5,642
1日平均	26.0	20.2	49.8	23.9	20.0	52.6	11.5	40.7	11.6	7.2	5.7	33.2	48.5	19.3
項目	放射	リハ	化療	感り	血内	歯科	お内	お小	お歯科	合計				
新来	2,145	71	1	75	77	1,068	-	1	-	27,726				
再来	992	15,741	2,055	3,237	5,247	6,242	3	14,789	-	287,487				
延患者数	3,137	15,812	2,056	3,312	5,324	7,310	3	14,790	644	315,857				
1日平均	10.7	54.2	7.0	11.3	18.2	25.0	-	50.7	2.2	1,081.7				

※おおよそ歯科含まず

5. 科別手術件数(入・外合計 ※手術室使用)

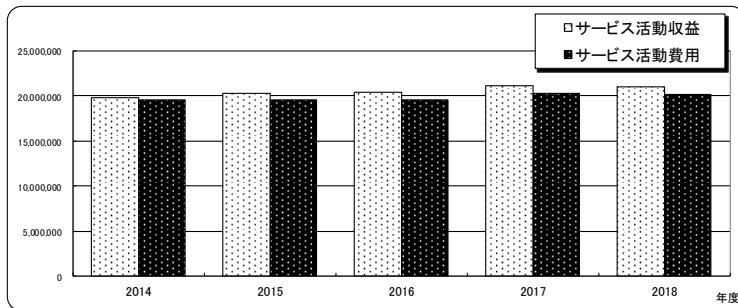
項目	外科	呼外	産婦	整形	形成	脳外	眼科	耳鼻	泌尿	心外	循環	腎内	精神	麻酔	合計
件数	887	351	224	1,708	624	147	1,890	194	467	200	105	41	103	4	6,945
比率%	12.6	5.0	3.2	24.3	8.9	2.0	26.9	2.8	6.7	2.9	1.5	0.6	1.5	0.1	100.0

6. 最近5ヶ年の医業収益・費用動態

【単位:千円】

項目	2014	2015	2016	2017	2018
サービス活動収益	19,774,062	20,254,175	20,424,547	21,182,566	20,970,814
サービス活動費用	19,546,370	19,548,033	19,610,158	20,341,864	20,226,545

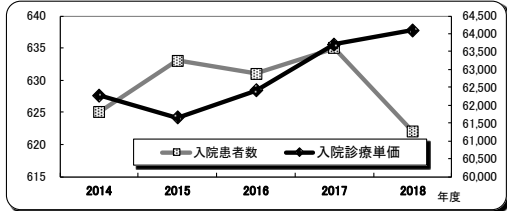
◆サービス活動収益・費用動態



7. 最近5カ年の一日当り入院・外来患者数・単価の動態

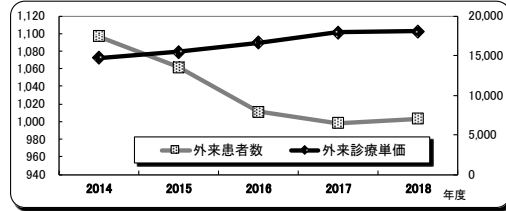
項目	2014	2015	2016	2017	2018
入院患者数	625	633	631	635	622
入院患者数【おおぞら合算】	753	768	768	772	755
入院診療単価	62,267	61,646	62,410	63,696	64,102
入院診療単価【おおぞら合算】	56,928	56,431	56,307	57,514	57,891

◆入院 患者数・単価の動態



項目	2014	2015	2016	2017	2018
外来患者数	1,097	1,062	1,011	998	1,003
外来患者数【おおぞら合算】	1,152	1,118	1,064	1,052	1,054
外来診療単価	14,675	15,418	16,591	17,902	18,014
外来診療単価【おおぞら合算】	14,239	14,931	16,016	17,249	17,389

◆外来 患者数・単価の動態

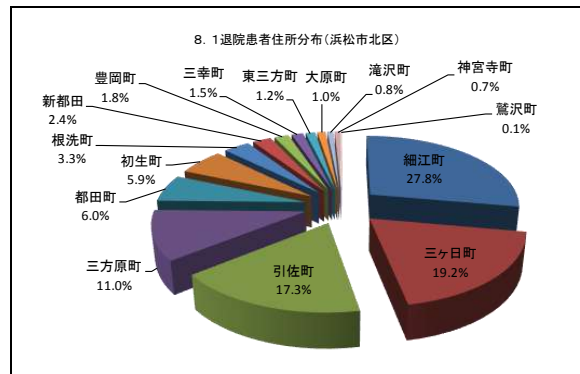
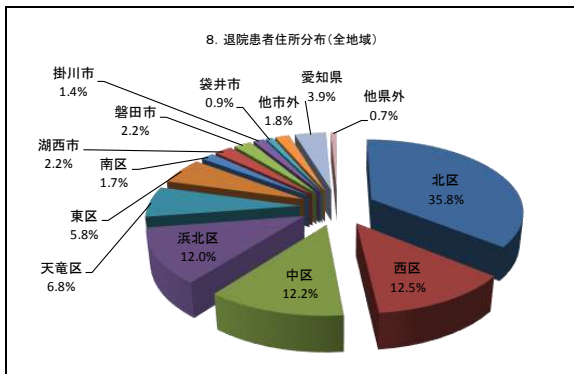


8. 退院患者住所分布(全地域)

項目	北区	西区	中区	浜北区	天竜区	東区	南区	湖西市	磐田市	掛川市	袋井市	他市外	愛知県	他県外	合計
件数	5,705	1,991	1,937	1,917	1,061	928	264	353	350	221	139	287	626	119	15,918
比率%	35.8	12.5	12.2	12.0	6.8	5.8	1.7	2.2	2.2	1.4	0.9	1.8	3.9	0.7	100.0

8. 1 退院患者住所分布(浜松市北区)

項目	細江町	三ヶ日町	引佐町	三方原町	都田町	初生町	根洗町	新都田	豊岡町	三幸町	東三方町	大原町	滝沢町	神宮寺町	鷺沢町	合計
件数	1,585	1,097	989	626	344	336	188	135	104	84	69	59	43	42	4	5,705
比率%	27.8	19.2	17.3	11.0	6.0	5.9	3.3	2.4	1.8	1.5	1.2	1.0	0.8	0.7	0.1	100.0

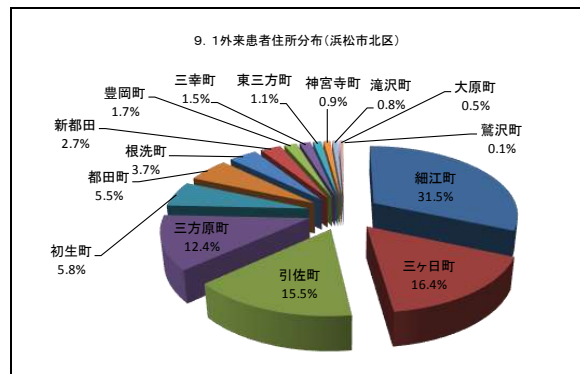
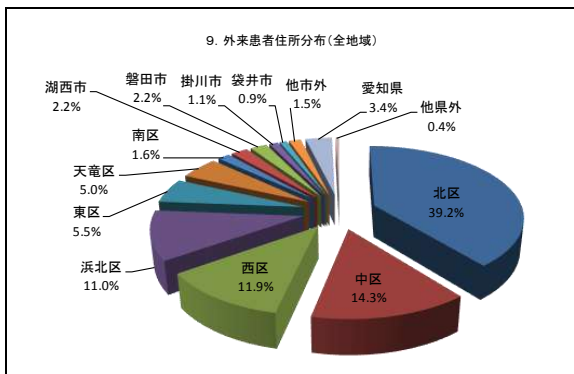


9. 外来患者住所分布(全地域)

項目	北区	中区	西区	浜北区	東区	天竜区	南区	湖西市	磐田市	掛川市	袋井市	他市外	愛知県	他県外	合計
件数	120,624	43,902	36,497	33,749	16,860	15,393	4,832	6,669	6,649	3,446	2,816	4,740	10,436	1,290	307,903
比率%	39.2	14.3	11.9	11.0	5.5	5.0	1.6	2.2	2.2	1.1	0.9	1.5	3.4	0.4	100.0

9. 1 外来患者住所分布(浜松市北区)

項目	細江町	三ヶ日町	引佐町	三方原町	初生町	都田町	根洗町	新都田	豊岡町	三幸町	東三方町	神宮寺町	滝沢町	大原町	鷺沢町	合計
件数	37,976	19,798	18,653	14,907	7,054	6,611	4,500	3,273	2,013	1,758	1,357	1,129	914	619	62	120,624
比率%	31.5	16.4	15.5	12.4	5.8	5.5	3.7	2.7	1.7	1.5	1.1	0.9	0.8	0.5	0.1	100.0



## 聖隷三方原病院併設 介護老人保健施設 三方原ベテルホーム

2018年度は、介護報酬・診療報酬の同時改定に速やかに対応し、在宅復帰支援、リハビリテーションの充実、重介護者の積極的な受け入れを進め5月より超強化型の算定となった。これにより、施設収益に寄与することができたが、在宅復帰を推進したため、入所の稼働率の低下を招く結果となった。

入所、ショートステイについては、緊急受け入れを積極的に行い、看取りの対応、医療依存度の高い方の受け入れと医療提供を行った。10月からは利用者、家族のニーズに応え、通所リハビリテーションの所要時間を6時間から7時間へ変更した。また、設備の更新や修繕を適宜行い、環境整備にも注力できた。

恒例となった年度初めの職員向け事業計画説明会が職員一人ひとりのベクトルを合わせる場となり、事業方針が浸透された。

### 1. 在宅復帰・在宅生活継続支援のさらなる強化

在宅復帰率が通年で62%となった。2018年度よりリハビリマネジメント加算Ⅲとなり、算定件数もリハビリマネジメント加算Ⅱの2017年度より37%増となった。また入退所前後の訪問が安定して実施できるようになり、在宅生活支援が強化された。

### 2. 安定した経営基盤構築への取り組み

5月以降、超強化型の算定を継続することができたが、稼働率向上に課題を残した。職員向け事業計画説明会が定着し、事業方針、目標値が見える化された。

### 3. 安全で質の高いケアの提供

看護体制がより一層強化、施設内での治療件数が増加、入院を回避することができた。アドバンスケアプランニングの研究も進み、終末期ケアについての体制が整い、看取り対応は27件となった。そのほか、電動ベッドへの更新が進み、移動用床走行リフトも導入され、利用者環境、職員の労働環境が改善された。

### 4. 次世代を担う人材育成と働く支援

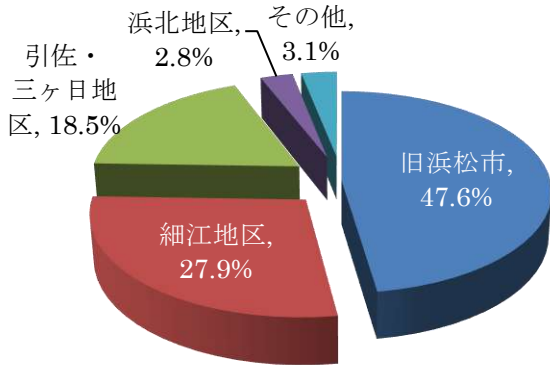
EPA候補生が2年目に入り、介護福祉士資格取得に向けて教育を継続している。施設内外の学会などで職員が研究成果を発表する場を経験し、日々のケアに自信を深めることができた。全国老人保健施設協会の研修会においては、医師、看護師、介護福祉士がシンポジストとして参加した。

### 5. 地域社会に期待される施設づくり

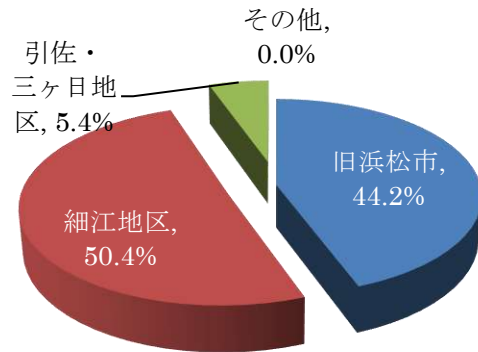
2017年度に引き続き、緊急時や医療依存度の高い方の受け入れを積極的に行った。無料低額利用事業として、生活困難者への経済的支援を行い、生活自立に向けての支援を行った。また、地域のボランティア団体等を招き、高齢者医療・介護の講演会を開催した。地域を支える施設として、今後はこちらから積極的に向かい出していきたい。

【数値実績】

入所者 地区別利用状況



通所者 地区別利用状況



入所者 性別年齢別状況 (%)

	男 (43.1)	女 (56.9)
65歳未満	1.7	1.4
65歳～	5.0	1.7
70歳～	2.8	2.5
75歳～	5.3	3.1
80歳～	10.0	10.0
85歳～	10.0	13.6
90歳～	8.1	15.6
95歳～	0.3	9.2

通所者 性別年齢別状況 (%)

	男 (53.5)	女 (46.5)
65歳未満	1.6	0.8
65歳～	7.8	2.3
70歳～	4.7	3.9
75歳～	8.5	3.1
80歳～	8.5	10.1
85歳～	9.3	9.3
90歳～	13.2	9.3
95歳～	0	7.8

入所(短期含)利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
定員(人)	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150
1日平均(人)	114.2	106.9	109.2	110.8	121.0	126.7	123.1	116.9	108.1	115.3	128.2	130.5	117.6
延人数(人)	3,427	3,313	3,277	3,434	3,752	3,800	3,816	3,507	3,337	3,574	3,577	4,044	42,858
稼働率(%)	76.2	71.2	72.8	73.8	80.7	84.4	82.1	77.9	72.0	76.9	85.5	87.0	78.4
平均要介護度	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0

通所リハビリテーション利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
定員(人)	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
1日平均(人)	30.4	28.9	28.7	27.7	28.1	29.0	29.2	29.1	30.2	28.5	28	27.5	28.8
延人数(人)	759	781	747	721	760	726	760	757	755	684	672	715	8,837
稼働率(%)	60.8	57.8	57.4	55.4	56.2	58.0	58.4	58.2	60.4	57.0	56.0	55.0	57.6
平均要介護度	2.3	2.3	2.2	2.3	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.3

## 総合病院 聖隷浜松病院

2018年度は院内連携を強化し、入院においてはICU病棟・救命救急病棟の後方受け入れ体制の充実と退院支援に取り組んだ。外来においては紹介患者の受入れを推進し、断らない医療の提供体制を強化してきた。高度専門医療の推進では、高難度手術・治療にも力を入れ、婦人科のダヴィンチ手術（ロボット支援腹腔鏡下腔式子宮全摘術）開始やIMPELLA（インペラ）導入などの成果をあげた。また、災害拠点病院の指定、JCI認証審査受審により、質の高い安全な医療を提供することに取り組んできた。2019年度は更なる断らない医療の提供体制の充実を図り、地域の期待と信頼に応えていく。

### 【病院使命】

“人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します”

### 【病院理念】

“私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ”

### 【運営方針 2020】

私達は常に信頼される病院であり続けます

- 望まれる良質な医療を提供します
- 地域とのつながりを大切にします
- 良い医療人を育てます
- 働きやすい環境を作ります
- 健全な経営を継続します

### 【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

#### 1. 利用者満足の向上

(ア) 病院の利用しやすさ向上①新入院患者数	1,780件以上/月（実績：1,744件）
②紹介加算算定件数	2,000件以上/月（実績：1,886件）
③初診患者数	3,300件以上/月（実績：3,231件）

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

#### 2. 地域に必要とされる高度・急性期医療の充実

(ア) 断らない医療の提供	①紹介患者断り率	3.5%以下（実績：4.4%）
	②救急車応需率	95%以上（実績：94.4%）
	③救急車受入れ制限時間	80時間以下/月（実績：115.8時間）
	④直来患者断り率	30%以下（実績：31.4%）

#### (イ) 院内連携の強化

①特定入院料病床	稼働率・算定率
ICU	稼働率 85%、算定率 85%、重症度 85%以上 （実績：稼働率：84.0% 算定率：82.7% 重症度：80.1%）
救命	稼働率 80%、算定率 75%、重症度 25%以上 （実績：稼働率：77.6% 算定率：82.7% 重症度：25.5%）
MFICU	稼働率 85%、算定率 75%以上 （実績：稼働率：65.8% 算定率：76.3%）

- NICU 稼働率 95%、算定率 85%以上  
 (実績：稼働率：93.1% 算定率：90.9%)  
 GCU 稼働率 80%以上 (実績：稼働率：64.5%)  
 C7 稼働率 85%以上 (実績：稼働率：86.2%)  
 ②重症度、医療・看護必要度 33%以上 (実績：33.6%)  
 ③ICU・救命救急病棟の後方病棟回転率  
     A3 病棟 1.8 以上 (実績：2.0)  
     B3 病棟 1.3 以上 (実績：1.6)
- (ウ) 後方連携の強化  
 ①転院患者の DPCⅡ期以内件数 35 件以上/月  
     (実績：30 件/月)  
 ②転院患者総件数 110 件以上/月 (実績：90 件/月)
- (エ) がん診療の充実  
 ①新規がん患者数 115 件以上/月 (実績：124 件/月)
- (オ) 手術室の効率利用  
 ①8：30～19：00 の手術室稼働率 59.4%以上  
     (実績：59.7%)  
 ②外来手術件数 159 件以上/月 (実績：141 件)  
 ③外保連 D 以上手術件数 550 件以上/月 (実績：593 件)  
 ④手術収入における診剤・薬剤費比率 2017 年度比 2%低減  
     33.7%以下 (実績：36.5%)
3. DPC 特定病院群の維持  
 (ア) DPC 特定病院群維持のための課題対応  
 ①2018 年度改定対応 副傷病率 11.3%以上 (実績：11.7%)
- (イ) DPC 期間の適正化  
 ①DPCⅡ期超退院患者比率 23%以下 (実績：25.4%)  
 ②DPCⅡ期退院患者比率 52%以上 (実績：51.4%)
4. 医療の質と安全の保証  
 (ア) 患者安全目標の遵守  
 ①患者誤認発生率 事象レベル 2 以上 0.05‰以下  
     (実績：0.03‰)  
 ②ハンドオフ実施率  
     医師間転科時 20%以上、医師間入院時 50%以上  
     (実績：転科時 37.0%・入院時 37.9%)  
 ③誤薬発生率 事象レベル 2 以上 0.94‰以下  
     (実績：0.85‰)  
 ④手術タイムアウト実施率 2017 年度比 5%向上  
     (実績：全身麻酔：+8.83% 局部麻酔：+3.14%)  
 ⑤手指衛生実施率  
     医師 30%、看護 70%、事務・医技 30%以上  
     (実績：医師：32.3%、看護：77.3%、  
     医療技術・事務：46.1%)  
 ⑥転倒・転落による負傷発生率  
     事象レベル 2 以上 2.64‰以下 (実績：2.35‰)

5. 労働生産性の向上

- (ア) 業務改善の推進
- ①クリニカルパス適用率 50%以上 (実績: 50.5%)
  - ②職場改善指標の達成率 80%以上 (実績: 51.7%)
  - ③会議所用時間 30分以内 (実績: 38.7分)

「成長と学習」の視点 (人材確保・成長のために)

6. 働きやすい職場環境

- (ア) 労働環境の改善
- ①超勤時間 合計 27,694 時間/月 (実績: 28,454 時間/月)
  - ②超勤 45 時間以上の職員数 35 人以下/月  
(実績: 52 人)

7. 明日を担う人材育成

- (ア) 多様な働き方支援
- ①育児短時間勤務取得者数 60 人以上 (実績: 41 人)
  - ②再雇用職員数 31 人以上 (実績: 33 人)
  - ③介護休暇取得者数 6 人以上 (実績: 1 人)
  - ④障害者雇用者数 33 人以上 (実績: 29 人)
  - ⑤医師採用数 61 人以上 (実績: 57 人)
  - ⑥女性医師数 56 人以上 (実績: 56 人)

「財務」の視点 (経営・運営の安定のために)

8. 目指す医療ができる安定した財務

- (ア) 年度予算の達成
- ①サービス活動収益 30,214 百万円以上  
(実績: 30,929 百万円)
  - ②サービス活動費用 29,219 百万円以下  
(実績: 29,827 百万円)
  - ③経常増減差額 1,106 百万円以上  
(実績: 1,236 百万円)

【数値指標】

項目	予算	実績	対予算	対前年
入院患者数	686 名	672 名	98.0%	98.5%
入院単価	81,500 円	85,374 円	104.8%	105.8%
外来患者数	1,543 名	1,519 名	98.4%	99.6%
外来単価	18,817 円	19,607 円	104.2%	105.2%
病床稼働率	91.5%	89.6%	97.9%	98.7%
サービス活動収益	30,214 百万円	30,929 百万円	102.4%	104.3%
サービス活動費用	29,219 百万円	29,827 百万円	102.2%	104.6%
職員数	2,040 名	2,034 名	99.7%	100.1%

(注: 入院単価、外来患者数、外来単価は歯科を除く)



## 【地域における公益的な取組】

### 1. 様々ながん患者への支援活動

2018 年度は幅広い世代に向けたがん患者への支援を実施した。就労・子育て世代・若年患者向け患者サロン（年 4 回）、ハローワーク相談（年 12 回）、社会保険労務士相談（年 4 回）を定期開催した。また就労支援では、患者・家族が治療と職業生活の両立ができるよう支援すべく両立支援コーディネーターの育成を図った。

### 2. 小・中・高校生向け体験イベント実施

夏休み子ども探検隊、こころざし育成セミナー、みらいスクール、高校生 1 日ナース体験を実施した。当院 医師、看護師、薬剤師などが講師として地域の小・中・高校生に対し講演や体験指導を行い、参加した子ども達へ病気についての理解、将来 医療従事者を目指す学生へ医療現場体験を実施した。

# 聖隷淡路病院

2018年度は「飛躍の年」と位置付け、これまで努力を続けてきた経営改善に加えて、組織力の向上を目標に取り組んだ年であった。2016年度より続けてきた「目標進捗管理」の仕組みにおいて“職場ごとの目標”に加えて、“職種、職場を超えたチーム目標”も設定した。具体的にはリハビリテーション係と地域連携室がチームを組んだ脳卒中患者の受け入れや医師と看護部がチームを組んだボトックス注射や化学療法などが“職種、職場を超えたチームの目標”として大きな成果を出した。

診療体制においては、4月にリハビリテーション科医師が赴任し、多くの嚥下機能評価や摂食訓練、手術後のリハビリテーション患者を受け入れることができた。これは高齢化率が40%近い淡路市において、当院の役割拡大に繋がったと考える。また、産科では3月に当院出産500人目の赤ちゃんも誕生し、地域に明るいニュースを提供した。

入外患者数は増加傾向にある。これは院内の入退院調整の連携強化や中核病院及び地域の診療所からの紹介件数増加、また地域住民のニーズに即した救急・外来患者受け入れなどによる効果である。職場目標、新しい企画に対応してくれた職員に感謝したい。

## 1. 病院機能の強化

3階地域包括ケア病床は4階及び5階病棟からの転棟や地域のニーズに則した直接入院受け入れなど適切な病棟運営に繋がり、安定した稼働を保つことができた。4階病棟は急性期患者の管理を中心に、第3四半期に増加した手術患者を受け入れることができ、病院の質の向上に大きく貢献した。5階病棟は従来入院患者に加えて、難病患者など地域サービスの狭間にある患者も受け入れることができた。

外来では週1回ではあるが心療内科を開設することができ、淡路医療センターと連携し淡路市北部の精神科診療を担う準備ができた。

保健事業では、新任の非常勤医師を迎え入れることができた。契約事業所数も増加し、人間ドック、婦人科健診はリピーターも含め、多くの方に利用していただいた。

## 2. チーム医療の推進と人材育成の推進

医療安全管理、感染予防、褥瘡予防など、各委員会、職場の連携や徹底した推進活動により、大きな事故なく運営することができた。少ない職員数で多くの活動を実践していったことは、職種を超えたチーム活動が円滑にできた成果であると考えられる。

人材育成は「目標進捗管理」の中心的な役割を担当させることを通して、地元職員の成長を促すことができた。2019年度はこの「目標進捗管理」の業務が明確な経営改善につながり、成功体験として地元採用職員の今後の力になるよう更に育成に力を注ぎたい。

## 3. 利用者及び職員の満足度向上

患者満足度調査を継続実施し、当院に対する評価や要望の把握を行った。また、院内各所に設置しているご意見箱に寄せられる貴重な声に対しても迅速な対応を心掛け、患者満足度

の向上に取り組んだ。職員の満足度向上についてはチーム医療の推進、臨床研究への参加、職員向けレクリエーションの企画などを通して、職員のやりがい支援に取り組んだ。

#### 4. コンプライアンス経営とエコロジーの取り組み

“職種、職場を超えたチーム目標”を通して日々の活動を共有し合う体制は、各職種の相互理解を進め、その結果として質の高いコンプライアンス経営に繋がると考える。

「目標進捗管理」の“職場ごとの目標”のなかで省エネルギーを目標に設定する職場もあり、現場レベルでのエコロジーに取り組むことができた。

#### 5. 健全な経営基盤の確立

医業収益は2017年度比で入院診療収益105.8%、外来診療収益108.3%、保健予防活動収益115.0%であった。入院は患者数・単価とも予算には惜しくも及ばずも年々増加傾向にあり、外来は患者数・単価ともに予算達成となった。保健事業は毎年利用者を増やしている。

費用については化学療法、ボトックス注射などの新しい材料費が増加し、サービス活動費用が2017年度比104.6%と増加したが、サービス活動収益が106.4%と費用を上回る増加率となった。経常増減差額では-59,023千円となり予算未達成となったが、2017年度を上回り増益となった。

#### 6. 地域における公益的な取組

「せいいい健康フェスタ」を開催し、多くの住民の方々に参加していただいた。地域住民のもとに出向く“まちの保健室”や“いきいき100歳体操”にスタッフを派遣した。また、近隣消防署と合同症例検討会を開催するなど積極的な連携強化を図った。

#### 【無料又は低額診療事業】

淡路島唯一の無料低額診療事業を行う医療機関として、地域課題である高齢低所得層の救済に継続して取り組み、地域の期待に答えている。地域住民への周知方法として、院内掲示・病院広報誌、ホームページ、社会福祉協議会広報誌を活用している。さらに、行政・各医療機関の地域医療連携室など関係機関への周知にも努め、生活困難者が必要な医療を安心して継続できるよう努めている。2018年度の減免実施率は15.4%であった。

#### 【数値実績】

	予 算	実 績	対予算	対前年		予 算	実 績	対予算	対前年
入院患者数	132名	130名	98.5%	102.4%	外来患者数	130名	130名	100.0%	104.0%
入院単価	29,000円	28,877円	99.6%	103.4%	外来単価	8,900円	9,213円	103.5%	105.1%
サービス活動収益	1,939百万円	1,915百万円	98.7%	106.4%	サービス活動費用	1,934百万円	1,969百万円	101.8%	104.6%
病床利用率	86.8%	85.5%	98.5%	102.4%	職員数	186名	182名	97.8%	101.1%

# 聖隷横浜病院

2018年度は将来構想の4本柱「救急診療体制の再構築と強化」「高齢者医療（生活支援型医療）の充実」「将来を見据えた診療体制の再編」「地域連携部門の強化」を事業計画の重点項目とし、数値目標など具体的な指標を可視化できるよう取り組みを行った。

神奈川県地域医療計画が公表され、横浜市から医療圏内に不足する慢性期・回復期の病床855床の整備事業に対する募集が行われた。当院は新外来棟完成後の現外来棟を利用した整備計画を提出し、地域包括ケア病棟9床の増床、緩和ケア病棟20床と回復期リハビリテーション病棟38床の新設を申請した。募集に対して横浜市内外の26事業者から2,116床の申請があったが、当院を含む15事業者への配分が決定し、当院が申請した67床全ての増床計画が許可された。

## 1. 救急診療体制の再構築と強化

“断らない”診療体制の構築に取り組んだ結果、救急車の受入件数は目標の年間5,000台を超え5,326台であった。要請に対する受入率は全日で82%であったが、日勤帯での受入率は91%であった。横浜市全体で救急需要が高まる中、当院への搬送要請件数は6,476件となり2017年度を286件上回った。2017年から算定を開始した「ハイケアユニット入院医療管理料」（8床）に加えて2018年8月から「脳卒中ケアユニット入院医療管理料」（6床）の算定を開始した。稼働・算定ともに常にほぼ100%であり、2019年度は許可病床の変更（9床）を検討する。

## 2. 高齢者医療（生活支援型医療）の充実

敷地内に開設された居宅介護支援事業所との連携を強化し、訪問看護ステーションの医療保険の加算となる機能強化型訪問看護の承認を受けて7月から算定を開始した。

## 3. 将来を見据えた診療体制の再編

2017年度中から開設準備を行った“乳腺センター”は4月から乳腺科の常勤医師2名が着任して診療を開始した。横浜市立大学附属市民総合医療センターとの連携により、同院にて放射線同位元素（RI）を用いた検査を実施した患者の手術を翌日に当院にて行う運用を開始した。

## 4. 地域連携部門の強化

地域連携を推進する“地域連携・患者支援センター”の活動を強化し、診療所等からの年間紹介件数が8,784件となった。2017年度から年間で494件増加したが、月間目標の月平均800件には至らなかった。紹介件数のうち即日入院した件数は955件であった。2019年度も新外来棟の稼働を契機に入院診療に繋がる紹介件数のさらなる増加を目指したい。

神奈川県内の聖隷施設に対して看護師や管理栄養士など必要な専門職種の派遣を行うなど、有機的な連携を行った。横浜市交通局の地域貢献型バスサービスによる路線バス「聖隷横浜病院循環」とは別に、同じく市交通局との連携事業により京浜急行の各駅（井土ヶ谷・南太田・黄金町）を経由する無料送迎バスの運行が4月から開始された。同便の運行により南区内の診療所からの紹介件数が増え、2017年度比で495件増加し、計3,510件となった。

保土ヶ谷区内の一般財団法人育生会横浜病院と包括連携契約を結び、当院から常勤医師1名を派遣した。同病院は慢性期機能の病床を有しており、当院から急性期治療を終えた患者の後方連携が強化された。また同病院からは急性期治療が必要な患者の紹介が増えた。

<医療の質向上> 日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新審査を2019年1月に受審し、中間評価結果においてS評価を含む多くの項目がA評価となりC評価は無かった。

<人材確保・育成> 2018年4月採用の初期臨床研修医の採用は連続して定員6名のフルマッチであった。また看護師募集においても新卒を中心に必要な人員確保ができた。

<環境整備> 新外来棟の建築工事は順調に進行し、2019年4月に定礎、7月に竣工することになった。2017年5月に導入した電子カルテと各部門システムは安定稼働し、診療の質と業務効率の向上に貢献した。

<経営改善> 病床稼働率は年間平均で92.2%であった。入院診療単価は2017年度比で1,885円増となったが予算未達であった。外来は患者数・診療単価ともに予算達成した。健診収益は2017年度比で285%増であった。訪問看護ステーションは2017年度に続いて黒字であった。

## 5. 地域における公益的な取組

- (ア) 健康講座を院内で開催した。(心臓血管センター内科医師と看護師による患者及び地域住民を対象としたミニ講演会「ちょっと良い話」を毎週月・水曜日に院内で開催)
- (イ) 市民公開講座を外部で開催した。(広く市民を対象として年1回開催)
- (ウ) 認定NPO法人J.POSH主催「ジャパマングラフィカデー」に参加した。(35名が受診)
- (エ) 高校生を対象とした看護体験を実施した。(21名の参加)
- (オ) 中学生の職業体験を実施した。(医療職の1日体験を実施し4名が参加)
- (カ) 市内の救急隊員を対象とした研修会を開催した。(年4回開催、延べ132名が参加)
- (キ) 地域住民との交流を目的に地元の祭りに出店し、健康相談等を行った。

### 【無料又は低額診療事業】

神奈川県医療福祉施設協同組合の難民支援事業等に参加した。低所得者に広く事業を実施し、国が定める基準10%に対して10.6%の実績であった。

### 【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
入院患者数	285名	277名	97.2%	98.6%
入院単価	56,300円	56,009円	99.5%	103.5%
外来患者数	590名	590名	100.0%	100.2%
外来単価	13,600円	14,486円	106.5%	107.0%
サービス活動収益	86.0億円	85.1億円	98.9%	105.1%
サービス活動費用	88.0億円	88.4億円	100.5%	104.7%
職員数	636名	629名	98.8%	103.7%

# 聖隷佐倉市民病院

2018年度は、乳腺外科・泌尿器科の常勤医が加わり、常勤医1名の診療科が複数名となることで、より充実した診療体制を構築することができた。第4期工事に着手し、設計会社・工事会社との打ち合わせと並行して、増築後の運用案を建築プロジェクト・各エリア会で検討した。情報システム委員会・部門別ワーキンググループの入念な準備により、電子カルテを大きな障害もなく導入することができた。患者支援センターを開設し、入院が決定した患者に対して、多職種が支援・相談に携わる活動を開始した。

2018年度の主な活動は以下のとおりである。

- 2018年 4月 急性期一般入院料2の算定  
乳腺外科・泌尿器科の常勤医師の採用（1名体制から2名体制）  
第4期工事の着工
- 6月 TBS系列「予約殺到スゴ腕の専門外来」でBKP治療の紹介
- 7月 乳腺外科の常勤医の採用（2名体制から3名体制）  
電子カルテシステムの稼働
- 12月 通信機能付バイタル測定器の導入
- 2019年 3月 患者支援センターの開設

## 【年度事業目標・年度重点施策】

### 1. “オンリーワン”を目指したサービスの実践

整形外科医・乳腺外科医・泌尿器科医の増員、千葉大学内科医局からの後期研修医の受け入れ、言語聴覚士の増員により、当院が特徴としている慢性腎不全治療・脊椎変形手術・全身の関節とスポーツ疾患の治療、がんの集学的治療、摂食嚥下障害の診断からリハビリといった、高齢化社会で求められる医療を更に充実させることができた。健診センターでは認知症予防ドックを開始し、予防医療の分野でも社会ニーズに対応したメニューを追加した。外来では、通院での癌治療を求める患者（特に就労中の患者）からの声に対応し、化学療法・放射線治療を強化した。また、内科系・外科系で分かれていたゾーンの見直しを行い、消化器内科・消化器外科が隣接したレイアウトに変更（外来の消化器センター化）することで、消化器チームの連携強化と医療の質向上に取り組んだ。入院受付の隣に患者支援センターを開設し、入院が決定した患者に対して、看護師・相談員・薬剤師・管理栄養士など専門性をもった職種が支援・相談が行える体制をスタートさせた。外科など一部診療科から始動し、徐々に対象となる診療科を広げていく予定である。

### 2. 将来のニーズに応えた病院機能の変革

電子カルテを導入し、カルテ記事の可読性向上、医療情報へのアクセススピードの向上、情報の共有化、携帯情報端末を用いた3点（患者、看護師などの実施者、薬剤などの対象物）認証チェックによる医療安全の向上を図った。第4期工事の工事進捗にあわせて、新病棟完成後の病床再編成・運用案等を建築工事プロジェクトと各エリア会が中心となって検討した。夜間休日の救急外来では、救急隊からの搬送要請の対応を事務当直から看護師に切り替え、救急患者受け入れ強化に取り組んだ。外国人受診者の増加に対応するため、通訳機能アプリを入れたタブレット端末を導入し、外国人へのサービス向上と職員の業務負荷軽減に努めた。認知症サポーター養成講座を開催し、認知症への理解を深めるとともに地域包括支援センターのケアマネージャーとの連

携を深めることができた。在宅サービスの充実を図るため、居宅介護支援事業所の開設計画が法人理事会で承認され、2019年度初旬の開設に向けた準備に取り掛かった。

### 3. 多職種協働と専門性の強化

腎臓内科医、外来・透析室・A4病棟の看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士など腎臓病治療に携わる多職種で、腎臓病教育の質を向上するためのミーティングを定期開催した。他病院・企業・行政との共催で「さくら健康まつり」をユウカリが丘のショッピングセンターで開催した。他、骨粗鬆症リエゾンサービス委員会、摂食嚥下センター、内視鏡センター（外科医・消化器内科医）で企画した市民公開講座も地域住民から好評を得るとともに、専門性を持ったチームの活動の幅が広まり結束を高めた。

### 4. 医療を志す人が当院で働きたいと思える病院づくり

通信機能付バイタル測定器を導入してカルテ入力省力化を図るなど、看護師の業務負荷軽減にも取り組んだ。院内保育所の登録者数増加に合わせて保育士を増員し、子育て中の職員へのサポートにも注力した。業務以外では、ヒアリングで要望のあった温泉スキーツアーの実施、開院15周年記念イベントなどを開催して職員の交流を深めた。

### 5. 安定した経営基盤の確保

重症度、医療・看護必要度の患者割合を事務部・看護部で定期的にモニタリングし、管理会議等で報告することによって、入院基本料の維持と適切な算定に取り組んだ。また、病院管理者以外にも病院経営に対する意識を高めてもらうための経営ダッシュボードを作成し、医局会・全体課長会で説明後、院内要所に掲示するなど職員の経営参画意識を高める取り組みを実施した。

### 6. 地域における公益的な取組

(ア) 無料又は低額診療事業（減免実施率 20.9%）

(イ) 地域の高齢者・住民、介護施設利用者を招いたロビーコンサート（年6回）

#### 【実績】

	予 算	実 績	対予算	対前年		予 算	実 績	対予算	対前年
入院患者数	281名	274名	97.5%	98.9%	健診受診数	158名	190名	120.3%	111.1%
入院単価	53,670円	53,892円	100.4%	102.3%	健診単価	18,370円	16,040円	86.8%	94.9%
外来患者数	806名	823名	102.1%	103.0%	サービス活動 収益	9,814 百万円	9,815 百万円	100.0%	103.1%
外来単価	13,740円	13,760円	100.1%	102.7%	サービス活動 費用	9,678 百万円	9,822 百万円	101.5%	105.0%
病床利用率	92.4%	90.1%	97.5%	98.9%	職員数	736名	720名	95.9%	104.4%

#### せいの訪問看護ステーション佐倉

2018年度の主な動きは以下のとおりである。

介護保険	予 算	実 績	対予算	対前年	医療保険	予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数	350回	293回	83.7%	93.6%	利用回数	140回	113回	80.7%	89.7%
単 価	8,300円	8,023円	96.7%	98.6%	単 価	10,500円	10,661円	101.5%	100.9%

# 保健事業部

2018年度、保健事業部は「利用者様が安心して選び続ける保健事業部」「職員一人ひとりがやりがいや誇りを持って働く保健事業部」を経営方針として運営を行ってきた。

「利用者の目線に立った質の高いサービスの提供」としては、オプション検査として、大腸CT検査と乳房トモシンセシス（3Dマンモグラフィ）を聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*（以下、サポートセンター）でも開始し、保健事業部3施設全てで実施できるようになった。また、アルコール分解酵素検査は、サポートセンターに続き聖隷健康診断センターでも開始した。「経営基盤強化のための取り組み」としては、2017年度に引き続き、午後の時間帯を有効活用することを目的に人間ドックの午後実施、ファーストママ検診などを実施した。「人材の育成と確保」としては、2016年度から始めた渉外担当者のスキルアップを図る研修を継続実施している。また、職員に対する衛生教育を年間計画で実施した。保健指導の質の向上を目的に開始した保健指導品質管理内部監査は10年以上継続され、2017年度に引き続き医療保険者や健診機関等外部からの見学者を迎えることができた。また、保健指導担当者の教育制度は静岡県からも評価された。この評価を受け、賀茂地域市町で国民健康保険において保健指導業務を行なう者のスキルアップを目的とした静岡県保健指導支援事業の業務を委託された。「健康経営の実践と発信」としては、各センターが、ストレスチェックの組織集団分析に基づく事後支援の実施・健康経営に関するイベントの実施等、健康経営を実践した。「データヘルス計画に向けて」としては、健康Webサービスを「聖隷ウェルスポーツナビ」へ更新稼働させた。「連携の強化」については、全国健康保険協会と連携し、宿泊型保健指導を全国のモデルとして実施した他、2017年度に引き続き医療保険者や事業所と連携することができた。「地域における公益的な取組」としては、浜松市内の小中高校生の絵画や写真の展示場所として聖隷健康診断センターと聖隷予防検診センターを開放し、地域との関係作りを更に図った。

2018年度は特に、第3期を迎えた特定健診・特定保健指導において、変更された内容に基づき保健指導を積極的に実施して前年より約3,000人の増加となり、各医療保険者からも評価される実績を上げることができた。

経営面での課題である静岡地区に関しても、マイナス予算ではあるが予算達成し、保健事業部、各センター全てが2018年度事業について予算達成の報告となった。

各センターの詳細報告は次頁以降となっている。

## 【数値実績】

	予算	実績	対予算 (%)	対2017年度 (%)
人間ドック	63,682名	63,720名	100.1%	101.9%
健康診断	604,173名	619,446名	102.5%	102.0%
外来精密	39,756名	40,637名	102.2%	102.3%
サービス活動収益	8,081,320千円	8,189,839千円	101.3%	103.4%
サービス活動費用	7,746,920千円	7,747,435千円	100.0%	103.8%



# 聖隷健康診断センター

2018年度は、人間ドックや健康診断の利用者を増やすだけでなく、自治体や医療保険者から受診率向上や重症化予防の要望に応えるべく、第三期となった特定保健指導にも注力した。その結果、利用者数は対2017年度比141.4%の4,979人と大幅に伸びた。浜松市については初の事業で、成果に応じ報酬が支払われる成果連動型の宿泊形式指導を行った。健診結果や生活習慣の改善等、成果はすでにあるものの、より利用者に寄り添い、プログラム終了後も効果が継続するよう支援を図っていく。人間ドックの追加検査（オプション検査）では、アルコール分解酵素遺伝子検査を新規導入し、男女を問わず360人が利用した。今後も利用者ニーズにあった新規オプションの提供を企画開発していく。また、スムーズな検査の実施及び利用者サービスの向上を目的としてコンシェルジュを配置し、検査順路の組替えや工夫を行い待ち時間軽減を図った。利用者からは非常に好評である。今後も、更に滞在時間の削減を目的に、随時運用を見直す。

精密検査未受診者への受診勧奨は今後も継続し、受診率の向上を目指す。更には、地域連携系の活動を通じ開業医との情報交換を密にして、精密検査先の紹介等新たな連携が構築できた。

人間ドック利用者は2017年度対比100.2%、一般健診利用者は102.3%と施設改修が無いなかでも若干増加し、サービス活動収益は14,268千円の増加となった。

## 1. 質の高いサービスの提供

「全ての利用者が安心して受診できる環境をつくる」を目指し、3年目となる健診コンシェルジュ体制を強化し継続している。混雑具合に応じた順路変更等、臨機応変な対応が必要ななか、適切な誘導を行い、利用者の不満軽減に繋げている。利用者からは大変好評であり、効果は投書やCS（顧客満足度）調査から窺える。

待ち時間が長いとされる受付・採血・腹部超音波検査についても、各課連携のもと時間削減がなされている。しかしながら、構造上の問題もあり、今後において大幅な改善が図れない。順路システムの導入や改修を検討し、滞在時間の短縮も合わせた更なる追及が必要である。

## 2. 人材（人財）の育成

課長会及び係長会を定期的で開催した。日常業務の課題解決だけでなく、BSC（バランス・スコアカード）を活用し施設目標達成に向けた行動や、課題の共有、職場を越えた連携を強化することができた。婦人科健診啓発プロジェクトも現場の意見から立ち上がり、年4回のイベント開催等、ほぼ成功裏に終わり職員のモチベーション向上に繋がった。

また、労働衛生機関の職員として専門性を高めるため、資格取得を推進した。第一種衛生管理者に関しては、3名の取得が聖隷労働衛生コンサルタント事務所支援のもと達成できた。継続して、「健康診断の基礎講習」等、教育活動が実施されている。

## 3. 経営基盤強化のための取り組み

団体及び利用者に対し、継続的な健康管理体制を築くための支援として、専門職の派遣等産業保健活動を積極的に推進した。産業医と同行し、事業所に合わせた健康づくり提案や改

善指導を新規で12件。また、個人に対し生活習慣改善及び重症化予防に対する、宿泊型や滞在型のセミナー実施等、施設外においても顧客からの多用な要望に応じている。

午後検査枠及び検査機器稼働率の向上等、施設の有効活用については、午後ドックを提案し、年間102件と大幅に拡大させることができた。年々、胃カメラ検査の要望が高まるなか、午後や土曜日の新たな枠を提供する。新商品に関しては、アルコール分解酵素遺伝子検査診を4月から提供した。

#### 4. 健康経営への取り組み

健康経営委員会、衛生委員会及び課長会が連動し、ストレスチェックによる職場環境改善やメンタルヘルスに関する目標を職場毎に可視化、共有し、評価を行った。「健康診断センタープレミアムフライデー（NO残業日）」や「職員向けサラダバー」が定着した。

#### 5. ICT（情報通信技術）を活用した事業の展開

Webサービスを利用したポピュレーションアプローチとして、既存のシステムから、より情報提供が可能となる新システム（聖隷ウェルスポートナビ）へ変更し、4月より提供を開始した。

人間ドック利用者への提供は、受診時に順次なされたものの、事業所等団体への健康管理の支援ができるよう、所属団体へのアプローチについてはまだまだ不十分である。

#### 6. 連携強化

精密検査予約及び検査結果の問い合わせを主とした地域連携系の運用を4月から開始した。利用者の健康推進のため、地域の開業医との連携を密にすべく、精密検査先紹介等の活動が展開された。今後は、受診日当日の代行予約や、開業医支持のもと当施設の医療設備を活用できるような連携を提案していく。

聖隷沼津病院とは、専門団体との遠隔画像診断体制の連携が開始できた。2019年度については、聖隷予防検診センターへも拡大し、相互において利益が出るよう調整を図る。

#### 7. 地域における公益的な取組

浜松市内の高等学校や大学から、学生の作品を借用し展示した。施設内の憩いの場を彩ることにあわせ、施設見学等の交流を通し若年から「医療・保健」への興味を持ってもらう働きかけができた。

#### 【数値指標】

1日ドック他	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
26,936名	273名	50,552名	4,979名	23,250名
特殊健診	外 来	合 計	サービス活動収益	職員数
2,813名	19,480名	128,283名	2,514,268千円	210名

# 聖隷予防検診センター

2018年度は、事業の「選択と集中」をコンセプトに、「ニーズの高い事業への注力化」「利用者の要望に合わせたサービス・アメニティの強化」「職員満足度の向上（CS向上はESから）」を重点目標に事業を行った。「ニーズの高い事業への注力化」については、一日人間ドックを中心に婦人科検診・特定保健指導等に注力、2017年度以上の実績を上げることが出来た。特に特定保健指導については健康診断当日の初回面談も開始、さらに多くの方に提供することが出来ている。「利用者の要望に合わせたサービス・アメニティの強化」についても、利用者の声に真摯に向き合い、レディスフロア改修やドック食の見直し等を行った。レディスフロアは、乳房トモシンセシス（3Dマンモグラフィ）導入と老朽化したエリアを一新したことにより、女性の方がさらに利用しやすい施設となった。人間ドック食についても7月に委託先の見直し・変更を行い、今まで以上に高い評価を得た。

上記の施策を中心に事業を推進、経営数値としては、受診者数83,223人（対予算103.4%、対2017年度103.4%）、医療事業収益1,484,013千円（対予算101.0%、対2017年度102.9%）と好調であった。

2019年度も引き続き「選択と集中」をコンセプトとして、地域・企業健診センターや事業部、事業団内の施設等との連携による「プラスの融合」、そして「正しいことを正しく行う（精度管理・コンプライアンス遵守・職員の頑張りを評価）」を重点目標として、「利用者も職員も『また来なくなる』予検センター」を目指す。

## 1. 全ての職員がいきいきと働くことができる職場づくりの実践（健康経営）

「健康がスタッフを支え、スタッフがセンターを支える」の考えのもと、センターをあげて健康経営の推進を行った。ストレスチェックサマリレポートに基づき、全部署に対し管理会議にてストレスチェック結果の振り返りと職場環境改善案の発表、改善結果について報告会を行った。衛生委員会が中心となった健康イベントも計画的に実施、卓球大会や朝のあいさつ運動、所長・事務長等が年末にスタッフに向けて年越しそばを振舞う会は恒例行事となり、年々参加者も増加している。このような取り組みの効果もあり、ストレスチェックの結果は年々改善、2018年度は特に「経営層との信頼関係」「上司による人材育成」「仕事の量的・質的負担」などの項目について大幅な改善が認められた。

## 2. 良質な予防医療を永続的に提供するための安定した経営基盤の確立

「選択と集中」をキーワードに、ニーズの高い事業への注力化として、一日人間ドックを中心とした枠の拡大および新規顧客の獲得を行った。午前の一般健診の枠を午後に大きくシフトすることによりドック枠を拡大、受け入れ態勢を整えるとともに、近隣企業に対する営業及び広報活動を行った。結果として、一日人間ドックは対2017年度比で612人増（2017年度比103.2%）また午後健診への誘導については当初苦戦したものの、予約スタッフの頑張りにより午後の稼働率が対2017年度比で50.1%上昇、午後の有効活用を図るとともにセンターの予算達成の大きな原動力となった。

また長年の懸案事項であった宿泊ドックの在り方については、2019年度末をもって宿泊室の利用を廃止することが正式に決定された。今後宿泊室の利活用も含め、これまで以上に利用者ニーズに応えたドックコースの構築を行う予定である。

### 3. 利用者目線に立った質の高いサービスの提供

ワンランク上のおもてなしを目指し、質の高いサービスの提供を行なった。人気の高いスピードドックについては、枠の拡大（12→15枠）を行い、既に97%を超える稼働となっている。人間ドック食については7月に委託先を変更、四季にあわせた食材をふんだんに取り入れた食事は、利用者アンケートで満足度が98%を超える高い評価を受けている。また、10月から日ごろ多忙な女性をターゲットとしたファースト・ママ検診が本格稼働、女性検診推進プロジェクト等の活躍をメディアにも取り上げて頂いた効果もあり、順調に利用者数を伸ばした。年度末にはレディースフロア改修も行い、今後さらに女性にやさしいセンターを目指す。2018年度の法改正により新たに実施可能となった特定保健指導の初回分割実施については、実施に向けて医療保険者からの関心も高く、聖隷予防検診センターでは一般健診から410名利用につなげることが出来た。また、経済産業省が国内サービス産業事業者のサービス品質の見える化を目的とし創設した「おもてなし認証」の紅認証を、東海地方の健診機関として保健事業部が初めて取得した。

### 4. 次世代を担う人財の育成

研修委員会が中心となり、全体会にて中堅研修、管理会議にてM1研修の実績報告会を行った。これにより、医師を含めた他職場・他職種からのフィードバックを受けることができ、研修参加者の成長につなげることができた。また、健診ガイドブックの作成やレディースフロア内覧会などの新規提案に対し、中堅スタッフが積極的に参画、成功体験を通して人材の育成を行った。

### 5. 地域における公益的な取組

交通手段が限られている方への取り組みとして、無料送迎による施設内健診を実施、147名の受け入れを行なうことができた。また、近隣地域学生の作品等を展示する「けんこうギャラリー」として、高校生が部活動の取組みで撮影した写真のパネル展示等を実施、利用者の方から好評を得た。

#### 【数値資料】

1日ドック	宿泊ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
19,494名	500名	30,603名	3,528名	16,089名
特殊健診	外来	合計	サービス活動収益(地域含)	職員数
1,983名	11,026名	83,223名	3,863,558千円	150名

# 聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*

2018年度、聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*は、特に「経営基盤の強化」「質の向上」に力を入れて取り組んできた。はじめに「経営基盤の強化」については、一日人間ドック枠を有効に活用し、稼働を安定させることであった。過去のキャンセル状況の分析のもと、予約受入数の調整を図ることにより、繁忙期においては2017年度比2.5人増/日の成果をあげることができた。次に、「質の向上」については、新たな年度を迎えるにあたり、人間ドック食の見直しに取り組んだ。結果、2019年度のスタートから静岡の老舗料亭である浮月楼との業務提携が決定した。今後、顧客満足度の更なる向上と他施設との差別化が期待できる。一方、第三期を迎えた特定保健指導への取り組みに関しては十分な結果を得ることが出来なかった。聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*では2017年度比121.6%と一定の成果を上げたが、新規受入施設として開始した聖隷静岡健診クリニックでは目標とする数値に大きく届かなかった。立地条件を強みとする施設であることから、2019年度は原因を分析し運用改善を目指していきたい。

聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*は2010年設立後、10年の節目を迎える。2018年度は予算を達成できたが、2019年度は更なる飛躍を目指し、聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*、聖隷静岡健診クリニック、静岡地区巡回健診の3事業の運用を強化して、地域に根付く組織作りを展開していきたい。

## 1. 質の向上と情報発信力の強化

### (ア) 利用者ニーズに合ったサービスの提供

#### ①顧客満足度調査の実施継続と問題解決

顧客満足度調査を引き続き実施した。要望の高いドック食に関して検討を開始し、2019年4月より市内老舗料亭「浮月楼」と連携して新規ドック食の運用を開始した。

#### ②Webサービスの積極的な運用を行い、2017年度比133.7%となった。

#### ③先駆的な新規オプションの検討・導入

腸内細菌を精査する「腸内フローラ」をレディス外来で開始した。

### (イ) 質を維持するための設備投資

#### ①乳房トモシンセシス(3Dマンモグラフィ)導入の検討

GE社製 Senographe Pristinaを導入した。事業部全体で乳房トモシンセシスが撮影可能となった。

### (ウ) 地域企業等依頼の講演会・取材への積極的な協力体制の構築

市民公開講座「女性が健やかに生きるヒント～更年期を上手く乗り切るコツ～」

(開催地：沼津市、講演者：鈴木美香)など多数対応した。

## 2. 経営基盤強化と新たなサービスの創造

### (ア) 巡回健診を充実させるための営業活動とサービスの提供

新規獲得団体として巡回健診5事業・施設内5事業を得た。

### (イ) より多くの利用者を受け入れるためのサービスの検討

#### ①質の高い予約環境整備の徹底

人間ドック予約キャンセル実績の調査・分析を行い、予約枠数の調整に着手し、2017年度比 103.6%となった。

②リアルタイムドックの効率性の追求

各部署との横断的連携を徹底し利用者導線の見直し・実施を行った。

3. 人づくり文化の醸成

(ア) 職員一人ひとりが成長を実感できる OJT 体制を確立

目標参画システム、ラダー等を活用した。

(イ) 継続的かつ一歩進んだ接遇勉強会を実施

外部講師による接遇研修会を開催した。

4. 健康経営の実現

(ア) 職員一人ひとりが働きやすく、魅力を感じる施設づくりを行った

職場別ストレスチェック分析結果を基に職場長と面談を実施し環境改善を実施した。

(イ) 衛生委員会を中心に、職員の健康意識を向上

職員ドックにおける結果説明受診率が 100%となった。

5. 連携の可視化

(ア) 静岡県立大学等との研究協力を継続し、地域公益活動の実績を作った

日本医療研究開発機構 (AMED) 「JECS Study」の研究受託を行った。

(イ) 市内健診機関と連携し、静岡市における特定健康診査の受診率向上に向け取り組んだ

健診センターMEDIO・静岡健康増進センターと情報交換を行った (5 回/年) 結果、特定健康診査の受診率は 2017 年度比 106.1%となった。

(ウ) 医師会・浜松医大・地元総合病院との連携強化

静岡赤十字病院産婦人科との情報交換を実施した。また、静岡市内各総合病院実施の地域連携に積極的に参加した。

6. 地域における公益的な取組

(ア) 自治会などの地域イベントに継続参加し地域との繋がりを深めた

日本対がん協会主催リレーフォーライフジャパンに参加した。静岡商工会議所、静岡県経営者協会の集まりにも積極的に参加した。

(イ) 過疎地域における健康診断の実施

過疎地域である藁科地区での巡回健診実施した。

【数値指標】 聖隷健康サポートセンター *Shizuoka*

1 日ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診	特殊健診
16, 517 名	88, 248 名	2, 937 名	16, 373 名	7, 675 名
外来	合計		サービス活動収益	職員数
10, 131 名	141, 881 名		1, 791, 399 円	153 名

医療事業収益内訳	聖隷健康サポートセンター <i>Shizuoka</i>	1, 175, 390 千円
	巡回健診事業	293, 553 千円
	聖隷静岡健診クリニック	271, 376 千円

## 地域・企業健診センター

2018年度は「第3期特定健診特定保健指導への対応」「法令順守による一般健康診断省略検査項目への対応」「島田市がん検診等事業の継続受託」の3点を重点目標に事業を行った。

第3期特定健診特定保健指導への対応については、医療保険者との契約のもと巡回健診時に当日の特定保健指導を行うとともに、受診した全ての方に簡易な保健指導（ミニ保健指導）の導入を行った。一般健康診断省略検査項目への対応については、渉外部門等の的確な営業活動が功を奏し、多くの事業所に対して法令に基づいた健康診断の提案・実施を行うことができた。島田市がん検診等事業の継続受託については、プロポーザルに対し職員が職種を超えて力を合わせ対応、無事、継続受託することができた。

上記の施策を中心に事業を推進、経営指標としては受診者数 370,416 人（対予算 100.8%、対 2017 年度 100.9%）、医業事業収益 2,280,376 千円（対予算 102.2%、対 2017 年度 104.0%）、と好調な成績を残すことが出来た。

2019年度については、既に複数の市町や大手企業から新規契約の要望が来ている。また、国の「風しんに関する追加的対策」により抗体検査等の追加も予定されるなど、さらに利用者拡大が見込まれている。「CSの向上はESの向上から」を念頭に、職員の適正配置も行いながら品質の維持・向上を図っていきたい。

### 1. 利用者様の目線に立った質の高いサービスの提供

利用者ニーズに応える質の高いサービスの提供として、2018年度の法改正により新たに実施可能となった、巡回健診時における当日分割特定保健指導の積極的な推進を行った。医療保険者からの関心も高く、2018年度は18件の新規契約を行い、190名の利用に繋げることが出来た。あわせて実施したミニ保健指導については、医療保険者の課題である生活習慣病に起因する重症化予防を目的としたこの取り組みとして反響も大きく、予防医療の専門誌（へるすあっぷ21）でも特集として取り上げられ、利用者数は4,291名であった。

また、これまで健診の打合せ担当と当日実施担当を別スタッフとしていた仕組みを一本化、1団体1担当者制とし顧客の信頼度をより向上させることが出来た。

あわせて顧客の健康診断担当者が替わった際にも不安無く健診が実施できるよう、担当者向けの「健診ガイドブック」を作成中であり、6月初旬にリリース予定である。

### 2. 経営基盤安定のための取り組み

島田市がん検診等事業の継続受託について、プロポーザル実施の1年前より医師も含む全職種横断型のプロジェクトを定期的開催、これまでの実績を評価しながら、島田市民の方々により高い検診精度を提供するための手法を検討した結果、複数の健診機関がプロポーザルに参加する中で最も高い評価を頂き、無事継続契約に結びつけることが出来た。

一般健康診断の省略項目については、法令に満たない検査項目を実施している団体に対して渉外担当スタッフを中心に契約交渉を行い、60%を超える団体に検査項目の見直しを行ってもらったことが出来た。これについても2019年度も引き続き情報提供を推進していく。

利用者数の確保と拡大として 2009 年度より開始したファミリー健診は、2018 年度 10 周年を迎えること出来た。当初 9 団体 554 名の利用であった事業は、2018 年度は 21 団体 1,439 名が利用する事業となっている。秋には県内医療保険者を対象に報告会を開催、これまでの実績と今後の実施計画について報告と意見交換を実施した。報告会には 18 団体が参加、医療保険者からの聖隷に対する期待の高さを実感、今後もより多くの方々に利用頂けるよう積極的に推進していく。

### 3. 人材の育成と確保

健診事業の理解と質の向上を図るため、渉外担当スタッフを中心に第一種衛生管理者の資格取得を推進、取得に向けた研修の参加支援も行き、2018 年度は 1 名の資格取得に繋がった。

また、渉外部門のスキルアップを目的とした専門職との連携による渉外担当者研修を年 4 回開催、延べ 143 人が参加した。

### 4. 健康経営の実践と発信

2017 年度に引き続き、2018 年度についてもストレスチェックの結果をもとに職場環境改善の実施を推進した。全部署に対し、管理会議にてストレスチェック結果の振り返りと職場環境改善案の発表および改善結果について報告会を行った。衛生委員会が中心となった健康イベントも実施、卓球大会や、所長等が年末にスタッフに向けて年越しそばを振舞う会は恒例行事となり、年々参加者も増加している。

### 5. 連携の強化

2018 年度は、事業部内以外として近隣健診機関との連携も図ることが出来た。年度当初に近隣健診機関が 2019 年度から巡回健診撤退を行うとの情報を受け、速やかに連携を行うことで 3 団体 321 名の新規契約の獲得に繋げることが出来た。(2019 年度は 7 団体 2,374 名が確定) これは収益向上のみならず、契約企業に対しても切り替え時の負担軽減に大きく貢献、聖隷も含めた健診機関への信頼向上に繋がる非常に有益な取り組みであったと考え、今後は近隣健診機関ともプラスの連携を模索していきたいと考える。

#### 【数値指標】

一般健診	婦人科健診	特殊健診	特定保健指導	合計	職員数
303,040 名	30,025 名	37,190 名	161 名	370,416 名	168 名



# 浜松市リハビリテーション病院

2018年度、浜松市から指定管理を受託して11年が経過し、5カ年契約の最終年度であった。これまで、地域や社会のニーズに対応すること、地域と連携すること、質の高いリハビリテーション医療を追求することを主眼に事業を拡大してきた。継続し発展してきた中で、“えんげと声のセンターの取組み”が浜松市医療奨励賞を、“市民いきいきトレーナーの養成とその活躍支援”が厚生労働省「第7回健康寿命を延ばそう！アワード」スポーツ庁長官団体部門優秀賞を受賞した。我々の取り組んできたことが評価され、喜びと自信に繋がった。

また、新たに“KT（口から食べる）バランスチャート”を用いた医療と介護分野における多職種連携事業を開始した。病院職員だけでなく、地域の歯科医や歯科衛生士、介護職員らが関わるこの取組みは、利用者の“口から食べる”を支援するだけでなく、家族をも巻き込んで生活の質を上げる可能性を示唆しており、今後も継続して行く予定である。在宅生活支援の一環として、通所リハビリテーション事業を立ち上げる準備をして、2019年4月に開設に至った。当院が地域医療構想の中で必要とされ続けるための医療提供体制、存続するための経営基盤の確立、変化するリハビリテーション医療への対応等、浜松市職員と当院との合同メンバーによる将来構想会議を開始したことも、2018年度の成果である。

2019年度は、“最新リハビリテーションの追求”をキーワードとし、効果的かつ効率的なリハビリテーション医療が提供できるよう、職員一丸となって取り組んでいく。

## 1. 安全で質の高い医療の提供

入院生活を支えるため、個別性に応じた生活プログラムを立案し実行した。また、回復期病棟の入院待機日数が回復期リハビリテーション病棟協会の平均よりも長かったが、入院前の看看連携や退院支援により13.1日（目標13.5日）とすることができた。

倫理観の醸成については、臨床倫理セミナーやカンファレンスを継続しており、全職員の倫理4原則の周知は56%（目標60%、2017年度43%）であった。日本臨床倫理学会の主催病院でもあり、病院を挙げて取り組み盛会裏に終了することができた。

医療安全管理では、レベル3b以上の削減のため病棟巡視等強化したが、減少には至らなかった。警察に協力を依頼し、初めて防犯訓練も実施した。感染制御活動では、院内を重点的に、かつ、地域での取組みに広げるため、隣接する泉小学校にも手洗いの指導・啓発を継続している。

## 2. 地域に求められるサービスの充実

特色ある医療提供体制を充実させるため、“えんげと声”“スポーツ医学”“高次脳機能”3センターも数値目標を設定し取り組んだ。脊髄損傷医療については浜松市との将来構想会議の中で検討し始めた。

訪問リハビリテーション事業については、週2回の利用者確保に難渋した。医療保険制度における外来リハビリテーションの適正化については、リハビリテーションの必要な利用者に対して通所リハビリテーション事業の開始準備を行ない、2109年4月開設に至った。

### 3. 人材の育成と労働環境の整備

採用困難職種である作業療法士、看護補助者も含め、新卒看護師や療法士など採用活動においては100%確保を達成した。しかし、国家試験不合格者が3名おり、定数未達となった。医療の質と経営の維持を考慮し、職員の異動・新採用などは緻密に計画して行う必要性を感じている。

専門医制度における医師採用については、カリキュラム制で2名採用することとなり、基幹病院としての2年目がスタートすることとなった。

職員のキャリア支援については、現場のOJTのみならず浜りハラーニングやe-ラーニング等提供し、家庭とのバランスの中でなかなか外部研修に赴けないスタッフも含め、学べる環境を提供できた。職員満足度調査を実施し、成長できる環境や上司への信頼や人間関係等において高評価を得た。評価の低い項目については、改善すべく取り組んでいく。

### 4. 安定した経営基盤の確立

病床利用率 94.9% (213.5 人/日)。連休前のベッドコントロールに注力する体制が整ったことにより、安定した稼働が可能となっている。診療報酬改定により入院基本料が一段階低い状態でスタートしたが、職員が一致団結し取り組んだ結果施設基準を満たし、8月から最上位入院料の算定が可能となった。

### 5. 地域における公益的な取組

いきいきトレーナー養成事業は、2011年から開始、515名のトレーナーを養成してきた。そのトレーナーを指導できるアドバンスコースも開催し、累計39名を輩出、マスタートレーナーを5名選出した。育成および活動を支援する取組みが、厚生労働省「健康寿命を延ばそう！アワード」スポーツ庁長官団体部門優秀賞を受賞、理事長より事業団功労表彰、さらに市長にも興味を持っていただいたことで、トレーナーの活躍が広がる体制が整う兆しがある。地域リハビリテーション広域支援センターとして、セミナーを4回開催し、のべ参加人数は364人であった。“KT(口から食べる)バランスチャート”を用いた取組みは、冒頭に記した。

#### 【数値指標】

	予 算	実 績	対予算	対前年		予 算	実 績	対予算	対前年
入院患者数	212名	213.5名	101%	100%	外来患者数	181名	189名	104%	100%
入院単価	37,273円	36,693円	98%	102%	外来単価	7,324円	7,351円	100%	105%
職員数	381名	374名	98%	104%	病床利用率	94.2%	94.9%	101%	100%
サービス活動 収益	3,378,069 千円	3,334,108 千円	99%	102%	サービス活動 費用	3,353,465 千円	3,263,852 千円	97%	103%

<病床別患者一人あたりリハビリ実施単位数>

	単 位 数
回復期病床	6.7単位
一般病床	4.1単位

<病床別入院単価>

	単 価
回復期病床	38,806円
一般病床	33,155円

# 聖隷袋井市民病院

2018年度は袋井市との指定管理が更新され、引き続き5年間の運営管理を受託することができた。この間にMRI(1.5T)を新機種に更新し、一般、療養、回復期リハビリテーション機能を有した3つの病棟もフル稼働することができた。そして中東遠医療圏での地域包括ケアシステムの一員として、地域の急性期病院はもとより、在宅復帰など地域診療所とも連携し、地域全体として効率的な医療提供体制の整備と後方支援として当院の役割を充分発揮をしてきた。

経営的側面では、外来患者は若干名減少したが入院患者は増加している。2018年度の診療報酬改定がプラスに転じたことで診療単価増につながり、予算を達成することができた。これは、職員が一丸となって患者の受け入れや業務改善を実践した成果である。

2019年度は電子カルテの導入、病院機能評価受審といった大きなプロジェクトに取り組むとともに、開設後6年が経過したこの機会に自院の機能を見つめ直し、サービスの向上に努めていく。引き続き、地域全体として切れ目のない医療の提供を目指していく。

## 【事業・運営計画】

### 1. 地域ニーズに対応した質の高い医療サービスの提供

人員体制の整備により2018年2月より回復期リハビリテーション病棟をフルオープンすることができ、3つの病床機能を効果的、効率的に運用した。急性期病院の受け皿として新入院患者数は2017年度498名より2018年度579名に増加し、病床を有効に活用することができた。また、袋井市の支援により病棟等の空調設備をボイラーによる集中方式より個別エアコンへ変更し、療養環境の改善を図った。

リハビリテーション医療の質向上については、2019年度より訪問リハビリテーション事業の開始に向け準備を進めた。当院退院患者を対象に退院後3ヶ月を目標にリハビリテーションを提供していく。また、起床から朝食までのセルフケア(リハビリテーション)に取り組み、ADLの拡大を目指した。更に、効果的な摂食嚥下訓練ができるようCアーム透視装置を導入し、嚥下造影検査をすることで様々な角度から嚥下評価が可能になった。

2019年9月には電子カルテ導入、2020年2月に病院機能評価(第三者評価)受審を控え、その準備と検討を行った。

### 2. 地域包括ケアシステムの推進と連携体制の強化

前述したとおり2018年度新入院患者数の増加は、医師、看護師、地域医療連携室、医療福祉相談室等の職員が中東遠医療圏を中心とした急性期病院、地域診療所等との連携を深めた結果である。特に合同連携カンファレンスを積極的に開催し、互いに担当者の顔が見える、円滑な連携を図ることができたためと考える。さらに連携を図っている病院同士で病床稼働率や受け入れ状況を共有することで状況に応じた柔軟な入院相談を可能とした。また、訪問リハビリテーション事業の開設の検討とともに、訪問看護ステーション事業の展開も検討したが人的資源の不足もあり、引き続きの検討課題とした。

### 3. 人材の確保と育成

少子化の影響や私事都合による離職もあり、当初の目標職員数は確保できなかったが看護師、看護補助者、セラピスト等を採用することができた。育成については、各現場でのOJTを中心に、法人内階層別研修、院内感染・医療安全・接遇研修等を開催した。さらに防犯意識を高めるために市内の警察署と連携し、開設後初の防犯研修会を実施した。また、育児休職者の増加により職場復帰後の院内保育所への入所申請も増え、保育所の運営を調整した。

働きやすい職場環境の整備については、男性職員1名より育児休暇の申請があり、職場の理解とスタッフの協力により取得することができた。時間外労働については業務の効率化や勤務体制の見直しを行い、2017年度より短縮できている。さらに利用者満足度向上委員会を中心に、職員交流会の開催や近隣の高校と院内コンサートを開催するなどの活動を行った。

静岡家庭医養成プログラムの連携医療機関として総合診療医2名の研修を受け入れた。

### 4. 安定した経営基盤の確立

入院患者数は予算を下回ったが7月には126.2名/日を計上し、過去最高人数となった。4月の診療報酬改定の影響や重症入院患者の受入、起床から朝食までの日常生活リハビリテーションの提供等により入院単価は2017年対比プラス2,000円増となった。また、新たに感染対策加算、認知症ケア加算の施設基準を満たすための整備やデータ提出加算の準備を行った。

### 5. 地域における公益的な取組

#### (ア) 袋井市総合健康センターとの共働と発展

- ①「しぞ〜かでん伝体操（介護予防体操）」出張指導 15回・235名参加
- ②リハビリセラピストによる介護、認知症、リハビリ相談会 4回・46名参加
- ③リハビリセラピストによる地域講習会、研修会講師派遣 6回・166名参加
- ④地域リハビリテーション活動支援事業 30回・559名参加
- ⑤認知症初期集中支援チーム参加 12回
- ⑥在宅医療多職種連携推進会議参加 3回

#### 【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
一般病棟入院患者数	44名	43名	97.7%	97.7%
一般病棟入院単価	22,500円	24,105円	107.1%	105.1%
療養病棟入院患者数	44名	43名	97.7%	97.7%
療養病棟入院単価	21,000円	22,698円	108.1%	107.1%
回復期病棟入院患者数	44名	35名	79.5%	116.7%
回復期病棟入院単価	32,400円	33,380円	103.0%	105.7%
外来患者数	68名	63名	92.6%	92.6%
外来単価	6,200円	6,410円	103.4%	103.4%
サービス活動収益	1,492百万円	1,424百万円	95.4%	102.8%
サービス活動費用	1,459百万円	1,365百万円	93.6%	102.9%
職員数	174名	169名	97.1%	108.3%

## 在宅・福祉サービス事業部

団塊の世代が75才を迎える2025年を目標に地域包括ケアが取り組まれ、医療、福祉を問わず普遍的な理念として位置づけられるようになった。高齢者福祉事業、介護保険事業、障害福祉事業、児童福祉事業、生活保護、困窮者自立支援事業等、医療に比べて福祉事業はそれぞれに存在し、各法も一貫性は担保されていない。このため利用者支援の現場では各法を重複して利用することになり、調整や支援する組織もそれぞれに存在している。必要な支援、情報においてもコーディネートは相談員、支援員の熟練した知識や経験を基に成り立っているのが現状である。2040年を目標に福祉の方向性が「地域共生社会の実現」に向けて動き始めたことを受けて、事業部では今まで進めてきた地域を軸とした事業部組織の編成を更に進め、地域で生ずるあらゆる声に耳を傾け、福祉ニーズを見出し、取り組むことが出来る組織となることを目指した。利用者個人を含む家族や地域にも目を向け、地域に住むあらゆる方達に生じうる福祉課題を医療、介護のみならず、生活課題や働き方まで考えていく視点を持ってその基盤づくりを開始した。

その中で障害福祉の取り組みは浜松市における基幹相談支援事業所の他法人との共同設置により、新たな視点と地域とのつながりを生み出した。2019年度以降は更なる地域づくりのための法人を超えた視点での取り組みが計画され、行政施策との連携も具体的な展開が期待されている。

また、広域な視点から静岡県では静岡県立浜松学園の存続を当法人に託されることとなった。特別支援を必要とする子ども達へ生活支援と就労支援を行う施設であるが、事業が形骸化し問題点も把握できないままの状態が看過されていた。浜松学園の指定管理者受託を機に2018年度はその移行準備を行う中で、種々の課題点を見出し解決に向けて行政一体となって検討を重ねることが出来た。経年、他法人では取り組むことの出来なかった障害事業への取り組みは、人材確保と人材育成そして社会福祉法人の公益性の担保の視点からも聖隷にとって重要な取り組みとなることを期待している。このことから、2018年度は特に聖隷での障害福祉の取り組みが進められた年度となったと言える。

また、介護、障害、保育のシステム変更が為され2年目となった2018年度は、導入から運用へとシステムの習熟が図られ、更なるICT化を進める議論へと移行した。介護現場における業務フローを見直し、非専門職人材の活用を図り、人材不足と離職が課題であった関東エリアにおいて相応の成果を出すことが出来、他地区への応用と取り組みが始められた。AIの介護現場への活用も実験的に進められる中で、業務判断の自動化についても取り組むこととしている。今後、介護現場でのICT化に対して国レベルで好事例の例示がされることとなっており、介護現場の仕事の仕方について一層の創意工夫を以て職員の意識向上を図ると共に、利用される方にとって最上の福祉サービス提供に繋げていくものと思いたい。

事業部においての2018年度は法人の掲げる基本方針に則り、多くの支援と援助を受けながらも地域福祉の充実に向けて種々の取り組みが為されたことを感謝したい。

### 【2018年度重点施策】

1. 事業部組織の再編成を実施、福祉の専門性を高めた事業に取り組む
2. 報酬改定への対応を契機に価値ある福祉事業に取り組む

3. 2020年以降のAIネットワーク社会を見据えて、実効性のある業務のICT化、実装化に取り組む
4. 職員の専門性の向上を目指す傍ら、多様な人材の確保と育成に取り組む
5. 事業組織の基礎代謝を維持し、拡大すべき事業、撤退すべき事業を決定する

#### 【種別事業の取り組み】

##### 1. 高齢者福祉・介護保険事業

介護保険報酬改定の対応と報酬加算取得のために、事業単位や配置基準等の見直しを行い、相応の成果を上げることが出来た。これはエリア体制の視点に立って各事業が個々に自らの利益に偏ることなく、エリアにおける最上の選択を行った結果でもあり、必要とされる事業への取り組みや地域での役割が終了したと思われる事業に対する客観的な判断が可能となっている。

また介護保険システムの変更によって業務の見直しが進み、特に訪問系事業においてはiPadの活用により、いつでもどこでも利用者情報の確認と記録が出来るようになった。

今後、利用者情報の共有化において法人を超えた情報連携が必要となっており、地域におけるシステムリーダーとして先駆的な役割を担っていくものとした。

##### 2. 障害福祉事業

障害者総合支援法報酬の改定の対応を行い、変更、廃止、新設される各種加算によって必要とされる体制や人員、規則規定の変更等の取り組みを行った。また、精神障害を持ちながらも地域に暮らす方が増加し、入院や外来受診についてサポートが必要なケースが増えている。このため、聖隷三方原病院との連携を基盤にして訪問看護ステーション細江を障害者相談支援事業所、障害福祉サービスのある聖隷厚生園信生に移転し、必要な増築工事を実施した。今後は聖隷ヘルパーセンター初生の移転、精神障害者グループホームの開設を進め、地域における精神障害者の支援を総合的に行える拠点づくりを進めていくこととした。

また、地区地域において障害者相談支援事業の開設を行い、障害福祉ニーズの発見と把握に努めた。併せて質の高い障害児通所支援事業を行うため、統廃合や施設整備を実施した。

静岡県立浜松学園の指定管理受託のため職員募集を集中的に行ったが、障害福祉経験のある職員の発掘と人材確保は今後も課題を残すこととなった。

##### 3. 保育事業

2018年から3年間で32万人の保育定員増によって保育士不足は社会現象にまで発展した。事業部においても、こども園の1号認定受け入れに伴う定員増、聖隷浜松病院ひばり保育園の定員増、小規模保育所聖隷のあ保育園の開設、2020年新規こども園の開設準備に取り組み、保育士確保は急務となった。保育職員の処遇改善交付金においては大きな金額が示され、職員への支給においては、保育士キャリアラダーの評価を基に保育組織の管理や専門性の充実等の取り組みを重点的に行った。

多様な保育ニーズと教育面での充実が求められる傍ら、障害児、医療処置の問題を持つ児童、外国人児童、生活に困窮する家庭に育つ児童、虐待の環境にある児童等、多様な課題に対しても保育事業は対応しなければならない時代となっている。このため、福祉の原点や児童福祉の先進的な取り組みを学ぶ目的を以て、保育職員の海外視察を行い、施設内学習や発

表を通して保育職員が広い視点と共に考える機会を持った。

#### 4. 生活困窮支援、生活保護事業

浜松市生活困窮者自立支援事業の提案協議を行い、次期3年間においても受託継続となった。事業内容においては相談支援、就職支援、住宅確保支援、キャリア形成支援等の社会貢献事業の基盤づくりに加えて、全市を行うことなく、志を同じくする複数の社会福祉法人と共に地区別に行っていくこととなった。

また、学習支援においては浜松市において一部学習支援教室が委託されており、聖隷独自の学習サポート事業に加えて、委託の浜松市西区において学習支援教室も行っていくこととした。また、ホームレス支援のために巡回し実態把握を行う事業においても社会福祉協議会と共に実施していく事業委託を浜松市より受託した。

### 【主な施設整備・取り組み】

#### 1. 静岡第1、2、3エリア

- (ア)精神訪問看護の機能強化を図るため、聖隷三方原病院との連携を深めつつ、聖隷厚生園信生1階を増改築し、訪問看護ステーション細江、聖隷ケアプランセンター細江の移転を行った。
- (イ)磐田方面の医療ケア児支援に向けて訪問看護ステーション貴布祢サテライトを磐田市見付に開設した。
- (ウ)浜松市内5法人（天竜厚生会、小羊学園、至空会、好生会）と共同して浜松市基幹型相談支援事業所の業務委託を受託し、浜松市役所鴨江分庁舎内に開設した。に開設した。同時に委託相談事業所15施設を5施設に集約再編について浜松市と協議を行った。
- (エ)障害者支援施設静岡県立浜松学園の2019年度指定管理受託に伴う開設準備を実施した。
- (オ)児童デイサービス事業の再編を行い、「聖隷放課後クラブはなえみ高丘」を閉鎖、「同はなえみ和合」に統合し、発達障害支援の強化を行った。同時に和合せいれいの里から聖隷ケアセンター高丘へ聖隷ケアプランセンター浜松を移転し、訪問看護ステーション高丘の機能強化型ステーションの布石とした。
- (カ)和合愛光園に弁当宅配事業「聖隷キッチン和合」を開設し、障害者就労継続支援A型事業を実施した。
- (キ)聖隷浜松病院ひばり保育園の学童保育ニーズに応えるべく、定員増と送迎範囲の拡大を実施し、学習支援の他に塾やスイミングスクール等の学習の場への送迎を実施した。
- (ク)聖隷デイサービスセンター住吉の和合愛光園への移転統合を計画し、退院後のリハビリテーションを支援するべく、リハビリ特化型のデイサービスセンターの建築を実施した。聖隷デイサービスセンター住吉の移転により、空いたスペースを聖隷浜松病院ひばり保育園の定員を145名から210名に変更するべく市との協議を行った。
- (ケ)和合愛光園生活支援ハウスの定員を20名から5名に変更し、残り12名を特別養護老人ホーム定員への転換承認を受け、特別養護老人ホームユニット8床を生活支援ハウスへ、生活支援ハウス20床を特別養護老人ホームに変換し、必要となる施設改修を実施した。

#### 2. 関東エリア

- (ア)松戸愛光園の特養4床の協議を行い、2019年10月からの定員変更の認可を得た。

(イ)松戸愛光園デイサービスセンターにおいて介護保険事業所内で身体障害者もサービスが利用できる共生型サービス生活介護の事業を開始した。

(ウ)浦安地区の東京海上日動ベターライフサービス株式会社との共同事業を進展させ、稲毛海岸地区の「ケア付きコンビニ」事業を開始すべく、訪問看護ステーションのサテライト開設を協議した。

(エ)浦安ベテルホーム並びに横須賀愛光園の短期入所において障がい者も利用できるよう空床利用型のショートステイの事業を開始した。

### 3. 宝塚第1、2エリア

(ア)野上地区に加え、聖隷デイサービスセンター結いへ放課後児童育成事業「にじっこくらぶ」の併設を行った。

(イ)聖隷訪問看護ステーション北神戸の精神訪問看護強化のため、一般相談支援事業所を併設した。

### 4. 淡路エリア

(ア)岩屋地区の保育事業が新築移転し、聖隷こども園夢舞台として新規開設を行った。島内初となる病後児保育事業も実施した。

(イ)淡路市第二庁舎跡の再利用計画の提案競技を行い、聖隷ケアセンター津名の移転を行うこととなった。移転に伴い、在宅事業所の再編成、通所事業の実施等検討を行った。

### 5. 奄美・沖縄エリア

(ア)次期介護保険計画（広域介護保険計画）に向けて読谷村と共に検討を重ね、看護小規模多機能、小規模特養を有した複合施設提案をまとめた。

(イ)龍郷町における児童発達障害支援センター開設協議が進み、建築を開始した。



# 和合せいれいの里

2018 年度和合せいれいの里は理念にもある「切れ目なく総合的に支援する体制」として高齢者・障がい者・こどもの共生型サービスの一体的な運営体制を進め、更なる充実の取り組みができた年度となった。主には 2017 年度から検討を進めてきた聖隷厚生園チャレンジ工房における就労継続支援 A 型事業として「聖隷キッチン和合」を 4 月から開始することができ障害者就労による弁当配食事業がスタートできた。また生活支援ハウスやまぶきの真の利用ニーズの変動に伴う居室数変更と、特別養護老人ホームの増床も和合せいれいの里に求められるサービスの充実に繋ぐことができた。

## 1. 高齢者・障がい児（者）に対し切れ目なく質の高い適切なサービスを提供する

### (ア) 特別養護老人ホームにおいて権利擁護の視点に立ち質の高いケアを提供する

- ①介護支援システムにおけるケアプラン登録ができ、情報共有してのケア提供ができた。
- ②権利擁護の意識向上のため継続して園内研修会の実施と外部研修の受講ができた。
- ③老人保健施設等新たな事業所へ入居募集活動をしたが待機者 10%増には至らなかった。
- ④褥瘡マネジメント加算に対応できる体制をつくり活動をすすめた。

### (イ) ショートステイのサービスの質を向上し、一人でも多くの利用者に利用してもらう

- ①選ばれる施設となるよう緊急ショートステイ依頼を積極的に受け入れた。
- ②障害福祉サービス事業短期入所では、2017 年度より地域生活支援拠点事業の実施として、障害者緊急時対応事業の実施を開始することができた。

### (ウ) 新たな高齢者デイサービス対象者づくり

- ①利用者が主体性をもって過ごせる仕組として、買物・DIY 活動・園芸・作品作り等、選べるプログラムを定期的に開催することができた。
- ②リハビリテーションを基軸とした短時間デイプログラム事業計画を進めた。
- ③認知症対応型通所介護利用者と個別の関わりが増加し 2017 年度比 130%の稼働率となった。
- ④科学的根拠に基づく支援として MMSE 測定により再アセスメントを行った。

### (エ) 障がい福祉サービス対象者拡大と利用者の社会参加、自立支援を促進する

- ①「みとす」（生活介護第 2 単位）では、人員配置体制加算は 1.7 : 1 を維持する事ができた（区分 5.6 割合 60.6%、1 日平均 21.2 人）。土曜日営業を開始した事で、家人負担の軽減、急用時の救援、入浴等生活支援の追加支援、利用者の余暇充実等、新たなスタートが切れた。
- ②共生型サービスを意識して高齢者デイサービスとのコラボレーション推進のため会議を実施し、プログラムを互いに把握したが、共通活動実施までには至らなかった。

### (オ) 就労支援サービスの対象者並びに訓練メニューの増加

- ① 1 号館旧厨房での配食サービスの就労継続支援 A 型事業（定員 10 名）を開始した。また、衛生室業務をメニューに加えて介護補助業務との複合的な A 型事業の展開を進め、利用者数が 8 名となった。

②就労移行支援利用者増加のため関連施設・事業所へ定期的アクションを実施し、就労移行支援事業平均利用者数が5.5人/日(12月)⇒9.7人/日(3月)に回復した。

③年間活動計画による就労定着支援の安定した訪問を行い、新規開設の就労定着支援事業の利用者数が10人となった。

(カ)障がい児サービスの利用者拡大を図る

①はなえみ和合利用者送迎の見直しができ年間1日平均児童数9.4名となった。

②はなえみ和合利用者と聖隷こども園めぐみの学童利用者が夏休みの企画では一緒に外出することができた。

③相談支援事業所くすのきでは未就学児及び医療的ケア必要児童の計画相談を増やせた。

④浜松市リハビリテーション病院と連携会議を行うことができた。

⑤基幹型相談支援事業所との連携のため、毎月の会議や困難ケースの対応を通して連携をとることができた。

(キ)生活支援ハウス「やまぶき」では、より多様なニーズの利用者を受入可能にする

①ニーズの実数に合わせて居室数を20床から5床へ変更、空き部屋を特養入居待ちの部屋として活用し、特別養護老人ホーム居室(12床)へ改修した。

(ク)訪問介護では適時、適切に対応できる体制を構築する

①日常生活支援総合事業の生活支援訪問サービスは開始することができたが、有償サービスとのセットのケアは実施できていない。

(ケ)訪問看護は病院、施設と連携し在宅移行を更に促進し、新たな利用者を開拓していく

①病院看護師・訪問看護師双方がそれぞれの事業所に出向したことで、今まで在宅移行が困難と思われていたケースの相談が増えた。

②訪問看護eラーニングの導入はできたが、使いこなすには至っていない。

(コ)居宅介護支援事業所においては、さまざまなニーズに対応できるよう、継続的にケアプラン検討および主任ケアマネジャーが中心となって、チームとして対応を図った。また医療依存度の高い利用者に対応できるようマニュアルを作成中である。

(サ)地域包括支援センターでは担当地域の地域包括支援システム構築並びに新総合事業の周知活動をすすめた。

2. 業務省力化と業務効率化を進めることでサービスの質も高める

(ア)高齢部門のシステム導入は、タブレットへの記録置き換えによる業務省力化、ペーパーレス化を形にすることができトライアルフロアで実行することができた。

(イ)高齢、障害者、子どもの送迎に関わる事業や就労A型のキッチン和合の弁当配達などを検討する送迎センター会議を立ち上げ、集約と効率的な体制を整えることができた。

(ウ)業務省力化を目指し新たな機器・ロボットなど新技術導入として、ポータブル水洗トイレの導入・コグニバイクの導入を行った。

3. 共生社会実現の為の連携関係を作り、利用者がその人らしく地域で暮らせるよう支援する

(ア)デイサービスや入居部門へ子供達を意図的に招くこと、施設の周辺に遊具を設置し、触れ合う場所を作ることで交流を深めることができた。

(イ)聖隷トライサポート和合の開設に向けた手続きや業者選定などを行い、医療機関から在宅復帰を果たした方々の継続的なリハビリテーションの場を整える準備ができた。

- (ウ) 法人内病院の地域移行促進の為、退院時カンファレンス等へ積極的に参加した。
4. 新たな役割を与え成長を実感できる体制強化と多様な人材の働き方を支援する
- (ア) プリセプター制度により新入職員の効果的なスキルアップに加え、教える側の意識改革にも繋がった。介護テクニカルリーダーは58名がレベル更新を果たした。
- (イ) 新人職員育成としてフロアでのOJT研修に加え、新人職員研修の年間計画を立て、それに沿ってOFF-JT研修を行った。
- (ウ) 認知症介護実践者研修は喀痰吸引研修を優先させたため、参加をすることができなかった。
- (エ) EPA 介護福祉士候補生支援体制の強化として、本部研修に加え施設内支援体制の賜物により8期生のM2合格、7期生全員が介護福祉士試験を合格することできた。
5. 防災・防犯対策の強化と地域との関わりを増やす
- (ア) 防犯対策用具の取り扱いの防犯訓練を行った。
- (イ) 静岡県災害派遣福祉チーム登録要員のフォローアップ研修に参加した。
- (ウ) 和合サテライトでは地域の祭典や防災訓練等への参加と地域交流を図ることができた。
6. 地域における公益的な取組
- (ア) 学習支援事業への聖隷キッチン和合の弁当配食を行った。
- (イ) 中学生・高校生の福祉体験を、積極的に受け入れを行った。
- (ウ) 隣接河川の里親制度に施設として登録し、河川美化活動を行った。
- (エ) 地域の自治会、老人会にて特別養護老人ホームや認知症についての講話を行った。

### 【数値実績】

#### 高齢者入所・通所関係事業

	和合愛光園		和合サテライト	和合愛光園 デイサービスセンター			やまぶき 生活支援ハウス	
	特養入所			通所介護				
	従来型 (3号館)	ユニット型		従来型 (障害)	ユニット型	一般型		予防介護
利用者定員	62名	40名	20名	29名	50名		12名	5名
利用延数	19,877名	14,093名	6,554名	10,361名	6,306名	683名	2,906名	696名
一日平均利用者数	54.5名	38.6名	18.0名	28.5名	21.9名	2.4名	9.4名	1.9名
稼働率	98.08%	96.5%	89.8%	97.9%	48.6%		78.6%	38.0%
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	308日		308日	365日
平均介護度	3.92	4.25	3.25	3.66	2.07		2.80	—
単価(一人一日)	11,922円	14,611円	12,050円	13,840円	9,883円		13,040円	—
サービス活動収益	249,520千円	206,248千円	75,164千円	143,885千円	72,203千円		37,925千円	8,727千円
正職常勤換算数	30.1名	24.5名	8.6名	13.5名	5.8名		1.7名	0.2名
パート常勤換算数	10.3名	4.2名	1.0名	4.1名	10.5名		3.7名	1.9名

※従来型は2018年10月15日より50床から62床へ増床。

障がい者入所・通所・相談関係事業

	障害者支援施設 みるとす					相談支援 くすのき 浜松市受託 特定・児童	高齢 障害 合計
	施設入所 支援 生活 介護 I	生活 介護 II	短期 入所	入浴 サービス	日中 一時 支援		
利用者定員	20名	20名	2名	5名	10名	サービス利用	—
利用者延数	7,173名	5,451名	1,085名	—	—	175件/年	—
一日平均利用者数	19.7名	21.2名	3.0名	—	—	継続サービス	—
稼働率	98.3%	106.1%	148.6%	—	—	506件/年	—
稼働延日数	365日	254日	365日	365日	365日	障害児	—
平均区分	5.80	4.83	4.37	—	—	サービス60件/年	—
単価(一人一日)	18,095円	13,915円	8,761円	—	—	継続128件/年	—
サービス活動収益	128,861 千円	77,320 千円	9,441 千円	770 千円	3,305 千円	22,265 千円	1,035,634 千円
正職常勤換算数	14.7名	7.7名	—	—	—	1.5名	108.3名
パート常勤換算数	2.9名	7.3名	—	—	—	1.2名	47.1名

就労支援事業・放課後等デイサービス事業

	聖隷厚生園チャレンジ工房				聖隷放課後クラブ はなえみ和合	
	就労移行	就労継続B	就労継続A	就労定着	学校日	休校日
利用定員	15名	15名	10名	1名	10名	
利用者述べ人数	2,166名	4,317名	941名	70名	2,248名	
一日平均利用者数	7.6名	14.8名	3.9名	—	9.4名	
稼働率	50.7%	98.6%	39.2%	—	93.7%	
稼働日数(延べ)	285日	292日	240日	—	240日	
単価(一人一日当り)	7,699円	8,020円	7,598円	21,582円	10,693円	
サービス活動収益	25,270 千円	54,199 千円	21,215 千円	1,735 千円	24,127 千円	
正職常勤換算数	7.3名				2.0名	
パート常勤換算数	11.1名				2.0名	

訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ステーション 住吉	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
	185.0名	989.0件	11268件		9888円		111,323千円	16.0名
聖隷ヘルパーセンター	介護給付		予防給付		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
	平均利用者数	訪問件数		利用者		介護(回)		
		月間	年間	月間	年間			
68名	760件	9,115件	55.0名	655名	3,545円	20,328円	64,002千円	10.7名
ケアプランセンター	年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス活動収益	常勤換算職員数
	介護	予防	介護	予防	年間件数	単価		
浜松	2,447件	496件	15,632円	5,939円	10件	4320円	42,492千円	7.2名
和	2,358件	319件	17,826円	4,081円	30件	4320円	45,105千円	6.6名
地域包括支援センター 和合	浜松市受託収入		予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価	サービス活動収益	常勤換算職員数	
	30,490千円		2,830件	2,027件	4,390円			
	日常生活支援総合事業の予防プラン							
	種別	ケアマネジメントプラン請求件数		うち再委託件数	予防プラン単価	52,626千円	7.0名	
	ケアマネジメントA	1,701件		1,245件	4,390円			
ケアマネジメントB	310件		0件	2,195円				

# 聖隷めぐみ保育園

和合せいれいの里及び浜松市リハビリテーション病院の職員の子ども0.1.2歳児の従業員枠23名と地域枠7名の定員30名の地域型保育事業所として運営し、開設して4年が経過した。ニーズに合わせて定員の弾力化運営も行ってきたが、2018年度は退園もあり3月末で定員に満たない28名の入所となった。今後も保護者の職場復帰がいつでもできるよう園の職員体制を整え、子どもの成長発達を考えた子育てを家庭と連携をとりながら行っていく。

同じ敷地内にある聖隷こども園めぐみと保育を共に考え、行事等実践してきた。3歳以降の受け入れ先として交流を意識してきたが、日常の中での交流についてはまだ課題が残る。今後は日常の中でお互いに行き来する等、行事以外の場面でも交流を図れるよう連携をとっていきたい。

和合せいれいの里は高齢者、障がい児者と、園児が共に生活しており、ノーマライゼーション社会を身近に体感できる環境にある為、施設の利用者、保護者、職員、地域との交流も積極的に行ってきた。また、園庭を整備し遊具を増設し、今まで以上に聖隷こども園めぐみの園児、地域の子育て家庭と交流の機会が増えた。この恵まれた環境を活かして子どもが心身共に豊かに成長するための保育を引き続き目指していきたい。

## 1. 入所状況

4月に23名でスタートし、3月末には28名の入所となった。年間入所率は83.6%となった。年度途中には予定通り入園があったが、父親の転勤（引越し）や母親の妊娠（産休に入る為）等、家庭の事情で退園が重なり、定員に満たなかった。

## 2. 年度事業目標・年度重点施策

### (ア) 保育の質の向上。利用者に質の高い保育・保護者支援を行う

保育の質の向上を図るため、定期的に職員で勉強会の場を設け、キリスト教保育やモンテッソーリ教育について学ぶことができた。保育学会ではキリスト教保育についての学びを発表することができ、職員一人ひとりの力になっていることを実感している。職員の学びについて保護者へ発信し、少しずつ伝わってきていることは大きな成果である。

### (イ) 日々の生活の中での利用者同士の自然な交流ができるようにする

花の日や夏祭り、里まつり等の行事を通して交流することができたが、日々の生活の中での交流については課題が残る。

### (ウ) 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくりを目指す

職員が保育システムに慣れてきたことで、少しずつ業務省力につながっている。今後は、職員から意見を発信することで、共に働きやすい環境を考え、整えていく。

### (エ) 地域における公益的な取組

和合せいれいの里内での利用者との交流を行った。日々の生活の中での交流については今後の課題である。また、長期休暇中の小学生の受け入れを行い、放課後児童クラブはなえみ和合、聖隷こども園めぐみの学童と園外行事や学習を通して交流を行った。

【数値実績】

(ア) 歳児別入所保育児童数 (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	1	1	1	1	2	4	6	7	8	8	8	9	56	4.66
1歳児	10	10	9	10	10	9	9	9	9	8	8	8	109	9.08
2歳児	12	12	11	12	12	11	11	11	11	11	11	11	136	11.33
計	23	23	21	23	24	24	26	27	28	27	27	28	301	25.08
													入所率	83.6%

(イ) 保育日数および延べ出席 (利用) 状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数 (名)	397	417	451	397	395	359	476	485	423	451	445	471	5167	430.5
保育日数 (日)	24	23	23	23	24	24	26	27	28	27	27	28	304	25.3
一日平均 (名)	16.5	18.1	18.0	17.2	16.5	14.9	18.3	17.9	15.1	16.7	16.5	16.8	17.0	17.0
延長保育 (名)	23	23	26	27	16	16	27	24	19	17	32	27	277	23.1

(ウ) 職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職場長 (非)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士 (正)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
(バ)	5	5	5	5	5	6	7	7	7	7	7	7
管理栄養士 (委託)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員 (バ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	14	14	14	14	14	15	16	16	16	16	16	16

# 聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト  
聖隷デイサービスセンター初生  
聖隷ヘルパーセンター初生

2018年度、「切れ目のないサービス」「質の高いサービス」「多様な人材確保と効率化」「サービスの適正化」をキーワードに、各事業において、時代の流れと求められるものを柔軟に取り入れながら、職員一人ひとりが自分たちに求められているサービスを理解し、考え、発言し、行動することを求めた。聖隷ケアセンター初生において、常に「最高のサービス」が提供できるように、積極的に取り組んだ1年を以下に報告する。

1. 地域のニーズを的確に把握し地域に「根ざしたサービス」「求められるサービス」の提供に努めた。
  - (ア) 地域の事業所の交流会に参加することで、今まで以上により地域のニーズを把握した。
  - (イ) 通所介護ではフリーダム（介護予防支援システム搭載カラオケ機器）を導入したことで、職員の業務省力化をしつつ、プログラムの幅を広げることができた。
    - ① 機能訓練指導員を営業時間通じて配置し、運動器機能向上、機能訓練加算Ⅰ・Ⅱの算定が確実にできた。さらに質を高めていくため、機能訓練の計画から評価までの流れを効果的に行う仕組みを確立させたい。
    - ② 職員の認知症への理解を深める取り組みを積極的に進めた。勉強会の開催、また外部研修への参加を進めることで、事業所全体の認知症利用者へのケアの質は向上しつつある。
  - (ウ) 訪問介護では生活支援への対応、障がい者サービスへの対応を強化した。
    - ① 人員配置基準緩和の「生活支援訪問サービス」における新たな働き手を得て、ケアを提供できた。事業所として、ニーズの開拓と効果的、効率的なケア提供の仕組みづくりが課題である。
    - ② 新たな有償サービスのニーズを探り、具体的な提供内容を検討した。2019年度に向けて、さらに提供の内容と方法を精査し、具体的なサービス提供に取り組みたい。
    - ③ 職員の精神障がい者への理解を深め、個々のケアの提供に活かした。今後は、医療との連携体制を強化し、潜在的なニーズの掘り起こしとより効果的なケアを提供できるように、2019年7月に聖隷厚生園へ移転を予定している。
  - (エ) 小規模特養では、個々の利用者の「希望」に沿った企画を個別に実施した。それによって、職員の中で「その人」をもっと知りたいという意識が強くなり、「個々に寄り添うケア」の実践につながっている。
    - ① より「その人らしい暮らし」を支えるプラン作成が日常的なケアの質の向上につながっている。
    - ② 職員への喀痰研修の確実な実施により、医療的ケアの必要な利用者への提供体制をより強化できた。



- ③ 日常的な看護師、主治医との連携を強化したことで、職員の気づきの感度が向上し、利用者の体調変化や急変時の対応が確実に実施できている。
  - ④ 静岡地区の相談員連携体制を強化したことで、2017年度に比べ、年間のベッド稼働率は向上した。今後は突発的な空床発生時の短期入所利用もしくは、新規入所までの期間短縮に向けての取り組みを進められるように、初生サテライト内の体制づくりを進めたい。
2. 各事業が、事業所としての使命を改めて理解し、サービス提供することを意識した。
- (ア) サービス提供の基本となる「権利擁護」「虐待防止・身体拘束廃止」に関して各事業における職員が、理解を深められるようにケアセンター全体で取り組んだ。
    - ① エビデンスに基づくケアを意識することで利用者主体のケアを改めて意識し実践できた。
    - ② 全職員が「虐待防止・身体拘束廃止」は当たり前のこととして取り組めるように、勉強会開催機会をそれぞれの職場に合わせて丁寧を実施した。
  - (イ) ケアセンターという拠点のスケールメリットを意識したサービス提供の在り方を模索した。
    - ① 通所介護でのレクリエーションに入所施設の入所者が参加したり、入所施設の企画を通所介護にも利用してもらったり、互いに連携することができた。
    - ② ケアセンター全体が一体感を持ってケアに取り組めるように交換研修など相互理解を深める取り組みは十分に行えず、2019年度の課題となっている。
3. 全職員がやりがいと達成感を感じることができると事業者間の相互支援体制の強化に取り組んだ。
- (ア) 働き方改革が叫ばれる中で、各事業がムダやムラを洗い出し、いかに効率的にムリなくケアに取り組めるか、試行錯誤した一年だった。
    - ① 「抱えない介護」の具体的実践としてリフトを導入した結果、腰痛で休む職員は一人もいなかった。
    - ② 職員が安心して働く環境づくりのためには、管理者、職場長が中心になって業務の心身への負担感を軽減する取り組みが不可欠だが、具体的かつ十分には取り組めなかった。業務一つひとつを見える化し、課題を明確にして地道に取り組む、センター全体で成果を共有できるようにカイゼンに取り組みたい。
4. 地域における公益的な取組
- (ア) 浜松市のボランティア「ささえあいポイント」へ参加し、延べ110名を受け入れた。
  - (イ) 聖隷クリストファー大学「老年看護学実習」7名（通所介護）「臨床理学療法実習」4名（通所介護）「インターンシップ」3名（初生サテライト）  
 聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 「訪問介護実習」10名  
 浜松医科大学「学外実習」1名（訪問介護） 以上の実習生を受け入れた。
  - (ウ) 職員によるケアセンター周辺道路、職員駐車場周辺道路のゴミ拾い、草取りを実施した。

【数値実績】

	和合愛光園 初生 サテライト	聖隷デイサービス センター初生		聖隷ヘルパーセンター初生			
		介護給付	総合事業	介護給付	総合事業	総合支援	有償等
利用者定員	29	50	(50)	—	—	—	—
利用延数	10,466	10,101	1,568	4,466時間	1,612時間	6,547時間	101時間
一日平均利用者数	28.7	34.3	16.8	—	—	—	—
稼働率(%)	98.6	83.9		—		—	—
稼働延日数	365	309		—	—	—	—
平均介護度	3.80	1.51		—	—	—	—
単価(一人一日)	14,366	9,512	36,714/月	4,177/時間	4,088/月	3,705/時間	3,923/時間
サービス活動収益 (千円)	151,022	102,975		49,869			
職員数(正・ゾ)	15.6	7.0		5.0			
職員数(パ・ア)	3.6	8.76		1.8			

# いなさ愛光園

いなさ愛光園は1997年4月に開設して22年が経過した。2018年4月から介護報酬が改正され、一部の事業でマイナス改正となったが各事業の稼働率が順調であったことで施設運営は全般的に安定して推移することができた。

特別養護老人ホームは13名の利用者に対して看取り介護の実践をし、多くの学びの機会を得た。また、平均空床期間は4.9日となり、早期入所希望者に対して支援することができた。通所介護は倒木や停電等の影響で2日間サービスを中止し、災害時の施設運営のあり方を考える良い機会となった。認知症対応型通所介護はユマニチュードの学習をし、利用者援助に活かすことができた。グループホームは四季折々の野菜作り等の実践を通して、利用者の意欲を導き出すことができた。障害者総合支援法による居宅介護（ホームヘルプ）は2018年5月からサービス提供が始まった。居宅介護支援事業所は北区の事業所や高齢者相談センター等と連携を図り、中山間地域を支える一翼を担うことができた。配食サービスは年間約1,635食を提供し、中山間地域の利用者は半数の877食であった。在宅介護支援センターは地域の要請に応じて高齢者サロン活動の支援や中山間地域介護予防支援活動等を開催した。

建物修繕や設備更新が大きな課題となっていたが、ASSET事業（先進対策の効率的実施によるCO<sub>2</sub>排出量大幅削減事業設備補助事業）を活用し、既存部分の主たる空調機器の更新、大型ボイラー及び洗濯乾燥機の更新、照明器具のLED化をすることができた。

1. 利用者本位の福祉サービスを提供し、安心して快適な生活を支援する
  - (ア) 車椅子を新たに9台購入し、個々の身体状況に合わせて車いすの見直しをした
  - (イ) 短期入所、通所介護、認知症対応型通所介護、訪問介護、居宅介護支援の事業所は利用者又は家族を対象にした満足度調査を実施した
  - (ウ) 介護ソフトが更新されて、各サービス利用状況を把握することができた
  - (エ) 想定できる自然災害に備えて事業継続計画（BCP）の再確認をした
  - (オ) 各部署単位で接遇やホスピタリティに関する研修を実施し向上に努めた
  - (カ) 病院受診を伴う介護事故は11件、そのうち通所介護の送迎中の事故は1件あった
2. 自立支援・重度化防止に努め、質の高い介護サービスを提供する
  - (ア) 新たに理学療法士、機能訓練指導員を迎え、リハビリニーズに対応することができた
  - (イ) 褥瘡予防マット管理票を定期的に更新して、褥瘡の発生予防に努めた
  - (ウ) 園内研修を年2回実施し理解を深め、身体拘束及び虐待の件数は0件であった
  - (エ) グループホームでは地域密着型サービス外部評価を受審した
3. 新たな人材確保と多様な人材が働きやすい環境をつくる
  - (ア) 聖隷リハビリプラザいなさと通所介護が共同して研修を実施した
  - (イ) 2019年度に初めてEPAによる外国人介護士候補の受入れに向けて、職員の理解を深めた
  - (ウ) 新人教育体制を2年間体制としたことで新人の離職防止をすることができた

- (エ) 目標参画システムと OJT を効果的に運用しながら、介護テクニカルリーダー、相談支援スキルリーダー、福祉施設看護リーダーと合わせ自己研鑽に努めた
- (オ) 育児休職者 4 名、育児短時間勤務者 2 名、職場復帰プログラム対象者 1 名が安心して働けるよう相談しながら対応することができた

#### 4. 安定した施設運営をする

- (ア) 短期入所は交通の便が良くなったこと等あり、佐久間町浦川や東栄町からの利用者が増加したことで特別養護老人ホームの入所希望者も増えた
- (イ) 特別養護老人ホームでは経口による継続的な食事の接種を進めるために医師、歯科衛生士、看護師等が連携して経口維持加算対象者を月当り 11 名から 28 名増加した。
- (ウ) ASSET 事業を活用し、既存部分の主たる空調機器の更新等の他に、放送設備と普通車 1 台についても更新した。

#### 5. 地域における公益的な取組

(ア) 中山間地域介護予防支援活動	(延べ回数 8 回、延べ人数 128 人)
(イ) 幼稚園児、小学生等の世代間交流	(延べ回数 3 回、延べ人数 41 人)
(ウ) 中学校生、高等学校生の福祉介護体験等	(実人数 33 人、延べ人数 33 人)
(エ) 高齢者サロン活動(伊平)の支援	(延べ回数 10 回、延べ人数 275 人)
(オ) 社会福祉法人利用者負担軽減事業	(実人員 5 人、延べ人数 1,322 人)
(カ) 介護福祉士実習受入れ	(実人員 2 人、延べ日数 2 日)
(キ) 社会福祉士実習受入れ	(実人員 1 人、延べ日数 23 日)

【数値実績】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護支援・委託事業

	特別養護老人ホームいなさ愛光園			いなさ愛光園 デイサービスセンター	
	特養入所		短期入所	通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	通常規模型	認知症対応型
利用者定員（名）	30名	40名	20名	35名	10名
利用者延べ人数（名）	10,779名	15,070名	6,055名	8,518名	2,130名
一日平均利用者数（名）	29.5名	41.3名	16.6名	27.8名	7.0名
稼働率（%）	98.4%	103.2%	83.0%	79.5%	69.5%
稼働日数（延べ日）	365日	365日	365日	306日	306日
単価（一人一日当り）	12,889円	14,102円	13,306円	9,155円	12,376円
サービス活動収益	139,178千円	212,990千円	80,568千円	77,981千円	26,360千円
職員数（常勤換算）	46.9名		14.9名	12.3名	6.5名
	ほのぼのケア ガーデン	いなさ愛光園 ヘルパーステーション （訪問介護）	いなさ愛光園 ヘルパーステーション （居宅介護）	聖隷ケアプラ ンセンターい なさ	いなさ愛光園 在宅介護支援 センター
利用者定員	9名	—	—	—	—
利用者延べ人数	3,233名	3,685名	69名	2,056名	—
一日平均利用者数	8.9名	10.2名	0.2名	—	—
稼働率	98.4%	—	—	—	—
稼働日数（延べ）	365日	361日	361日	365日	365日
単価（一人一日当り）	13,766円	4,476円	2,761円	13,431円	—
サービス活動収益	44,505千円	16,684千円	191千円	29,627千円	—
職員数（常勤換算）	8.2名	4.8名		6.0名	
	配食サービス				
利用者定員	—				
利用者延べ人数	1,635名				
一日平均利用者数	5.7名				
稼働率	—				
稼働日数（延べ）	288日				
単価（一人一日当り）	647円				
サービス活動収益	1,059千円				
職員数（常勤換算）	—				

# 聖隷厚生園讃栄

2018年度は、聖隷厚生園信生寮のピロティ部分に移転する訪問看護ステーション細江と連携し、讃栄寮やナルドを利用する在宅生活者への精神科訪問看護の導入を行い、医療との連携を強化することができた。救護施設においては、全国救護施設協議会が作成した個別支援計画の活用をさらに推進した。創立40周年を迎え、利用者とのかかわり方や住環境など、ケアのあり方を見直す1年となった。

## 1. 利用者にとって最適なサービスの提供

- (ア) 県西部地区の救護施設合同で全国救護施設協議会が推奨する個別支援計画の研修会を企画して、他職員を指導できる職員の育成に努めた。
- (イ) 相談支援事業所ナルドでは、浜松市基幹型相談支援センターや地域包括支援センターと連携して、支援困難ケースへの対応を行う体制が整った。
- (ウ) 生活訓練事業所ナルドでは、個別ニーズを重視した支援プログラムの継続的な実施を行った。

## 2. 健全かつ安定的な施設運営

- (ア) 短期入所では、生活保護の緊急一時支援や、浜松市障がい者対応事業の緊急一時受け入れを積極的に行い、2017年度よりも10%稼働率を向上することができた。
- (イ) 精神科病院等の退院者の住居支援のニーズをつかみ、2019年度事業として、共同生活援助（グループホーム）新規開設の足がかりとした。
- (ウ) 生活訓練事業所ナルドでは広く地域の方々に利用してもらうために、特別支援学校や相談支援事業所への事業所説明会を行い、延べ利用者数が2017年度比12%向上することができた。

## 3. 次世代の人材育成と確保、質の向上

- (ア) 自分たちがやりたいこと、やらなければならないことを中堅職員が日々の利用者支援や業務等から考え、報告できる機会を作り、2019年度事業計画に反映した。これにより中堅職員が当事者意識をもって業務遂行できる環境ができた。
- (イ) 介護福祉士だけでなく、社会福祉士、精神保健福祉士の実習も積極的に受け入れをおこなった。

## 4. 地域における公益的な取組

- (ア) 聖隷クリストファー大学等で将来福祉職を目指す学生に講義等で臨床での実際を伝えて進路を考えることへの支援をしたり、他救護施設の学習会に当施設職員を講師として派遣し、地域移行の支援方法の技術的な方法を伝えたりと、地域社会へ福祉活動を普及することに寄与することができた。

【数値指標】

	讃栄寮		
	救護施設	救護通所	短期入所 (総合支援法)
利用者定員	60名	10名	4名
利用者延べ人数	23,719名	4,320名	1,083名
一日平均利用者数	64.9名	11.8名	3.0名
稼働率	108.3%	118.3%	74.1%
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日
単価(一人一日当り)	9,380円		5,483円
サービス活動収益(千円)	263,015千円		5,939千円
職員数(常勤換算)	27.8名		

	生活訓練ナルド		相談支援事業ナルド	
	生活訓練	生活介護	浜松市 相談支援	指定 相談支援
利用者定員	10名	10名	-名	-名
利用者延べ人数	1,602名	2,914名	-名	-名
一日平均利用者数	6.1名	11.3名	-名	-名
稼働率	61.1%	112.9%	-%	-%
稼働日数(延べ)	267日	258日	-日	-日
単価(一人一日当り)	9,100円	6,842円	-円	-円
サービス活動収益(千円)	14,579千円	19,940千円	9,079千円	16,022千円
職員数(常勤換算)	4.9名		2.9名	

# 聖隷厚生園信生

障害者支援施設 聖隷厚生園信生寮

まじわりの家

障害者相談支援事業所 信生

2018年度に聖隷厚生園信生は、40周年を迎えることができた。ひとえに聖隷厚生園を支援頂いた多くの方々に感謝したい。この1年、高齢化し重度化していく利用者の主体性を尊重しつつ、質の高いサービス提供を目標に取り組んできた。

また、訪問看護ステーション細江・聖隷ケアプランセンター細江の移転、連携を強化することにより、福祉・介護分野に加え医療・看護分野についてもニーズの発見・発掘を行い、更なるサービスの拡充を行う為、1階ピロティ一部分の改修工事を実施した。このことにより2019年度は、在宅で暮らす方々が、住み慣れた地域で安心して生活できるよう、一体的なサービスの提供ができる仕組みづくりを行っていききたい。

## 1. 利用者の尊厳を守り、利用者主体の支援の提供

(ア)まじわりの家での「はじめの一步計画」や信生寮の「Let's WAKUWAKU クッキングクラブ」の企画において、利用者自身の自律性・主体性に着目した関わりを行い、利用者からの発案を基に企画立案から実施まで利用者と共にすることができた。

(イ)プランプロジェクト委員会を中心に、アセスメント表を作成し、利用者のやりたいことを、より具体的に計画立案ができるようになった。また、帳票類の見直しを図ることで、記録・計画立案にかかる時間の短縮への取組みに繋げることができた。

しかし、介護職員の超勤理由の大部分が、記録や計画作成となっており、2019年度の課題として残された。

(ウ)介護保険施設の指針を参考に聖隷厚生園信生寮の看取り指針を整備することができた。

しかし年度末時点で対象となる利用者がいなかったため、実践はできていないが、今後、障がい者施設における高齢者の看取りに取り組んでいきたい。

(エ)各部署において虐待セルフチェックを行い、問題点の共有を図り対策を検討する事ができたが、虐待に繋がる可能性のある言葉使い等、接遇面での取組みが不十分であり、2019年度も引続きセルフチェックを実施しながら残された課題に取り組んでいきたい。

## 2. 地域共生社会の実現に向けた連携体制の構築

(ア)2019年3月25日に訪問看護ステーション細江、聖隷ケアプランセンター細江の移転・開所式を行い、支障なく営業を継続することができた。また、2019年7月には、聖隷ヘルパーセンター初生の移転を予定しており、障がい者施設と医療、介護の連携強化を行い、医療ニーズの早期発見や発掘に取り組み、サービスを提供に繋げていきたい。

(イ)訪問看護ステーション細江・聖隷ケアプランセンター細江・聖隷三方原病院と相談支援事業所信生・ナルド合同の事例検討会を実施し、事例を通して共通理解を深めることができた。また、病院と連携することによって、利用者ニーズの掘り起こしができ、早期に適切かつ有効なサービス支援に繋げることができた。今後も検討会を継続し、連携を強化し、互い



の強みを活かしていきたい。

(ウ) 聖隷厚生園ナルド工房と連携しシート交換、環境整備については、就労支援の一環として、定着し安定した実施ができた。2018年度、介護の間接業務を切り分け、聖隷厚生園ナルド工房への業務委託を計画したが、業務内容の検討に時間がかかり実施には至らなかったため、2019年度に継続して検討する。

### 3. 人材育成と働きがいのある職場環境の整備

(ア) 専門職ラダーと目標参画を連動し、人材育成に取り組んできたが、目標設定が曖昧となり、介護ラダーの上位目標への到達者が余り見られず、現状のレベルに留まってしまった。

(イ) 人材育成委員会を中心に、EPA介護福祉士候補生の就業・学習支援を行っている。

8期生の2名は2019年度国家資格受験となるため、法人本部人事部との連携を図り、支援を強化していきたい。

(ウ) スライドボード・リフトの器具による移乗、2人介助の推奨を行い実施してきたが、現在の腰痛アンケートの結果は、42%に腰痛があり、今後さらに取り組みを強化していきたい。

### 4. 安定経営の推進と衛生管理体制の向上

(ア) 信生・讃栄・ナルド工房の各事業所で違う業者に依頼していた修繕について、抱き合わせて修理を依頼、実施してきた。2019年度は更なる効率化を図りたい。

(イ) 感染症・誤嚥性肺炎等の勉強会・委員会での意識づけにより2018年度の入院者は、2017年度の284日/年から142日/年と半減している。今後も利用者・職員への意識づけを続け感染による入院者を減らしていきたい。

### 5. 環境保護と地域における公益的な取組

(ア) 水光熱の使用量は基準年度の+2.7%と気候変動も大きく目標の-2%を達成できなかった。

(イ) 特別支援学校や各種学校からの実習・中学校の福祉体験・また、多くのボランティアの方々の受入を実施、又、住民向け介護体験講座を実施し32名の方に参加して頂いた。

#### 【数値指標】

	信生寮			まじわりの家		信生	
	入所	短期	日中一時	生活介護	機能訓練	浜松市相談支援	指定相談支援
利用者定員	60名	10名	3,410 時間	14名	6名	-	-
利用者延べ人数	22,016名	4,085名		4,312名	1,725名	-	-
一日平均利用者数	60.3名	11.2名	-	16.9名	6.8名	-	-
稼働率	100.5%	111.9%	-	120.3%	112.7%	-	-
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	256日	256日	-	-
単価 (一人一日当り)	17,028円	9,362円	-	14,241円		-	-
サービス活動収益 (千円)	374,896 千円	38,247 千円	3,374 千円	85,975 千円		9,072 千円	12,081 千円
職員数(常勤換算)	59.0名			16.2名		3.2名	

# 聖隷厚生園ナルド工房

2018年度は障害福祉サービスの報酬改定があり、就労支援事業所においては工賃・賃金の向上、一般就労への移行促進に向けて、質の高いサービス事業所がより評価される制度改正となった。制度や社会情勢に合わせた幅広く柔軟な対応力が求められ、2019年度は就労移行支援の定員を15名から10名へ変更し運営する。2018年4月から新規事業として就労定着支援事業を開始し、利用者の就職3年定着を意識し就労支援に取り組んだ。職員は利用者が職場定着できるように利用者の自信と仕事への意欲を引き出せるようさらなる支援技術の向上を図る基礎を作ることができた1年となった。

## 1. 利用者が仕事にやりがいを感じられる就労モデルの創出と実行

- (ア) 菓子の販路は保育園・こども園の協力を得て拡大ができた。喫茶・厨房の改修の協議は2019年度以降に持ち越しとなった。
- (イ) 和合給食事業の開始は、チャレンジ工房にて事業開始となった。
- (ウ) 就労移行支援では定員の5割以上が6ヶ月定着できたため、2019年度は最高ランクの基本報酬の算定が可能となった。工賃は1万円から2万円の実績が維持できた。
- (エ) 工賃額向上に向けて、作業種目ごとに、グループワークを実施し利用者と一緒に考え、計画や実行を側面から支える支援を実行できた。

## 2. 「就職3年定着」を意識した就労支援の実践

- (ア) ナルド工房6名の就職者を輩出した。
- (イ) 「就労定着支援事業」を開始し、就職半年以上の利用者の動向を確認し、就職期間が長期となった利用者へ支援を強め、13名の利用者と契約し支援をおこなうことができた。

## 3. 新規契約者獲得のための受け入れ体制の構築

- (ア) 特別支援学校の教員や保護者、相談支援専門員向けの工房作業体験を積極的に受け入れることができ、2020年、2021年の利用契約希望者の獲得につながる足がかりとなった。
- (イ) 利用者の自信と仕事の意欲向上を引き出す支援をするために、現時点での達成度や課題を利用者がわかりやすく確認ができるようにグラフ化した作業チェック表を作成した。
- (ウ) 離職支援では、1名の再就職を支援することができた。また就職後にナルド工房での再訓練を希望される方に対しても積極的に受け入れを行うことができた。

## 4. 利用者理解を深める人材育成と業務改善

- (ア) 全職員の7割の職員が外部研修に参加できた。また内部で日々の利用者との関りを見直す機会を持つため虐待防止の勉強会を実施した。
- (イ) 効果的、効率的に業務を遂行できるようムリ・ムラ・ムダをチェックする体制強化のため朝礼での職員間のスケジュール確認、応援要請を図るようにした。
- (ウ) 支援方法の事例検討会と虐待防止のセルフチェックを実施できた。

- (エ) 各職員一人ひとりとキャリアアップについて考える機会をもつことができた。工房全体としては職場の第一線で活躍する中堅職員の育成を各工房所長との共通課題として 2019 年度は取り組んでいく。
- (オ) ボランティアや学生の体験実習を積極的に受け入れ、利用者と一緒に作業を行うことで障害者の就労支援について知る機会の提供ができた。

#### 5. 地域における公益的な取組

- (ア) 障害福祉サービス事業所の保護者会で喫茶スペースを提供した。
- (イ) 中学生や高校生の福祉体験実習を積極的に受け入れ、障害者の就労支援について知る機会の提供ができた。

#### 【数値実績】

	ナルド工房			
	就労移行	就労継続B型	就労継続A型	就労定着支援
利用者定員	15名	15名	10名	-名
利用者延べ人数	3,334名	4,452名	1,131名	72名
一日平均利用者数	12.5名	16.7名	3.8名	-名
稼働率	82.9%	110.7%	37.7%	-%
稼働日数(延べ)	268日	268日	300日	268日
単価(一人一日当り)	10,335円	8,463円	15,852円	37,625円
サービス活動収益	34,460千円	37,680千円	17,929千円	2,709千円
職員数(常勤換算)	17.1名			

# 浜松市生活自立相談支援センターつながり

生活困窮者自立支援事業は 2014 年度より浜松市から受託している事業であり、2018 年度で 5 年が経過する。行政各課、福祉関係機関、民生児童委員等には随分と認知されたものの、行政等においては人事異動が、民生児童委員等においては改選等が行われ、当事業の周知徹底に労を費やす 5 年間であった。とはいえ、毎年行っている実践報告会には 200 人前後の参加があり、また紹介される事例も徐々に増え関係者の関心の高さがうかがえた。

## 1. 生活圏ネットワークモデルの強化・充実

- (ア) 東区・南区・西区などの地域ケア会議（圏域会議）に参加し連携事例の発掘に努めた
- (イ) 実践報告会を開催し生活困窮事例を紹介。行政・関係機関・民児協等 200 人が参加した
- (ウ) 2019 年度より 2 拠点体制に伴う体制変更について、事業形態及び展開方法を浜松市と協議した

## 2. 個別支援関係のさらなる重視

- (ア) 支援終了者を対象とする人々を対象に新年会を開催し、20 名が参加した
- (イ) 自立相談支援員のスキルアップを目的に全国レベルの研修等に参加した

## 3. 就労支援

- (ア) 50～60 代の単身者、一人親世帯、再就職女性等を対象に月 5 名を就職につなげた
- (イ) 一般企業・ハローワーク・つながりが一体となり、インターンシップ環境を構築した
- (ウ) 就労支援対象者のうち、就職率 80%および 6 ヶ月定着率 85%を達成した

## 4. 実践の言語化

- (ア) 静岡県生活困窮者自立支援事業相談従事者現認研修において講師を務めた
- (イ) 生活困窮者自立支援制度人材養成研修において実践報告及び研修講師を務めた
- (ウ) スタッフ 1 人 1 研修に参加し、実践力の向上と全県・全国のレベルの把握を行った

## 5. 地域における公益的な取組

- (ア) 中区・東区・西区以外の学習サポート事業の開設は行えなかった
- (イ) 学習サポート卒業生を対象に高校定着・退学防止支援（学び直しの場合）を提供した
- (ウ) 学習サポート事業の卒業生や高校中退者等を「学習サポーター」として招き入れた
- (エ) 中区の学習サポート事業にて聖隷キッチン和合で調理する弁当の提供（無償）を行った
- (オ) 生活困窮者への弁当配食について検討を行い和合地区学会で発表を行った

【数値指標】

	つながり	
	浜松市生活困窮者自立支援事業	学習サポート事業
利用者定員	- 名	- 名
利用者延べ人数	2309 名	1,068 名
一日平均利用者数	9.3 名	4.5 名
稼働率	- %	- %
稼働日数（延べ）	- 日	- 日
単価（一人一日当り）	- 円	- 円
サービス活動収益（千円）	49,056 千円	- 千円
職員数（常勤換算）	10.9 名	2.3 名

# 聖隷ぴゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ

聖隷放課後クラブはなえみ磐田

相談支援事業所磐田みなみ

聖隷チャレンジ工房磐田

2018年度、障害福祉サービスの報酬改定の年であったが、聖隷ぴゅあセンター磐田の運営は安定して推移することができた。待機児童対策として、聖隷放課後クラブはなえみ磐田の定員を10名から20名に増員し、グループ単位での活動を取り入れた。利用児の特性に合わせた環境を設定することが可能となり、保護者からは評価の声をいただいた。また、聖隷ぴゅあセンター磐田の児童棟の環境整備を聖隷チャレンジ工房磐田の利用者が実施することを通して、就労棟利用者と児童棟利用児や保護者が自然に触れ合う機会を創出し、「将来の働く姿」のイメージ化が少しずつ進んでいる。就労棟では、高い工賃実績を上げるとともに、定期的に就職者を出すことができ、就労定着支援事業開始の足掛かりを作れた。

## 1. 利用者満足度の高いサービスを提供する

### (ア) 子どもへの発達支援

- ① アセスメント項目の共通理解ができるようカンファレンスにて確認を行った
- ②客観的な評価尺度を2つ取り入れ、多軸で子ども理解のもと、クラス編成を行った
- ③クラスの年間月間目標を作成し、計画的に療育を実施した
- ④年間を通して、近隣幼稚園や子育て支援センターとの交流保育を行った

### (イ) 家族支援の充実

- ①「子どもの成長に必要な目標が『個別支援計画』に記されている」と保護者から評価をいただいた
- ②保護者満足度評価にて、保護者の思いを確認し、必要な対策を講じた
- ③先輩お母さんからの講話など縦横のつながりを持てるような会を企画した

### (ウ) 高水準の就職実績と工賃実績

- ①販売計画や実践と振り返りを利用者と一緒にやり、成果をより実感することができるようになった。それにより働く意欲とも高まり、就職・工賃実績ともアップした
- ②年間を通じて、7名が就職し、「働く」姿を具現化できた
- ③年間平均工賃34,000円を実現し、利用者が働く喜びとやりがいを体現し、やる気を高めた就労訓練が実行できた

### (エ) 将来を見据えて、現在の過ごし方を考える

- ①聖隷ぴゅあセンター磐田として第一回夏祭りを企画し、地域の方500名程の来場があった
- ②聖隷ぴゅあセンター児童棟の環境整備を聖隷チャレンジ工房磐田利用者がやり、働く姿に触れる機会を増やした

2. 地域からの要請に応じたサービスの展開

- (ア) 「聖隷放課後クラブはなえみ磐田」の待機者解消のため、定員を20名と増加した
- (イ) 医療的ケアが必要な児・家族へ訪問看護事業所の紹介を行った
- (ウ) 自立訓練（生活訓練）において、訪問支援の提供実績は作れなかったが、ひきこもりや未就労の利用者など、就労へのステップとしての活動の場を提供することができ、登録者が増えた

3. 生産性・効率性の向上と経営の安定化

- (ア) 目標稼働率を意識し、新規利用児者の受け入れを行った
- (イ) 効果的、効率的に業務を遂行できるよう、書式の改定を行った
- (ウ) 業務分掌に基づき、職員一人ひとりが計画的に動けるようマニュアルを整備した

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 民生委員や行政等の施設見学の受け入れ、実習・ボランティアは積極的に受け入れた
- (イ) 磐田市内社会福祉法人ネットワーク事業へ参加し、困りごと相談マップ作りを行った
- (ウ) 私立幼稚園保育園に対する巡回相談（先生に対するコンサルテーション）を実施した

【数値指標】

	児童発達 支援	保育所 等訪問	相談支援 (特定)	相談支援 (児)	放課後等 デイ	就労移行	就労継続	生活訓練
利用者定員	30名	—	—	—	20名	14名	10名	6名
利用者延べ人数	7620名	406名	—	—	4435名	4106名	2081名	346名
一日平均 利用者数	30.7名	—	—	—	18.1名	13.0名	7.1名	1.4名
稼働率	102.4%	—	—	—	90.5%	97.8%	70.5%	23.4%
稼働日数(延べ)	248日	243日	—	—	245日	302日	295日	246日
単価 (一人一日当り)	16,548 円	10,550 円	—	—	11,359.1 円	14,022.3 円	11,853.1 円	7,971.3 円
サービス 活動収益	126,100 千円	4,283 千円	1,539 千円	6,174 千円	50,378 千円	57,576 千円	24,666 千円	2,758 千円
常勤換算職員数	16.9名	0.9名	1.1名		9.9名	4.9名	3.6名	1.4名

## 聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田

### 1. 子どもへの発達支援

- (ア) 客観的な評価を基にグループの年間月間計画を作成し、計画的にプログラムを実施した
- (イ) 自発的に行動できる力を培えるよう、環境や設定課題を調整した

### 2. 家族支援の充実

- (ア) 就学先を検討する過程に寄り添い保護者の意思決定を支援できるよう座談会を実施した
- (イ) 保護者満足度調査にていただいた声を、2019年度事業計画にて取り組むこととした
- (ウ) 先輩保護者との交流会を通して、保護者の不安等を解消する機会を設けた

### 3. 職員が成長できる体制の確立と経営の安定化

- (ア) 目標稼働率の意識し、新規利用児の受け入れを行った
- (イ) 施設整備は（仮称）聖隷こども園富丘等複合施設計画の実施に伴い、見送ることとした

### 4. 公益的な取組

- (ア) ボランティアの受け入れや幼保の先生の見学受け入れを行った

#### 【数値指標】

	利用定員	利用者延人数	一日平均利用者数	稼働率	延稼働日数	一人一日当り単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
児童発達支援	10名	2,586名	10.5名	105.1%	246日	14,883.4円	38,489千円	6.0名
保育所等訪問	—	394名	—	—	240日	10,548.2円	4,156千円	

## 磐田市発達支援センターはあと

### 1. 発達支援事業

- (ア) 保護者が子どもの成長を可視化できるよう、表情カードや目標の達成度評価を導入した
- (イ) 保護者が子どもとの関わりを学べるよう、ペアレントプログラムの要素を取り入れたグループ活動を実施した

### 2. 相談事業

- (ア) 新しい検査を導入し、学習面に関する困りごとに対して詳細な要因の分析を可能とした
- (イ) 定期的にカンファレンスを行い、助言内容や対応方法について検討を重ねた

### 3. 連携支援事業

園や学校の全体的な現状の把握に努め、より現場に沿った関わりとなるよう、関係各課と適宜情報交換を行い、必要に応じて同行訪問を実施した

### 4. 地域における公益的な取組

学校や園の先生を対象とした研修会に講師を派遣した

#### 【数値指標】

利用定員	利用者延人数	一日平均利用者数	延稼働日数	サービス活動収益	常勤換算職員数
—	—	—	—	32,452千円	8.0名



# 浜北愛光園

特別養護老人ホーム浜北愛光園  
高菌デイサービスセンター  
障害者相談支援事業所浜松東  
訪問看護ステーション貴布祢  
聖隷ケアプランセンター浜北  
地域包括支援センター北浜  
聖隷厚生園きらめき工房

2018年度は在宅・福祉サービス事業部のエリア体制が再編され、浜北愛光園は静岡第3エリアの拠点施設としての役割を担うこととなった。静岡第3エリアは、浜松市浜北区から南区、磐田市、森町と広範囲に渡っている。そのエリア内で、高齢者福祉事業と障害者福祉事業、施設サービスと在宅サービスといった制度の枠を超えた連携・連動を意識し、新たな事業を計画、実践した年度となった。

この情勢下、浜北愛光園では、磐田市における訪問看護ステーションと児童発達支援を併設したこども園の開設を視野に、訪問看護ステーション貴布祢が磐田市内にサテライト事業所を開設した。更に、複合事業所が内在している利点を活かし、障害者ショートステイの利用拡大、医療的ケア児の受け入れ等、新たな地域ニーズの発掘、対応を進めてきた。

また、サービスの枠組みの拡充とともに質の向上にも注視し、専門職が全ての業務を担う弊害や職員採用の困難さ等を踏まえ、必要な時間に必要な人材が投下できるように高齢者や障害者等をケアサポーターとし雇用し、専門職と非専門職の業務を分離することで、業務の省力化・効率化の基盤を築いた。

また、利用者満足度の向上や近い未来における組織運営の中核を育成すること等を目標に据えたプロジェクトを開始した。これらの取り組みの結果、職員が当たり前と感じていることが、利用者の当たり前と乖離していることを客観視でき、より利用者ニーズに沿ったサービスの提供へと軌道修正を図るに至った。

## 1. 利用者満足度の向上

- (ア) 生活相談員を中心に、介護・看護・管理栄養士等が連携を図り、アセスメントを徹底し、利用者ニーズに応じたフロア（ユニット）利用へ繋げることができた。中でも障害者ショートステイユニットは環境の整備を図り、より利用しやすい空間を設定した。
- (イ) 特別養護老人ホーム・訪問看護ステーション・障害者相談支援事業所等の複数事業所にて協議を行い、利用者の受け入れを拡大した。それとともに地域への情報発信に努めた。
- (ウ) 目標参画システムと連動し、各専門職ラダーの運用を徹底することで、個別ケアの質の向上には少なからず繋がったと判断した。今後も継続して稼働率・リピート率の向上へ反映できるように努める。
- (エ) 各ユニットでのリスク度を定期的に数値化し、施設全体での調整を図った。結果、介護者が原因となる重篤な事故は回避できた。

## 2. 職員満足の向上

- (ア) 喀痰吸引等研修 5 名、認知症実践者研修 6 名、その他専門職育成のための研修等、職員個々のスキルアップの意向を確認し、計画的に研修参加ができた。
- (イ) 職場の課題に留まらず、施設全体の視野で他職場と連動しながら課題を整理、解決できるように「次世代育成プロジェクト」を発足。中堅職員が中心となり、複数課題の改善を図った。
- (ウ) 記録システム (WINCARE) のみならず、排泄支援機器 (D-FREE) の活用やオムツ業者等との連携を図り、業務の省力化を具体的に進めた。また、各職場にて 24 時間の介護量とマンパワーとの照合を行うことで、介護量に見合った職員配置を都度調整でき、業務負担感の軽減にも繋がった。
- (エ) 介護支援専門員受験対策講座を開講し、受講生 3 名が合格。介護福祉士も 4 名合格。また、施設外研修受講者が各職場で伝達講習を行うことで、知識・技術の底上げを図った。
- (オ) EPA 介護福祉士候補生を新たに 2 名受け入れた。併せて EPA 候補生のスキルアップに向け、教育システム (年数に応じた職場異動・役割の拡大等) の見直しを図った。

## 3. 地域における公益的な取組

- (ア) 静岡 DCAT (※) メンバーが、2018 年 7 月岡山県の要請受け、豪雨災害被災地の避難所支援に参加した。また、静岡 DCAT メンバーを中心に、地域の防災講和や防災訓練に参加し、災害時における福祉施設の役割等の周知を図った。
  - (※) 静岡 DCAT：静岡県災害派遣福祉チームの略称  
(静岡 Disaster Care Assistance Team)
- (イ) 浜北区障がい者自立支援連絡会等の研修会や委員会に計画的に参加し、地域における障がい理解や啓発活動に努めた。
- (ウ) 外国人留学生や終活を始める世代等に対し、施設見学・相談会を開催した。

## 4. 健全な経営の継承、向上

- (ア) 年 4 回施設全体の広報誌を発刊。その他、各事業所にて定期的に情報誌を発行し、現状報告等に努めた。
- (イ) 人員要件等を理由に新たな加算取得には至らなかったが、2019 年度に確実に取得できる下準備は行えた。
- (ウ) 専門職と非専門職の業務を分離し、高齢者や障害者等をケアサポーターとし雇用することで、必要な時間に必要人材が投下できるようになった。
- (エ) CO2 削減に向けたエアコン設備、照明の LED 化をはじめ、機械浴槽、デイサービスフロアの改修等、計画的に設備更新ができた。
- (オ) 磐田市における医療的ケア児のニーズに対応するため、訪問看護ステーション貴布祢が訪問看護ステーション浅田と連動し、磐田市見付にサテライト事業所を開設した。  
また、聖隷厚生園きらめき工房の利用率向上に伴い、2019 年度の新規事業開設に向け、浜松市と協議を進め、事業所開設に至った。  
(定員・名称変更：聖隷チャレンジ工房浜北／新規開設：生活介護事業所きらめき)

【数値実績】

■高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

	浜北愛光園				高菌デイサービスセンター		障害者 相談支援 事業所 浜松東
	特養入所		短期入所		通所介護		
	従来型	ユニット型	従来型	ユニット型	一般型	予防	
利用者定員	50名	100名	20名	20名	40名		
利用延数	18,721名	36,236名	5,586名	5,917名	8,568名	418名	
一日平均利用者数	51.3名	99.3名	15.3名	16.2名	28.5名	1.1名	
稼働率(%)	102.6%	99.3%	76.5%	81.1%	74.6%		
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	301日		
平均介護度	4.23	3.70	2.95	2.67	2.02		
単価(一人一日)	12,143円	13,762円	11,199円	12,631円	10,320円		
サービス活動収益 (千円)	227,336 千円	498,669 千円	62,560 千円	74,736 千円	92,734 千円		9,023 千円
職員数(常勤換算)	36.0	66.2	11.5	12.7	15.6		2.9

■訪問看護事業(訪問看護ステーション貴布祿)

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
147名	807件	9,685件	9,706円	93,840千円	13.6名

■居宅介護支援事業(聖隷ケアプランセンター浜北)

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
2,378件	330件	15,595円	3,935円	35件	4,320円	41,839千円	6.1名

■地域包括支援事業(地域包括支援センター北浜)

浜松市受託収入 (千円)	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
31,334千円	1,391件	767件	4,525円	44,846千円	5.3名

■聖隷厚生園きらめき工房

	定員	利用 延べ人数	稼働率	稼働日数	単価	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
就労移行	15名	5,188名	111.9%	309日	9,884円	51,276千円	15.5名
就労継続	15名	4,979名	107.4%	309日	9,214円	45,877千円	
生活介護	10名	1,567名	64.2%	244日	9,279円	14,540千円	
定着支援		35名				678千円	

# 森町愛光園

特別養護老人ホーム森町愛光園  
森町愛光園天宮サテライト  
森町愛光園デイサービスセンター  
森町愛光園ホームヘルパーステーション  
聖隷ケアプランセンター森町  
森町愛光園在宅介護支援センター  
聖隷放課後クラブはなえみ森町  
聖隷相談支援事業所森町

森町の高齢化率は33.0%と地域を取り巻く環境が更に深刻化していく中、2018年度、森町愛光園の各事業運営について、概ね予算稼働率を上回り推移することができた。特に事業開始2年目を迎えた「聖隷放課後クラブはなえみ森町」は年間稼働率112.2%と今後の運営に安定感を得られる結果となった。今後は新規の就学児や放課後児童クラブからの利用ニーズへの対応が課題である。更に保護者からは、特別支援学校卒業後の就労支援についての期待・要望もあり、中長期計画においての検討が必要である。また、通所介護において、基準該当生活介護の共生型サービスへの移行について検討を行った結果、これまで通りの運用とした。

施設内の環境整備については、デイサービスルーム、浴室、介護者教室、介護スタッフ室等の屋根補修、天井・壁クロス等の修繕を行った。これだけに留まらず施設全体において老朽化は進行しているため、今後も計画的に修繕を行っていかなければならない。

2019年度はこれらを踏まえて、更なる事業運営の安定化を図り、地域の方が安心して生活できる地域づくりに貢献するため、良質なサービス提供のための人材育成と人材確保を図り、限られた地域環境のバランスの中で各事業の在り方について検討を開始する。

1. 【高齢入所部門】中重度や認知症の方が最期まで安心して生活できるサービスを提供する。
  - (ア) 新記録システムを活用し、確実かつ効率的にケアが提供できる業務体制を整えた。
  - (イ) 重度化を防ぐケア（個別機能訓練の継続実施、口腔ケアの徹底、食事の経口摂取維持、感染予防、排泄にかかる機能向上）を多職種共同で実践した。
  - (ウ) 認知症の支援のあり方を考え、実践し、支援の効果やその根拠を示せるよう検討した。
  - (エ) 養成校を卒業した新卒者や実務者研修を終了した介護福祉士の認定特定行為業務従事者の実地研修を推進し、夜間帯を通じて喀痰吸引できる体制をさらに強化した。
  - (オ) 入居相談では関係機関に対して新規入居の募集案内を行った。また入居待機者の近況把握に努め、スムーズに入居ができるように支援した。
  
2. 【高齢在宅部門】他事業所との連携による自立支援・重度化予防支援を提供できる。
  - (ア) 通所介護では、自立支援、認知症ケア、重度化予防ケアのグループに分けて、ADLやIADLの維持改善を目指す支援の展開ができた。

- (イ) 訪問介護は、保険内・外サービスを組み合わせて、個別ニーズに応える支援を行う。また訪問介護時の災害発生時の対応マニュアルを作成した。
- (ウ) 居宅介護支援では、森町病院、森町訪問看護ステーション、森町地域包括支援センター、聖隷相談支援事業所森町との連携し、支援困難ケースに対応した。
- (エ) 介護保険外のサービスについて、全在宅サービスにおいて森町愛光園の独自性を追及する取り組みを行った。

### 3. 【障がい福祉事業】事業の安定化と新たなニーズへの取り組みを考える。

- (ア) 放課後等デイサービスでは、療育支援の専門性を高めつつ、利用者が生活の中で活かせる社会生活技能の向上を目指した支援を行った。
- (イ) 基準該当生活介護の共生型サービスへの移行について検討を行った結果、これまで通りの運用とした。
- (ウ) 指定特定相談支援事業については、森町愛光園の居宅介護、短期入所等へつなげる支援を行った。
- (エ) 日中一時支援では、未就学児の受け入れは1日のみであった。しかし放課後等デイサービス保護者と新たな事業について検討を行った。

### 4. 【防災・労働衛生】利用者が安心、快適に過ごせる施設環境を整える。

- (ア) 地域や地元企業と連携して、総合防災訓練を実施した。また防災備蓄の再確認も行った。
- (イ) 介護リフトの新規導入等、職員の腰痛予防に努めた。
- (ウ) 新記録システムを活用して、ケア記録入力の効率化や日々の業務内容を見直した。また時間外労働の軽減化に努めた。
- (エ) 施設内の美化に努めた。また、雨漏りで汚れていた天井を修繕した。

### 5. 【地域貢献】地域における公益的な取組

- (ア) 認知症見守りネットワークを構築するために、森町認知症初期集中支援チームに参加した。
- (イ) 森町内の学校の体験学習・福祉実習の受け入れを行い、将来の介護人材発掘のための取り組みを行った。

【数値実績】

	特養		天宮サライト	短期入所	通所介護		
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防	
利用者定員	60名	20名	29名	12名	42名		
利用者延べ数	21,884名	7,159名	10,351名	3,436名	7,700名	781名	
1日平均利用者数	60.0名	19.6名	28.4名	9.4名	25.2名	2.6名	
稼働率	99.9%	98.1%	97.8%	78.5%	66.0%		
稼働日数(延べ)	365日		365日	365日	307日		
単価(一人一日当り)	11,842円	14,115円	12,789円	10,898円	10,940円	4,947円	
サービス活動収益(千円)	357,303千円		131,628千円	37,784千円	91,573千円		
職員数(常勤換算)	43.9名	11.7名	21.0名	5.9名	15.6名		
	在宅介護 支援センター	居宅介護支援		訪問介護			配食
		介護	予防	介護	予防	障害	
利用者定員							
利用者延べ数		2,011名	199名	4,367名	649名	358名	
1日平均利用者数				12.2名	1.8名	1.0名	
稼働実績		33.6件	3.4件	59.7件	8.9件	4.9件	
稼働日数(延べ)				359日			
単価(一人一日当り)		16,089円	4,290円	3,907円	2,899円	3,400円	
サービス活動収益(千円)		28,212千円		20,302千円		816千円	0千円
職員数(常勤換算)	0.10名	5.0名		6.1名			0名
	放課後等 デイサービス	相談支援事業		合計			
		特定相談	障害児				
利用者定員	10名						
利用者延べ数	2,772名	57名	97名				
1日平均利用者数	11.2名						
稼働率	112.0%						
稼働日数(延べ)	244日						
単価(一人一日当り)	10,385円						
サービス活動収益(千円)	22,806千円	2,976千円		693,400千円			
職員数(常勤換算)	4.2名	1.0名		114.5名			

## 軽費老人ホーム もくせいの里

2018年度は開設から40周年を迎え12月に記念式典を行い、記念誌を発刊した。50周年に向けて新たなスタートの契機としたい。

小さい施設であるがゆえ、職員の在籍年数も長かった。2018年度は1年間をかけ、施設としては近年では、最大規模の人事異動を実施した。介護保険施設経験のある異動職員もいるので、現行の職員をうまく融合させて、新たなもくせいの里を創っていきたい。

要支援・要介護入居者が7割弱に増加している。重度化により他施設への移行者も増え続けている。かつての活動的に生活を楽しんでいたもくせいの里から大きく変わっている。職員の資質の向上と他事業所との協力体制を更に進めることで対応していきたい。

また、ケアハウスその他の新規施設の増加などで入居待機者が減少している。ケアハウスより人員配置の多い軽費老人ホームA型として、低所得で要介護の入居者にサービスを提供する施設の特徴をアピールしたい。

### 【事業報告】

#### 1. 利用者に合わせたサービスの提供

##### (ア) WINCARE ソフトの導入

1月より経過記録の入力を始めた。今後は掲示板を使用して職員間の情報を共有していく。また、一部の入居者の個別支援計画を作成して家族懇談会で本人と家族に説明し同意をいただいた。今後も作成数を増やしていく。

##### (イ) 介護度2までの入居者を受け入れる体制

2018年度は断ることなく申込者全員が入居した。法人内の在宅サービス事業所と連携して介護度2までの入居受入を進めていく。

##### (ウ) 「役に立ちたい」という利用者ニーズに答える

入居者も参加して月一回の館内全体清掃を継続した。2019年度は近隣の公立幼稚園へボランティアに行く予定である。

##### (エ) 中間施設としての在り方を検討する

2018年度は特養だけでなく、老健・グループホーム・有料老人ホームにも住み替えを行い、移行先の選択肢を増やした。

#### 2. 安心と安全を重視したサービス

##### (ア) 施設全体の防災・防犯を徹底する

不審者侵入時対応マニュアルを作成して、2月の職員会議後に訓練を行った。

##### (イ) 配食サービス利用者の安否確認時の情報交換をケアマネジャーなどで行う

腰痛を訴える利用者の情報をケアマネジャーに伝え、老健入居につながった。

##### (ウ) 食事提供方法を検討する

食形態の種類を増やして、安全な食事提供に努めた。

##### (エ) 後見人制度を積極的に導入する

認知力の低下が進んでいる入居者で家族が対応できないケースで、後見人制度を活用した。

(オ) 行政・各事業所等との連携を密にし、入居希望につながるようにする

行政、高齢者相談センターなどに施設紹介を行い、年度末になって入居申込が続いた。

### 3. 職員の資質の向上

(ア) 研修への積極的な参加、キャリアラダーの活用

認知症研修に参加し、職員会議で共有した。また、キャリアラダーに取り組み始めた。

(イ) 認知症の理解・障害の理解（知的障害、精神障害）を深め質の向上を図る。

障害者施設経験職員が講師となって障害の理解について園内研修会を行った。

### 4. 地域における公益的な取組

(ア) 高台幼稚園と定期的な交流

年4回の交流会を行ったが、2018年度は台風により納涼祭が中止となったため恒例の園児の盆踊りも取りやめとなった。

(イ) 地元自治会が主導する、近隣の高齢者が参加する公民館サロンデーを共催した

施設長・職員が実行委員会メンバーとして共催した。年2回ほど、もくせいの里の食事20食を準備し、管理栄養士による栄養講座を行った。

### 5. その他

(ア) 40年を経過した重油地下貯蔵タンクを廃止し、プロパンガスでの給湯機器の設置工事を行った。

(イ) 浜松市北区区長・近隣住民・法人役員・歴代園長を招いて40周年記念式典を開催した。また、区長・法人役員・歴代園長等からの寄稿を編集して40周年記念誌を発刊した。

#### 【数値実績】

	軽費老人ホーム	食事サービス	計
利用者定員	50名	—	
利用者延べ数	17,836名	13,428名	
稼働延日数	365日	309日	
一日平均利用者数	48.9人	43.4人	
稼働率	97.8%	—	
単価（1人1日当たり）	6,163円	688円	
サービス活動収益	109,929千円	9,236千円	119,165千円
職員数（常勤換算）	11.6名	5.4名	17.0名



# 聖隷ケアセンターいなさ

地域包括支援センター細江  
聖隷ケアプランセンターいなさ南部  
聖隷リハビリプラザいなさ

2018年度は医療保険・介護保険・障害福祉サービスの同時報酬改訂年度であり、各事業がその対応に向けて取り組んだ。

聖隷ケアセンターいなさは、北区の旧引佐三町を対象に事業展開しており、特に、事業撤退が相次ぐ三ヶ日地域においては、サービス量の絶対的な不足の中で、住民主体による支えあいの取り組みを、いかに地域に広め定着させていくか、課題が明確となった一年だった。

## 1. 三ヶ日地域の対応強化 新たなサービスの提供

(ア) 訪問看護ステーション細江三ヶ日サテライトのフル活用について。

### ①地域包括支援センター細江

住民にとっての利便性や場所の周知が十分ではないことから、三ヶ日協働センター以外での相談支援は実施できなかった。

地域ケア会議や、介護者教室等の実施についても、協働センターや福祉センターの設備面での優位性は否めず、その他の活動についても、同様の課題が残った。

### ②聖隷ケアプランセンターいなさ南部

サテライト拠点を活用し、三ヶ日地域の利用者のサービス利用票、提供票の作成や、サービス担当者会議議事録の当日作成、配布、支援経過記録の入力など試験的に行った。今後、三ヶ日地域の効率的な居宅介護支援事業を展開するためには、ネット環境や通信設備の強化などインフラの整備が必要だが、さらに試行しながら検討を進めていきたい。

### ③聖隷リハビリプラザいなさ

三ヶ日地域からの利用者は相変わらず増加傾向にあり、サテライト拠点を活用したサテライト型の短時間通所介護事業実施を具体的に検討した。しかし、設備面の条件が事業実施の要件に適合せず、開設は断念した。今後も利用者を受け入れつつ、改めて三ヶ日地域でのサービスの提供方法を模索していきたい。

(イ) 要介護認定者への支援体制を強化する。

### ①聖隷ケアプランセンターいなさ南部

いなさ愛光園の短期入所事業、訪問介護事業の利用紹介率は、2017年度に比べ、増加傾向にある。特に、訪問介護事業については、細江町を中心とした利用者の紹介を進め、徐々に定着しつつある。

### ②聖隷リハビリプラザいなさ

いなさ愛光園短期入所事業における三ヶ日地域利用者の送迎支援については、利用者数の伸びがなく実施できなかったが、通所介護事業においては、利用者の状態により、相互のスムーズな利用移行を実施することができた。研修等を共同開催することで、サー

ビスの質の向上に協力して取り組むことができた。

## 2. 聖隷ケアセンターいなさの拠点機能の強化

(ア) 高齢者以外の要援護者（生活困窮者、障害児者等）への対応を検討する。

### ①地域包括支援センター細江

2018年度は、特に権利擁護、虐待ケースへの対応が、日々求められる一年であった。関係諸機関との連携は、必要に応じて迅速かつ確実に対応することを心掛けてきたが、北区行政との連携は、日々模索しながら、担当者との折り合いに苦心した。

### ②聖隷ケアプランセンターいなさ南部

合同研修を通じ、障がい者制度の理解を深めることはできたが、実際に障害福祉サービスが必要となる利用者はなかった。今後、関係諸機関との情報交換、連携は、継続して意識していきたい。

### ③聖隷リハビリプラザいなさ

個別の若年者への機能維持向上プログラムについては、個別機能訓練計画書等の見直しを個々に進めながら、取り組みを進めることができた。今後は、医療機関との連携により、地域での生活リハビリの受け入れ先として、広い世代に対して効果的に機能するように、体制づくりを進めていきたい。

(イ) 報酬改定に柔軟に対応し、住民が地域で「住まう」ための課題への対応を強化する。

### ①地域包括支援センター細江

認知症カフェは、年度内において、利用者家族同士の交流や息抜き場としてある一定の役割を果たせた。今後は、地域において、認知症自体の理解を深める取り組みを出前形式で実施し、認知症利用者、家族が安心して住まうことのできる地域づくりを進めていきたい。

地域における介護支援専門員同士の交流の場を試行的に各所で実施し、ある程度の効果を得ることができた。今後は、地域の主任介護支援専門員の協力を得ながら、ケアマネサロン等の開催を通じて、地域の介護支援専門員のケアマネジメント力向上の取り組みを進めていきたい。

### ②聖隷ケアプランセンターいなさ南部

医療機関との連携は、入退院時に限らず、平時より、ケアプラン等の提示や医療サービスの利用検討等の場面で、積極的に意見を聴取できるように心がけた。

特定事業所加算算定事業所として、近隣の居宅介護支援事業所と、定期的なケース検討会を実施できた。

### ③聖隷リハビリプラザいなさ

近隣のスーパー等を活用した買い物支援は、個別機能訓練の一環として、個々のニーズに合わせて実施できた。また、自費サービスとして外出支援企画を実施し、三ケ日での外食企画や森町の小国神社への外出企画を実施でき、利用者の高評価を得た。

中山間地域における利用ニーズにも、できる限り積極的に対応し、11名の利用者に対応した。

### 3. 地域における公益的な取組

#### 聖隷ケアセンターいなさ全体

- (ア) ロコモーショントレーニング教室は定着率も高く、利用者自身による運営支援の体制も整いつつあり、今後、利用者による自主運営への移行支援の取り組みを進めていきたい。
- (イ) 認知症サポーター養成講座を常葉大学浜松校や、湖北高校等で実施することができた。今後も次世代の支援の担い手や、地域介護力の向上のキーパーソン育成を目的に小学校や中学校等でも継続開催できるように働きかけていきたい。
- (ウ) ACP の取り組みへの理解と今後の地域への働きかけの必要性について、学びを得た一年だった。今後、関係諸機関と連携しながら「なおとらシート」を活用し、地域に「生前意思決定」の大切さについて、情報発信していく一翼をセンターとして担っていきたい。

#### 【数値実績】

##### 地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

浜松市 受託収入	予防支援 マネジメントA・B)	内 再委託件数	予防ケアマネジメント 単価(円)	総収入 (千円)	職員数 (常勤換算)
47,420 (千円)	予防支援 3,371 件	2,144 件	4,390 円	77,180 (千円)	8.0 人
	マネA 2,337 件	1,432 件	4,390 円		
	マネB 1,656 件	一件	2,190 円		

##### 居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンターいなさ南部）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	総収入(千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1,666 件	172 件	15,700 円	3,951 円	22 件	4,320	26,391 千円	4.5 名

##### 通所介護事業（聖隷リハビリプラザいなさ）

介護給付			予防給付		単価(円)		総収入 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
22.3 人	575 人	6,904 人	70 人	4,124 人	5,890 円	25,399 円	71,719 千円	10.2 名

# 細江地区在宅複合事業

訪問看護ステーション細江  
 聖隷ケアプランセンター細江

## 1. 訪問看護ステーション細江

### (ア) 聖隷三方原病院との看・看連携を継続・強化する

聖隷三方原病院看護師の出自・看護部との協働（モデル事業参加・日本在宅看護学会発表・精神科交流会の開催など）を行い、2018年度も更に連携と相互理解が深められた。

### (イ) 障害部門への訪問看護を強化する

厚生園障害相談支援部門と事例検討会を実施し、訪問看護への理解・導入が進んだ。

## 2. 聖隷ケアプランセンター細江

### (ア) 入院時医療と介護の連携強化

看護相談室の協力のもと、ケースに必要な相談・支援が実施できた。病棟ラウンドの継続により、病棟看護師の退院調整に関する理解・関心を深めることができた。

### (イ) 障害相談支援部門との連携強化

聖隷厚生園との事例検討に参加し、連携がスタートした。3月に聖隷厚生園へ移転し、さらに連携強化が図れる体制となった。

## 3. 地域における公益的な取組

エコキャップ活動を継続実施した。

### 【数値実績】

訪問看護ステーション細江

年間利用者数	年間訪問件数	サービス活動収益 実績見込み	当期活動 収支差額	職員数 (常勤換算)
2,195人 月平均 182人	10,383件 月平均 865件	100,197千円	676千円	12.5名

ケアプランセンター細江

年間請求件数		平均単価（円）		サテライト (三方原) 年間担当件数	サテライト (三方原) 月額（円）	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換 算)
介護	予防	介護	予防				
1,620件	242件	16,374円	4,196円	112件	94,500円	28,415千円	3.8名

# 聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原  
 聖隷ケアプランセンター三方原  
 聖隷デイサービスセンター三方原

1. 浜松市北部エリアにおいて「必要とされる」ケアセンターになる
  - (ア) 利用者・家族、ケアマネジャー、相談支援事業所からの相談に応じることができた
  - (イ) 利用者への振り返りを通して日々のケアについて検討することができた
  - (ウ) 共生型サービス（自立訓練・機能訓練）を開始し、利用者を確保することができた
  - (エ) 自費外出レクを年間で3回実施することができ、利用者からの好評を得た
  - (オ) 他事業所との連携については現状維持にとどまった
2. 人材育成、専門性の高いケアを提供する
  - (ア) 各スタッフがケア向上のための研修に参加することができたが、職場内での共有について課題が残った
  - (イ) 静岡ケアセンター学会、聖隷リハビリテーション学会で成果を発表することができた
  - (ウ) 記録システム、タブレットの活用ができ、業務の効率化ができた
3. 地域における公益的な取組
  - (ア) 家族会は開催できたが、秋祭りは悪天候により中止となった
  - (イ) ロコモーショントレーニングサロン活動は継続できた
  - (ウ) ボランティアの受け入れは継続できた
  - (エ) 地域の防災活動に参加できず、またケアセンターとしての事業継続計画は作成中である

## 【数値実績】

### 訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
162人	839.5件	10,074件	9,879円	100,880千円	13.1名

### 居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
2,160件	339件	15,642円	4,039円	12件	4,206円	35,701千円	5.9名

### 通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

介護給付			予防給付		単価		サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
36.5人	949.3人	11,391人	60.5人	727人	6,043円	32,869円	93,133千円	15.6名

# 聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘  
聖隷リハビリプラザ IN 高丘  
地域包括支援センター高丘  
聖隷放課後クラブはなえみ高丘

1. 聖隷ケアセンター高丘内の連携強化を図り、センター全体として質の高いサービスを展開する。
  - (ア) 訪問看護ステーション高丘は、リハビリテーション強化型として、リハビリのニーズに幅広く対応し、市内訪問看護ステーション7事業所の新人スタッフ（看護師含む）のリハビリオリエンテーション・技術指導を行った。
  - (イ) 聖隷リハビリプラザ IN 高丘は、リハビリテーション特化型として個別訓練に力を入れ、利用者のほぼ100%に個別訓練を行なってきた。
  - (ウ) 地域包括支援センター高丘は、相談件数が月平均240件を超え、地域の中での存在感が出てきている。地域づくりはまだまだ途上だが、進んで地域の中に入る努力をしている
  - (エ) 聖隷放課後クラブはなえみ高丘は、家族、学校との連携を密にし、児を丁寧に観察し、個別支援計画の立案を行なった。環境の面から高学年児童の受け入れが難しく、2019年度より和合と統合することとなった。
2. それぞれの事業が経営的に自立した上で、センターとしての安定した経営基盤を築く。
  - (ア) 訪問看護事業は安定的に依頼があり、稼働日の少ない年末年始を除いては月平均1,000件を越える訪問があった。緊急時の出勤が多く、一部に超過勤務が多い状況があった。宅直のあり方の検討が必要になっている。

通所介護事業は、予定している利用者の突然のキャンセル等が多く、月平均利用率は85%だった。

地域包括支援センターは、行政より予防プラン20件の担当数制限があったため担当件数は減少したが、他の居宅介護支援事業所へ依頼することで再依頼数は増加した。

放課後デイサービス事業は、年度途中で兄弟の利用中止があり、利用者数の予算差異があった。併設事業所の理学療法士の兼務をかけリハビリテーションの特別支援加算をとることができていた。
  - (イ) 慢性的な人員不足もあり、効果的に超勤削減が出来なかった。
  - (ウ) 年度内に事務員の増員が出来ず、本格的な事務機能の再編は出来なかったが、事務会議を持つことによって、地域包括支援センターの事務業務の振り分け等はできた。
3. 地域における公益的な取組
  - (ア) 介護予防のための「ロコ友高丘」は継続できている。2018年度に初めてセンター祭りを開催し、300人強の集客が出来た。継続していきたい。
  - (イ) 地区の総合防災訓練に参加し、地区の中での役割について住民と検討を行なった。
  - (ウ) コミュニティスクールと協働し、小学4年生に対して認知症サポーター養成講座を行った。

【数値実績】

訪問看護事業(訪問看護ステーション高丘)

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価 (円)	サービス活動 収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
206 人	1,066 件	12,328 件	7,642 円	94,205 千円	14.7 名

通所介護事業 (聖隷リハビリプラザ IN 高丘)

介護給付			予防給付		単価 (円)		サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤 換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	介護 (月)	予防 (月)		
25.2 名	640 名	7,680 名	68.8 名	825 名	5,681 円	33,537 円	59,861 千円	15.4 名

地域包括支援事業 (地域包括支援センター高丘)

浜松市受託収入 (千円)	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤 換算)		
41,695 千円	2,906 件	1,948 件	4,390 円			51,253 千円	7.7 名
日常生活支援総合事業の予防プラン							
種別	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	51,253 千円	7.7 名		
ケアマネジメント A	1,929 件	1,171 件	4,390 円				
ケアマネジメント B	272 件	13 件	2,256 円				
ケアマネジメント C	0 件	0 件	2,195 円				

放課後等デイサービス事業 (聖隷放課後クラブはなえみ高丘)

平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	単価 (円)	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
8.6 名	162 名	1,946 名	10,245 円	16,993 千円	4.0 名

# 浅田地区在宅複合事業

訪問看護ステーション浅田  
 聖隷ケアプランセンター浅田

## 1. 訪問看護ステーション浅田

- (ア) 聖隷ケアプランセンター浅田と協働し、迅速なサービス開始とタイムリーな課題の解決に努めたことにより、利用者の意思とニーズに添った看護サービスを提供することができた。
- (イ) 精神科訪問看護を開始し、実践上の課題や悩み事に対し主治医や専門看護師に助言を得ながら、質の向上に取り組んだ。
- (ウ) 在宅福祉サービス事業部、他事業所の協力を得て、スムーズに事務所を移転した。
- (エ) ウインケアシステムの使用に慣れ、看護記録・情報共有・職員連絡の効率化が図られた。
- (オ) 聖隷ぴゅあセンター磐田の児童発達支援実習への職員派遣、訪問看護ステーション貴布祢と協働した磐田市エリアへの訪問看護開始により、2020年度開設予定の（仮）聖隷こども園富丘等複合施設計画への足掛かりをつくった。

## 2. 聖隷ケアプランセンター浅田

- (ア) 4月末に浅田町から都盛町に転居し働きやすい環境が整った。
- (イ) ターミナル、難病など医療依存度の高いケースの新規依頼（主に聖隷浜松病院、聖隷三方原病院、浜松市リハビリテーション病院など医療機関からの新規依頼が多かった）は断らずに受け、訪問看護と連携し複合事業所として支援をすることができた。またターミナルに絞ったファイルを作成、活用することでより質の高い支援につながった。
- (ウ) 南区の地域包括支援センター主催の研修や勉強会には必ず参加し、かつ南区の地域包括支援センターには改めて挨拶に出向き支援をアピールしたことで、顔の見える関係づくりができ、新規依頼が増えた。

## 3. 地域における公益的な取組

都盛町の高齢者のサロンにて、介護保険の説明会や健康講和を実施し、地域の高齢者支援を実施した。また芳川地域の防災訓練（年3回）に参加し、地域とのつながりを持った。

### 【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション浅田）

保険区分	平均利用者数	月平均訪問件数	年間訪問件数	単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
介護	105	497	5,959	8,630円	51,426千円	10.9名
医療	53	331	3,974	11,386円	45,246千円	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浅田）

年間請求件数		平均単価		サービス活動収益	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防		
768件	254件	13,140円	4,117円	11,642千円	3名



## 訪問看護ステーション住吉第二

2018年度、訪問看護ステーションの運営は安定して推移することができた。聖隷浜松病院との連携により機能強化型訪問看護療養費3の算定・在宅移行が困難な事例も継続して受け入れる事ができた。また聖隷デイサービスセンター住吉との兼務を行う事で、利用者によりよいサービスの提供もできた。

### 1. 病院や地域の連携（居宅介護支援事業所・相談支援事業所・他サービス）

- (ア) 聖隷浜松病院と出向事業を行う事で、双方の理解を深める事ができた。それにより、機能強化型訪問看護管理療養費3を算定する事ができた。また新たに褥婦への訪問看護の可能性が広まった。
- (イ) 労災病院や浜松リハビリテーション病院に関しては研修会等に参加したが、具体的に利用者に対して在宅への移行推進まで介入はできなかった。

### 2. サービスの質向上

スタッフが年1回は研修に参加し、自己研鑽に努める事ができた。

### 3. 施設内の連携

- (ア) 聖隷デイサービスセンター住吉の兼務・運営会議の定例化を行い、受け入れが難しかったターミナルの事例を協働する事ができた。
- (イ) 聖隷デイサービスセンター住吉・聖隷浜松病院ひばり保育園との防災訓練を実施した。

### 4. 地域における公益的な取組

- (ア) 難病患者等介護家族リフレッシュ事業に登録しているが、利用がなかった。
- (イ) 地域防災訓練には参加ができなかった。2019年度は実施予定である。

### 5. 働きやすい環境作り

効率よく仕事ができるよう検討し業務改善を実施した。(訪問のスケジュール調整等)

#### 【数値実績】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
132人	698件	8,376件	9,881円	82,764千円	10.1名

# 聖隷デイサービスセンター住吉

2018年度は、年度末の終了者5名で始まり4月から大きく予算未達となった。利用者の重度化も進み、長期入院者、施設入所者、複数日利用者の終了も増えた。また個別機能訓練加算Ⅰ及び個別機能訓練加算Ⅱは年間通して継続して実施することはできたが、人員不足により算定できない日があり、算定率が下がったことなども予算未達となった要因に挙げられる。介護予防利用者については、新規依頼が増え予算達成となった。その背景には、積極的に地域へ出向き、施設の理解など認知度が高まってきたことなどが要因に挙げられる。

## 1. 訪問看護ステーション住吉第二、ひばり保育園との連携強化を図る

(ア) 定期的にカンファレンスを行い、訪問看護ステーション住吉第二を利用する医療依存度の高い利用者の受け入れを継続する

① 訪問看護ステーション住吉第二との連携会議を開催した。

(イ) 聖隷浜松病院ひばり保育園との交流（毎朝のラジオ体操、誕生会への参加）を継続する

① 毎日の日課に高齢者と園児の交流の時間を設けた。

② デイサービス利用者が編んだアクリルたわしを定期的に保育園に寄付した。

(ウ) 3事業所合同での勉強会や防災訓練を実施する

① 合同防災訓練、安全運転講習会、車椅子等の操作講習会を開催した。

## 2. 居宅介護支援事業所に訪問し、新規利用者を獲得する

(ア) 居宅介護支援事業所へ赴き、利用者の様子や情報を伝え、顔の見える関係を作り、継続的に新規利用者を獲得する

① 前期は訪問できなかったが、後期は毎月の空き情報を持参し他法人の居宅介護支援事業所へ訪問を実施した。

(イ) ケアの様子や空き情報を機関紙に掲載し定期的に配布する

① 毎月の空き情報及び様子報告を実施した。

② 軽度の変化も随時報告した。

③ 前期は10月、後期は2月に機関誌を発行した。

## 3. 質の向上や業務の効率化をする

(ア) モニタリング表の評価方法、記録方法の見直しを行い、利用者一人ひとりに対するケアの質を上げる

① 昼のカンファレンスにて他職種合同で評価できるよう見直しと実施を行った。

② 利用者個々へ係る時間を設けるまでには至らなかった。

(イ) 介護保険外サービス（外出レクリエーション等）を実施する

① 季節にあわせ4月に1回、11月に1回実施した。

(ウ) ICT化による業務の効率化を図る

① タブレットが使いこなせずサービス記録を確認する程度に留まった。

② 介護記録ペーパーレス化への完全移行とまでには至っていない。

4. 地域における公益的な取組

(ア) 地域の高齢者団体、住吉交友会及び住吉和合社会福祉協議会へ出向し、体操などの指導を実施した。

【数値指数】

介護給付			予防給付		単価（円）		サービス活動収益	職員数 （常勤換算）
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者数	年間利用者数	介護（月）	予防（月）		
25.0 人	537 人	6,442 人	102.5 人	1,230 人	9,597 円	31,948 円	69,269 千円	10.7 名

# 聖隷コミュニティケアセンター

2018年度、介護保険制度改定により貸与では下半期より貸与価格の上限設定が設けられ、約300点の商品が上限価格を上回っていた為、値下げの見直しを行い大幅な減収となった。販売では聖隷施設との連携構築が進み、施設販売は好調だったが店舗販売については新たにSNSでの情報発信、介護用品だけにとらわれない商品の導入等、試行錯誤しながら実践していったが、依然来客利用者の減少に歯止めが効かず減収という結果となった。

また営業支援ソフトを導入し業務改善に向けた取組を検討し、2019年に度繋げる1年となった。

## 1. 店舗・販売部門の強化

(ア) SNS (LINE@) を導入した。目標1,000件には届かなかったが積極的な案内を行い、750件以上の登録を獲得した。また月4回の各店舗の情報発信やキャンペーンを行い販売に繋げる事ができた。

(イ) ホームページの立上げ、ECサイトでの販売まで広げる事ができなかった。今後の販売方法についても引き続き検討していく必要がある。

(ウ) 高機能ベッドの低価格ベッドへの入替え交換は行わず、高機能ベッドの販売強化を継続した結果、5台販売する事ができた。

(エ) 店舗のレイアウトの変更を行い、介護用品にとらわれない商品も積極的に取り入れた。

## 2. 福祉用具専門相談員・店舗販売員の質の向上

(ア) 年間研修計画を立て、計画的な勉強会を開催する事ができた。

(イ) 職員それぞれが自己啓発の目標を立てて資格に挑戦する事ができた。

(ウ) 店舗に活かす外部研修に参加する事は出来なかった。

## 3. 自社資源の有効活用

(ア) 長期滞留している自社所有ベッドの買い替えを40台行った結果、レンタルに繋げていく事ができ稼働率を90%にする事ができた。

## 4. 業務改善に向けた取組

(ア) 貸与業務支援ソフトの導入を行った。スケジュール管理や発注、計画書作成を外出先からでも行える仕組みを検討する年度となった。2019年度より実践し業務改善に繋げていく。

(イ) 宝塚店と情報交換の共有は出来たが交換研修までは至らなかった。

## 5. 地域における公益的な取組

(ア) 聖隷の在宅サービス事業所、行政が行う地域に向けた取組に協賛させてもらい、福祉用具や介護用品の展示案内を行った。

### 【数値実績】

レンタル件数	介護保険収益	住宅改修	販売収益	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
11,489件	155,752千円	17,955千円	313,143千円	486,850千円	28.0名

# 松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園  
松戸愛光園ショートステイ  
松戸愛光園デイサービス  
松戸愛光園ケアプランセンター  
聖隷はぐくみ松戸

2018年度は、医療・介護・障害制度の改正が同時に行われ、松戸愛光園においては、リハビリテーションの実施や、看取り体制の充実などより良いサービスの提供を図りながら、短期入所事業や通所介護事業での障害者受入れを実施し地域共生社会実現を目指し事業を行うことができた。

人材確保については、初めてEPAフィリピン介護福祉士候補生を2名迎え入れることができた。また、介護周辺業務を担う介護職以外の職員確保を進めるなど、多様な人材が活躍できる職場づくりを進めることができた。

## 1. 地域共生社会実現に向けた事業展開

- (ア) 短期入所生活介護事業については空床を利用した障害者の短期入所受入れを実施できた。
- (イ) 通所介護事業については2月に千葉県内初となる共生型生活介護の指定を受け、障害者の受入れを実施できた。
- (ウ) 入所については嘱託医との連携を進め、夜間の医師対応をより充実させるために配置医師緊急時対応加算算定を含めた体制構築を行った。
- (エ) 通所介護事業では認知症予防、機能訓練を提供し、介護予防へも取り組んで利用者の増加が図れた。
- (オ) 居宅介護支援事業については特定事業所加算Ⅱの算定はできたが、急な退職などもあり算定できない期間があったため、十分な経営改善には至らなかった。
- (カ) 増床については松戸市の公募に応募し、2019年度に3床増床の許可を得ることができた。

## 2. 多様な人材の確保と福祉人材育成を進める

- (ア) 12月にはEPAフィリピン介護福祉士候補生を2名受入れることができた。今後も外国人を含めた多様な人材の確保を続けていく。
- (イ) 福祉系の大学、高等学校からの実習生を受入れができ、各学校との繋がりを継続できた。
- (ウ) 千葉県ユニットリーダー研修、松戸市の障害事業介護職員に対する喀痰吸引研修の現地研修を受入れて施設内のみならず、地域の介護職員育成にも貢献できた。

## 3. 安全で効率的なサービス提供

- (ア) 一般浴槽、機械浴槽を更新し、安全で効率的な入浴の提供が可能となった。
- (イ) 食事の加工・盛り付け、食器洗浄・管理を厨房で実施し、安全性や効率性を高めた食事提供を行えるようになった。

4. 将来を見据えた計画的な整備更新

- (ア) 老朽化した冷蔵庫や冷凍庫などの厨房機器入替、床の修繕を行うことができた。
- (イ) 外壁の補修は他に優先すべき修繕があり実施できなかった。

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 松戸ニッセイエデンの園と共に、チャリティバザーを開催し、売り上げを松戸市社会福祉協議会へ寄付することができた。

【数値実績】

	特養入居	短期入所		通所介護		
		介護	障害	介護	総合事業	障害
利用者定員	100名	20名		29名		
利用延数	35,542名	6,611名	106名	5,478名	1,146名	30名
一日平均利用者数	97.4名	18.1名	0.3名	17.8名	3.7名	0.6名
稼働率(%)	97.4%	92.0%		73.5%		
稼働延日数	365日	365日		308日		
単価(一人一日)	14,689円	14,514円	10,668円	11,000円	4,119円	9,930円
サービス活動収益(千円)	522,067千円	97,082千円		65,282千円		
職員数(常勤換算)	65.0名	12.8名		10.6名		

	ケアプランセンター		障害者(児)相談支援事業
	介護	予防	
利用者定員	—		—
利用延数	1,212名	502名	279名
一日平均利用者数	—		—
稼働率(%)	—		—
稼働延日数	—		—
単価	16,695円	4,164円	13,926円
サービス活動収益(千円)	22,585千円		3,885千円
職員数(常勤換算)	4.2名		1.8名

# 浦安市高洲高齢者福祉施設及び 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

浦安市ケアハウス

浦安市高洲高齢者デイサービスセンター

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市高洲地域包括支援センター

2018年度は、浦安市からの指定管理者として虐待等による緊急一時保護の受入れ、浦安市猫実高齢者デイサービスセンターにて近隣に多い独居・老々世帯の利用者への朝食・服薬管理サービスの開始、また浦安市高洲高齢者デイサービスセンターにて総合事業の開設準備等、浦安市民から求められるニーズに対して必要とされるサービスを継続、また新規に実施した。人材確保の課題では、介護支援システムの活用や介護周辺業務の取り組み等、働きやすい環境づくりの結果として、常勤職員の離職率が過去数年10%強であったが2018年度は4.5%と半減した。今後も更に厳しくなる人材確保の課題と2019年度からの働き方改革に向けて勤務体制の検討、介護業務の仕分けをして介護周辺業務や介護ロボット導入等の検討をしながら、地域から必要とされるサービスに質を担保したうえで応えることができる組織づくりを継続していきたい。

1. 入居者・利用者が安心安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスを提供する

(ア) 浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

- ①ICFの視点でのケアプラン作成は、退院時や状態に変化がある際はケアプランの見直しをしているが、日々のケアプラン変更まではできていない。
- ②2018年度より嚙下評価も開始したため、今後評価結果をケアプランに反映させていくことが課題である。
- ③ターミナルプラン作成時、家族の意向の確認や一緒に考えることへの取り組みを強化する。
- ④苦情件数は減少したが、日々のケア改善で防げる苦情もあり、ケアの振り返りを継続する。
- ⑤介護支援システムは運用継続できているが、各専門職の情報共有が今後の課題である。

(イ) 浦安市ケアハウス

- ①体力測定の内容変更および全入居者測定とし、個別及び全体の課題を抽出した。また、夜間の入浴時間を調査の上、個別課題を把握し、入浴時間の見直しを行った。
- ②①同様、個別課題を把握し、健康体操プログラム・開催日程の変更に向けた検証を行った。一方、デイサービスセンターとの連携は、情報共有のみとなった。
- ③感染症・交通事故などの情報提供を逐一掲示・口頭説明を行い、啓発に努めた。
- ④行政主催の説明会・浦安ベテルホーム介護フェアで資料を用い周知活動を行った。
- ⑤入所待機者の辞退や入居者の高齢化・身体及び認知機能の低下が顕著なことから、浦安市ケアハウスでの生活不安や今後の転居に向けた資料作成をして周知するとともに、市役所と連携し、入退去基準の検証を始めた。

(ウ) 通所介護

- ①個別機能訓練プログラムの提示と体力測定の結果を数値化して運動意欲が向上した。
- ②7月から個別機能訓練加算Ⅱと運動器機能向上加算の算定を開始した。
- ③ボランティアの受け入れを定期的に行った。
- ④6月から独居世帯・老々世帯を対象に朝食・服薬管理サービスを開始した。

(エ) 浦安市高洲地域包括支援センター

- ①介護予防ケアマネジメントは、社会資源の活用を含めたマネジメントが定着しつつある。また、地域の社会資源を地域住民とともに作るべく、サロン活動を行うことができた。
- ②浦安地区内での相談員間での連携については、地域に向けて「施設見学会」を開催し、多くの地域住民が参加した。
- ③制度の狭間になりえる相談に対しては、開設された聖隷はぐくみとともに関わる連携ケースに対応できた。

2. 職員が専門職としてやりがいを持って仕事に取り組むことができる

- (ア) 正職員は全てラダーを実施し、自己能力を客観的に把握することに努めた。ラダーの運用は評価時期になって慌てて評価している。
- (イ) 法定・パート職員等、各種研修の開催をはじめ、個々の役割や能力に応じ外部研修に参加するとともに、職場会で伝達講習を行い共有した。研修の企画実施はできているが参加者が少なく、同じ職員しか参加しない課題もある。
- (ウ) 職種毎のラダー実施と、業務における役割で必要な研修への参加をするとともに、職場会での伝達講習及び資料の閲覧により共有した。目標参画面談でラダーを目標には入れているが、日々の中で意識ができるところまでには至らない。
- (エ) 介護周辺業務は現状維持となり、更なる業務仕分けが必要である。
- (オ) EPA 候補生の受け入れは継続してできている。マニュアル等の整備は、浦安地区で検討中である。

3. 経営の安定化を図る

(ア) 浦安市特別養護老人ホーム

- ①平均入院日数 22.8 日、3ヶ月经過の退居者 1 名、80 日超え 2 名となった。病院との情報共有が課題である。入居者の心身状態の把握と同時に、終末期をどこで過ごすかの選択の話をしていく必要がある。
- ②新規入所までの日数は 8.8 日、下半期は退居者が多く、入居までに日数を要した。体調を崩しやすい時期は、通常よりも早めに動く等の対応が必要である。
- ③看護体制加算Ⅱ、在宅中重度受け入れ加算を取得した。

(イ) 短期入所

緊急受け入れの調整支援はできている。相談室と他部署との情報共有が不十分な時があるので課題である。8割の方が、新規利用からリピーターへ繋がっている。

(ウ) ケアハウス

2人部屋は待機もあり空室は発生してないが、1人部屋は、入居者の高齢化・虚弱化の進展による退去増加と、待機者の辞退の増加により対応が追い付かない状況であった。

(エ) 通所介護



①登録者 80 名、一日平均利用 22 名を維持できた。

②利用者数は 20 名/日と 2017 年度から 10%程度増加している。朝食・服薬管理サービスの利用者が長期の入院や体調不良になることも少なく、一定の効果が見られた。

(オ) 介護支援システムの活用、介護周辺業務を整理して長時間労働は少しずつ減少傾向にある。

#### 4. 防災体制の確立

##### (ア) 福祉避難所

2017 年度完成したマニュアルを使用して、市役所等と合同で福祉避難所開設訓練を実施した。地区全体として取り組みが必要な課題も発見でき、2019 年度以降の取り組みとした。

##### (イ) 防犯・風水害マニュアル

風水害訓練においては浸水想定箇所への土のう積み上げ訓練を通して、実際に必要とされる資材等の数や配置方法の検証を行い、マニュアルの作成を進めることができた。また防犯マニュアルも作成、防犯訓練も実施した。

#### 5. 地域における公益的な取組

各専門職の実習の受け入れ、就労準備支援事業での受け入れを実施した。また浦安市内中学校の職場体験を受け入れた。ボランティアは新たな受け入れができていない。

- (ア) 東京福祉専門学校 介護福祉士 (実人数 8 名 延べ日数 88 日)
- (イ) 順天堂大学 医療看護学部 (実人数 32 名 延べ日数 480 日)
- (ウ) 了徳寺大学 看護学科 (実人数 16 名 延べ日数 64 日)
- (エ) その他 (他大学・中学生体験等) (実人数 17 名 延べ日数 68 日)
- (オ) 緊急一時保護の受け入れ (4 名 1泊2日を1回、2泊3日を1回)
- (カ) 生活困窮者等職場体験実習の受け入れ (23 名 12 回)

#### 【数値実績】

	特養	短期	ケア ハウス	高洲 デイ	猫実 デイ	地域包括	地域包括 (予防)	総合計
利用者定員	100 名	50 名	50 名	25 名	25 名	—	—	250 名
利用者延数	36,250 名	15,683 名	17,582 名	6,926 名	6,416 名	—	—	
一日平均利用者数	99.3 名	43.0 名	48.1 名	22.5 名	20.8 名	—	—	
稼働率 (%)	99%	86%	96%	90%	83%	—	—	
稼働日数 (延べ)	365 日	365 日	365 日	308 日	308 日	—	—	
単価 (一人一日当り)	—	—	—	—	—	—	—	
サービス活動収益 (千円)	525,643 千円	214,138 千円	93,668 千円	40,138 千円	52,717 千円	26,843 千円	5,246 千円	958,393 千円
職員数 (常勤換算)	74.6 名	24.7 名	6.2 名	6.7 名	6.0 名	4.0 名	1.0 名	123.2 名

## 介護老人福祉施設 浦安愛光園

2018年度は相談支援事業所の開設と空床型障害ショートステイを開始し地域共生社会の実現を目指した。相談支援員が地域に求められるサービスを1年かけて模索しながらも、浦安ベテルホームに数件の相談をして利用に繋げることができた。障害ショートステイの利用実績はなかったが障がい者を受け入れる体制づくりや、研修を実施し職員の意識を高齢者福祉から障がい者も合わせた福祉に変えることができた。

特別養護老人ホームについては空床利用率を上げたことで年間を通して稼働率が安定し、経営的にも貢献することができた。10月に発生した入浴事故はマニュアルの見直しや環境整備を12月までに行い、再発防止策を全職員で徹底した。

人材確保の対策として数年取り組んでいる介護周辺業務を担うケアサポーター、介護支援システムに加え、12月からEPA候補生2名を受け入れ、2019年度は本格的に負担軽減や長時間労働への見直しを図り働き方改革に対応する。

### 【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

### 【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

### 【事業・運営計画】

1. 利用者一人ひとりのニーズに即したケアの実現
  - (ア) 個別ケアを提供する職員個々の能力にムラがあり、統一したケアが課題である。
  - (イ) 利用者の状態変化にユニットの職員間で共有はできても、多職種への相談や多職種を交えたカンファレンスの実施は遅くなってしまうことがあった。
  - (ウ) 新人・異動者に対して、ターミナルケア委員会を中心に終末期対応の教育を行った。
  - (エ) パーソン・センタード・ケアについては担当者レベルで実践はできていたが、新人や異動者に対する教育は課題である。
  - (オ) リハビリテーション職員と協力して行う生活機能向上連携加算は未実施である。
  - (カ) ユニットで体操を開始したり折り紙クラブを創設したりするなど、個別活動の参加がしやすい体制を整えた。
2. 専門職としての知識・技術の習得および実践ができる人材の育成と働きやすい職場風土を作る
  - (ア) 介護・看護・相談とも目標参画システムと連動することで、組織目標と個人目標の関連や達成基準が明確になった。

- (イ) ユニットリーダー会議で教育スケジュールの標準化と進捗管理を行った。新人3名に対し格差のない教育ができた。中途採用については経験や知識も大きく異なるためその人に合わせたユニットでの対応となっている。
- (ウ) 空床ショートステイの利用実績はなかったが、障がい者を受け入れるために研修を開催した。
- (エ) EPA 候補生2名受入済、2019年度にマニュアル作成を行う。
- (オ) 定時帰宅を推進するも職員の体調不良や感染対応等で定着することができなかった。
- (カ) 介護ロボット導入の具体的な検討は未実施である。

### 3. 地域共生社会の実現のため共生型サービスの実施と関係機関との連携を図る

- (ア) 空床障害ショートの実績なし（相談3件、内見学2件あり）
- (イ) ケアサポーターと障がい者がチームとなり高洲地区内でシーツ交換の一部を実施することができた。チーム数を増やす意向はあるが、新たな障がい者雇用はなし。

### 4. 経営の安定と拡大を図る

- (ア) 浦安ベテルホームのリハビリと生活機能向上連携加算に取り組む予定は未実施である。
- (イ) 下半期、待機者管理が思うようにできず空床期間が長期化する傾向となった。
- (ウ) 介護周辺業務の切り分け及び対応は一定の効果を出し、適正な人員配置ができた。

### 5. 地域における公益的な取組

- (ア) 社会福祉法人による利用者負担軽減制度で1名の利用があった。
- (イ) 浦安市内の社会福祉法人（就労継続支援B型）で製造したお菓子の移動販売を通じて行う障がい者と入居者の定期的な交流を毎月2回実施した。
- (ウ) 福祉避難所開設訓練の実施と体制整備を行った。

#### 【数値指標】

	特養（ユニット型）	はぐくみ浦安	総計
利用者定員	74名	-	-
利用者延べ人数	26,334名	78名	-
一日平均利用者数	72.1名	-	-
稼働率	97.5%	-	-
稼働日数（延べ）	365日	-	-
単価（一人一日当たり）	14,715円	16,085円	-
サービス活動収益（千円）	387,289千円	1,957千円	389,247千円
職員数（常勤換算）	46.5名	1.0名	47.5名

## 介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

2018年度は、2017年度同様に収支改善を図ることができた1年であった。入所においては、4月、11月の入院者増の影響もあって、年間稼働率が89.2%で対予算-0.8%（対2017年度+1.8%）と若干未達となったが、ユニット型居室では在宅強化型、従来型居室では加算型を算定、単価では、年間平均で14,802円と対予算で+220円であった。また9月より障がい者ショートステイサービスを開始、地域共生社会実現へスタートすることができた。通所リハビリテーションでは、1日平均利用人数が34.1名となり、対予算+0.1名（対2017年度+1.5名）で稼働予算達成、また、7月より短時間型サービスを開始、地域の様々なニーズに応えることができる体制を構築した。人材育成においては、社外での研修等に積極的に参加できるよう促したことや、互いの職場や業務を応援し合える風土づくりに努めたことにより、職員個々のやりがいの創出が図られ、正職員離職者は0であった。

### 1. 在宅生活支援機能と在宅復帰機能の可視化と編成を行い、利用者にあわせた実践ができる

#### (ア) 在宅生活支援機能

- ①入所と在宅サービスの交互利用について、パンフレットに可視化し提案することはできたが、利用増を図るまでには至らなかった。
- ②ユニット型居室では、短期入所調整業務の分担化を実施し、柔軟な受入れを行った。
- ③通所リハビリテーションにおいて、短期間集中（1～3ヶ月）での利用ケースがあった。
- ④在宅生活とミドルステイの交互利用者は増えたが目標の20名には達していない。

#### (イ) 在宅復帰機能

- ①在宅復帰パスの修正を行い、ケアマネジャーが中心となってシートを作成し職種別の役割分担を行ったが、多職種による進捗の可視化までは至っていない。
- ②利用者に合わせた在宅を想定した生活動作訓練や担当者会議、介護指導を実践するための1階談話室の整備を行うことはできなかった。
- ③地域で最期まで暮らせるよう生活リハビリテーションを多職種連携で実践する機会は増えているが、連携方法や効率化の面で課題があった。
- ④生活行為訓練（掃除や簡単な家事動作等）を通所リハビリテーションにおいて計画実践出来たが、件数としては多くなかった。

### 2. ワーク・ライフ・バランスを重視しつつ、未来の施設運営を担う人材の育成

(ア) 全職員の有給取得率33.6%となり、目標の30%の取得率は達成。

(イ) NO残業デーを毎月4日以上実施について、一部の職場のみ未達成となり今後の検討。

(ウ) 目標参画面接は1年を通じて実践できたが、職員個々のスキル・キャリアアップを意識した内容までに至らなかった。

(エ) 新入職員やパート職員向けの職種別の業務マニュアル作成はできなかった。

(オ) メンタルヘルス不調者0名が目標であったが、1名の不調者が発生した。

### 3. 経営安定化の推進

(ア) 入所、短期入所の年間稼働率は 89.2%と 0.8%予算未達成となった。

①新規入所件数の確保 (15 件/月)

②在宅強化型ユニット型居室は在宅強化型、従来型居室は加算型を維持した。

③9 月より、障がい者ショートステイサービスを開始、地域ニーズに対応した。

(イ) 通所リハビリテーションにおいて、短時間型サービスを開始し登録者は 15 名となった。

(ウ) 介護周辺職員との業務すみ分けを徹底、またシステムを軸に業務整理をして、2017 年度より超勤を一人当たり 1.2 時間/月の削減ができた。

(エ) 職員個々の健康管理意識を高め、清潔・不潔の区分け徹底、マスク徹底により感染症蔓延防止は図れたが、転倒による入院者を 2017 年度比 50%削減するに至らず、継続課題となった。

#### 4. 防災・防犯対策の強化

(ア) 高洲地区一体となった防災訓練を年 3 回継続実施し、各職場においてマニュアルを作成することができた。

(イ) 不審者対応訓練の実施とそのマニュアル作成が出来たので今後はその精度を上げていく。

#### 5. 地域における公益的な取組

(ア) 順天堂大学医療看護学部看護師の実習受け入れ	(32 名 15 日間)
了徳寺大学看護学科看護師の実習受け入れ	(17 名 15 日間)
介護福祉士の実習受け入れ	(東京福祉専門学校 2 名)
社会福祉士の実習受け入れ	(淑徳大学 1 名)
ボランティア受け入れ	(9 グループ 10 イベント)
障害者雇用	(パート職員 2 名継続雇用)
高齢者雇用	(パート職員 4 名継続雇用)
介護フェアの開催	(3 回開催 計 101 名参加)

(イ) 生活保護受給者の受入れは月 1~3 名、減免者は 3 名であった。

#### 【数値指標】

	入所			通所リハビリ		合計
	従来	ユニット	短期入所	一般(短時間含)	予防	
利用定員	56 名	44 名	空床利用	45 名		145 名
利用者延べ数	18,636 名	12,306 名	1,618 名	9,486 名	986 名	43,032 名
一日平均利用者数	51.1 名	33.7 名	4.4 名	30.9 名	3.2 名	-
一日平均利用者総数	89.2 名			34.1 名		123.3 名
稼働率	89.2%			75.8%		-
稼働日数(延べ)	365 日			307 日		-
単価(1 人 1 日当り)	14,802 円			11,398 円		-
サービス活動収益(千円)	481,982 千円			119,366 千円		601,348 千円
職員数(常勤換算)	-			-		76.3 名

## 浦安せいれいクリニック

1. 年間外来利用者数は 1,663 名、2017 年度より+209 名と増加し、一日平均利用者数で+0.9 名の受診増となった。1 人当たりの単価も対予算で+68 円と収益としては予算を上回る 1 年であった。保健予防活動としては、例年同様にケアハウス入居者や委託先業者の定期健康診断を実施した。また 1 年を通じて、雇入れ時健康診断を受け入れることによって、外来収益を補うことが出来た。
2. 浦安高洲地区の利用者、入居者の初期診療、日常的な健康管理を行うことが出来た。
3. 浦安高洲地区全体の感染症拡大防止のため、夏場における発熱者への体調管理や冬場におけるインフルエンザ蔓延防止等、年間を通して診療所としての役割を担った。

### 【数値実績】

一日平均 利用者数	年間 利用者数	稼働日数	単価 (1人1日当り)	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
6.9 名	1,663 名	239 日	3,268 円	16,807 千円	2.3 名

# 聖隷ケアプランセンター浦安

今までは高齢者相談支援を中心に活動をしてきたが、2018年度、聖隷はぐくみ浦安が開設したことにより浦安ベテルホームの在宅復帰ケース、浦安市高洲地域包括支援センターからの相談ケース以外に新たに障がいを抱えている方からの親の相談ケースを受けるようになり、多岐にわたり利用者数を確保することができた。

## 【事業・運営計画】

### 1. 地域共生社会実現に向けた取組

- (ア) 新たな「障がい福祉」について、聖隷はぐくみ浦安と連携を図りながらその家族に対してニーズを掘り下げ、対応することができた。
- (イ) 浦安市高洲地域包括支援センターと連携を図り、地域ケア会議を開催することができた。2019年度は地域ケア会議を基に、必要な社会資源などを浦安市や市内の地域包括支援センターと協力をしながら介護支援専門員の役割を遂行していく。
- (ウ) 地域の病院からの紹介や聖隷訪問看護ステーション浦安との連携をとり、2017年度より多くの方を看取ることができた。2019年度は、介護支援専門員のスキルアップを目指し、看護師等と事例検討会や振り返りなどを定期的に行っていく。

### 2. 専門性の高いサービスの提供

- (ア) 事例検討会で学んだ視点を取り入れ、居宅サービス計画書を作成することができた。
- (イ) 個別研修計画表を基に各自研修に参加をした。2018年度は在宅医療や看取りについて不十分であったので2019年度は力を入れるとともに、研修参加を継続的に取り組む。
- (ウ) 事例検討会を通じて相談支援スキルラダーの活用をした。2019年度はレベル認定の底上げをして、質の高いサービスを提供できることを目指す。
- (エ) 2018年度は障がい福祉の基本的な知識の向上を目指し、定期的に勉強会を行った。2019年度は事例を通じてより深く学び理解を深める。

### 3. 安定した経営

- (ア) 収益を上げていく為に2020年度特定事業所加算Ⅳ取得を目指し2019年度その準備を行う。

### 4. 地域における公益的な取組

- (ア) 浦安高洲地区の地域貢献イベントや浦安市のイベントに参加をし、介護などの仕事を知らせてもらえるよう、継続的に働きかけを行った。

## 【数値実績】

一日平均利用者数	年間利用者数	稼働日数	単価（1人1日当り）	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
—	1,459名	365日	14,734円	21,754千円	3.4名

# 聖隷訪問看護ステーション浦安

開設3年目となる2018年度は、運営が安定したことにより、初めて税引前当期活動増減差額で黒字を出すことができた1年であった。

安定した依頼元を獲得できたこと、浦安市内の他訪問看護事業所で新規利用者の受け入れが難しくなったが当事業所は職員数を増やしてそれに対応できたこと、多くの事業所との信頼性が高まったことが大きな要因であると考えられる。

## 1. 聖隷訪問看護ステーション浦安の特徴の確立、地域のニーズに柔軟に対応

(ア) 精神障がいの方に対しては、聖隷はぐくみ浦安との連携を開始し、当事業所でも対応できるように精神科訪問看護基本療養費の届出を行った。職員全員で学習しながら知識を深め、4人の精神障がいの方の利用を受入れることができた。

認知症については、個別に認知症の評価を行った上で個別性のある認知症ケアを取り入れた。このケア内容が周知されつつあり、認知症ケアを主とした利用者の依頼が、今まではなかったことに対し、2018年度は6名あった。

(イ) 東京海上日動ベターライフサービス株式会社の居宅介護支援事業所・訪問介護事業所との連携が周知され、居宅介護支援事業所に看護を必要とする利用者の依頼が増え、当事業所へ依頼が増えている。継続して定期的な会議を行い、情報共有や勉強会を実施した。

## 2. 安定した経営基盤を目指す

(ア) 毎月、訪問看護計画書・報告書を居宅介護支援事業所へ手渡しすることにより、利用者の情報共有を密に行った。ステーション便りを事業所、利用者へ毎月配布した。

(イ) 依頼元となっている2診療所や居宅介護支援事業所13社(2017年度9社)からは、定期的に依頼を受けている。2018年度は居宅介護支援事業所21社、指示医療機関41機関と2017年度と同数程度の事業所との連携を継続することができた。

## 3. 地域における公益的な取組

(ア) 浦安市主催の市民向け講座での訪問看護ブースに参加し、在宅医療・看護に関する情報提供を行った。

(イ) 了徳寺大学に加え、順天堂大学の看護学生の実習を受け入れ、実習指導を行った。

### 【数値実績】

	訪問看護		合計
	介護	医療	
利用者	560名	215名	775名
訪問件数	3,601件	1,446件	5,047件
単価(1件当たり)	9,359円	11,033円	9,839円
サービス活動収益	33,705千円	15,954千円	49,659千円
職員数(常勤換算)			平均 6.5名



# 横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園

デイサービスセンター

西第二地域包括支援センター

聖隷訪問看護ステーション横須賀

聖隷ヘルパーステーション横須賀

聖隷ケアプランセンター横須賀

## 【特別養護老人ホーム】

2018 年度は、施設の社会的資源としての意義を再確認し、空床期間の低減に取り組み稼働率の向上を図ることができた。また、短期入所において障がい者空床利用型短期入所事業を開始し、地域におけるニーズに対応できる施設づくりへの転換を始めることができた。

一方で、安全衛生特別指導等事業場の指定を受け、職員の労働状況の見直しや働き方の改善に取り組み、労働災害の発生 0 件、超過勤務月平均約 30%減を達成することができた。今後もサービスの質の維持向上と、効率化や環境の整備を継続して取り組んでいく。

【施設理念】 『安心して、明るく楽しく生きる』

- 【経営方針】
1. 専門性の高い人材育成と活力のある職場風土を醸成する
  2. 利用者ニーズを把握し、それを実現できるように努める
  3. 安全で安心できるサービス提供に努める
  4. 地域との結びつきを大切にする

## 【事業・運営計画】

1. 良質なサービス提供のための人材育成と組織づくりを行う
  - (ア) 全体会や研修の機会を通じて理念や事業計画についての共有を行った。
  - (イ) 在宅事業を含めた情報の共有やケアの継続については課題が残った。
  - (ウ) 事故・苦情に対する検討や報告など不十分な点が見られた。
  - (エ) 年間で計画した研修や勉強会の実施と、受講勧奨が継続できた。
  - (オ) 防災訓練について、計画的に実施できたが訓練ごとの目的が不明確になってしまった。
2. 入居者・利用者の自己実現につながるサービスを提供する
  - (ア) ケースカンファレンスやサービス担当者会議を通じて利用者の気持ちの確認ができた。
  - (イ) 行事等への参加希望の確認はできたが自己決定の自立についての検討が不十分であった。
  - (ウ) 認知症実践者研修の受講促進はできたが、施設内研修の質の向上や日々の実践につなげる取組みには課題が残った。
  - (エ) 利用者の生活環境、職員の労働環境の視点から施設内の整理に努めることができた。

### 3. 安定した経営を行う

- (ア) 入所の稼働率については向上が見られたが、通所介護・短期入所については課題が残った。1月に障がい者空床利用型短期入所の事業を開始することができた。
- (イ) 入所指針と体制の整備を行い、空床期間の大幅な短縮をすることができた。
- (ウ) 超過勤務状況の可視化と、取り組みにより超過勤務合計時間が月平均30%減となった。
- (エ) ASEET 事業による1号館空調設備の更新と、照明器具のLED改修工事を実施できた。

### 4. 地域における公益的な取組

- (ア) 広報誌の定期発行や、地域行事への参加を継続できた。
- (イ) 地域住民向けの福祉講座の実施と地域行事への協力活動を行った。
- (ウ) 特別支援学校との行事等の協力体制や交流活動が継続できた。

#### 【数値指標】

	特養入所		短期入所		
	従来型	ユニット型		通所介護	地域包括支援センター
利用者定員	64名	40名	16名		
利用者延べ数	22,820名	14,309名	4,821名		
一日平均利用者数	62.5名	39.2名	13.2名		
稼働率(%)	97.8%		82.6%		
稼働日数(延べ)	365日		365日		
単価(1人1日当たり)	12,197円	14,628円	11,844円		
サービス活動収益	487,673千円		57,100千円		
職員数(常勤換算)	63.0名		8.7名		
	通所介護	地域包括支援センター	配食サービス	合計	
利用者定員	30名	—	—	—	
利用者延べ数	5,269名	—	1,155名	—	
一日平均利用者数	17.2名	—	名	—	
稼働率(%)	57.2%	—	—	—	
稼働日数(延べ)	307日	—	243日	—	
単価(1人1日当たり)	9,341円	—	550円	—	
サービス活動収益	49,222千円	34,313千円	640千円	628,947千円	
職員数(常勤換算)	7.6名	4.2名	—	83.5	

#### 【在宅事業】

2018年度は、訪問看護と訪問介護において安定した稼働と利用単価の維持を図ることができた。一方で人員の確保や長時間労働の改善においては大きな課題を残す形となり、年度末をもって聖隷訪問看護ステーション油壺を閉鎖し横須賀へ統合することとなった。横須賀愛光園を含む拠点としての管理とサービスの連携による質の向上を目指して取り組んでいく。

#### 【事業・運営計画】

##### 1. 訪問看護事業(聖隷訪問看護ステーション横須賀)

(ア) 訪問看護の質の向上を目指す

- ①カンファレンスの開催時間が確保でき、円滑なコミュニケーションを図ることができた。

②外部研修への参加や勉強会が計画通り実施することができた。

(イ) 利用者・職員を確保し、経営の安定を図る

①医療保険の利用者数、件数ともに増加し、看護体制強化加算Ⅰの算定もできた。

②逸見サテライトにおいては人員の分散が難しい状況であり、今後の展開について検討していくこととなった。

③スケジュール調整業務など超過勤務が多く課題が残った。

## 2. 訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション横須賀）

(ア) 人材を育成し、組織力の向上を図る

①喀痰吸引研修や内部研修会など計画的に実施することができた。

(イ) 業務効率の向上により、就業環境を改善する

①介護支援システムの活用を少しずつではあるが進めることができ、また業務整理を行うことで超過勤務削減に取り組むことができた。

(ウ) 安定経営に向けた取組の強化

①退職や休職による人員の減少もあり積極的な受け入れができない状況も見られたが、年間を通じて安定した稼働を確保することができた。

## 3. 居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター横須賀）

(ア) 新規事業の取組

①相談支援専門員研修へ計画的に参加することができたが、相談支援事業所の開設については再検討となった。

(イ) 安定した経営を継続する

①特定事業所加算Ⅱの継続と、安定した稼働を保つことができた。

(ウ) 業務やサービスの質の向上を図る

①研修やカンファレンスの実施はできたが、相談スキルの評価については課題が残った。

②介護支援システムの活用を始めることはできたが、効率化をさらに進める必要がある。

### 【数値指標】

#### 1. 訪問看護事業（訪問看護ステーション）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益
148人	808件	9,698件	11,716円	113,625千円

#### 2. 訪問介護事業（ヘルパーステーション）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益
平均利用者数	月間訪問件数	年間訪問件数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	予防(月)	
81人	1,163件	13,962件	9人	107人	3,934円	11,966円	73,331千円

#### 3. 居宅介護支援事業（ケアプランセンター）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価(円)	サービス活動収益
介護	予防	介護	予防			
1,501件	54件	16,925円	4,245円	72件	4,500円	28,679千円

## 聖隷訪問看護ステーション油壺

2018年度は、地域の医療機関や事業所との連携を強化し、安定した稼働を保つことができた。一方で長時間労働を含む事業管理の課題、人員の恒久的な確保が困難である現状を鑑み、2018年度末をもって事業所を閉鎖し、聖隷訪問看護ステーション横須賀へ統合することとなった。今後は横須賀を拠点として三浦地域においての支援を継続し、地域の信頼を得ることができるよう努めていく。

### 【事業・運営計画】

1. 在宅看護の専門性・質の向上をし、選ばれるステーションづくりを行う
  - (ア) 外部研修など必要な部分について計画的に実施することができた。
  - (イ) 人員不足により勉強会などの時間の確保が不十分であった。
  - (ウ) 定期的カンファレンスの実施はできたが、事例検討の質に対する具体的な取り組みは実施できなかった。
  - (エ) 介護支援システムを活用した記録へ移行することができた。
  
2. 医療機関等、他事業所との連携を強化する
  - (ア) 他事業所との連携を意識し、年間を通じて新規利用者の受け入れができた。
  - (イ) 医療機関との情報共有について、退院カンファレンスなどの参加ができた。
  
3. 経営の安定化を図る
  - (ア) 経営稼働状況について確認の場を持ち、安定した稼働を保つことができた。
  - (イ) 超過勤務の増加や欠員に対して応援兼務体制を受けたことによる費用の増加がみられた。
  
4. 地域における公益的な取組
  - (ア) 油壺エデンの園のエコキャップ活動への継続参加ができた。
  - (イ) 三浦オープンキャンパスへのボランティア参加については実施できなかった。
  - (ウ) エコドライブの意識付けを事業所内で共有した。

### 【数値指標】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	総収入(千円)
98人	402件	4,830件	9,979円	48,201千円

# 宝塚すみれ栄光園

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園、短期入所生活介護  
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター、聖隷ケアプランセンターすみれ  
宝塚すみれ栄光園園内保育所

宝塚せいの里では「一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ」の理念を掲げ、我が家のように安心できる居場所として、ゆったりと過ごして頂き、健やかな生活を楽しんで頂くことに取り組んできた。2017年度より始めた、宝塚せいの里全体での「設えコンテスト」は、生活空間の意識を高めると共に、生活への潤いにも着目される様になってきた。開設5年目となり、入居者の高齢化は進んでおり、第1四半期は長期入院者も多く、退去者は2017年度の30名を上回る31名と最も多い人数となった。しかしながら、施設で最期を迎えられた方も14名と増えており、介護・医療・食事の連携が家族に認められ、終いの住まいとしての役割を担える施設となっている。2016年より導入した「やわらか食」は、安定した提供が出来ており、誤嚥性肺炎による入院の減少に繋がっている。入所の稼働率は95.1%と低かったが、短期入所が98.0%まで補った。施設内にケアプランを持つことで、短期入所の緊急対応にも連携が取れているからこそである。

デイサービスは、2017年度末まで土曜日に行っていた「若年性認知症デイ」を終了し、土曜日にも通常型として運用を再開し、1日15名前後の利用者により安定した運営となった。さらに、介護報酬改定で新たに設けられた、外部医療機関との連携による評価加算は、2018年度の取得に向けて調整することができた。また、企業主導型事業所内保育所の地域枠受け入れや、施設の管理栄養士が宝塚・三田食形態検討会に参加し、医療機関・福祉施設における食形態の呼称・内容の取りまとめ、代表を務める宝塚市社会福祉法人連絡協議会による地域公益活動冊子の作成など、地域連携を具体的な形として表すことができた。

社会福祉法人として求められる地域公益活動は、地域サロンの活動支援、高齢化が進む公団団地での活動が認められ、宝塚すみれ栄光園が地域サポート型施設の認定を受けることができた。地域コミュニティと協力し、災害時避難所開設訓練での簡易ベッド組立講習や、小中学生を対象とした車椅子体験の実施など、啓蒙活動は継続して行っている。

## 1. 入居者・利用者一人ひとりに安心と穏やかな暮らしを提供する

2回目を迎えた設えコンテストでは、入居者・利用者の体調や能力の違いも、フロア・ユニットの特色として、より生活の場として日常生活の継続を大切に考えた取り組みが行われた。平均年齢・介護度も上がり、長期の入院者も多かったが、やわらか食の提供、口腔ケアの取り組みにより、誤嚥性肺炎による入院者は2017年度の12名から7名に減らす事ができている。インフルエンザなどの感染症流行期においても蔓延することなく、予防・発生時の対応をしっかりと行うことができた。

秋祭り、クリスマス会、コンサート等の催しには、毎回多くの家族が参加している。家族懇談会や入居者・家族へのアンケートを通して、ケアへの理解、信頼に繋げる努力を行った。

## 2. 職員がいきいきと働ける職場環境、職員教育の推進

これまで、次世代を担う人材育成を中心に取り組み、多くの職員にリーダーを担当する機会

を持たせてきた。その中より1名役職登用を行うなど、新たな世代が育っている。介護福祉士率は年間を通して70%以上となっているものの、これは常勤職員率が97%と高いためであり、非常勤職員の雇用が厳しい1年であった。現在、宝塚市と協同で、高齢者の生きがい就労支援の取り組みを始めており、2018年度は新たな介護補助職を導入し、常勤職員の働き方も変えていかなければならない。

2017年度後半に新たに導入された介護システムは、活用する事を職員同士が意識し、情報共有・連携に用い、習熟度も上がっている。特にデイサービスのペーパーレス化が進んだ。

### 3. 宝塚せいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化と、シームレスなサービス提供

宝塚を第1エリアと第2エリアに分け、これまで施設・在宅別々であった会議体統合を行った。これにより各施設の課題共有が行われ、より具体的な連携を考えることとなった。宝塚すみれ栄光園においては、短期入所の空床利用の促進、医療技術職の在宅事業所との兼務が行われた。

### 4. 地域住民との協働と地域社会への貢献

地域コミュニティの運営会議へ定例参加し、施設の情報発信を行うと共に、地域サロンへの職員支援や、高齢化の進む団地における「安倉あんしんステーション」の運営、訪問看護へ管理栄養士の派遣、小中学生を対象とした車椅子体験の実施など、地域とも積極的に関わりを持ち、施設の専門職が地域に出向く事で得られた情報を、関連機関と連携し解決を諮った。地域主催の災害時避難所開設訓練では、簡易ベッド組立講習のブースを担当し、福祉避難所を含めた地域の安心拠点の役割を担っている。

障害者雇用の促進に加えて、施設園庭・緑地の整備を市内の障害者福祉施設へ委託し、地域福祉事業者との連携は継続して行っている。

### 5. 環境活動への取組

新しい施設として設備機器の省エネルギー化は進んでいる。運用面で、照明の点灯範囲・時間、空調の温度・時間設定など、利用者へ影響でない範囲内で実施した。

### 6. 地域における公益的な取組

(ア) 市内各地区の民生委員や、関係諸機関の研修の場として、施設を解放した。

(イ) 近隣大学生の学びの窓口として、施設においてインターンシップを開催し、学生と入居者が直接関わりを持てる場を提供することができた。

## 【数値実績】

	特養入所 (ユニット)	短期 入所	通所介護 (一般)	居宅介護支援		合計
				介護	予防	
利用者定員	100名	20名	30名			
利用者・請求延べ数	34,704名	7,157名	5,686名	1,925件	309件	
一日平均利用者数	95.1名	19.6名	19.2名			
稼働率	95.1%	98%	64%			
稼働日数(延べ)	365日	365日	309日			
単価(一人一日・件当り)	15,243円	14,919円	11,787円	17,370円	3,926円	
サービス活動収益(千円)	573,296千円	106,809千円	67,016千円	36,175千円		783,297千円
職員数(常勤換算)	65.3名	13.4名	15.6名	6.2名		100.5名

## 介護付きケアハウス ケアハウス宝塚

宝塚せいの里では「一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ」を掲げ、我が家のように安心できる居場所として、ゆったりと過ごして頂き、健やかな生活を楽しんで頂くことに取り組んできました。2017年度より始めた、宝塚せいの里全体での「設えコンテスト」は、生活空間の意識を高めると共に、生活への潤いにも着目されるようになってきた。

入居契約者数は70名維持が達成できた。21名の退去者のうち、宝塚すみれ栄光園への住み替え5名は2017年度と大きく変わらなかったが、施設での看取り7名や医療的対応が必要となり、療養型やホスピスへ移られた入居者は増えている。介護度では特養より低いものの、平均年齢は上回っており、今後もこの傾向は続くと考えている。これは、ケアハウス宝塚が中間施設としての役割はもちろん、軽度から重度まで、そして施設で最期を迎えたいと希望される入居者と幅広いニーズに応えられているからと考えている。それを支える職員体制は退職者2名と少なかったものの、宝塚せいの里内での内部異動もあり、下半期は厳しい体制での運営であった。

行事・イベントについては、アフタヌーンコンサート、お茶会、聖書を読む会など、ボランティアにも協力頂き定例化できている。また、入居者に複数の選択肢を用意した余暇活動など、参加意欲を持って頂けるように趣味活動の充実にも力を入れ、特に、入居者の希望を取り入れた外出企画は回数も多く実施でき、好評を得ている。

地域活動においては、地域コミュニティの運営会議へ定例参加し、施設の情報発信を行うと共に、地域サロンへの参加、地域の避難所開設訓練への参加など、地域とも積極的に関わりを持ち、施設の専門職が地域に向く事で得られた情報を、関連機関と連携し解決を諮った。

### 1. 入居者の希望をかなえ、その人らしい生活を実現する

- (ア) 夕方入浴・洗濯・食材取り寄せ等、自宅での生活スタイルが継続できるよう自由な環境を用意できた。
- (イ) お花見、紅葉狩り、喫茶店、レストラン等入居者のニーズを確認しながら外出企画を計画し、実施した。
- (ウ) 多くのボランティアの方々に協力いただき、アフタヌーンコンサート、お茶会、聖書を読む会、傾聴ボランティアなどを定例化することができた。

### 2. 他職種と協働し、個別支援が出来る人材の育成

- (ア) 常勤介護職退職や宝塚せいの里内での異動と職員の入れ替わりが多いことから、介護記録システムを活用した情報共有に力を入れた。
- (イ) 2016年度より実施した相談員の2名体制により、介護職員のアセスメント能力向上のためにOJTを通じて助言、介入を継続し、全体の底上げが図れた。
- (ウ) 事故発生後のカンファレンスにより、同様な事故発生の予防に繋げることができた。

### 3. 業務改善を行い働きやすい職場環境をつくる

- (ア) 介護記録システムは、まだまだ使いこなすには至っていないが、記録の共有化が図れたことで、職種間での情報連携は行いやすくなった。
- (イ) 2ユニット1単位の構成を基本としつつ、フロア全体での業務連携体制を推進した。
- (ウ) 常勤職の不足を補うために、介護周辺業務を行う介護補助職を導入した。

### 4. 宝塚せいの里内施設並びに宝塚地区施設における連携強化とシームレスなサービス提供

- (ア) 待機者登録システムを宝塚地区入所施設全体で活用し、各施設相談員が情報を共有することで、入居施設併用申込に繋げ、退去者発生時の空床期間増加を抑えることができた。
- (イ) 施設管理担当者を、宝塚エリアの設備管理者のいない在宅施設、保育園へ派遣を通じ、宝塚エリア施設の運営に協力した。

### 5. 地域住民との協働と地域社会への貢献

- (ア) 地域コミュニティの運営会議へ定例参加し、施設の情報発信を行うと共に、地域サロンへ参加するなど、地域とも積極的に関わりを持った。
- (イ) 地域防災会議への出席や、一次避難所開設訓練へ参加するなど、地域の安心拠点の役割を担っている。

### 6. 環境活動への取組

- (ア) 夜間における共用部（各階ホール・廊下）の照明範囲を限定した。
- (イ) 利用者への影響がでない範囲内での空調コントロールを実施した。

### 7. 地域における公益的な取組

- (ア) 市内各地区の民生委員、訪問看護ステーション、ケアマネジャーの研修の場として、施設を解放した。
- (イ) 近隣大学生の学びの窓口として、施設においてインターンシップを開催し、学生と入居者が直接関わりを持てる場を提供することができた。

#### 【数値実績】

	軽費老人ホーム (特定施設入居者生活介護)
利用者定員	70名
利用者延べ数	24,441名
一日平均利用者数	67名
稼働率	95.7%
稼働日数（延べ）	365日
単価（一人一日当り）	14,304円
総収入（千円）	350,340千円
職員数（常勤換算）	41.5名



## 介護付有料老人ホーム 結いホーム宝塚

2018年11月、結いホーム宝塚は開設5周年を迎えた。この間、入居者募集においては継続して入居者100名を維持することが出来た。宝塚地区内施設の待機者情報を共有し、入居申込書の書式を共通にしていること、宝塚地区内における聖隷の各事業の認知度と評価が高いことが入居申込者の確保につながっている。

2018年度の退居者数は20名とほぼ例年通りとなった。入居者の5分の1が入れ替わったことになるが、入居待機者増(2019年4月:64名)により、短期間の空床期間で対応ができた。また、20名の内、5名の方が施設内で逝去され、終の棲家としての役割を担える態勢が整ってきている。

入居者の平均介護度は開設年度の2.0から徐々に上昇してきたが、2018年度は4月度2.2から3月度2.6へと0.4上昇した。開設当初からの入居者が経年と共に徐々に介護度が上がってきており、重症化への対応並びに入院に繋がらないよう平素の健康管理に努めることが求められてきている。

入居者一人ひとりの生活の質の向上につなげるために、イベントやアクティビティーには、給食業者やボランティアの協力を得ながら、積極的な取り組みを継続している。5周年記念行事を開催した他、運動会、クリスマス会等の季節行事に加え、個別外出や行事企画では、これまでにない外出先や新たな行事企画を行い、更なる充実を図ることができた。

### 1. 入居者・家族の期待を上回るサービスの提供

- (ア) 入居者の希望に沿った個別レクリエーションを実施したほか、家族が企画した外出企画への協力を行った。悪天候により中止となったがマイクロバスを借りての外出企画等、外出先のレパトリーが増加した。
- (イ) イベント企画においては園提供の食事の他、弁当の取り寄せ企画を新たに実施した。
- (ウ) 介護度が上昇した入居者の部屋をレイアウト変更し、その人に合わせた生活環境を提供した。共用スペースにおいてはリラックスできる空間づくりを行った。
- (エ) 全フロアに立位訓練用手すりを設置し、自ら機能維持訓練ができる環境を整備した。
- (オ) 避難訓練・夜間想定訓練など防災訓練を3回実施した。また、警察署・宝塚市役所担当者を招き、防犯訓練を実施した。

### 2. 職員が生き生きと働ける職場環境、職員教育の推進

- (ア) 技術チェックツールを用い新人教育を行い、一定の成果を得た。また、プリセプターを配置し、介護技術や業務の動きの教育、相談の窓口等を行った。研修参加者による伝達講習を行い、全体の介護技術の底上げを図った。
- (イ) 2018年度は3階フロアを対象にアクションラーニングを実施した。メンバー構成が一定しなかったため、期待した成果は得られなかったが、チーム内の問題解決に向けての話し合いをすることで参加者の意識変化は見られた。
- (ウ) 介護パート、ケアサポーターの採用に際し、本人の希望時間帯を考慮し、柔軟な受入をすることが出来た。

(エ) 介護補助業務を行うケアサポーターの業務範囲を見直し、ケアサポーターの採用を拡大することで、正職員の採用難に対応した。

### 3. 宝塚せいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化とシームレスなサービス提供

(ア) 地区内の施設入居申込書の統一、入居待機者管理システムを活用し、待機者情報を各施設の相談員が共有することで、稼働率を維持することができた。

(イ) 企業主導型事業所内保育所は、事業団内施設職員だけでなく、近隣事業所との共同利用及び地域枠の受入れにより安定した園児数で稼働できた。

### 4. 地域に信頼される施設運営と地域における公益的な取組

(ア) 宝塚安倉あんしんステーションを拠点として、老人会やサロンへ職員を派遣し、活動内容を増やすことができた。

(イ) 市内各地区の民生委員、訪問看護ステーション、ケアマネジャーの研修の場として、施設を開放した。

(ウ) 地域防災訓練に参加し、地域からの参加者に対して簡易ベッド・簡易トイレの組み立てを経験する場を提供した。

(エ) 兵庫介護サポーター養成講座の実施、インターンシップの受入れ、小林聖心女子高校のボランティア受け入れを行った。

### 5. 環境活動への取組

(ア) 水道料金契約の見直しを行い、水道料金の低減を行ったほか、入居者への影響が出ない範囲での空調コントロールを実施した。

(イ) 近隣自治会の地域清掃活動に参加した。

#### 【数値実績】

	介護付有料老人ホーム
利用者定員	100名
利用者延べ数	34,898名
一日平均利用者数	94.8名
稼働率	95.6%
稼働日数（延べ）	365日
単価（一人一日当り）	16,155円
サービス活動収益（千円）	563,373千円
職員数（常勤換算）	61.98名

## 介護老人福祉施設 宝塚栄光園

2018年度は、看取りケアの充実と医療との連携の深化の実践を行った。宝塚エデンの園付属診療所とは、これまで以上に利用者情報の共有と医師との連携を強化して、胃ろうや喀痰吸引が必要な方の受け入れを年間通じて21%以上とすることができた。また看取りで亡くなられた方は退去者のうち38%で2017年度からは微増であった。今後もこの体制を続けていくためには介護職員のうち85%以上の特定行為従事者が必要であり、この実績が夜勤配置加算(Ⅲ)の取得にもつながった。また、宝塚エデンの園付属診療所から作業療法士の派遣が行われ、リハビリの評価を行うとともに、生活機能向上連携加算の取得につながった。認知症ケアについても専門的な知識を持った職員がエビデンスのあるケアを実践するために、認知症実践リーダー研修に参加した。この結果が短期入所において認知症専門ケア加算の取得につながった。経常増減差額では介護老人福祉施設、短期入所合計で予算を大きく上回った。安定した運営を続けていくことで、施設設備の効果的な修繕や改修も合わせて実施することができた。

### 【施設理念】

『自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい。』

### 【経営方針】

宝塚栄光園の従事者は、各事業における個々の利用者の障がい、疾患、要介護状態に応じて可能な限り、最期までその人らしい生活が実現できるように、常に利用者の立場に立ったケアサービスを総合的に提供していく。

### 【事業・運営計画】

#### 1. 『最期のとき』を安心してむかえたい』に忠えていくため

##### (ア) 『最期のとき』を安心して迎えられる体制づくりの実施

- ① 宝塚エデンの園付属診療所から、緊急時には夜間や早朝などでも往診があり、利用者にとって安心できる体制を作ることができた。
- ② 喀痰吸引等特定行為従事者の介護職員の割合を85%以上に維持できた。
- ③ 医療が必要な利用者(たん吸引、胃ろう、在宅酸素等)の受入を入居者の全体の21%以上にすることができた。

##### (イ) 『最期のとき』を安心して迎えられる環境づくりのため

- ① 『最期のとき』の安心を知ってもらうため、地域住民向けに当園で実践している「看取りケア」についての講習会の実施はできなかった。

##### (ウ) 認知症があっても、『最期のとき』まで利用者一人ひとりの尊厳を守る

- ① 施設内で認知症リーダー研修受講者が中心となって、他の職員に学習した内容を伝達したりケース検討を行うことで、それぞれの利用者に合わせて認知症ケアを他の職員とともに実施した。

## 2. 共生社会の実現のため

### (ア) 就労継続支援事業の検討

- ① 2018年度、宝塚栄光園内の業務、または他施設の業務を委託する形での就労継続支援事業の検討を行ったが、実施はできなかった。

### (イ) 宝塚地区での障がい事業の構築

- ① 社会福祉法人聖隷福祉事業団が持っている障害サービスの共有はできた。
- ② 現在実施している短期入所サービスの利用はなかった。

## 3. 地域社会とともに歩んでゆける「宝塚栄光園」づくり

### (ア) 地域社会との連携を強化

- ① 地域の清掃等の自治会活動への参加を行った。

### (イ) 次の「宝塚栄光園」を見据えた施設整備

- ① 段階的な施設修繕の実施を行った。

## 4. 地域における公益的な取組

(ア) 地域の高齢化に対応した宝塚市福井町自治会への給食材料の提供事業、またお花見の送迎を実施した。

(イ) 地元大学から2名の管理栄養士の現場実習受け入れを実施した。

(ウ) 地元大学生の教員過程における介護等体験に5名の受け入れを実施した。

【数値指標】※特養・短期とも従来型のみ。(個室19室、2人室 3室、4人室 15室)

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70人	15人	85人
利用者延べ人数	24,768人	4,713人	29,481人
一日平均利用者数	67.8人	12.9人	80.7人
稼働率	96.9%	86.1%	95.0%
稼働日数(延べ)	365日	365日	365人
単価(一人一日当り)	12,513	11,936	
サービス活動収益(千円)	26,118	4,717	30,835
職員数(常勤換算)	44.72	6.54	51.26

# 聖隷ケアセンター宝塚第1

## 宝塚第二地区在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚

聖隷逆瀬川デイサービスセンター

聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹

### 【事業・運営計画】

#### 1. 人材の確保・育成の推進

(ア) パート・登録パートの確保を実現するため処遇の見直しを図る。

2018年4月よりパート職の早遅手当、登録パートの時給の改定（身体介護・生活援助の時給設定の変更）を実施した。

(イ) 介護保険制度改正に伴い、現行の要資格取得者は身体介助中心に移行し、生活援助対応の新設資格の新たな人材確保を図る。

①生活援助対応の新設資格者が宝塚市全体で少人数であり、人材確保が困難であるため、事業所として今後の展開を検討しなければならない状況である。

②要資格者への身体介護中心への移行は継続して行い、同時に生活援助のプランの見直しをケアマネジャーへ問いかけを行い、身体介護もしくは身体・生活援助の複合サービスへの移行を図る。

(ウ) 兵庫県のキャリア形成訪問指導事業を利用し、職員のスキルアップの向上を図る。

兵庫県介護福祉士会へ講習依頼を行い、「サービス提供責任者のスキルアップ研修」とヘルパー職員全員を対象とした「認知症研修」を実施した。

(エ) 事業所内での勉強会を定期的実施する。

全職員を対象とした研修会や、スキルアップ研修を開催できた。

(オ) 事業所内だけでは無く、入所施設も含めた宝塚地区全体で連携した人材確保を図る。

ケアセンター共同の求人広告を作成し、センター入り口に設置した。

#### 2. 利用者のニーズに対応できる事業所作りをする。

(ア) 宝塚の東地区への展開を行う。

聖隷の居宅事業所でだけでなく、他事業所へも密な連携を図り利用者の確保に努めたが、常勤職員と登録ヘルパーの退職で人員不足となり最小限の展開となった。

(イ) 医療的依存度の高い利用者への受け入れを広げる。

認定特定行為業務従事者研修に1名受講した。2018年度末に特定の者（3号）資格保持者8名（うち3名不特定の者（2号）の資格も保有）に増えたことで医療的依存者の新規受け入れや既存利用者のサービスの追加が広がった。

(ウ) 日曜日のサービスを開始して、幅広いニーズに応えられる体制を作る。

開催に向けて検討してきたが、サービス内容や時間などが決定するまでに至らず未実施である。

(エ) 軽度から重度の認知症利用者の受け入れを積極的に行う。

軽度から重度の認知症利用者を断る事なく、受け入れ実施できた。

### 3. 地域における公益的な取組

(ア) 生活援助対応の新設資格の講習会を開催する。

宝塚市の規定で生活援助資格対応の講習機関が宝塚市保健福祉サービス公社のみと定められたため未実施である。

(イ) 地域の意見を取り入れる場として運営推進会議を開催する。

地域の意見を取り入れる場として、運営推進会議を継続的に実施できた。

#### 【数値実績】

##### 訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			総合事業		単価（円）		サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
平均利用者数	月間訪問件数	年間訪問件数	月間利用者	年間利用者	介護（回）	予防（月）		
105.5人	941件	11293件	82人	984人	4,093円	17,555円	88,794千円	15.7名

##### 通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			総合事業		単価（円）		サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護（月）	総合事業（月）		
16.8人	428人	5,140人	24人	287人	9,643円	40,850円	61,199千円	12名

##### 通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹）

介護給付			予防給付		単価（円）		サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護（月）	予防（月）		
9.2人	234人	2,807人	0人	3人	15,025円	7,341円	42,024千円	7.5名

## 宝塚第二地区在宅複合事業（公益事業）

訪問看護ステーション宝塚  
 聖隷ケアプランセンター宝塚  
 逆瀬川地域包括支援センター

2018年度、宝塚第二地区在宅複合事業（公益事業）は、各事業ともに職員の欠員補充や増員がスムーズに行えず件数を伸ばすことができなかつた。そのため、予算未達という結果ではあったが、各サービスの質の向上や法人内連携率向上に向けた取り組み、地域に向けた取り組みは、少しずつ積み上げることができている。今後より一層、聖隷ケアセンター宝塚第1として地域に出向き貢献できるよう、施設一丸となって取り組んでいきたい。

## 【事業・運営計画】

### 1. 質の高いサービスを提供する

(ア) 訪問看護ステーションの統合により、大規模ステーションとして地域のニーズに応える。訪問看護事業の充実と訪問看護以外の幅広い事業の展開（機能強化型訪問看護管理療養費1の申請・グループホームとの医療連携・看護小規模多機能・ホームホスピス）を実施する。

訪問看護ステーションの統合はできなかったが、大規模ステーションとして難病・ターミナル・小児・リハビリテーションなど幅広く対応した。機能強化型訪問看護管理療養費1は、条件が満たせず申請できなかったため、2019年度は条件が満たせるよう人材の増員・教育を強化したい。

(イ) 年間の事例検討会や研修会の企画開催などを中堅職員が中心に進めることにより、リーダーシップを身につける。

スタッフが、自施設内・他事業所向けの研修企画・実施を主体的に行うことができた。

(ウ) 法人内事業所の連携強化を行い、職員個々が互いにフィードバックができる関係性を構築する。

聖隷逆瀬川デイサービスセンター・聖隷ケアプランセンター宝塚・逆瀬川地域包括支援センターの連携強化を図るべく、所長だけでなく職員も交えた話し合いの場を設け意見交換することで、相互理解が進み紹介率の向上に繋がった。

(エ) 定期的な勉強会やラダーの活用により軽度から重度の利用者の幅広いニーズに適切に対応できるケアマネジメント力の向上を図る。

アセスメント力向上を目的とした研修での学びや、事例検討会を通じて得た気づきを担当ケースに生かすことができた。

### 2. 地域包括ケアを推進する

(ア) 地域ケア会議の開催を通じ、地域課題を抽出し、多様なサービス構築に繋げる。

地域課題の抽出・多様なサービス構築に繋がるような地域ケア会議の開催はできていない。地域ケア会議の持ち方を考える必要がある。

(イ) 地域の住民主体の取り組みに対し、専門職としての側面的支援を行う。

各まちづくり協議会の中で考えられている福祉的課題に対して、宝塚市社会福祉協議会地区センターと連携しながら意図的に関わることで、見守り、災害時の要援護者支援、居場所作り、移動支援等の取り組みを少しずつ積み上げることができている。

(ウ) 地域ケア会議等を通し、関係機関と顔の見える関係作りを行う。

関係機関との顔と顔の見える関係作りは少しずつ進んでいるが、専門職と住民が十分に繋がれていないことは課題として残る。

### 3. 地域における公益的な取組

(ア) 住民主体の会議に出席し、地域が必要としている資源を把握する。

逆瀬台小学校区においては移動の問題が大きい。バス停まで行くことができない住民も多い。移動販売の活用を始めており、移動支援も始まろうとしている。聖隷逆瀬台デイサービスセンターと共に何ができるのか具体的に考えていく必要がある。

(イ) 地区内デイサービスセンターを拠点とした地域活動を協働する。

聖隷デイサービスセンター結いにおいて、住民・宝塚市社会福祉協議会・民間企業・聖隷デイサービスセンター結い・逆瀬川地域包括支援センター共催で、食を通じた繋がり作りを目的としたイベントを開催。コミュニティにおける聖隷デイサービスセンター結いの存在意義を高めることができた。住民主体のサロン活動・居場所作りに繋がるよう側面的な支援を2019年度も継続する。

【数値実績】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
204人	1,215件	14,579件	8,613円	138,630千円	18.5名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価（円）		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価（円）	サービス活動 収益（千円）	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
2,756件	309件	14,801円	3,230円	1,879件	4,860円	69,879千円	15.1名

地域包括支援センター事業（逆瀬川地域包括支援センター）

年間請求件数		平均単価（円）		サービス活動 収益（千円）	職員数 (常勤換算)
予防	予防（委託）	予防	委託（委託）		
4,686件	3,328件	4,900円	610円	72,913千円	13.8名



# 聖隷ケアセンター北神戸

聖隷訪問看護ステーション北神戸

聖隷ケアプランセンター北神戸

聖隷はぐくみ北神戸

神戸市北区において地域ニーズに沿った専門性に優れた事業展開を目指す中、2018年度は障害者相談支援事業所を開設した。地域の特色として精神科病院の多いことが影響し、利用者の増加や地域移行支援のニーズが高まっている。医療・介護・障害の領域を担えることで生活者への支援の幅が広がり、地域へアピールできる一つの「売り」ができた。また認知症初期集中支援チームへの参入、医療的ケア児の学校訪問など新たな取り組みも増えている。

従来から積極的に取り組んでいる癌ターミナルや看取りは、件数を増やすことができていないが、訪問看護とケアプランセンター併設の強みを生かし、今後も戦略的に力を注いでいきたい。

## 1. 2018年度 事業計画・予算の達成度

- (ア) 聖隷訪問看護ステーション北神戸は、他にない障害者相談事業を始めたことも影響し、精神障害の利用者など新規依頼の増加や、夏の酷暑・炎暑の際も入院せず在宅療養を継続する利用者が多く、特別指示の件数増加など収益は延びた。
- (イ) 聖隷ケアプランセンター北神戸は、継続的に新規依頼が増え、職員も常勤換算 4.0 人となり特定事業所加算Ⅱを取ることができ収支は安定している。障害者相談支援の利用者本人や家族が居宅介護支援に繋がるケースもあり、互いの専門知識の向上や支援の幅の広がりを実感できている。
- (ウ) 聖隷はぐくみ北神戸は、事業所の数が地域で足りていない現状もあり依頼は多くみられた。新規開設のため、制度の理解や障害分野の関係機関との顔のつながりを築くこと、研修や会議への参加に時間を要した。時間を要す反面、報酬単価や報酬体系より収入は低く、兼務のできない常勤看護師の人件費との収支バランスはかなり悪く改善の必要がある。

## 2. 地域における公益的な取組

- (ア) 神戸市看護大学生実習の受け入れ
- (イ) 神戸市看護大学 臨床教授 1 名 臨床講師 1 名
- (ウ) 介護保険認定審査会審査員 2 名
- (エ) 認知症初期集中支援チーム員 1 名

【数値実績】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション北神戸）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数(常勤換算)
133 人	841 件	10,087 件	9,551 円	93,779 千円	12.5 名

宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数		平均単価(円)		サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防		
826 件	530 件	14,826 円	3,234 円	16,758 千円	3.9 名

障害相談支援事業（聖隷はぐくみ北神戸）

年間請求件数		平均単価(円)		サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
者	児	者	児		
61 件	0 件	14,712 円	0 円	898 千円	1 名

# 聖隷逆瀬台デイサービスセンター

2018年度介護報酬改定により大規模Ⅰ通所介護費の大幅な引き下げが実施され、経営面では予算を大幅に下回った。サービス面では、看取り期も含めた、利用者の状態を問わない幅広い受け入れを行い、在宅生活を最期まで支えるデイサービスとしての役割を果たすことが出来た。

また障害をお持ちの児童に対し、宝塚市地域生活支援（日中一時支援）事業を導入し、入浴サービスを開始することで、基準該当生活介護での利用実績にも繋がり、共生型サービスの役割も担えるデイサービスとして2019年度以降も継続していく。

## 1. 多様なニーズを柔軟に受け入れ出来るデイサービスとしての強みを最大限に活かす

### (ア) 中重度・認知症状の高い利用者の個々の利用ニーズに合わせたサービスを提供する

他のデイサービスでは受け入れ困難ケースや、送迎に昇降介助が必要な方への柔軟な対応を行った。自施設厨房で、軟らか食を導入し、状態に合わせた食事形態の幅を広げる事で、より個別のニーズに対応する事ができた。

### (イ) 利用者の状態や変化に素早く対応し、連携事業所と情報共有する

電子記録の活用で各事業所と情報共有し、記録業務では業務負担軽減を実現した。

### (ウ) 基準該当生活介護サービスで障害をお持ちの方の受け入れ、利用ニーズを把握し住み慣れた地域で生活出来るように支援する

外部講師による障害分野の勉強会を実施し、サービス利用の実績にも繋がり、住み慣れた地域での障害支援の一步を踏み出す事が出来た。

## 2. チームケアを推進し、サービス（ケア）の質を向上

### (ア) 職員一人ひとりが成長とやりがいを実感できる職場体制を整える

各リーダーがボトムアップによる提案・実践・実現が出来る職場体制を整えた。

### (イ) 目標参画・介護ラダーの運用を確実に実施し、職員個々の目標達成と行動化を明確にしてサービスの質の向上へと繋げる。

ラダーを用いて、自己評価・キャリアアップに向け目標を明確に設定する事ができたが、目標参画と合わせた運用には至らなかった為、2019年度は改善を図る。

## 3. 地域における公益的な取組

認知症利用者を支える家族の不安や悩み解消の為、家族介護者交流会の開催、地域の要望に応え、地区内の同法人事業所と協力し、介護技術講習会を実施する事ができた。

## 4. 施設老朽化に伴う設備改修

施設主照明をLEDに改修工事を行い、省エネルギー化が図れた。

【数値実績】大規模通所介護Ⅰ 利用定員40人（介護・予防を一体的に運営）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤 換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
27.2人	698人	8,377人	5人	65人	11,228円	40,596円	107,096千円	19.4名

# 聖隷デイサービスセンター結い

2018年度は年間を通じて途切れることなく利用者の新規・体験の依頼があり、開設以来初の予算達成ができ事業運営が安定した。地域や関係機関との連携の機会も増えたことで、事業所としての認知度が高くなっている実感があり、結果として利用者増にも繋がっている。

介護報酬改定の動向を見据えると、軽度者のサービス見直しは今後も進むと予想する。また通所事業の介護報酬はサービスや成果に対する評価が報酬に盛り込まれていく方向性も加速していくと考えている。

2019年度は、さらに成果の出せる事業所へシフトしていけるよう医療技術職を常駐配置させることで、リハビリテーションサービスを見直し、医療との連携も視野に検討をすすめていく。

## 1. 地域に必要とされる施設として、多機関・住民と活動を協同する。

(ア) 社会福祉協議会・地域包括支援センター・地域住民と協同し地域活動に取り組む。

(イ) 介護保険利用者以外も共存できる居場所になるよう空きスペースの活用を検討する。

(ウ) 営業時間外の施設利用（開放）等、地域のニーズに合わせた活用を検討する。

①営業時間外に、当施設を会場とした地域共生イベントを年2回開催できた。また地域の支え合い活動を検討する会合には積極的に参加し、地域ニーズの共有ができた。

②地域住民とデイサービスの施設開放について話し合いし、住民からは「運動が気軽にできるような施設が近くにあると嬉しい」というニーズは聞き取っている。具体的な活用方法については、まだ発信できておらず課題が残った。

③併設の学童保育事業との連携はまだ見いだせていない。児童と利用者が交流する程度では発展性がなく、新たな価値を生み出すには課題が残る。

## 2. 事業継続できるよう経営の安定化を図る。

(ア) コスト管理・業務スリム化に継続的に取り組み、富士通システムを有効活用する。

(イ) 報酬改定・制度に合わせて柔軟に対応する。

(ウ) 要支援利用者を積極的に受け入れし、同法人デイとの棲み分けを図る。

(エ) 相談員と他機関との連絡・相談が円滑できるよう業務環境を整備する。

①専門業務と非専門業務の整理と役割分担を行うことで、業務効率が高まった。

②介護システムについて活用をスタートさせ、エクセル等の同一情報複数データ管理を廃止することができた。

③相談員の業務を、他事業所との連絡相談に特化させたことで、タイムリーな話し合いができ、利用件数の伸びに繋がった。

④医療技術職による手段的日常生活動作（IADL）尺度評価を実施開始した。生活課題を具体的に抽出することができ、生活場面を想定した訓練ができている。

## 3. 地域における公益的な取組

(ア) 機能訓練を通して地域向けに介護予防講習会を開催する。

(イ) 営業時間外の施設利用（開放）を具体化する。

①営業時間外に、当施設を会場とした地域共生イベントを年2回開催できた。イベント内では、介護相談や体操のレクチャーなど地域の困りごと解消ができています。

【数値指標】

介護給付 利用者数			予防給付 利用者数		単価		サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
平均	月間	年間	月間	年間	介護 (日)	予防 (月)		
10人	258件	3,097人	88人	1,054人	5,947円	30,951円	51,040千円	10名

# 聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

2018年度は10月の法改正により貸与価格の上限設定や全国平均価格の提示が義務付けられ、貸与価格の値下げを余儀なくされた。また福祉用具の選定理由書の作成が必須となり単価が下がるなか書類作成業務が増え、かつ介護保険の負担割合に3割負担対象層が新設され取り巻く環境が更に厳しくなった。2018年度は法改正及び職員の異動に伴う体制作りにも追われたが、新しい取組や働き方へ向けた基礎が整備できた。

## 1. 介護保険サービス外貸与の仕組み作り

(ア) 2018年度中にサービスを開始できなかったが、介護保険サービスの限度額を超えた利用者や負担割合が3割になった方などへ、現在保険外サービスを行っている介護ベッド、車椅子以外の「保険外貸与商品」として、型が古くなった4点杖、手摺、歩行器など導入時に要望が多い商品で実施できるよう取引業者と検討を行った。

## 2. 貸与から販売へ移行する利用者の獲得

(ア) 介護保険サービス限度額超過の方や、自己負担割合が3割になった福祉用具を貸与している方へ、要件を満たす安価な商品の購入提案や利用中の貸与品を中古販売できるようなプランを検討し、古物商販売許可取得は2018年度取得を目指す。

(イ) 事務職員の業務内容見直しにより「営業事務」を機能させ、電話対応を含め内勤と外勤（営業職員）で連携してお客様へ対応できる「全員営業」体制作りを始めた。

## 3. 地域における公益的な取組

(ア) 宝塚安倉あんしんステーションにおける地域住民を対象とした福祉用具、住宅改修の相談を聖隷の他事業所と共に実施した。また、地域の方を対象にした福祉用具勉強会を3か所で実施した。

### 【数値実績】

レンタル件数 (件)	介護保険収益 (千円)	販売収益 (千円)	住宅改修 (千円)	サービス活動収益 (千円)
9,303	101,399	52,811	21,850	176,060

# 花屋敷栄光園

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園  
花屋敷デイサービスセンター  
花屋敷地域包括支援センター  
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷  
宝塚市障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷

2018年度、地域や世帯状況に応じたサービス提供を目指し、相談支援機能の充実を図るとともに中重度利用者や障がい者への対応力を高めるための人材育成や職場運営に取り組んだ。相談支援においては、地域包括支援センターと相談支援事業所が同行訪問を行うなど協働することにより、切れ目のない支援が行えることができるようになり、専門職種間の知識、技術の向上にも繋がっている。入居サービスにおいては、年間の入院者数は増加傾向にあったが、入院を理由とする退居や事故件数は2017年度に比べ減少している。通所介護においては、利用者数の減少や利用者層の変化から、サービスや体制を見直すこととなったが、短期入所では、認知症利用者の受け入れ件数が増加しており、通所介護も含め障がい者の利用も定着している。職員一人ひとりが分野を問わない支援を意識し実践してきたことが、組織の対応力向上に繋げることができた年度であった。

## 【施設理念】

互いに愛し合いなさい

利用者、家族、職員、ボランティア、地域住民が、共にその人らしいいきいきとした暮らしの創造のために、互いを尊重し合い、地域全体の福祉の向上に寄与する

## 【事業・運営計画】

1. 利用者に「日常的な居心地の良さ」と「最期まで安心して暮らせる」サービスの提供
  - (ア) 状態変化に早期に気づき対応することにより、2017年度に比べ病状悪化による退居や事故を減少させることができている。
  - (イ) これまでの実績を活かし、利用者、家族の意向を反映した看取りケアに努めることができている。
  - (ウ) 施設内行事だけでなく地域の催事やサロンにも参加し、交流を図ることができた。
  - (エ) 積極的な受け入れを行うことにより、対応力を高めることができた。今後も柔軟な受け入れが行えるよう努めたい。
2. 地域包括ケアシステムの推進に積極的に取り組む
  - (ア) ネットワークの構築が限られた範囲に留まっている。今後も各専門職や事業所間での協働に努めたい。
  - (イ) 相談支援事業所と地域包括支援センターが協働し、障がい者から高齢者まで一体的に支援が行えている。
  - (ウ) 新たな障がい福祉サービスを見出すには至らなかったが、短期入所・生活介護において利用の定着を図ることができた。
3. 多様な人材の確保と育成

- (ア) 人材育成委員会が作成した育成計画を基に、新入職員を中心に取り組むことができた。
- (イ) 会議等を通じ継続的にマネジメント指導は行えたが、職員の欠員等もあり職場環境により技術の習得に差が生じた。
- (ウ) 一部の部署において、ケアサポーターの配置により業務負担の軽減を図ることができた。  
 今後は効果的な配置と業務整理を進める。

#### 4. 運営安定化の推進

- (ア) 業務用洗濯機、乾燥機や電動ベッドなどの福祉機器の更新を行った。
- (イ) 洗濯及び給食委託業者を見直し、実情に応じた業務調整を図ることができた。
- (ウ) 安定した加算取得が行えるよう業務手順などを見直し体制を整えた。

#### 5. 地域における公益的な取組

- (ア) 介護技術や認知症予防講座を継続的に開催し、地域のサロンにも参画することができた。
- (イ) 地域の防災対策検討会に参加し情報共有を図るとともに防犯訓練を開催し、防犯用具の見直しを行った。

### 【数値指標】

#### 高齢者入居・短期入居・通所関係事業・相談支援事業

	特養入所 ユニット型	短期入所 ユニット型空床型	通所介護		
			通常規模型	予防型	認知症対応
利用者定員	108名	12名	47名		12名
利用延数	38,143名	4,540名	8,021名	1,316名	1,084名
一日平均利用者数	104.5名	12.4名	25.7名	4.3名	3.5名
稼働率(%)	96.8%	103.7%	63.8%		29.3%
稼働延日数	365日	365日	309日		308日
平均介護度	4.1	3.0	2.0	0.4	3.5
単価(一人一日)	14,704円	14,352円	10,005円		15,323円
サービス活動収益(千円)	564,725千円	65,446千円	93,424千円		16,610千円
職員数(常勤換算)	72.8名	10.0名	19.1名		4.0名
	地域包括支援事業 (花屋敷地域包括支援センター)		障害者相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)	障害児相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)	宝塚市相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)
宝塚市受託収入(千円)	31,665千円		—	—	12,953千円
年間請求件数	予防プラン 請求件数	287件	271件	211件	—
	予防プラン 委託件数	67件			
平均単価	予防プラン 単価(円)	4,067円	14,203円	15,737円	—
サービス活動収益(千円)	48,967千円		3,849千円	3,320千円	12,953千円
職員数(常勤換算)	9.6名		3.0名		



# ケアハウス花屋敷

時代の流れと共に、ケアハウス花屋敷入居時の年齢は高齢化しており、平均年齢も 86.5 歳、身体機能も認知機能も変化を起しやすい年齢だといえる。このような変化から、自立型の施設であっても、入居者の変化に気付けるような仕組みと、職員の観察力やアセスメント力の向上が必要と感じ、取り組んできた。その中で、入居者の生活上の困りごと、通院や服薬管理がきちんできてきているのか等現状の聞き取りと、今後体調や ADL の低下が起こった時に、どこでどのように過ごしたいと思っているのか等、考えを聞き取り、検討する仕組みができたことは大きな収穫である。得た情報を関係者の中で必要に応じて共有し、支援に生かすことができれば、よりタイムリーに支援することができる。この流れは今後も進化させていきたい。

また、畑づくりや庭の手入れ、園のアプローチ部分の庭作りなど、元気な入居者の自主的な活動により、ケアハウスがリフレッシュされた。防災訓練においても、入居者が役割を担い、積極的な意見を交わすことができたことは園にとってとても有意義なことであった。

1. 個室入居待機者のニーズに対応する為、二人部屋 3 室を個室に改修する
  - (ア) 年度初め、二人部屋を個室 6 室に改修し、個室入居希望者に対応出来た。
  - (イ) 8 月以降は入居率 100%を維持し、収支の安定を図ることができた。
  - (ウ) 改修工事には一時的に騒音もあったが、大きなトラブルなく終了した。
2. 心身の健康の維持増進、認知症予防の取り組み
  - (ア) 朝のラジオ体操、健康体操、歌う会等の継続実施、健康体操のプログラムの拡大等は出来たが、介護ロボットは効果的に使えるものが見つからず、導入できなかった。
  - (イ) 中庭の畑で入居者と共に野菜を育て、収穫し、食事メニューに盛り込み、楽しむことができた。11 月には、ボランティアの方を招待し、収穫したサツマイモを焼いて入居者と共にもてなすことができた。
3. 入居者の様々な変化に対応できるよう、職員の知識・技術の向上と入居者個々の状況の把握
  - (ア) 定期的な入居者訪問の機会を利用して、生活上の困りごとや通院・内服管理等について情報を収集した。
  - (イ) 収集した情報を基にアセスメントし、支援の必要性を検討した。家族・ケアマネジャーと共に支援に繋げることができた。
4. 障害者雇用の促進と花屋敷せいの里全体の介護以外の業務の委譲をすすめていく
  - (ア) 宝塚市内の障害者就労支援事業所と良い関係が出来、見学や体験は数名実施したが就労には至らなかった。
  - (イ) 花屋敷せいの里全体の業務の洗い出し・委譲は進められなかった。
  - (ウ) 業務のパッケージ化は出来なかったが、入居者には色々な形で活躍してもらえた。
5. 栄養バランスのとれた美味しい食事を継続して提供するために食事運営方法を更に検討する
  - (ア) ケアハウス花屋敷と花屋敷栄光園の両栄養士が協力し、花屋敷せいの里全体の食事運営を改めて考える事が出来た 1 年であった。適温で、食べやすい食事の提供と季節を感じてもらえる献立、嚥下状態に合わせた調理の工夫等進めることができた。

(イ) 10月からは、給食委託業者が変わり、トラブルも多発した。入居者が楽しみにしているクリスマスディナーが出せず、苦しい思いもしたが、栄養士の尽力により、少しずつ食事の質は改善しつつある。しかし、物価・人件費の高騰により、現在の徴収費用では限界があることも感じており、今後の課題である。

6. 実際の災害発生時に動けるよう、入居者の力を最大限生かした夜間想定防災訓練の実施

10月に夜間想定で花屋敷栄光園の職員が避難誘導をする形で訓練を行ったが、慣れない施設で効果的に動くことが困難と改めて認識した。そこで、避難したことが誰にも一目瞭然にわかるよう、マグネット式の表示板を作成し、同時に階毎に役割を持ってもらう方を任命し、再度夜間想定防災訓練を実施した。結果、確認に要する時間が減ったこと、入居者の避難に対する意識が高まったことは大きな成果である。2019年度は更に進化した形で訓練を実施していく。

7. 地域の方々が最期まで自分らしく、望む場所で過ごすことができるよう、在宅事業所・施設が連携して、新たなサービス提供について検討・実施する

地域の方を支える新たなサービスを検討した。目指す方向は定まったが、場所の問題などがあり、計画できなかった。引き続き検討を続け、実行に移すことが必要である。

8. 地域における公益的な取組

(ア) 地域の方が集える場所の提供（園の喫茶コーナー、サロン活動、介護者の集い等）

(イ) 近隣の幼稚園・小学生と高齢者との触れ合いの場の提供

(ウ) 宝塚安倉安心ステーションの継続

(エ) サロンや地域活動の場所での相談支援や介護教室などの実施

【入居者状況】（2019年3月31日時点）

(ア) 年齢

	人数（名）	最高年齢（歳）	最低年齢（歳）	平均年齢（歳）
男性	18	96	74	85.7
女性	81	100	69	86.7
合計	99			平均（86.5）

(イ) 介護度内訳（名）

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
23	20	15	10	0	0	0	68

(ウ) 入居前居住地（名）

宝塚市	40	市外（他府県込）	59
-----	----	----------	----

【数値実績】

定員（名）	100
稼働率（%）	99
単価（一人一日：円）	4,249
総収入計（千円）	153,548
職員数（名）	12.4

## 聖隷ケアセンター宝塚第2

### 宝塚第五地区在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション山本

聖隷ケアプランセンター花屋敷

#### 1. 専門職としてのスキルを向上させる

(ア) OJTについては、事業所内だけでなく、同法人事業所との会議や派遣業務を通じて実施することができた。スタッフそれぞれの課題を見つけることができ、専門職としての質の向上に繋げることができた。

(イ) ケアセンター内での合同勉強会では、看取りをテーマにした勉強会や他職種連携をテーマにした事例検討会を実施することができた。

(ウ) 外部研修についても、計画的に実施することができた。

#### 2. 宝塚東地区における事業展開を具現化させるための準備をする

(ア) 事業展開については、看護小規模多機能型居宅介護事業所の開設を目指し、協議を重ねたが、具体的な計画策定には至らなかった。

(イ) リーダー職員の育成については、リーダーの役割を担う職員を任命、会議体の設置を行い、意識づけを行った。業務上の役割遂行については順次進めている。

(ウ) 両事業ともに、事業の安定・拡大に向けて取り組みを行ったが、職員の退職や、増員が計画通りに進まず、事業規模の拡大には至らなかった。

2019年度は、まずは事業を安定させ、事業拡大を図りつつ、今後の事業展開を見据えたリーダー職員の育成を計画的に行っていく。

#### 3. 地域における公益的な取組

地域包括支援センターや地域住民が主体となって開催する活動へは、要請を受けて参画する機会は多くあったが、自らが主体的に地域に出向く機会を設けることができなかった。専門職としての地域の事業所とのネットワーク構築については、看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・介護支援専門員それぞれの立場から会議への積極的な参画は実施できた。

#### 【数値指標】

聖隷訪問看護ステーション山本

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
医療	34人	248件	2,971件	9,888円	87,644千円	13.2名
介護	88人	458件	5,498件	8,801円		
予防	16人	82件	991件	8,801円		

聖隷ケアプランセンター花屋敷

年間請求件数		平均単価（円）		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防	62,054千円	10.2名
3,595件	317件	17,210円	3,929円		

# 介護老人福祉施設 聖隷カーネーションホーム

特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム  
聖隷カーネーションホームデイサービスセンター  
聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうっこ  
聖隷ケアプランセンター淡路・聖隷在宅介護支援センター淡路  
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ

2018年度は、介護報酬改定によって明確にされた「医療・介護の連携」、「地域共生社会の実現に向けた取組み」、「高齢者の自立支援と要介護状態の重度化防止に向けた取組み」等の推進を念頭に置きつつ、施設の機能の向上と役割の拡大に注力した。結果、施設機能面において入所・在宅ともに重度認知症対応力の強化と受入拡大、リスクマネジメントの強化による重大事故の抑制、淡路エリアにおける新規事業計画の進捗支援など一定の成果が得られた一方、ICT化や介護ロボット導入など職員負荷の軽減や、障がい児者福祉ニーズの発掘・支援などの面では、今後も一層の努力が必要である。2018年度事業における「できたこと・できなかったこと」を踏まえ、聖隷カーネーションホームが「支援を必要とされる方々」と「支援の担い手である職員」の双方にとって一層魅力のある施設になれるように2019年度事業計画の推進に繋げていく。

## 1. 「選ばれ続ける」サービスの提供

- (ア) 運営推進会議や営業リサーチ活動を通じてニーズの発掘に努め、認知介護及び機能訓練の利用増加に繋げることができた。
- (イ) 多層分析・多角分析によるリスクアセスメントを導入し、一定の成果があったが、今後も継続・浸透させていく必要がある。
- (ウ) 他法人と連携し、一般の方を対象とした「体験型介護講座」を開講した。

## 2. 「安心して暮らし続けられる」取り組みの継続、新サービスの創出と定着

- (ア) 利用先のない、あるいは他法人で対応困難な認知症利用者を積極的に受け入れた。
- (イ) 淡路エリアとして、行政の保健福祉計画・障害福祉サービス等との整合性を図りつつ新規事業（岩屋地区・津名地区）の協議を進捗させることができた。
- (ウ) 訪問看護ステーション及び聖隷淡路病院と連携し、通所介護における機能訓練の充実を図り、新規利用に繋げることができた。退院カンファレンスへの参加機会及び病院からの紹介ケースも前年度より増加している。

## 3. 多様な人材が活躍できる環境の創造、事業継続の原動力となる人材の開拓、確保、育成

- (ア) エリア内拠点が協働して「介護職員初任者研修」を開催し、人材の開拓・確保に努めた。
- (イ) 特別支援学校の生徒を、実習の受入から新規採用に結びつけることができた（1名）。
- (ウ) 人事交流による職員の循環を実施し、キャリアパスの多様化に努めた。

## 4. 省力化による生産性、効率性の向上

- (ア) 介護支援システム活用範囲の拡大及び記録等の省力化を促進したが、まだ活用余地が残っている。介護ロボット・介護機器の導入にも至らなかったため、取組を継続する。
- (イ) ケアサポーターの試行を開始したが本格導入に至らず、2019年度も継続して取り組む。

(ウ) 多様なキャリアアップを意識した目標設定を推奨したが、認知症分野以外では資格取得や研修受講には至らなかったため、今後も啓蒙を続けていく。

#### 5. 地域における公益的な取組

(ア) 要介護度が要支援状態から非該当に変更になることで生活スタイルが激変し、生活が困窮しないために、低額の有償サービス「生きがい対応型デイサービス」を継続実施した。

(イ) 「認知症予防講座（年5回）」「さわやかろうご講話（年1回）」等を通じて、地域住民に介護や認知症への理解を深めてもらう機会とすることができた。

(ウ) 聖隷在宅介護支援センター淡路が中心となり、淡路市 LSA 事業「高齢者住宅安心確保事業」を継続して実施した。

#### 6. 運営安定化の推進

(ア) 取得可能な加算の算定管理を行うとともに、必要な人員配置ができるように努めた。

(イ) 消耗備品・業務委託における取引業者や内容の見直しを行い、コスト低減に努めた。

(ウ) 在宅・福祉サービス事業部運営管理部のサポートを受け、施設・設備の維持・更新を計画的に行うことができた。

#### 【数値実績】

	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	総合事業	認知症対応型
利用者定員	54名	16名	30名	(30名)	12名
利用者延べ人数	18,841名	5,711名	5,938名	769名	2,832名
一日平均利用者数	51.6名	15.6名	19.2名	2.5名	7.7名
稼働率 (%)	95.6%	97.8%	72.4%		64.6%
稼働日数 (延べ)	365日	365日	309日		365日
平均介護度	3.77	3.26	1.91	—	2.27
単価 (一人一日当り)	11,568円	10,999円	9,077円	5,056円	10,978円
サービス活動収益 (千円)	217,884千円	62,632千円	57,760千円		30,854千円
職員数 (常勤換算)	28.8名	7.3名	9.7名		5.6名
	聖隷ケアプラン センター淡路		聖隷はぐくみ		聖隷在宅介護 支援センター淡路
年間請求件数	介護	1,910件	34件		
	予防	393件			
平均単価 (円)	介護	15,929円	18,921円		
	予防	3,999円			
訪問調査年間件数	43件				
サービス活動収益 (千円)	32,175千円		643千円		7,262千円
職員数 (常勤換算)	5.1名		0.6名		1.2名

## 淡路栄光園

2018年度、介護報酬の改定や介護職員の減少など著しく変化する社会情勢の中、淡路栄光園は職員の様々な取組みにより、利用者によりよいサービスを提供することができた。とりわけインフルエンザ感染という社会的に注目を浴びる分野において、発症者を1人も出さなかった点は大きな成果であった。また厳しい職員体制のなか各職場が協力し、勤務の形や介護周辺業務の職員との連携を実践し、利用者の生活を守ることができた。訪問看護との連携でリハビリテーションの提供を開始、また急増するショートステイの需要に応えるべく細かなベッド調整をするなど、地域の介護ニーズへ応えることができた。園全体としては、台風による外壁の損傷や倒木による通勤ルートの遮断、相次ぐ停電などの被害を受けたが、利用者や職員に大きな影響なく復旧にあたることができた。これら職員による1つひとつの取組や成果により淡路栄光園の事業と利用者の生活を守ることができたと考える。

2019年度、淡路栄光園は20周年を迎えるが、人材や施設整備、今後の事業展開について多くの課題が残されている。これまでに培ってきた利用者の為の思いと技術、1人ひとりの職員が課題や仕事を見つけ、取り組む姿勢を2019年度以降も継続し、利用者や地域にとってよりよい施設としてありつづけたい。

### 【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

### 【経営方針】

1. サービスの質の向上と地域ニーズへの対応に努める。
  2. 安定した人材の確保と育成、多様な人材が活躍できる職場作りに努める。
  3. 利用者の為に、1人ひとりの職員が最高の力を出せる組織作りに努める。
  4. 社会福祉法人としての使命を追求する。
  5. 安定的な事業継続の推進に努める。
- 
1. サービスの質の向上と地域ニーズへの対応に努める。
    - (ア) 医療法人新淡路病院（精神科）の院長を職員研修の講師として招き、勉強会を実施。認知症及び精神科疾患の利用者に対するケアの質の向上につながった。
    - (イ) 利用者リスク等に関する毎日のミニカンファレンスを開始。利用者のリスクを軽減できた。
    - (ウ) 通所介護で平日5日間のリハビリテーションを訪問看護との連携で開始し、利用者の満足度向上、新規利用者の増加につながった
    - (エ) 地域や行政とのつながりを強化し、岩屋地域内での事業展開に向けての要望を確認。今後の足がかりをつくることができた。
  2. 安定した人材の確保と育成、多様な人材が活躍できる職場づくりに努める。
    - (ア) 介護の周辺業務を担うパート職員の増員に成功。業務整理を行い、人員不足の補強に成果

を得た。

(ウ) パート職員の増員は図れたものの、正職員体制の安定にはつながらなかった。

3. 利用者の為に、1人ひとりの職員が最高の力を出せる組織づくりに努める。

(ア) 入居部門その他の会議体を整理集約し、会議の効率化を図れた。

(イ) 入居部門の勤務内容を集約分析し、効率的な勤務体制を組むことができた。

(ウ) 事故報告の記録業務をウィンケアで実施し、業務自体や書類の効率化を図れた。

4. 社会福祉法人としての使命を追求する。

(ア) 地域サポート型施設を継続実施し、2019年度より兵庫県知事認証施設の実績を得た。

(イ) 生きがいデイサービス事業は継続的に実施できた。

(ウ) 地域向け研修会は計画的に実施することができ、地域に開かれた施設として成果を得た。

5. 安定的な事業継続の推進に努める。

(ア) デイサービスでの個別リハビリテーション加算など新たな加算取得ができた。人員に配置変更を行い小規模で安定的な運営を行う体制が作れた。

(イ) オムツの業者変更によるコストカットと排泄ケアの質の向上を図ることができた。

(ウ) 淡路エリア営業会議を通じ、営業活動を強化。ショートステイやエリア内の他事業の利用率向上につながった。

#### 【数値実績】

特別養護老人ホーム・通所介護・地域密着型サービス

	淡路栄光園		デイサービスセンター	
	特養入所	短期入所	通所介護	
	従来型		一般	介護予防
利用者定員	60名	17名	35名	
利用者延数	20,974人	6,281人	4,966人	973人
一日平均利用者数	57.5人	17.2人	16.2人	3.2人
稼働率(%)	95.8%	101.2%		
稼働延日数	365日	365日	308日	
単価(一人一日)	11,582円	11,254円	8,486円	
サービス活動収益	243,277千円	70,686千円	50,551千円	
職員数(常勤換算)	35.2名	6.4名	11.4名	

# 聖隷ケアセンター津名

聖隷訪問看護ステーション淡路

聖隷ケアプランセンター淡路第二

聖隷ヘルパーステーション淡路

2018年度、医療機関との連携を強化しターミナルケアや看取り支援等、積極的な活動を行ったことで、訪問看護ステーションは機能強化型訪問療養費Ⅰを算定する大規模ステーションとなった。その為、医療依存度の高い利用者への対応機会が増加し、広域での活動を余儀なくされている。今後もICT（タブレット端末の利用等）を活用して効率的かつ効果的な在宅支援が継続できるよう、ケアセンター職員一丸となって研鑽を積む必要がある。

## 1. 地域から選ばれる在宅支援を実施する

- (ア) 利用者を尊重した適切で満足度の高いサービス提供を行う為に、定期的なカンファレンスを実施し、個別性のある看護を提供した。又、内部研修の実施や外部研修への派遣を通じたスキルアップの向上や、満足度調査の結果を踏まえたケアの改善を行った。
- (イ) WINCARE の活用で情報共有の充実を図り、業務の効率化と広域での支援体制を確立した。
- (ウ) 看護と連携したリハビリテーションの実施により、利用者の体調管理を充実させることができた。

## 2. 乳幼児から看取りまで、全ての方々へ効果的な支援ができる

- (ア) 医療的ケア児への支援を充実させる為、小児の訪問看護研修や医療的ケア児コーディネーター研修等を受講し対応力の強化を図った。
- (イ) ターミナルや重度者の受け入れ、看取りもできる事業所として地域での認知度が向上した。
- (ウ) 看取り件数の増加により、機能強化型訪問看護療養費Ⅰを算定できる事業所となった。
- (エ) 個別機能訓練等、病後児保育の対応等、エリア内での看護・リハビリテーションのサポートを行った。

## 3. 重度者への支援を充実させる

- (ア) 喀痰吸引等研修実技指導を4名のヘルパーに実施し、難病等の利用者支援ができています。
- (イ) 居宅・訪問介護・訪問看護が協働したがん末期や難病患者への対応が増加した。
- (ウ) 淡路健康福祉事務所保健師等との連携で、障がい者への支援依頼が増加している。

## 4. 地域における公益的な取組

- (ア) 多職種を対象とした学習会を4回実施した。
- (イ) 困難事例等、関係機関からの相談対応を行った。
- (ウ) 平成淡路看護専門学校・関西看護医療大学の在宅看護実習を受け入れた。
- (エ) 兵庫県看護協会が主催する「まちの保健室」活動で、健康相談や講話を年9回実施した。



(オ) 小学校での医療的ケア児訪問を実施した。

【数値実績】

聖隷訪問看護ステーション淡路

	月訪問件数	年訪問件数	平均単価 (円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
医療	351 件	4,213 件	11,891	50,267	22.8 名
介護	1,091 件	13,089 件	7,611	99,080	

聖隷ケアプランセンター淡路第二

年間請求件数		平均単価 (円)		訪問調査 年間件数	サービス活動 収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
介護	497 件	介護	12,097	14 件	6,045	1.3 名
予防	107 件	予防	6,841		732	

聖隷ヘルパーステーション淡路

	月訪問件数	年訪問件数	平均単価 (円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
介護給付	1,100 件	13,198 件	3,663	45,078	22.5 名
予防給付	276 件	3,307 件	14,829	8,571	
自立支援	452 件	5,423 件	4,268	23,145	
移動支援	78 件	940 件	2,103	1,977	

# 聖隷こども園夢舞台

2018年度は、新園舎に移転して129名の園児でスタートし、年度途中入園児を含め147名の受け入れとなった。新しい環境の中で園児が安全で安心して過ごせるよう、職員間の連携を図りながら、子どもや保護者との信頼関係を深めていくことができた。また、保育の質の向上を目指す中で、様々な研修会への参加機会を通じて学びを深めていくことができた。

1月より淡路市で初となる病後児保育事業の運営を開始した。利用人数は少ないものの、広報活動と地域への働きかけを進めていくことで、近隣地域の認知度を高めて利用につなげていきたい。

また、積極的に地域との交流を図り、岩屋地区の他機関・団体との繋がりを大切にしつつ、事業を継続することに努めていきたい。

## 1. 入所状況

4月に新入園児23名を迎え、0歳児4名、1歳児16名、2歳児13名、3歳児42名、4歳児24名、5歳児30名、合計129名でのスタートであった。

## 2. 重点目標及び重点施策への取り組み

### (ア)保育内容

#### ① 統合保育の実践

障がい児5名（障害者手帳1名・療育手帳4名）、発達が気になる児：5歳児3名、4歳児2名、3歳児7名、2歳児4名、1歳児5名（市の巡回相談にかかっている児）が在籍し、淡路市の巡回指導や発達心理相談、保健師による発達が気になる子どもの対応についての助言・指導を受けながら他機関と連携して進めていった。

#### ② 交流

小中学校の行事に参加、独居老人、保育実習生、老人会、婦人会、社会福祉協議会、消費者団体、漁協など、地域との関わりを深めることができた。

### (イ)地域ニーズに対応

#### ① 延長保育

地域の特性上、18:00～19:00の延長保育を利用する児童の数は少ないものの、少人数で家庭的な保育を展開していくことが出来た。

#### ② 一時預かり

年間延べ利用者数312名（内1号24名）。一時預かり事業への問い合わせが多く、年間を通じて定期的に預かる子に加えて緊急の要望にも可能な範囲で対応を行った。

#### ③ 病後児保育

1月より開設。登録児と利用児は少ないものの、市内の周辺保育所に「ほけんだより」の配布、病後児保育事業の案内や説明を行った。

### (ウ)職員研修

事業団が主催する「あゆみ合同研修会」「宝塚保育学会」「淡路地区聖隷学会」「聖隷保育学会」に参加したり、宝塚地区の保育園で「聖隷の保育」を見て学ぶ機会を数多く設けたりすることで職員の意欲の向上や見識の広がりにつながった。自己評価の分析・評価を行うことで、今後取り組むべき課題が明確になった。

### 3. 地域における公益的な取組

- (ア) トライやるウィークでは、地元中学生の職場体験実習の受け入れ、希望する高校生・大学生のボランティアの受け入れを積極的に行った。
- (イ) わいわいクラブ(淡路市主催の未就園児を対象とした子育て支援事業)との連携として、こども園の行事に参加を促すことができた。
- (ウ) 近隣の方々に対して、園の行事への招待や訪問を行った。
- (エ) 淡路地区の高齢者施設との交流や訪問を通し、世代間交流の機会を持つことができた。

#### 【数値実績】

##### ① 歳児別入所児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	4	4	5	6	7	7	8	8	8	9	9	9	84	7
1歳児	16	16	16	16	18	20	21	21	21	21	21	21	228	19
2歳児	13	13	13	13	14	15	15	16	16	16	16	16	176	14.7
3歳児	42	42	43	43	44	45	45	45	45	46	46	46	532	44.3
4歳児	24	24	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	298	24.8
5歳児	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30
合計	129	129	132	133	138	142	144	145	145	147	147	147	1678	139.8

##### ② 保育日数及び出席状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延人数	2345	2461	2585	2415	2418	2185	3018	2810	2432	2262	2592	2807	30330
保育日	24	24	26	25	26	23	26	24	23	23	23	25	292
日平均	98	103	99	97	93	95	116	117	106	98	113	112	104
一時預り	7	28	34	50	22	5	16	17	17	25	33	34	288
一時(1号)	0	0	0	0	0	1	5	4	4	4	6	0	24
病後時保育										2	0	1	3
延長保育	72	96	148	99	113	138	159	180	137	153	176	186	1657

##### ③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
保育教諭(バ)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
保育補助	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(バ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	30	30	30	30	30	30	30	31	31	31	31	31

# 奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園・デイサービス・ホームヘルプ事業所  
訪問入浴事業所・在宅介護支援センター・春日デイサービス  
・聖隷チャレンジ工房カナン

2018年度は、職員確保が厳しい中、勤務体制や業務改善に取り組むとともに、年間を通じた稼働率の回復維持に全職員で取り組むことができた。また、奄美佳南園デイサービスを通所介護から地域密着型通所介護への変更したことや基準該当生活介護の開始、在宅生活における訪問介護や訪問入浴介護の身体介護を中心としたサービス提供、在宅介護支援センターの職員が障害者相談支援事業の実施に取り組んだ。

奄美エリアの将来を考えた介護職員や保育士採用の取り組みとして、鹿児島市内の大学等への求人活動の実施、人材育成の取組として、奄美エリアでの階層別研修（1年目～2年目）の実施による職員定着に努めた。

2019年度は龍郷町での聖隷かがやきの移転新築工事が完了し、質の高いサービス提供に向け、これまで以上の業務支援など、奄美エリアの事業価値を一層高め、年齢や障害の有無にかかわらず途切れないサービス提供を実践し、安心して暮らせる地域づくりに貢献する。

## 【事業実績】

### 1. 利用者満足向上のための取り組みとして

- (ア) 施設サービスにおいて、ターミナル期への介護に重点に置くとともに、医療的ケア対応強化するために認定特定行為業務従事者を4名追加配置できた。
- (イ) 衛生管理・感染症の蔓延防止への取り組みを強化するとともに、入院後に定期的な病室訪問実施により、利用者の入院期間の減少に取り組んだ。（年間入院日数 518 日減）

### 2. 職員満足向上のための取り組みとして

- (ア) 特殊寝台浴槽の設置、腰部サポートウェア導入による介護職員の負担軽減に努めた。
- (イ) 介護テクニカルラダー・相談支援スキルラダーの運用・活用の浸透により専門職の質の向上及び技術確認等の安定化がなされた。

### 3. 事業の成長と安定した運営基盤の構築として

- (ア) 奄美佳南園デイサービスでの地域密着型通所介護事業への指定変更並びに、基準該当生活介護事業の開始により、高齢者と障害を持つ利用者がサービスの利用促進がなされた。また、在宅介護支援センターの職員を相談支援のぞみ園と兼務し、障害者の計画相談を作成した。
- (イ) 新たな障害ニーズの発掘、各サービスの稼働率・再利用率の向上のため、奄美エリアに関係する事業所全体で営業活動の実施と定期的な評価を行った。また現利用者についても長期入院者の定期的フォロー、待機上位者の現況把握の取り組みにより、1.64%（540名）の稼働率回復と安定ができた。

### 4. 地域における公益的な取組

- (ア) 高齢者・障がい者の孤立防止として、独居世帯や高齢者のみ世帯への見守り確認を実施、春日デイサービスセンターや在宅介護支援センターを活用した「ゆていもれ会・サロン」

の実施により、高齢者等の居場所づくり・生き甲斐づくりに努めた。

【数値指標】

	特養入所		短期入所		訪問給食	生活困窮
	従来型	ユニット型	従来型	障害		一時生活支援
利用者定員	50名	30名	10名			
利用者延べ人数	17,654名	10,638名	3,342名	220名	25,856名	432名
一日平均利用者数	48.37名	29.15名	9.16名	0.60名	71.23名	1.18名
稼働率	96.74%	97.17%	91.60%	6.00%		
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	365日	363日	365日
単価 (一人一日当り)	11,812円	14,391円	11,232円	9,595円	670円	6,000円
サービス活動収益	208,528千円	153,089千円	37,537千円	2,111千円	17,324千円	2,592千円
職員数(常勤換算)	31.4名	18.6名	6.1名		4.9名	
	奄美佳南園デイサービス				春日デイサービス	
	地域密着	介護予防	生活介護		地域密着	介護予防
利用者定員	18名				15名	
利用者延べ人数	3,531名	209名	240名		2,049名	1,672名
一日平均利用者数	10.90名	0.65名	0.74名		6.67名	5.45名
稼働率	60.56%	3.61%	4.11%		44.47%	36.33%
稼働日数(延べ)	324日	324日	324日		307日	307日
単価 (一人一日当り)	9,747円	5,230円	7,300円		10,073円	4,719円
サービス活動収益	34,415千円	1,093千円	1,752千円		20,640千円	7,890千円
職員数(常勤換算)	8.7名				5.0名	
	訪問入浴介護		ホームヘルプ		聖隷チャレンジ工房カナン	
	介護	障害	介護	障害	移行支援	継続B
利用者定員					6名	14名
利用者延べ人数	600名	163名	4,792名	1,075名	531名	1,860名
一日平均利用者数	1.94名	0.53名	13.16名	2.95名	2.05名	7.18名
稼働率					34.17%	51.29%
稼働日数(延べ)	310日	310日	364日	364日	259日	259日
単価 (一人一日当り)	15,543円	12,423円	4,082円	3,680円	10,275円	8,273円
サービス活動収益	9,326千円	2,025千円	19,561千円	3,956千円	5,456千円	15,387千円
職員数(常勤換算)	3.3名		7.0名		8.7名	
		年間利用数	稼働日数	単価	サービス活動収益	職員数(常勤換算)
在宅介護支援センター		1,511名	259日		5,950千円	1.8名
居宅介護支援	介護	901名	259日	16,462円	14,832千円	3.0名
	予防	348名	259日	4,158円	1,447千円	

# のぞみ園

児童発達支援センター、放課後等デイサービス、相談支援事業

2018年度は、施設機能の充実と経営の安定化、人材育成と雇用の定着、地域交流と地域貢献の3点を柱に、地域から信頼され地域に貢献できる施設運営に取り組み、安定した経営状態を維持することができた。

とりわけ、障がい福祉サービスの報酬改定に対応した加算取得、奄美エリアでの階層別研修・相談支援基礎研修実施や各専門研修派遣を通しての人材育成、大学・専門学校・高校を含めた新たな求人活動の実施、聖隷かがやきと合同の親子教室の開催と新築移転準備への協力などを実施することができた。

しかし、支援を必要とする子どもの増加、様々な問題を抱える家庭・保護者支援の必要性の増加、支援者間の連携不足や支援の継続性への課題など、福祉ニーズは多様化し、求められる役割もより複雑化してきている。

これらを踏まえ、2019年度は、施設の機能強化に加え、奄美エリア各施設と協力しながら、人材育成・雇用定着支援に力を入れ、各ライフステージに応じた切れ目のない継続性のある支援体制づくりを更に推し進めていきたい。

## 【事業・実績】

### 1. 児童発達支援センターとしての機能の充実と経営の安定化を図る

- (ア) 加算の見直しを行い、新たな体制加算を取得。また、強度行動障害支援者養成研修・医療的ケア児等コーディネーター養成研修に職員を派遣し、専門性の向上と新たな加算取得に向けた取り組みを行った。
- (イ) 保護者交流会3回、保護者会合同勉強会4回、小学校との情報交換会を開催することができた。ペアレントプログラムについては、実施資格認定講習に2名派遣し、講習担当職員の育成を行った。2019年度に春日保育園・聖隷かがやきと合同開催予定。
- (ウ) 奄美市の健診後のフォロー体制への参画、鹿児島県通所事業所連絡会と合同の支援者研修会の開催、奄美市障害福祉計画評価委員会・就学指導委員会への参画等により、地域の支援機関との連携強化に取り組んだ。

### 2. 人材育成と安定した人材確保

- (ア) 階層別研修（1～2年目）、相談支援基礎研修の開催、相談支援スキルラダーの運用、外部専門講師による職員研修会の開催3回、児童発達支援管理責任者育成1名、職員の専門性の向上に取り組んだ。
- (イ) 奄美の高校、専門学校への求人活動に加え、県内の大学・短大・専門学校への求人活動を通して人材確保への取り組みを行うことができた。（奄美エリア2019年度新卒採用内訳：奄美専門学校卒1名・県内短期大学卒1名・県外新卒採用者2名）

### 3. 地域交流と地域貢献

聖隷かがやきと合同の親子教室を年6回開催、福祉体験・看護実習・保育実習の受け入れ、手をつなぐ親の会、先輩保護者による講演会の開催などを行うことができた。また、子育てサークルや保護者同士の交流会などで地域の方々に施設を開放する取組を行った。

#### 【数値指標】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援	障害児 相談支援
利用者定員	25名		20名		
利用者延べ人数	6,528名	42名	3,811名	72名	591名
一日平均利用者	27.31名	0.18名	15.88名	0.30名	2.47名
稼働率	109.24%		79.40%		
稼働日数(延べ)	239日	239日	240日	239日	239日
単価(一人1日当り)	12,207円	12,357円	6,255円	18,417円	18,000円
サービス活動収益	79,689千円	519千円	23,838千円	1,326千円	10,638千円
職員数	14.2名	1.1名	5.8名	3.9名	

# 春日保育園

2018年度は、業務効率化のために導入した保育システムの活用により、保護者への連絡や職員間の情報交換が効率よく行われ、業務改善に繋がり、保育実践に取り組むことができた。

保護者支援として「親子教室」や「ペアレントプログラム」の開催により、困り感を抱える保護者へのサポートを開始した。また複雑な問題を抱える家庭への課題解決は行政等関係機関と共に連携を図りながら支援をすることができた。

0・1・2歳児の利用希望が増えたため、保育環境や保育の実践を検討し、行事開催場所や多年齢交流の見直しを図った。更に、子どもの様子や発達年齢に応じた状況を保護者へ伝えたり、保護者からの相談に丁寧に対応することで情報交換ができ、信頼関係が強化された。

また、奄美エリアにおける階層別研修会の開催や人材確保の取り組みの実践ができた。特にのぞみ園や聖隷かがやきとの保育・療育、食に関する情報交換や職員合同研修の開催等、連携を強化することができた。

保育士のキャリアアップ研修においては、離島奄美における会場での研修会が行われ、参加することができた。これからも専門研修を活かして保育士の専門性を高め、質の向上を図り、職員一人ひとりが施設理念に沿った保育実践に取り組んでいきたい。

## 1. 入所状況

4月当初108名（うち新入児24名受け入れ）で開始し、年度途中入園20名、退園5名であった。0歳児の入園希望が多く、年度末には全体で123名（うち0歳児20名）となった。年間入所率は定員120名に対し98.1%であった。

## 2. 保育の専門性の向上

（ア）島内外にて開催する保育に関する研修会やキャリアアップ研修会へ参加し、専門性の向上に努めた。

（イ）目標参画及び保育士ラダーの実践により、職員一人ひとりの質の向上に取り組めた。

## 3. 統合保育の実施と専門機関との連携

（ア）のぞみ園利用児童（9名在籍）を積極的に併行通園として受け入れ、情報交換を密にし、個別支援を実践した。

（イ）療育が必要な園児にのぞみ園の保育所等訪問支援により、個別の課題対応ができた。

（ウ）春日保育園独自の親子教室開催において、保健師の派遣協力ができた。

## 4. 地域における公益的な取組

（ア）中学校、高校の職場体験の受け入れ及び看護福祉専門学校、養成校の実習受け入れを積極的に実施した。

（イ）園庭開放（随時）、あそびのひろば（月1回）により、地域に在住する親子が利用した。

（ウ）ボランティアの受け入れを積極的に行い、地域の方に保育園を知る機会を設けた。

（エ）広報誌配布（月1回）による活動の報告や行事参加の呼びかけにより、地域の住民や子ども達への案内ができた。

（オ）奄美佳南園との交流により、高齢者等との世代を超えた関わりができた。



## 5. 食育と環境教育

(ア) 野菜や花作りを通して、実りの収穫体験や植物の成長過程を実感する取り組みができた。また収穫した野菜を給食室で調理、実食により食に対する関心の強化につながった。

(イ) クッキング活動を通して、料理への興味や関心を持つことができる様に取り組んだ。

## 6. 身体発達の向上

発達に合わせたリズムやわらべうたあそび、体操教室の実践で身体能力を高め、達成感の増進から自信を持って活動に参加する意欲の向上へとつながる取り組みができた。

### 【経営実績】

#### ① 歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	10	11	12	12	14	17	17	18	19	19	19	20	188
1歳	20	20	21	20	20	21	20	20	21	22	22	22	249
2歳	13	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	167
3歳	22	22	23	24	24	24	24	24	24	24	24	23	282
4歳	21	22	22	22	22	22	21	21	21	21	21	21	257
5歳	22	22	22	22	22	22	23	23	23	23	23	23	270
計	108	111	114	114	116	120	119	120	122	123	123	123	1,413

#### ② 保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ数	2,030	2,253	2,454	2,422	2,242	2,239	2,558	2,511	2,499	2,417	2,054	2,447
保育日数	23	24	26	25	26	24	26	24	23	25	23	26
一日平均	88	94	94	97	86	93	98	105	109	97	89	94

#### ③ 職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	9	10	11	11	11	11	10	10	10	10	10	9
保育士(パ)	12	11	11	11	11	11	12	12	12	11	11	11
栄養士(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員(パ)	2	2	2	2	2	2	2	2	4	4	4	3
保育補助(パ)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	29	29	30	30	30	30	30	30	32	32	32	30

# 聖隷かがやき

2018年度は、鹿児島県に協議を上げていた児童発達支援センターの施設整備協議が採択され、本事業が大きく前進する年となった。これにより聖隷かがやきは放課後等デイサービスを併設する奄美大島北部を支える2つ目の児童発達支援センターとなる。龍郷町を始め、この計画推進に関わった多くの方々に感謝したい。新たな建物は11月に起工され2019年7月に移転となるが移転に向け下記の準備等を行った。

通所する児童ニーズの増加への対応として職員を補充し、丁寧な療育サービス提供により、利用者の増加につながった。

2019年度4月からの学童期への支援として龍郷町と協議を重ね、放課後等デイサービス開設に向けた取り組みをした。

龍郷町や笠利町主催の就学支援委員会や親子教室への協力依頼を受け、参加することにより地域の療育施設としての存在が定着した。

今後の課題は、地域の期待に応える児童発達支援センターとしての機能の充実、専門的な職員育成、地域との交流を行い、北大島地区の施設の価値を高めていく。

## 【事業実績】

### 1. 児童発達支援事業での療育支援の取り組みについて

- (ア) 子どもの発達段階や成長に応じた関わり、個々の発達特性に応じた支援として、個別支援と小集団活動に取り組んだことにより、気持ちのコントロールや自分の思いを伝えることができるようになった利用者が増加した。
- (イ) 個別面談を実施し、具体的な家庭でできる支援方法を伝え、家庭、療育、保育所及び幼稚園等との共通した課題に対する支援ができるような個別支援計画を作成した。
- (ウ) 親子通園による食事場面における偏食や食べ方に対する具体的な支援方法や、心身の成長と言葉の発達に食がもたらす影響を家族に伝え、子育ての不安解消に努めた。

### 2. 地域との連携と強化への取り組みについて

- (ア) 就学期の保育所等訪問において、不安を抱える保護者と学校への支援として職員が学校へ訪問し、相互理解につながるカンファレンスを行った。
- (イ) のぞみ園、聖隷かがやき合同による親子教室開催により、参加する親子や地域ニーズを知り、発達支援へのつながりやその後の療育支援への見通しが持てるようになった。
- (ウ) 子どもの成長や発達についての研修開催（年3回）の参加や、春日保育園やのぞみ園との行事開催（運動会、夏祭り等）を実施した。

### 3. 就学児童への放課後等デイサービス開設への取り組みについて

- (ア) 当初、2018年度に開設予定で龍郷町と協議を行ったが、最終的に2019年4月開設で話がまとまると共に、町と一緒に開設に向けた準備ができた。
- (イ) 小学生から高校生までの学童期への療育支援として放課後等デイサービスプログラムに

よる自己選択、コミュニケーション作り、将来の自立に向けた支援内容等を開設に向けて準備した。

4. 職員が成長できる体制の確立に取り組みについて

(ア) 鹿児島県通所施設連絡協議会主催の研修等、外部研修へ参加した。

(イ) 春日保育園やのぞみ園や奄美佳南園との合同による研修開催が実施できた。今後は、相談支援等専門的な研修開催に取り組む。

5. 地域における公益的な取組

(ア) 行政主催の親子教室への参加が困難な保護者に対し、のぞみ園と合同による親子教室を開催し、不安の解消や、相談できる場づくりに向けた取り組みとして評価された。

【数値実績】

	児童発達支援	保育所等訪問支援
利用者定員	10名	
利用者延べ人数	1,904名	27名
一日平均利用者数	7.84名	0.11名
稼働率	78.40%	
稼働日数(延べ)	243日	243日
単価(一人一日当り)	11,368円	14,259円
サービス活動収益(千円)	21,645千円	385千円
職員数(常勤換算)	4.1名	

# 聖隷ケアセンター沖縄

聖隷訪問看護ステーションゆい

聖隷居宅介護支援センターゆい

聖隷デイサービスセンターゆい

2018年度、通所介護事業は開設2年目であるが、地域からの依頼も多く、順調な運営ができています。しかし、事業所内スペースの問題があり、今以上のニーズに応えられないという課題も含んでいます。訪問看護事業においては、当法人の居宅介護事業所からの紹介も含め、今までにない利用者確保ができるようになった。居宅介護支援事業所は、職員が定着していない課題があるが沖縄ケアセンター3事業所としての連携・協力体制は高めることができた。

今後の沖縄地区の事業展開として、読谷村との福祉計画の話もあり、当法人と読谷村との勉強会開催や、地域づくりとして読谷村役場職員の当法人浜松事業への見学会実施など、事業展開に繋がる動きが出来た。

## 1. 通所介護事業を軌道に乗せ、事業として成功させる。

- (ア) 他事業所で受けられない支援困難者を積極的に受け入れたことで、地域のケアマネジャーから信頼され紹介が増え、2017年度実績比約220%であった。しかし、予算達成率は約88%であった。
- (イ) 事業所スペースの問題でニーズに応えきれないこともあった。また、要支援利用者を受け入れたことで、要介護利用者の受け入れができないこともあったが、後半は少しずつ改善されている。

## 2. 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・他介護事業所など地域関係機関と信頼関係の強化を図る。

- (ア) 訪問看護においては、病院や居宅介護支援事業所への挨拶回り、懇親会・ケア会議・研修への参加により利用者確保につながった。
- (イ) 通所介護では地域包括支援センターからの困難ケースの相談等を積極的に対応することで信頼関係の構築ができた。

## 3. 地域活動への積極的な参加と地域における公益的な取組

- (ア) 訪問看護による嘉手納地区の高齢者遠足への付添い、認知症支援活動（RUN 伴）への参加など、地域活動に積極的に参加した。

## 4. ケアセンター内の「連携強化」と「働きやすい職場づくり」をする。

- (ア) 訪問看護、居宅介護支援事業所については、職員の離職があり、定着が難しかったが、毎日の朝礼やセンター会議等の開催により各事業所の状況・情報共有につながった。
- (イ) 事業所運営の方向性や目標を共有することでケアセンターとしての協力体制が取れるようになった。

## 5. 質の高い職員の育成

- (ア) 計画的に法人本部研修に参加した。また各事業所、地域で実施される研修会へ積極的に参加した。

## 6. 3事業所の経営の安定

- (ア) 訪問看護においては、過去5年で利用者数が月平均20人に達していなかったが、現在は36人と約1.8倍の増加となった。
- (イ) 居宅介護支援事業所は職員の離職があり、積極的な営業ができず、新規の利用者獲得に苦戦した。しかし、特定事業所加算Ⅲが6ヶ月間取得できたことで、2017年度実績

比約 165%、予算は達成することができた。

7. エコロジー活動も含めて、経費削減

(ア) 事業所内で使用する資料は裏紙を使用。夏季のエアコンの設定温度に注意する等エコロジー活動に努力した。

【数字実績】

1. 訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーションゆい）

月訪問件数 (件)		年間訪問件数 (件)		平均単価 (円)		サービス活動 収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
医療	介護	医療	介護	医療	介護		
47.6	124.9	572	1499	11,487	8,267	20,264	4人(3.5)

2. 居宅介護支援事業（聖隷居宅介護支援センターゆい）

年間請求件数 (件)		平均単価 (円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防		
661	277	12,390	4,367	9,912	2人(2.0)

3. 通所介護事業（聖隷デイサービスセンターゆい）

月平均件数(件)		年間件数 (件)		平均単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 3月末 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防	介護	予防		
327	79.3	3,924	951	8,255	5,357	37,152	9人(7.0)

## 聖隷こども園わかば

2018年度はニーズの高い乳児を中心に185名の園児を受け入れることができた。幼児クラスはまだ定員に達していないが、乳児の受け入れが多かったことから園としても安定した運営につながった。年度当初は充足していた保育士数だが、年度途中で体調不良による正規職員の退職があり、年度の後半は職員が協力しながら運営にあたっていった。職員にとって働きやすい環境を整えるためにも人材確保は今後も見通しを持って行っていきたい。

新制度においては保育の質の向上が求められており、より質の高い教育・保育を行っていくために、具体的に子どもの姿をどのように受け止めるか、子どもの心持をどうとらえるかの学びの一環として「フォトラーニング」を取り入れ、園内勉強会等で深めていった。職員一人ひとりが保育の質の向上を意識し、職場内研修及び外部研修への参加、保育環境の見直しを行うことで学びをいかした実践に取り組めたことは有意義であった。また、保育士の処遇改善の取り組みを活かし、職員の経験をもとに副主任・専門リーダー等の役割を担うことで、職員のキャリアアップにつながられるようになった。そして役割に応じた研修の受講も始まり、今まで以上に自分の役割を意識できるようになってきた。今後も役割をより明確にし、計画的に研修への参加を進めていきたい。そして職員の仕事に対するモチベーション向上に繋げていきたい。

今後も子どもたちの最善の利益を考え、子どもたちに対してより質の高い教育・保育の提供ができるよう保育内容の充実を図るとともに、職員にとって働きやすい職場環境の構築のために尽力していく。

### 【入所状況】

年間平均入所率は89.2%

途中入所は0歳児14名 1歳児2名 3歳児1名 4歳児2名 ・転居により3名途中退園

### 【重点目標及び重点施策への取り組み】

#### 1. より質の高い教育・保育を実践する

(ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、園児の発達を考慮して、0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していくことを目標として取り組みを進めた。乳幼児の理解に基づいた指導計画にあたっては、引き続き保育システムを利用することで、保育者の経験値に頼ることなく一定の視点を与えられPDCAサイクルを用いて保育の質の向上を目指す指針となった。

(イ) 乳幼児が自ら色々な発見をすることのできる環境設定や、継続して遊びを繰り返すことのできる環境づくりを目指し、子どもの姿をより丁寧に見ていきながら職員が一丸となり園内研修を進めることができた。なお、継続した取り組みについては、保育学会の場で発表し、講師からの助言や他園での実践を自園の取り組みに生かしていった。さらなる工夫を続けたい。

#### 2. 保育職としての専門性を高める

(ア) 職員一人ひとりが園の理念・目標を理解する中で、改めて子どもを丁寧に観る姿勢を、フォトラーニング等を通して学ぶことができた。

(イ) 保育士ラダーと自己評価の取り組みを通して、職員が自己の課題を明確にし、業務に取り組むことで資質向上につながった。

### 3. 独自の取り組み

(ア) 食育では、日々の食事体験を大切にするとともに、管理栄養士を軸に子ども・保護者に向けた食への意欲・関心を育てていく取り組みを継続的に行った。聖隷保育園こども園厨房職員による合同研修を開催し職員のモチベーション向上につながった。

(イ) 子育て支援ひろばでは、年間を通して多くの子育て親子が参加した。常設のひろば・妊婦支援・孫支援・発達に不安のある子どもへの支援、週1日は地域に出向いた出張ひろば等も行い、特に、相談事業に力を注いだ。

### 4. 地域における公益的な取組

(ア) 地域性を活かし、近隣施設との交流や、学生の受け入れ等を通して、世代間が交流できる機会を積極的に作った。また、園庭の開放や、電話による地域の子育て家庭に対する育児相談を行った。

## 【数値実績】

### ① 歳児別入所児童数 (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	10	12	13	14	15	16	17	19	21	22	23	24	206	17.1
1歳児	28	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	358	29.8
2歳児	32	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	395	32.9
3歳児	31	31	31	31	31	31	31	32	32	32	32	32	377	31.4
4歳児	33	32	32	33	33	32	32	32	32	32	32	32	387	32.2
5歳児	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	34	34	418	34.8
合計	169	173	174	176	177	177	178	181	183	184	184	185	2,141	178.4

### ② 保育日数及び出席状況 (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数	3228	3352	3497	3501	3149	2947	3917	3679	3347	3118	3541	3427	40,703	3392
保育日数	24	24	26	25	26	23	26	24	23	23	23	25	292	24.3
1日平均	135	140	135	140	121	128	151	153	146	136	154	137	1676	140
一時預かり	0	0	0	1	0	0	0	2	3	3	12	7	28	2.3
病後児保育	15	10	13	11	13	33	14	6	13	2	5	12	147	12.0
延長保育	25	31	56	78	64	45	119	87	67	56	65	84	777	64.7

### ③ 職員の状況 (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	21	21	21	21	20	20	19	19	19	19	19	19
保育教諭(パ)	14	14	14	14	13	14	14	14	14	14	14	14
看護師(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	0・4	0・4	0・4	0・4	0・5	0・5	0・5	0・5	0・5	0・5	0・5	0・5
事務員・用務員	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1
管理栄養士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士助手	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2
計(換算数)	38.8	38.8	38.8	38.8	37.4	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9

## 聖隷こども園桜ヶ丘

2018年度も0歳児クラスで定員の21名まで受け入れることができ、全体でも定員190名のところ184名の園児を受け入れることができた。2017年度と同様、近隣に新設の保育園が増えたにも関わらず、まだまだ1・2歳児クラスへの入所希望が多い為、2歳児の入所枠数を2名増やして対応した。

保育士処遇改善加算Ⅱの実施に伴い、職員一人ひとりが自分の役割が明確になり課題や目標が立てやすくなった。しかし、職員自身が主体的に学ぶ環境を整え、スキルアップやモチベーションアップにつなげることはできなかった。今後も保育士等キャリアアップ研修や外部研修に参加し、専門職としての資質向上を目指し保育実践に活かしていきたい。

2017年度から、保育システムの導入をして業務のICT化を図ったが、業務効率が上がらない部分については改善していく必要性を感じた。また、職員の資質向上を図ると共に職員が働きやすい環境を整えて人材確保にもつなげていきたい。

### 【入所状況】

4月は172名でスタートし3月末には184名となり、年間入所率は93.9%であった。0歳児はほとんどが兄弟枠で最終的には21名となった。障害児は一般5名、食物アレルギー児は2名の認定があった。年度末に職員の退職等により職員体制が整わず、一時預かりの受け入れは十分な受け入れができなかった。

### 【事業目標・重点施策への取り組み】

#### 1. 質の高いサービスを提供する。

(ア) 外部研修で学んだことを職員会議で共有し、個々の学びを園全体の保育に活かすように心がけた。

(イ) 園内研修では、幼児・乳児のグループに分かれて「環境」についての研究を深め、子どもが主体的に遊べる環境作りを行った。

#### 2. 安定した運営の意識を持つ。

(ア) 職員一人ひとりが省エネルギーやエコロジーに高い意識を持つまでには至らなかった。

(イ) 一時預かり事業への問い合わせが多く可能な範囲で受け入れを行った。年間を通じて、急な受け入れの要望には全て対応することは難しかった。

(ウ) 職員体制の不足から十分な環境整備が思うようにできなかったが、職員間で協力し運営にあたることができた。

#### 3. 地域における公益的な取組

(ア) 小・中・高校生の就業体験や、看護科及び保育科の学生の実習などの受け入れを積極的に行った。こどもと関わる経験を通し、将来保育者になりたいと思う学生がいた。

(イ) 地域の自治会やシニアクラブの方と年間を通した関わりが持てた。年々、保護者の理解も得られるようになり、行事への参加が増えた。子どもたちも名前や顔を覚えて共に過ごすことを喜び、世代間交流の良い機会となった。



#### 4. 環境を通して教育・保育の充実を図る

(ア) 隣家で借りている畑で季節の野菜を栽培し、子どもが中心となって世話をを行った。また収穫やクッキングを通して食への興味を深めることができた。調理師が、献立のメニューに関する絵本の読み聞かせをした。家庭にも掲示にて食育の発信を行った。

(イ) 保育室の家具の配置換えをして、コーナーを作り子どもが主体的に遊べる環境を整えた。また、職員間で玩具の勉強会を行い年齢、発達にあった玩具を提供し保育の展開をした。

#### 【数値指標】

##### ① 歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
0歳	9	10	12	14	14	16	17	17	18	18	19	21	185	15.4
1歳	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30
2歳	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	384	32
3歳	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	408	34
4歳	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	384	32
5歳	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420	35
合計	172	173	175	177	177	179	180	180	181	181	182	184	2141	178.4

##### ② 保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
延人数	3259	3400	3455	3434	3055	3009	3920	3562	3379	3068	3203	3448	40192	3349
保育日	24	24	26	25	26	24	26	24	23	23	23	25	293	24.4
日平均	135	141	132	137	117	125	150	148	146	133	139	137	1640	136.6
一時預かり	10	9	14	16	15	11	14	14	17	7	7	12	146	12.1
延長保育	31	54	54	56	34	54	54	42	69	42	63	59	612	51.0

##### ③ 職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	16	17	17	16	16	16	16	16	16	16	16	16
保育士(パ)	9.1	9.7	9.1	9.1	9.1	9.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員(パ)	3.7	3.7	3.7	3.7	4	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他	5	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5
派遣保育士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	36.8	37.4	36.8	36.8	37.1	37.7	36.7	36.7	36.7	36.7	36.7	36.7

# 聖隷こども園ひかりの子

2018年度は、「子どもの最善の利益と健やかな成長」「利用家族への丁寧な支援」を職員間で共有し、今まで以上に理念や方針に常に立ち返って具体的な保育の内容や方法を見直すことで、教育保育の質の向上に繋がるよう努めた。地域支援として学童保育や親子ひろば、発達に課題を抱える子ども対象としたエンジェルリトミック、子育て相談会いずれも安定した利用数があり地域の子育て家庭に向けて広く園をアピールする良い機会となっている。また、可能な限り一時預かりの受け入れを行った。質の高い保育や地域からの子育てニーズに応えるためにも職員間の連携と人材の確保は必須であると感じる。また、保育のICT化の運用方法には、まだまだ改善の余地があり業務の効率化に向けて一層の検討が必要であると感じる。

## 【入所状況】

4月新入園児39名、年度途中入所は0歳児16名、1歳児1名、2歳児2名、計19名であった。転居等家庭の都合で11名が退園した。年間平均入所率は83.7%であった。

## 【重点目標及び重点施策への取り組み】

### 1. 教育・保育の質の向上

- (ア) 子どもが自ら考え、主体となって遊び込めるよう園内研修で保育室や園庭の環境を見直した。子どもが遊び込む姿から片づけの様子を写真やビデオに残し、職員間で共有することで適切なアプローチ方法を学び合い実践した。保育学会では継続した取り組みについて発表した。講師からの助言や他園での実践を参考に更なる向上を目指したい。
- (イ) 発達に課題を抱える複数の園児に対しては、一人の職員が抱え込むことなく職種や役割が異なる職員が連携し、共同的な保育を展開することができた。また、個々の家族に対しては丁寧に関わることを心がけ、関係専門機関とも積極的に連携を図り、状況に応じたより適切な教育、福祉サービスに繋げることが出来た。

### 2. 職員の資質向上

- (ア) 保育士ラダーや自己評価を踏まえて、自己の課題や役割を具体的に見出し園外の研修に積極的に参加することで職員全体の保育力の向上を図った。限られた職員ではあるが、事業団保育職海外研修、幼稚園教諭免許更新講習に参加した。また、経験年数に応じてキャリアアップ研修（保健衛生研修、障がい児研修、乳幼児保育研修、マネジメント研修）にも参加して、より専門性を高めることができた。
- (イ) キリスト教保育、モンテッソーリ勉強会、保育環境の見直しなどテーマを決めて、定期的に園内研修を行い、職員間で共有することで実践に繋げるよう努めた。

### 3. 教育・保育関係機関との連携

- (ア) 小学校へのスムーズな移行のために、年長児保護者を対象に小学校長による講演会を開催した。保護者は熱心に耳を傾け、就学に対する不安を軽減、解消することができた。

### 4. 地域における公益的な取組

- (ア) 親子ひろばでは、地域の親子が安心して集える場を提供し、温かな雰囲気と対応を心がけた。職員や親同士が顔見知りとなり子育ての悩みや楽しさを共有できる場となった。

(イ) 地域の図書館にて、隔月行われるブックスタート事業に合わせて育児相談会を行った。気になるケースについては園内の親子ひろばに誘い、入園に繋げることが出来ている。

(ウ) ボランティア、実習生、インターンシップを積極的に受け入れた。

#### 5. 保育環境の改善、施設整備

(ア) 園児数の増加に伴い、水遊び用のプール、日よけテントを追加購入した。また安全対策のために移動式フェンスを購入した。

(イ) 園庭遊具、砂場の囲いの老朽化に伴う修繕と安全確保のため遊具の配置を見直し、園庭整備を行った。

#### 【数値実績】

##### ① 歳児別入所保育児童数(名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	10	12	14	16	18	19	21	22	21	21	23	23	220	18.3
1歳児	33	33	33	33	33	33	33	33	33	32	32	32	393	32.8
2歳児	36	36	35	36	36	35	35	35	35	35	35	35	424	35.3
3歳児	42	42	42	41	41	40	40	40	40	40	40	40	488	40.7
4歳児	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	444	37
5歳児	29	29	29	29	29	29	28	28	28	28	28	28	342	28.5
合計	187	189	190	192	194	193	194	195	194	193	195	195	2,311	192.6

##### ② 保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3615	3692	3708	3565	3135	3183	4061	3775	3560	3206	3504	3376	42380	3531.7
保育日数(日)	24	24	26	26	26	23	26	24	23	23	23	25	293	24.4
1日平均(名)	150	153	142	137	120	138	156	157	154	139	152	135	1733	144.4
一時預かり(名)	0	4	4	3	1	3	17	12	11	5	5	12	77	6.4
延長保育(名)	31	41	56	58	59	59	74	71	43	53	67	69	681	56.8
学童保育(名)	209	156	137	168	223	104	137	137	124	98	116	125	1734	144.5
親子ひろば(名)	56	63	42	54	32	71	76	43	31	64	57	18	607	50.6

##### ③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正・パ)	17・18	17・18	18・19	18・19	18・20	18・20	18・20	18・20	18・20	18・20	19・20	19・20
調理師(正・パ)	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6
看護師(パ)								1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員(パ)	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
保育補助・アルバイト	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・1	1・1	1・1	1・1	2・1	2・1
計	47	47	50	50	51	51	50	52	52	52	54	54

# 聖隷こども園めぐみ

2018年度は、聖隷こども園めぐみが和合せいれの里内に開設し2年目の年であった。2015年4月より施行された「子ども子育て支援新制度」では、事業所内保育所等の地域枠での入園児は連携園に必ず入園できる仕組みができ、当園は聖隷浜松病院ひばり保育園と聖隷めぐみ保育園の連携園となっていたため、両園から計11名の3歳児の入園があった。しかし、従業員枠で入園していた児童にとっては、3歳児入園の際、一般の入園申請と同様な手続きが必要となり、待機児童が多い中では入園が保障されないこともあり、保護者にとっては不安な状況であった。2018年度においては希望者全員が入園できたが、制度的な課題も感じている。

160名の定員の内訳は、3歳児以上の幼児の定員が70%、乳児は30%の割合であるが、乳児の待機児童が多いこともあり、開設1年目は全体の入園に対して乳児が55%であった。しかし2年目となった2018年度は幼児の入園の方が多く幼児が58%と逆転した。在園の乳児がスライドして幼児になっていくことに併せ、今後は、聖隷のあ保育園を含む3ヶ園の連携園となっていくこともあり、毎年幼児が増えていくことになるため、定員の見直しも必要となると考える。

保育士確保が課題となる中、当園は経験の長い職員に比べ、若手職員の割合が高い。しかし若手保育士が、積極的にクラス運営や行事などに取り組み、中堅、ベテラン保育士の指導の基で主体的に責任ある仕事ができたと感じたことは、園としても大変心強かった。聖隷の保育・教育施設として、目には見えないが子どもや保護者の方々の信頼も少しずつではあるが積み重ねることができたと感じる。今後はさらに、保育士としての仕事の喜びや生きがいを覚えながら、同時に専門職として知識や技術を身に付けていくことが出来る環境を今以上に整えていきたいと思う。

## 1. 入所状況

年間入所率は82.6%であった。13名の途中入園のうち、0歳児が7名（内兄弟枠4名）、1歳児が2名、2歳児2名、5歳児2名であり途中退園が2歳児2名（転居・家庭都合）であった。

## 2. 年度事業目標・年度重点施策

### (ア) 保育の質の向上

①処遇改善加算Ⅱに基づいた研修に参加する機会が増えたが、明確な役割を認識した実践にまでは至らなかった。また保育士ラダーは実施2年目であり、ガイドラインの理解不足があった。ガイドラインを理解することで聖隷の保育の質の向上に今後は繋げていきたい。

②聖隷保育学会に職員全体で関わり、こども園として方向性を示しながら、保護者にも情報提供をし、家庭と園との連携で子育てをしていく具体的な形を示すことができた。

### (イ) 和合せいれの里の施設利用者との交流

①保育、介護職においても聖隷の理念（ノーマライゼーション）の理解がお互いに十分でなく、施設利用者との交流は、具体的な実践までには至らなかった。

②聖隷めぐみ保育園とは、行事の取り組みや職員の交流が進められ有意義であった。

## 3. 子育て支援と地域における公益的な取組

(ア) 親子ひろばの開催や、育児講演会などを開催し地域の子育て家庭を支援していったが、

更に認知度をあげる必要を感じた。

(イ) 夕飯提供を試みたが食事時間や子どもの生活リズムなど総合的に考えると課題は残った。

#### 4. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

(ア) 保育システムを活用することで延長保育料計算など業務省力化が図れた。今後もシステムを有効活用しつつ専門職としてのスキルアップを図れるようにしていきたい。

(ア) 歳児別入所保育児童数(名) 入所率 82.6%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	7	7	8	8	10	10	10	11	12	13	13	14	123	10.3
1歳児	21	21	22	22	23	23	23	23	23	23	23	23	270	22.5
2歳児	23	23	24	24	23	22	22	23	23	23	23	23	276	23.0
3歳児	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	384	32.0
4歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
5歳児	18	18	19	19	19	20	20	20	20	20	20	20	233	19.4
計	126	126	130	130	132	132	132	134	135	136	136	137	1586	132.2

(イ) 保育日数及び延べ出席・利用状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数	2103	2404	2569	2656	2391	2227	2834	2664	2468	2377	3181	2495	30369	2531
保育日数	24	24	26	26	26	23	26	24	23	23	23	23	291	24
一日平均	88	100	99	106	92	97	109	111	107	103	138	109	1259	105
一時預かり	0	25	45	57	34	32	35	34	35	53	47	27	424	35
病後児保育	4	3	1	5	8	0	7	9	5	3	3	3	51	4.3
親子ひろば	10	17	10	16	2	3	8	13	7	6	3	5	100	8.3
延長保育	48	85	96	91	53	59	85	83	95	85	88	102	970	80.8

(ウ) 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(非)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	17	17	17	17	17	17	18	18	18	18	18	18
保育士(パ)	4	4	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6
保育補助	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
管理栄養士 (委託)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
計	26	26	27	27	28	28	29	30	30	30	30	30

# 聖隷浜松病院ひばり保育園

2018年度は、特に0歳児の従業員枠の利用が増え定員を大きく上回る入園があった。反面、1、2歳児は定員に満たなかった。例年1歳児は定員いっぱいでも途中で入園が厳しく0歳児時点での入園が増えたためと考えられる。地域枠はほぼ100%の在籍であった。幼児クラスの縦割り保育を開始して2年目となり利用者に受け入れられてきており、3歳児は例年より多い在籍となった。2018年度より学童保育も新運用でスタートし利用が増えてきた。これらの取り組みにより、今後も乳児、幼児、学童と安心して継続利用できる環境を整えていきたい。

また、新保育所保育指針の教育的視点を意識した保育活動に対して保育者の意識が高まってきている。指針の学びを現場の保育に益々反映させられる様、引き続き学びを深めていきたい。業務省力化についてはパソコンの台数を増やすと共に無線LANへの切り替えを図り、より効率よく業務が遂行できるようにし、職員の心身の健康維持を図ることができた。

## 1. 入所状況

年間平均入所率は72.0%、途中入所は0歳児が16名あったが、他は入退園それぞれあり同程度で推移。最終的には4月より16名増となった。

## 2. 重点目標及び重点施策への取り組み

### (ア) 専門性の向上を図る

- ①研修計画を作成し、職員個々にあった研修への参加ができるよう配慮すると共に、希望の研修にも参加できるように配慮した。
- ②保育士ラダーや自己評価を行い、個々の評価や課題を明確にしていった。
- ③専門講師による体操教室や英会話教室での経験は、保育者が受けた指導を日常の保育の中に取り入れることによって有効に活かされていた。

### (イ) 運営の安定化を図る

- ①光熱費に関しては省エネルギーなどに意識して行動できた。教材に関しても工夫しながら活動に取り入れていたが、園児の経験を広げる上では様々な素材に触れさせたい想いもあるので、コストも気にしつつではあるが充実を図っていった。
- ②職員間で声を掛け合い話を聞き、互いを尊重し合うことで働きやすい職場作りに繋がったのではないかと感じる。

### (ウ) 質の高い保育サービスの提供

- ①少人数保育や時間差保育を行いながら、一人ひとりにしっかりと目がいくよう配慮したとともに、保育室を効率的に使うことができるようパーテーションで仕切るなどして物的環境も整えることができた。
- ②聖隷保育学会や合同研修での情報交換を通し、聖隷のこども園・保育園との連携を図り、取り入れられる点は取り入れながら、自園の保育サービス向上につなげられた。

## 3. 地域における公益的な取組

### (ア) 人形劇団による人形劇招待

### (イ) 聖隷デイサービスセンター住吉の利用者と園児との交流

① 児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	6	8	9	10	13	15	16	19	20	20	22	22	180名	15名
1歳児	22	22	24	24	24	24	24	24	23	23	23	23	280名	23名
2歳児	25	25	25	25	26	26	25	26	26	26	24	24	303名	25名
3歳児	20	20	20	20	20	19	19	19	19	19	19	19	233名	19名
4歳児	11	11	11	11	11	11	12	12	12	12	12	12	138名	12名
5歳児	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120名	10名
計	94	96	99	100	104	105	106	110	110	110	110	110	1,254名	72.0%

②保育日数および延べ出席（利用）状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数(名)	1,718	1,866	1,893	1,850	1,814	1,760	2,142	2,126	1,965	1,893	1,801	1,815
保育日数	24日	24日	26日	25日	26日	23日	26日	24日	23日	23日	22日	25日
一日平均	72名	78名	73名	74名	70名	77名	82名	89名	85名	82名	82名	73名

③職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
保育士(パ)	9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
事務員/用務員	0/1	0/1	0/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1
計	32	33	33	34	34	34	33	33	33	33	33	33

## こうのとりの保育園

磐田市は、再編計画に基づき、新たなステージを迎えた。少子化がすすむ中でも、待機児が減ることはなく、右肩上がり保育利用児童数は増加している。保育士や保育教諭の資質向上を目的としたキャリアアップの仕組みの中で、こうのとりの保育園の職員も保育教諭として研修に積極的に参加し、受講認定を受けてきた。

現代はAI等のテクノロジーの進化により、ただ知識を「暗記」し再生することは重要でなくなり、これからは自主的に学ぶ姿勢をはじめ、態度や価値といった数値では測れないことが重要視されるようになった。今まで行ってきた保育に間違いはなかったと確信は持てるが課題として見えてきたことも多い。課題意識を持ち、聖隷ができることは何かを考え、今後も進みたい。

### 【入所状況】

4月新入園児13名、年度途中新入園児13名のうち、育休明け0歳児が12名で、年間入園率は121.9%であった。

### 【重点目標及び重点施策への取り組み】

#### 1. 保育の質向上への取り組み

##### (ア) 統合保育の実践

2018年度は、新たに1名の障がいのある児童の受け入れを行い、合わせて7名の障がいのある児童の在籍となった。うち1名は要支援児童である。市の関係機関（幼稚園保育園課・発達支援センター「はあと」「かるみあ」）と密に連携をとりながら、慎重に受け入れを行ってきた。そして、巡回相談を利用し、園に訪問してもらい、身体に障がいのある子どもへの関わり方を観てもらうことで、意見交換を行い、子どものよりよい成長発達を促進することができた。一時保育においては、必要に応じて、同年齢の集団と関わる機会をつくり、在園児と相互に関係し合うことで、それぞれの子どもの育ちに大きな変化があった。このことを通して、障がいのある子どもたちだけでなく、健常児の育ちに与える影響も大きいことが実証できる。一時預かりの利用延べ人数は、障がいの一時保育利用者数と合わせて1,518名で2017年度と比較すると1.5割以上の増であった。これは、市の保健師からの依頼と子育て総合支援センターのびのびから紹介されて来園するケースがほとんどである。その後の幼稚園等への就園もスムーズで、個別の丁寧な保育対応と少人数保育における他児との関わりが効果的に働いていることがうかがえる。一時保育を必要としている人は多く、2018年度も日数の調整を行った。

##### (イ) 歳児別・異年齢別クラスを更に小人数に分けた細やかな保育の実践

少人数に分けて保育を行うことを中心におくことで、子ども一人ひとりの姿を丁寧に捉えることができる。これは、新規採用職員の育成にも効果的で、指導保育士がそれぞれにつき、その意義や目的を伝えながら具体的な実践に結び付いていった。

#### 2. 利用者（保護者と子ども）を中心に置いた子育て支援

静岡理工科大学との協同で行っているアクティブチャイルドプログラムも保護者を巻き込んで、継続的に実践してきた。その結果、運動あそびへの興味関心が増し、家庭に帰って



からも子どもと一緒に運動遊びを行う家庭が増えた。

### 3. 職員の専門性を高め、働きやすい職場環境の整備

保育の質の向上をめざしキャリアアップ研修を受講し、教育・保育の専門性を身に付けることに繋がった。それぞれが自信と誇りをもって仕事に取り組む姿勢がみられた。

(ア) 園内研修(学習会・園内学会)、保育学会、福祉学会、聖隷合同研修(基督教保育研修)

(イ) 聖隷保育園浜松磐田地区初任者研修、保育士ラダーの活用(自己評価と上司面接)

(ウ) 外部研修…保育の質向上のためのキャリアアップ研修、給食研修、その他(視察)

### 4. 地域における公益的な取組

サマーショートボランティアの受け入れ(市内中高生)、学校探検(市内小学・高等学校)、泉町老人会の寿会との交流等を通して、多世代の方たちが子育てに関わり、子育てに興味や関心を持てるように継続して取り組んできた。地域に根ざすことを目的として進めた。

## 【数値実績】

### ① 歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	8	10	11	12	15	18	19	19	19	20	20	20	191	15.9
1歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	25	25	25	291	24.2
2歳児	27	27	27	26	26	26	26	26	26	26	26	26	315	26.2
3歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	26	323	26.9
4歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25
5歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28
計	139	141	142	142	145	148	149	149	149	151	151	150	1,756	146.3

### ② 保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2,656	2,652	2,794	2,749	2,491	2,504	3,069	3,069	2,746	2,448	2,767	2,779	32,724	2,727
保育日数(日)	24	24	26	25	26	23	26	24	23	23	23	25	292	24.3
一日平均(名)	110	110	107	109	95	108	118	127	119	106	120	111	1,340	111.6
一時預り(名)	67	85	117	129	121	116	162	138	142	108	168	165	1,518	126.5
延長保育(名)	112	83	96	92	69	63	97	90	80	56	67	53	958	79.8
学童保育(名)	37	1	0	38	123	0	0	0	0	0	0	16	215	17.9
休日保育(名)	12	10	9	15	11	21	16	27	17	17	20	30	205	17.0
病後児(名)	3	3	3	13	1	3	4	1	10	1	1	3	46	3.8
支援センター(名)	553	392	348	472	367	277	519	384	461	389	336	388	4,886	407.1

### ③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	16・25	16・25	16・25	16・25	16・25	16・25	16・25	16・25	16・25	16・25	15・25	15・25
看護師(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1
事務員(正・パ)	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2
補助他・アルバイト	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
計	54	54	54	54	54	54	54	54	54	53	53	53

\* 育児休職中職員1名

# 磐田市子育て支援総合センター「のびのび」

## 1. 子育て支援

2018年度は、8月に磐田市が大規模な子どものための遊びの場「にこっと」をオープンしたので利用者数に影響を与えると予想していたが、2017年度より利用者が37名増えた結果となった。また地域全体で子育てを行おうという磐田市の活動指標の一環として、交流センターを利用して「多世代交流コミュニティひろば」を年4回実施した。今まで子育て支援センターに関心が薄かった高齢者と交流を重ねる毎に子育て親子との触れ合いの輪が広がってきた事を実感できた。2019年度は、であいのひろばや多世代交流ひろばを通し、地域全体で子育てを行うネットワークを構築できるよう努力をしていきたい。

### 【利用人数】

大人	子ども	合計	月平均
12,366名	11,511名	23,877名	1,990名

### (ア) 育児相談

年間を通し一般的な相談内容は誰もが子育て中に抱える睡眠、食事、躰等についての内容が多かったため、負担や不安また孤立感を和らげるよう、利用者に寄り添っていく事を心掛けてきた。なおファミリーサポートや一時預かり保育の相談内容は、今の社会の複雑な人間背景が浮き彫りになっている事が多くコーディネートに苦慮した。

また子どもの発達についての相談と同時に母親のメンタル面が重なり相談も継続しているケースが目立っていた。

### 【相談数】

電話	面接	メール	出前	合計
907件	4,850件	178件	131件	6,066件

### (イ) 一時預かり保育

一時預かりの利用件数は2017年度より33件増え、ニーズの高さを感じられた。保育の大半は職員だけでは対応できないので、ファミリーサポートの援助者（主に有資格者）に依頼している。

館内で一般利用者と一緒に遊ぶので、一時預かりの保育者の顔ぶれが同じ事もあり、母親達と気軽に言葉を交わしている光景が度々見られ、育児相談をしている母親もいて良い効果をあげている。2017年度から導入した2歳以上の子対象の複数制の一時預かりは、希望の時間にばらつきがあるので利用が予想以上に伸びなかった。

### (ウ) 集団での療育「ピポパ」

2018年度は、延べ人数243名が参加し2017年度より倍以上に増えていた。1歳半健診で発達が気になると診断され不安を抱え育児相談をしに来るケースが目立っていた。月齢が低い子から希望してくるので、参加者の月齢差が2年位の開きがあり、集団的な遊びを提供するのに苦慮した。しかし、回数を重ねて参加する事で成長が見られる我が子に母親の表情が明るくなり親子関係にもよい効果が見られた。また母親同士悩

みを共有しあいながら会話を弾ませている光景が多く見られ、プライベートでも関わりをもつなど母親同士の繋がりも深まったようだ。

(エ) 季節の行事・イベント・子育て講座等

子育て講座は月 1 回母親達の子育ての資質向上を目的に専門講師を招いて実施しているが、参加希望者が多く母親達の関心の高さを感じた。またサーキット遊びや、おはなし劇場も月 1 回実施したが毎月楽しみにしている親子も多かった。

しかし、磐田市の子育て支援拠点の見直しの中で、イベント等よりも誰でも気軽に利用しながら子育てについても話ができるような寄り添い形支援の充実に目を向ける様方針が打ち出された。

2019 年度は講座やイベントの中で母親同士が関わりを深めながら子育てを行うネットワークが今まで以上に広がるような支援をしていけたらと思っている。

2. ファミリー・サポート・センター

(ア) 2018 年度利用者実績

	年間会員数	新会員数
依頼会員	867 名	94 名
援助会員	218 名	4 名
両方会員	97 名	7 名
合 計	1,182 名	105 名
年間援助回数	3,131 回	

(イ) 援助活動内容及び会員への活動

援助内容は、保育園・幼稚園の迎えが 603 回、子どもの習い事等の援助 602 回、放課後児童クラブ迎え 351 回、その他 344 回、保育園・幼稚園の終了後の預かり 296 回の順に援助が多かった。なお援助内容の中でその他が 344 回だった内訳として県立支援学校を利用している子をバス停まで送る援助と母親が精神疾患を抱えて子育てが思うようにいかず手助けが必要なケースも目立っていた。

(ウ) 会員への活動

援助会員のための養成講座を 6 月・11 月の 2 回開催。新規登録の会員数は、援助会員・両方会員合わせて例年に比べて少なく 7 人だった。援助会員が少なく依頼会員だけが増える傾向にあるが、働く場所が多い時代を反映している要因と考えられる。

2018 年度は受託して初めて援助中の事故が起きてしまった事から、事業の見直しをすると共に会員への事故防止の啓蒙を積極的に実施した。

3. 出前子育て支援センター（であいのひろば）

交流センターを中心拠点にして 2018 年度は、45 回実施した。子育てサークル、高齢者サロン主任児童委員、民生委員等と連携を深めながら進められた。磐田市の保健師主催の『まちの保健室』とコラボで実施するなど新たな繋がりも深まりつつある。

又遊びの提供だけでなく母親達からの育児相談も増えていると実感できた。理由としては「であいのひろば」の担当が 5 年以上変わらず続けた事で、地域からの信頼も厚くなった。

# 聖隷こども園こうのとり東

## 放課後児童クラブ“オリーブ”

2018年度は、幼保連携型認定こども園に移行した。隣接する旧磐田市立南御厨幼稚園の園舎は、解体され広い空き地となっている。これにより、幼稚園跡地を保護者及び職員駐車場として借用し、現在の園敷地内駐車場を園庭に変える準備が整った為、在宅・福祉サービス事業部運営管理部と協議を行い、安心安全且つ十分に体を動かすことができる園庭を造っていききたい。

教育・保育の視点では、主に ACP（アクティブチャイルドプログラム）と“子どもの表現”について、講師より学んだ。「子どもが夢中になって体を使ってあそぶ事ができるプログラムを考える」「自由に表現することができる言葉がけや絵を読み取る力」等、実践事例を元に職員間で学びを深め保育力向上につなげた。

放課後児童クラブは、年々希望者が増加している為、家庭環境を精査し、受け入れに伴う調整を行っていききたい。

### 1. 入所状況

幼保連携型認定こども園の移行に伴い、幼稚園枠（1号認定）15名の定員増となった。1号認定子どもは、6名の利用があった。2・3号認定子どもは、定員200名に対して189名の利用があった。

### 2. 年度事業目標・年度重点施策

#### (ア) 2018年度の事業の振り返り

①保育の質の向上：職員一人ひとりが保育理念を基に、こども園での教育・保育を意識し実践の振り返りを行う事で理解につなげた。特に、アクティブラーニング、モンテッソーリ、ACP、表現活動により、物的及び人的な環境設定の大切さを学んだ。中堅保育教諭が、保育の醍醐味を理解することで新人教育にもつながっている。

②保護者支援の実践：保護者総会にて、園の理念と目標、こども園での教育・保育を解りやすく伝えた。

グローバル子育ての実施：国際交流教会と共に、日本人と外国人が共に子育てを学ぶ機会となった。特に親子でクッキングは、毎回大好評である。日本の食材表示が理解できないという悩みを知り、質疑を行うことで解決を図った。

③統合保育・他機関との連携：発達に問題のある子どもに対して、保護者と保育者が状況等を共有し、療育に関する連携を進めた。また「磐田市発達支援センターはあと」「児童発達支援センター心愛つう」と繋がりを持ち、具体的な関わり方を学んだ。

虐待の危険が伺われる家庭や精神障害のある保護者の問題については、必要に応じて園と専門機関が連携し、子どもの安全や情緒を守ることができた。

④食育の推進と環境：田んぼ活動は田植え、草取り、稲刈り、脱穀、精米とお米になるまでの一連の流れを経験し、取れたてのお米を炊き味わった。栄養士・調理師・保育士が連携を取りながら、野菜づくりやクッキング等の活動を通し、子ども達や保護者に食の大切さを伝えた。

⑤放課後児童クラブ“オリーブ”

目的：「児童にとって居心地のいい居場所」「保護者にとって安心の場」「保育園にとって大きな異年齢の場」を提供する。

定員：40名

対象児童：市内1年生～6年生

(イ) 地域における公益的な取組

地域の高齢者と積極的に交流を図った。看護師による血圧測定や園児と共に行う行事や食事では、「元気を貰う」と喜んでもらい、一人暮らしの高齢者にとって楽しい時間を共に過ごすことができた。

また、園庭開放は看護師による身体測定をきっかけに育児相談につながり、地域の親子にとって良い場所になっている。利用者の増加も大きい1年だった。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	7	9	11	10	11	14	15	17	19	21	21	21	176	14.7
1歳児	33	35	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	428	35.7
2歳児	34	34	35	35	35	35	35	36	36	36	36	36	423	35.2
3歳児	38	38	38	37	37	37	37	37	38	36	39	39	451	37.6
4歳児	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30.0
5歳児	36	36	36	36	36	34	34	34	34	34	34	34	418	34.8
計	178	182	186	184	185	186	187	190	193	193	196	196	2,256	188.0

②保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数	3,367	3,166	3,442	3,465	3,037	2,963	3,913	3,854	3,447	3,167	3,346	3,366	40,533	3,377.8
保育日数	24	24	26	25	26	23	26	24	23	23	23	25	292	24.3
一日平均	140.0	131.9	132.3	138.6	116.8	128.8	150.0	160.5	149.8	137.6	145.4	134.6	1,666.3	138.9
一時保育	5	25.5	29.5	49.5	4	36.0	44.0	32.5	18.0	24.0	49.0	48.5	365.5	30.5
延長保育	40	37	61	78	54	50	80	89	81	83	100	98	851	70.9
学童保育	419	534	555	559	636	485	567	524	486	418	440	478	6101	508.4
病後児	1	3	13	12	6	4	2	4	12	2	5	3	67	5.6
外国人保育	20	20	20	19	19	17	17	17	17	17	16	16	215	17.9

③職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	20・16	20・16	20・16	21・16	21・16	21・16	21・16	20・17	20・17	20・18	20・18	19・18
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4
事務員(正～パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
補助他・アルバイト	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
計	48	49	49	49	49	49	49	50	50	50	50	49

# 聖隷こども園こうのとり豊田

2018年度は、幼保連携型認定こども園として2年目となり、見通しを持って計画・運営をすることができた。2号・3号認定（保育園枠）の園児においては、定員を超えて受け入れを行い、磐田市の待機児童解消の一端を担うことができた。1号認定（幼稚園枠）の園児は、定員（15名）に満たない利用人数であったが、4名の園児が親の就労状況に応じて、2号認定（保育園枠）に認定変更をするケースもあった。こども園としての施設機能（親の就労の有無に関係なく同じ園で利用継続が可能）を果たすことができた。保育の質の向上を目指し、ビデオカンファレンスを活用することで、職員全体で教育・保育を省察する機会を設けた。子ども一人ひとりの発達に応じた教育・保育の在り方を検討し、実践に繋げることが出来た。

## 1. 入所状況

4月新入园児20名を迎えて159名でスタートした。年度途中入所は、0～2歳児クラスへの入所が9名であった。また、2号・3号認定の園児が4名1号認定の園児が1名退園した。定員155名に対して107%の入所率であった。

## 2. 年度事業目標・年度重点施策への取り組み

### (ア) 保育の質の向上

一人ひとりの発達・興味・行為や活動のテンポに応じた適切な援助を行うため、乳児クラスで、ゆるやかな育児担当制保育に取り組み始めた。ビデオカンファレンスを通して、保育について職員で話し合い、より良い保育方法・環境設定・保育教諭の関わり等を多角的に評価し、振り返りを行うことで、実践に繋げることが出来た。

### (イ) 家庭と連携して子育てを共有する

保護者会懇談会や保育参加、園行事への参加を積極的に促し、子どもが成長することの喜びを職員と保護者が共有し、園の教育と保育理念に関して理解を深めた。幼児は、園内の行事等、乳児は日常の保育の様子等をビデオ撮影し、送迎時に保護者が観覧する場を設け、保育の可視化を行ってきた。また、必要に応じて、保護者と職員が個別面談する場を設け、保護者の要望や悩み等を丁寧に聴く機会とした。情報共有する事で、子どもの成長を共に考え合い保育に活かすことが出来た。

園だよりやクラスだより等を通して、親子のコミュニケーションツールとなる遊びや絵本の紹介、教育的効果等を伝え、親子の関わりや遊びのヒントになるよう働きかけた。

### (ウ) 職員間の連携

外部研修として、キャリアアップ研修・階層別研修・専門分野の研修（給食・看護・磐田保育士会部会等）等に積極的に参加し、職員会議で共有した。

聖隷こども園保育園の合同研修会に、聖隷クリストファー大学の細田直哉氏を講師として招き、保育環境についての学びの機会を設けた。また園に個別訪問を依頼し、教育・保育の様子について具体的なアドバイスや指導を受け、遊びや生活の環境改善に努めた。

### (エ) 地域における公益的な取組

地域の子育て家庭に園庭を開放、育児講座（離乳食講座・幼児食相談）の場を設け、

子育て相談を実施した。

(オ) 環境整備・修繕

園庭の総合遊具の塗装、乳幼児保育室の環境整備（棚・玩具等）、乳児用避難車購入、保育室の職員収納棚等の整備を行い、環境改善を図った。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	6	7	10	12	12	12	13	16	17	19	20	20	164	13.7
1歳児	25	25	25	25	25	26	26	26	26	26	26	26	307	25.6
2歳児	30	30	30	29	30	30	30	30	30	30	30	30	359	29.9
3歳児	36	36	36	35	35	35	35	35	35	35	35	35	423	35.2
4歳児	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	372	31.0
5歳児	31	31	31	31	31	31	31	31	31	30	30	30	369	30.8
計	159	160	163	163	164	165	166	169	170	171	172	172	1,994	166.2

②保育日数及び延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数 (名)	3,207	3,148	3,234	3,266	3,017	2,913	3,395	3,203	3,312	2,843	2,976	3,017	37,531	3,127
保育日数 (日)	24	24	25	25	26	23	26	24	25	23	23	25	293	24.4
一日平均 (名)	133	131	129	130	116	126	130	133	132	123	129	120	128	128
一時預り (名) (内こひつじ)	0 (0)	6 (0)	5 (0)	14 (9)	24 (13)	27 (13)	31 (14)	38 (21)	28 (12)	24 (17)	28 (23)	22 (15)	247 (137)	20.5 (11.4)
延長保育 (名)	181	176	195	162	154	173	160	195	189	155	155	128	2023	168
学童保育 (名)	314	268	288	274	194	231	225	243	195	181	194	174	2781	231

③職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長（正）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭（正）	14	15	15	15	15	15	15	16	16	16	16	16
保育教諭（バ）	19	19	19	20	20	18	18	18	18	18	18	18
管理栄養士（バ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
看護師（バ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師（正・バ）	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4
事務員（バ）	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員・保育補助（バ）	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	47	47	47	48	48	46	46	47	47	47	47	47

# 野上あゆみ保育園

のがみっこくらぶ・にじっこくらぶ

2018年度から学童保育2個所の運営も始まり、小学生の姿を知る機会が増えたことで、子どもの育ちを改めて考える機会が多くあった。子どもの人権をしっかりと意識し、一人ひとりと丁寧に向き合うことの大切さを職員と共に再確認をしながら今後も歩んでいきたい。

## 1. 入所状況

4月に0歳児8名、1歳児6名、逆瀬川あゆみ保育園より4歳児13名、計27名の新入園を迎え、105名でスタートした。定員90名に対して116.6%の入所率であった。

## 2. 重点目標及び重点施策への取り組み

### (ア) 保育内容

- ①統合保育…障がい児（4歳児2名、5歳児1名）が加配対象であった。発達の心配な子どもについては、市の臨床心理士による年間4回の巡回指導、職員の知識向上のための研修に協力を得た。クラスの一員としての視点を持って関わり、場面に応じた個別の声かけや配慮を行った。
- ②交流…隣接する有料老人ホームや聖隷逆瀬川サービスセンターにてクリスマスページェントを行った。子どもの人間関係が広がるように、のがみっこくらぶを利用する小学生と劇遊びなどを行い年間8回の異年齢交流を行った。4歳児クラスで一緒になる逆瀬川あゆみ保育園の3歳児クラスの子どもと、月に一度は交流する機会を設けた。
- ③保護者に向けて…園だより、クラスだよりなどで園の理念や子どもの発達について、発信を行った。また、懇談会も保護者同士が交流を持てるよう工夫をした。
- ④食育…幼児クラスを中心に作業を行い、土作りから始め苗の成長を楽しんだ。また、食育ボードを活用し、継続して給食の食材に意識が向くよう各クラスで取り組んだ。野菜の皮むきなどの手伝いも積極的に行った。
- ⑤防災…法定の防災訓練に加え、逆瀬川あゆみ保育園と合同防災訓練を行い、互いに防災意識の向上を図った。

### (イ) 地域のニーズに対応

- ①一時保育…年間を通してニーズは常にあった。また、問い合わせの電話も多数あり、登録の面接を随時行った。月平均で138名、一日平均約7名の利用実績があった。
- ②延長保育…18時15分～20時が14名、19時以降は約5名。仕事の都合などで延長申請以上の時間まで残る子どもが多かった。

### (ウ) 職員研修

- ①年1回（9月）あゆみ合同研修（保育と絵本）
- ②第五回宝塚保育学会は、約70名が参加した。ディスカッションも含め、宝塚エリアの保育園らしい学会を目指した。
- ③保育の質を高めるため、多くの職員が積極的に外部研修に参加した。
- ④園内研修…「保育の連続性を見つめ直して」「保育と玩具」「アレルギーについてもっと知



ろう」の3つのグループで取り組んだ。宝塚保育学会、聖隷地区学会に参加した。

### 3. 地域における公益的な取組

(ア)『トライやる』(中学生仕事体験活動)は中学校2校より、計12名の受け入れを行った。

(イ)園庭開放、離乳食体験、季節の製作、コンサートやおもちゃライブラリー、影絵などを児童館と協力して行った。保育士が企画担当をする中で、在宅で子育てをする親子の現状を知る機会を設けた。また、母親向けの講座も行い、幅広い支援を目指した。

### 4. 学童保育

のがみっこくらぶは4月より定員19名の利用があり、クッキングや異年齢交流も積極的に行った。にじっこくらぶは、児童の入れ替わりもあったが、多い月は23名の利用があった。子どもの意見を聞きながら活動を組み立てた。

#### 【数値実績】

##### ①歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	107	8.91
1歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15.0
2歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	14	179	15.0
3歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
4歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27.0
5歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26.0
合計	105	106	106	106	106	106	106	106	106	106	106	105	1,270	105.83

##### ②保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	1,991	2,088	2,057	2,007	1,916	1,724	2,294	2,038	1,874	1,715	1,856	1,980
保育日数	24	24	26	25	26	23	26	24	23	23	23	25
一日平均	83.0	87.0	79.1	80.2	73.7	75.0	88.2	85.0	81.5	74.6	80.6	79.2
一時保育	117	119	140	137	130	123	163	167	132	139	149	145

##### ③職員数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
計	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33
調理(委託)	5	5	5	6	5	5	5	5	5	5	5	5

# 野上児童館

2018年度は、児童館の食育プログラム（乳幼児・小学生・中高生）を年間目標として、職員と共に話し合い取り組んできた。児童館職員は、来館者支援の基本である傾聴のスキルを高めるため、継続した研修に参加し基本に立ち返ることを意識した。

聖隷保育学会では、児童館の役割や取り組みについて、発表する機会を得て、開設10年目の節目になった。

地域の方が、自分の意志で利用する場として、幅広い遊びの提供や子どもの姿から子どもを理解するスキルを更に高めて行きたい。

## 1. 利用状況

乳幼児並びに小学生の利用は、定着し安定した来館者数はあるが、中高生は利用につながる方法を検討する課題が残った。全児童へチラシの配布を行い、利用の定着を目指したい。

## 2. 活動報告（地域における公益的な取組を含む）

### （ア）乳幼児子育て支援活動

「こあら」「うさぎ」「パンダ」と3つのグループでそれぞれのねらいを持ち、未就園児の親子を対象にプログラムを行った。子どもの育ちを意識した内容を取り入れることで、保護者がコミュニケーションを取りやすい雰囲気作りを心がけた。ミニ運動会は、好評で多くの参加者が楽しんでいた。

### （イ）小学生集団あそび支援活動

「児童館まつり」は、子どもボランティアが13名集まり準備から参加をした。夏休みには、テラスのお掃除隊と称し、目的を持って活動を行う経験も取り入れた。クッキングやランチタイムを導入し、長期休暇の時期は、昼食持参で長時間過ごせるようにした。

### （ウ）中高生の居場所づくり推進事業

学校と連携し、「赤ちゃん学校へ行こう」へ25名が参加した。中学生と乳児の触れ合いは、とても有意義なものであると感じた。中高生向けのお菓子作りも取り入れた。

### （エ）実習生やボランティアの受け入れ

中学生の職業体験活動5名、実習生1名を受け入れた。

### （オ）運営委員会の充実

運営委員会は、年間3回行った。出席者との意見交換を取り入れ率直な意見を傾聴した。

## 3. 職員の資質向上

外部研修に参加し個々のスキルを高めるよう意識を持ち、研修で学んだことを職員会議で共有する場を設けた。課題やケースについて、各職員の考えを共有しながら方針を決定するようになった。

また、宝塚市内の各児童館が連携して行う事業（ミニたからづか）に参加することにより、他児童館と交流を持つことで、職員のスキルアップにつながった。

【数値実績】

① 利用状況 本館 (単位：名)

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	大人	合計	開館日数	一日平均
4月	306	733	72	4	1,115	327	1,442	24	60.08
5月	325	378	12	1	716	310	1,026	24	42.75
6月	387	462	13	0	862	377	1,239	25	49.56
7月	421	1,005	23	2	1,451	426	1,877	21	89.38
8月	411	1,437	34	4	1,886	496	2,382	26	91.62
9月	338	368	13	0	719	312	1,031	21	49.10
10月	453	302	11	0	766	392	1,158	26	44.54
11月	379	216	10	0	605	342	947	25	37.88
12月	368	497	53	0	918	362	1,280	23	55.65
1月	357	302	11	6	676	334	1,010	23	43.91
2月	396	237	14	4	651	354	1,005	23	43.70
3月	476	521	28	10	1,035	421	1,456	25	58.24
計	4,617	6,458	294	31	11,400	4,453	15,853	286	55.43

② 利用状況 出前児童館 (単位：名)

	常設型				派遣型				イベント型
	回数	就学前	小学生以上	大人	回数	就学前	小学生以上	大人	回数
4月	14	108	3	97	0	0	0	0	0
5月	13	108	0	107	1	10	116	0	0
6月	13	155	0	141	2	15	349	4	0
7月	12	121	4	105	1	4	97	0	0
8月	14	131	6	119	0	0	0	0	0
9月	10	175	0	159	2	3	236	0	0
10月	13	172	0	155	2	6	204	3	0
11月	14	179	0	149	2	7	222	7	0
12月	11	87	0	75	1	0	123	0	0
1月	11	127	0	116	2	4	134	1	0
2月	13	142	0	122	2	0	102	0	0
3月	14	112	1	94	2	3	144	1	0
計	152	1,617	14	1439	17	52	1,727	16	0

# 逆瀬川あゆみ保育園

園の掲げる保育目標から掘り下げ、保育の見直しを行った。育児担当については、職員ひとり一人の理解にばらつきがあることを踏まえ、在り方を再確認するため勉強会を行った。また、2018年度の目標に掲げた「子どもが安心して過ごせる環境作り」に関しては、園全体で検討し積極的に取り組むことが出来た。講師を招いた研修も行き、保育士が子どもの発達の理解を深めることが重要であると改めて気づき、園内研修につなげた。これは、2019年度も目標として挙げ、継続的に取り組んで行きたい。

開園時間内の地震や台風による停電が発生し、子どもの安否や翌日の保育の有無など、保護者に不安を与える災害もあったが、メール配信サービスを利用し、最新の情報を定期的に配信することで不安を解消することができた。災害対策については、実践を想定した停電対策にも取り組んで行きたい。

## 1. 入所状況

4月に新入園児（0歳児10名、1歳児5名、2歳児1名）16名を迎え、計51名でスタートした。

## 2. 重点目標及び重点施策への取り組み

### （ア）保育内容

#### ①統合保育

臨床心理士による巡回指導を受け、集団で過ごす中で配慮が必要だと感じる子どもの保護者に向けて個別相談を行い、2019年度の加配対応へとつなげた。

#### ②世代間交流

3歳児を中心にデイサービスへ定期訪問し、共に楽しむ時間を設けた。野上あゆみ保育園との交流も3歳児を中心に行った。年度末には同園への進級を見越して、意識的に訪問することで、子どもに安心感を与えることが出来た。

#### ③食育

3歳児は、月1回のクッキングで、季節の野菜や果物の形や色、香りや感触を確かめる体験活動（ききぶどう等）を行った。定期的を開催することで、子どもたちの食への興味も増している。また、毎月旬の野菜や果物を使った郷土料理を給食に取り入れ、ご当地メニューなどを各年齢に提供することで食育につなげた。

### （イ）保育ニーズに対応

#### ①延長保育

18時15分～19時の延長保育を行い、一日平均約6名の利用があった。19時のお迎えが常態的に間に合わない家庭が数件あった。また、ファミリーサポート等を利用することで対応している家庭も増加している。

#### ②一時保育

低月齢児（0～4ヶ月）のニーズは増加傾向にあるが、職員2名体制では十分な受け入れが行えない現状である。特に、1月から3月までは担当職員の産休等により、受け入れ人数を制限しなければならなかった。

(ウ) 地域における公益的な取組

①中学生体験活動「トライやる」で市内の中学2年生13名、職業体験ボランティアで高校生1名、保育実習生5名を受け入れた。

②園庭開放は週1回、室内開放は月2回から6回に増やし、親子の憩いの場を提供した。室内開放はニーズが多く、2019年度はより多くの親子が利用できるよう登録方法を再考する。保育士がプログラムを作成し、地域の保護者と交流する中で情報発信や収集を行った。

(エ) 保育室環境の改善、施設整備

災害対策の一環として、園庭に雨除けのある場所が無かったため、砂場に日除けを兼用としたシェードを設置した。

【数値指標】

①歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	10	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	142	11.8
1歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
2歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
3歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156	13.0
4歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	51	53	53	53	53	53	53	53	53	53	53	53	634	52.8

②保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	914	965	1030	1002	960	862	1152	1037	897	869	968	935
保育日数	24	24	26	25	26	23	26	24	23	23	23	25
1日平均	38.0	40.2	39.6	40.8	36.9	37.4	44.3	43.2	39.0	37.7	42.0	37.4
一時保育	114	106	101	100	72	91	123	112	101	94	114	113

③職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	12	12	12	12	12	12	11	11	11	10	10	10
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
管理栄養士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	13	15	15	15	15	15	15	14	15	15	16	15
計	29	31	31	31	31	31	30	29	30	29	30	29
調理(委託)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

# 御殿山あゆみ保育園

2018年度は、施設理念である「子どもたち、保護者、保育士もお互いに一人ひとりを大切に」が、更に定着したように感じられた。地震や土砂災害による避難勧告などの自然災害に遭遇し、園の防災対策の弱さを痛感したが、職員の防災意識は高まり、振り返りや見直しに取り組み始めた。また、花見やページェントなどの園行事に近隣デイサービスに通う高齢者を招待し、子どもたちもデイサービスを訪問するなどして交流を深め、互いに楽しい時間を共有することができた。

## 1. 入所状況

4月に22名の新入園児を迎え、計127名（緊急枠含む）でスタート。0歳児クラスは順調に利用が伸び、8月で定員の15名となった。

## 2. 重点目標及び重点施策への取り組み

### (ア) 保育内容

#### ①統合保育

障がい児は、5歳児クラスに1名、4歳児クラスに3名、3歳児クラスに1名が在籍した。年間2回の専門医による巡回指導を受け、専門機関と連携を取ることができた。また、保護者との面談も定期的に行い、コミュニケーションを図った。発達心理相談員による年3回の巡回指導により、困惑する事が多い子どもの対応について助言を受けた。講義にも参加し、全職員に周知した。月に1度ケース会議をもち状況の共有を行った。

#### ②危機管理・防災

危機管理委員会・防災委員会を月に1回行い、ヒヤリハットや危険個所の検証、職員への周知、防災用品の検討や購入など様々な取り組みを行い職員の意識向上に努めた。

#### ③食育

管理栄養士から次月メニューの食材説明（旬の物など）や、自分たちで収穫した野菜のクッキング等を通して食べ物への関心が高まった。

### (イ) 地域のニーズに対応

#### ①延長保育

7時～7時30分、18時15分～19時の延長保育を行った。登録者は、4月は4名でスタートし、最終的に9名まで増加した。18時15分までは子どもの利用が多く、遅番保育士が慢性的に不足するという課題が残った。

#### ②一時保育

4月のスタート時は、非定型児の利用が多く3月まで長期継続したため、大きな利用者の増減も無く、安定した利用人数であった。慣らし保育や人見知りの強い児童には、特定の職員が関わるようにし、信頼関係を築き親子共に安心して利用できるよう努めた。

#### ③子育て支援

室内開放、園庭開放、子育て講演会、親子ふれあいあそび、離乳食試食会年6回、看護師によるミニミニ講座16回や子育て相談を行った。職員が室内開放に参加し、在宅保護者の悩みやニーズを聴く機会を設けた。子育て支援は、延べ1,435名の参加があった。

(ウ) 保育環境の改善、施設整備

園庭テラス、プール底、エアコン等を修理し、定期的に保育環境の見直しを行った。

(エ) 職員研修

園内研修は、危機管理やわらべうたなどを行った。資料を配布し、自主学習を促した。

「第5回宝塚保育学会」を開催し、グループごとに研究を行い各学会や園内で発表した。

また、外部研修への積極的な参加や外部講師を招いて保育環境についても学んだ。

3. 地域における公益的な取組

「中学生仕事体験活動」は近隣中学生6名、短大保育科の保育実習は2名、インターンシップは大学生2名を受け入れた。行事で近隣高齢者デイサービスへの訪問も行った。駐車場を開放し、高齢者に対してお花見のできる場を提供した。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	10	12	13	14	15	15	15	15	15	15	15	15	169	14.1
1歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
2歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
3歳児	20	20	18	18	18	18	19	19	18	18	18	18	222	18.5
4歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
5歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
合計	127	129	128	129	130	130	131	131	130	130	130	130	1,555	129.6

②保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	2,317	2,529	2,416	2,339	2,070	1,973	2,513	2,430	2,222	2,119	2,308	2,344
保育日数	24	24	26	25	26	23	26	24	23	23	23	25
一日平均	96.5	105.4	92.9	93.6	79.6	85.8	96.7	101.3	96.6	92.1	100.3	93.8
一時保育	117	119	140	137	130	123	163	167	132	139	149	145

③職員数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2
パート	16	17	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
計	39	40	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43
調理(委託)	7	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	5

# 御殿山児童館

2018年度は、乳幼児親子プログラムに力を入れて取り組んだ。継続的に実施されるリトルきらりん、ベビーきらりんを筆頭に、保護者同士の仲間作りを意識して事業に取り組むことができた。

児童健全育成プログラムでは、子どもたちの声を大事にして、一人ひとり丁寧に対応した。その結果、低学年から参加できるクッキングなど、充実したプログラムを提供することができた。

年長児童健全育成プログラムでは、中高生に企画を募り、実際に運営してもらうよう新たな試みを行った。企画として決定したカラオケでは、児童館にある既存設備を使い、実施できる方法を子ども達と共に考え、実現することができた。現在では、カラオケが新たなレギュラープログラムとなり、中高生の月1回の楽しみとして、自分たちで運営しプログラムを行なっている。

## 1. 地域との連帯の強化

(ア) 地域との関わりを深め協力体制を構築できるよう地域の会議に出席し、児童館での利用者の様子や気になる親子・児童に関して情報の共有と連携に努めた。また、地域の方々ボランティアとして協力してくれたこともあり、花壇の整備等の活動を充実させることができた。

## 2. サービスの質の向上

(ア) 来館者が安心して遊ぶことができるよう、環境作りを考えた。また、安全管理や事故等、有事の際に備え新規利用者は緊急連絡先等を登録して管理を行った。

(イ) 乳幼児親子を対象とした子育て支援プログラムは、希望する親子すべてが参加できるように内容や時間帯などを工夫するとともに、発達年齢に応じた遊びや仲間作り場を提供し「子育て」・「親育ち」を支援した。

(ウ) 小学生を対象にした集団あそび支援プログラムは、運動遊びや自然体験活動・創作活動、視聴覚活動等を行い楽しく遊べる内容の充実を図った。様々な体験を通じての仲間作りを行った。また、事業への参画活動も行った。

(エ) 中高生を対象にした居場所づくり推進事業は、毎週1回開館時間を延長し、その内月1回をクッキングに充てた。自分ひとりの力で作ることができるメニューを提案し、生きる力を養った。毎回たくさんの中高生が参加し、「家に帰って家族にふるまった」など嬉しい声が聞くことができた。

(オ) 出前児童館事業は、児童館が近隣にない地域に出向き、地域住民に対してより身近な居場所作りと、地域の子育て力の向上につながるよう努め、遊びに関するノウハウの提供や安全管理の指導を行った。

(カ) 図書推進活動は、図書委員を設置し、本や絵本の知識を深めることができた。年代別に推薦する図書を利用者に紹介するなど、コミュニケーションの一部になった。

(キ) 利用者の声をより集められるように意見箱を設置した。保護者や小学生からの意見が多く、毎月10件以上の投書があった。一つひとつの意見に対して検討し、可能な限り職員で対応を行った。



### 3. 職員の資質向上

- (ア) 宝塚市児童館交流研修に参加し、技術や実施プログラムの内容向上に努めた。
- (イ) 児童館事業に携わる職員全員が同じ方向性で取り組んでいけるように、月1回の職員会や担当（乳幼児・小学生・中高生・出前）ごとの部会を行い、話し合いの機会を持った。

### 4. 地域における公益的な取組

- (ア) 館内プログラムより生まれた自主サークル主体のプログラムを行った。来館者自身の自己実現など成果が大きかった。
- (イ) 「トライやるウィーク」（中学生仕事体験活動）は中学生6名、聖和短期大学の保育実習は2名の受け入れを行った。

#### 【延利用者数】

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	大人	合計	開館日数	一日平均
4月	867	1,173	272	30	2342	644	2,986	24	124.42
5月	951	683	230	19	1,883	589	2,472	24	103.00
6月	930	735	308	37	2,010	709	2,719	26	104.58
7月	677	1,288	227	42	2,234	645	2,879	22	130.86
8月	723	1,518	196	45	2,482	758	3,240	25	129.60
9月	778	621	93	27	1,519	577	2,096	20	104.80
10月	1,191	771	159	27	2,148	761	2,909	26	111.88
11月	1,034	523	163	47	1,767	630	2,397	24	99.88
12月	924	918	154	45	2,041	620	2,661	23	115.70
1月	956	573	155	39	1,723	607	2,330	23	101.30
2月	988	490	131	53	1,662	630	2,292	23	99.65
3月	1,117	933	177	47	2,274	766	3,040	25	121.60
計	11,136	10,226	2,265	458	24,085	7,936	32,021	285	112.35

#### 【出前児童館回数・利用者数】

	常設型			派遣型				イベント型回数	
	回数	就学前	小学生	大人	回数	就学前	小学生		大人
4月	4	89	0	75	5	22	41	22	0
5月	3	53	0	53	8	28	245	28	0
6月	4	52	0	46	7	27	190	24	0
7月	3	61	0	53	6	20	153	24	0
8月	4	88	0	73	6	24	73	42	0
9月	4	63	0	55	6	10	194	15	0
10月	4	73	0	67	8	29	229	18	0
11月	5	82	0	77	8	17	179	18	0
12月	4	97	0	78	6	13	112	13	0
1月	3	52	0	43	5	17	74	17	0
2月	5	87	0	76	8	23	206	20	0
3月	3	49	0	41	4	15	58	15	0
計	46	1,271	0	737	77	245	1,754	256	0

# 高齢者公益事業部

浜名湖エデンの園 1・2 号館耐震対策建替工事は 2018 年 9 月の増築 4 号館完成に引き続き 1・2 号館の解体工事を終え、2019 年 3 月からは新 1・2 号館の建設が始まり、これまでのところ概ね予定通りに進捗している。

2018 年度は西日本豪雨や台風 24 号によって、当事業部の施設でも施設の一部破損や停電等の被害を受けたが、いずれも大事には至らなかった。深夜や休日の復旧対応等にあっていただいた関係業者、職員、そしてご不便をおかけしたにもかかわらずご理解ご協力をくださった入居者に深く感謝申し上げたい。

2019 年 4 月から働き方改革関連法が施行される。少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少等を背景として実施されるこの改革は、労務管理だけを問われているのではなく、エデンの園の入居者が満足できるサービス、職員が満足できる働き方、事業部が満足できる経営の在り方が改めて問われていると考えている。入居者が安心安全かつ快適にサービスを受けられるよう、多様な職員一人ひとりが安心して働き続けることができる環境を整えたい。そして、事業部として各施設を安定的永続的に経営するため、ヒト・モノ・カネ・情報を総合的に再構築するとともに、それぞれの施設の機能を中長期的に維持することを目的とした総合計画を策定する。

## 1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化

2020 年度から 10 年間で計画期間とする基本構想を各施設で策定し、2030 年の自施設のありべき姿を定めた目標を明確化した。2019 年度は基本構想を実現するための施策の方向性を具体化し、各分野にわたって必要な諸施策の方針と成果目標など具体的な内容を総合的、体系的に明らかにするため、前期基本計画（2020～2024 年）を策定する。

基本構想、基本計画は、3 年ごとの実施計画及び年度ごとの事業計画で着実に実行し続けるための進捗管理を行いたい。

## 2. 経営の安定と永続性の確保

入居者募集については 2019 年 10 月の消費税改定の影響が考えられるものの、年間を通じて実績を積み上げることができ、契約件数、契約金額ともに予算を大幅に上回る 141 件、52.7 億円となった。2019 年度は新たな募集活動にも挑戦し、エデンの園のサービスを必要とする高齢者に 1 人でも多く入居いただけるよう継続的に取り組みたい。

2018 年度は診療報酬と介護報酬の同時改定が行われた。介護報酬改定は権利擁護体制の強化が根幹に据えられ、栄養状態や口腔衛生等の管理体制の整備を求めるものであったが、各施設と事業部で連携して対応し、サービスに対する適正な報酬を算定できるよう取り組んだ。

## 3. 人材の採用・育成・定着の強化

生産年齢人口の減少、介護職員不足の影響もあり、人材の採用に苦戦する施設が顕在化してきている。各施設が地域の状況を的確に把握し、実行できる具体的改善策を考え、人事企画部と連携して採用力を強化し、働き方改革へ対応することが 2019 年度以降の課題である。

2017年度に引き続き、在宅・福祉サービス事業部とともにノルウェー研修を実施し、介護部門の中堅職員4名を派遣した。2019年度も継続し、将来の介護看護部門を担う職員が新たな気づきを得る学びの場としたい。2018年度は新たにスウェーデン研修を実施し、管理職4名を派遣した。2019年度のスウェーデン研修では新たなケアマネジメントを具体化させたい。

#### 4. サービスの質・安全・効率の向上

2018年度もインフルエンザが全国的に大流行したが、各施設で入居者や関係者の協力を得て感染管理を的確に行うことで、施設内での感染拡大を防止することができた。

リスクマネジメント力を強化するため、事業部のリスク担当者が各施設のリスクマネジメント委員会に出席のうえ体制を再確認した。また、事故分析力と再発防止策の立案力の向上を目的とした事故分析手法の研修を実施した。

事業部の各サービス責任者会及び管理会議で標準サービス（当事業部の運営する有料老人ホームが入居者に提供するサービスの基準）をまとめ、2019年2月から各施設で試行している。2019年度は評価・検証を行う予定である。標準サービスはサービスの「量」の基準であるが、2019年度はサービスの「質」を評価するための基準づくりにも取り組み、「量」と「質」のバランスを整えた「エデンの標準」を構築したい。

#### 5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

2018年10月から専従の新規事業担当職員を配置し、新規開設に向けた検討・折衝を重ねている。具体化には至っていないが、当事業部の最重要課題として継続的に取り組む体制を強化した。

2018年度は3施設でインカム（無線機）を導入し、計5施設での導入となった。即時に情報共有できる強力な手段であり、施設の運営に大きな改善を得ることができた。ETS（EDEN TOTAL SYSTEM・業務基幹システム）は担当業者が決定し、ケア職員の記録業務の負担を軽減することを主目的として更新の準備を進めている。2019年度に導入が完了する予定である。

#### 6. 地域における公益的な取組

2018年度は自治体や地域自治会等との災害時の協定を7施設で締結し、地域との防災訓練に4施設が参加した。各施設では、介護フェスタ、専門職による介護講座、認知症講演会、認知症サポーター養成講座、納涼祭、地域の清掃活動等を行った。将来にわたって地域にとって良き隣人であり続けるため、地域に開かれた施設運営を推進する。

#### 【数値実績】

(直営施設)	浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢1	藤沢2	計	
目標件数	23件	22件	13件	30件	20件	9件	5件	5件	127件	
募集実績	34件	26件	10件	36件	15件	10件	10件	0件	141件	
	45名	29名	10名	41名	18名	10名	12名	0名	165名	
入居率	期首	74.1%	91.9%	86.3%	89.2%	91.5%	92.0%	97.6%	74.0%	88.8%
	期末	94.0%	91.9%	87.0%	92.0%	92.9%	94.0%	97.1%	74.0%	92.2%

## 介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

2018年度に園全体で注力をした出来事は、1,2号館耐震対策建替工事における4号館増築部の竣工・運用開始と1,2号館の解体工事に伴う対応であった。慣れ親しんだ1,2号館は9月末に3日間開催した「さよならイベント」で別れを惜しんだ。1,2号館の入居者の住替・引越だけでなく、フロント、食堂等の主な共用施設や職員の事務所等を新しい4号館増築部に移転し、10月から仮設での運用を本格開始した。10月1日には台風24号の影響で27時間に及ぶ全館停電が起きたが、近隣施設、高齢者公益事業部等の支援も頂いて非常用電源の燃料確保や、食堂における非常食の提供（朝・昼・夕）など、入居者の安全や利便の確保に努めた。

工事期間中はラウンジ・ロビーや大ホールがなく、さらに多くの共用施設も仮設運用の中で、パーソン・センタード・ケアに基づき、その人らしさを尊重した介護やサービスの提供に園全体で取り組んだ。工事完了時、2020年のグランドオープンに向けては、「入居者が暮らしやすい新しい浜名湖エデンの園」の実現に向け、入居者満足度の向上と新しいニーズへの対応の両立を図る。

経営面では、建替工事の影響もあり厳しい状況が続く中、2015年度以来3年ぶりに1年を通じて新入居者をお迎えすることができ、入居者数もようやく増加傾向となり、園内も活性化できた。

職員に対しては、国が推進する「働き方改革」に基づき、勤務シフトの増加や職員の意識改革に取り組み、職員満足度向上とコンプライアンス体制強化を図った。

### 1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践

(ア) パーソン・センタード・ケアの考え方に基づくサービスの実践を継続的に取り組んだ。

(イ) ライフレビューブック（回想記録）は検討の結果、導入を見送り、新たにACP（アドバンス・ケア・プランニング）の取り組みを始めた。

(ウ) ISO9001（2012年度導入）については、Ver.2015での更新審査を受審し、認証された。

(エ) 地域における公益的な取組のための組織づくりとして、「浜松市ささえあいポイント事業ボランティア受入施設」に登録した。

### 2. 次世代を担う人材確保と育成

(ア) 研修委員会等を通じて「聖隷理念」「施設理念」の継承・発展させる人材育成に取り組んだ。

(イ) 園内研修等により、施設の「事業・運営計画」「予算」を全職員へ説明した。

(ウ) 人材の採用と定着による安定した職場環境の確保に向け障害者雇用の促進等で成果を得た。

(エ) 働きやすい環境の整備に取り組み、「静岡県働きやすい介護事業所」の認証を受けた。

### 3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保

(ア) 通年の入居者募集活動を通じて成果追求と共に職員一人ひとりの募集意識の向上を図った。

(イ) 4月の介護保険報酬改定に対応し、サービスの質の確保と収益向上の両立を図った。

(ウ) 経営意識向上と経費節減に関しては、建替工事対応を優先し、課題が残った。

(エ) 10月の仮設厨房の稼働開始に向け、計画的な準備により安定した運用ができた。

### 4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供

(ア) 10月の台風による全館停電等、大きなリスク発生時にも対応ができた。

(イ) 細江警察署の協力を得て、防犯訓練及び防犯指導を初めて実施した。

(ウ) BCP（事業継続計画）として「新型インフルエンザ等発生時の業務継続計画」を新たに策定した。

(エ) 災害時等の職員のスムーズな安否確認に向けて、法人の採用する安否確認システム「ANPIC」の導入を検討・決定した。

(オ) 会議及び委員会等を通じて、コンプライアンス体制の強化に取り組んだ。

5. 入居者が暮らしやすい新しい浜名湖エデンの園づくり

(ア) 仮設食堂運用開始に際し、園全体で食堂内での入居者誘導、テーブルサービス対応を行い、スムーズな移行ができた。

(イ) 10月よりの増築4号館運用開始に向け、園内の表示や案内図の充実、インカムの導入等によりスムーズな案内に努めた。

(ウ) 工事に伴う入居者への精神的支援については十分と言えないながらも取り組んだが、環境の変化等によりご不便をおかけした。

(エ) 1,2号館解体・建築期間の聖隷三方原病院への導線確保として、仮設渡り廊下を設置した。

【数値実績】

表1：契約状況 (単位；名)

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	312戸（58）戸	111	259	370

表2：地域別契約状況 (単位；名・%)

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
人数	1	1	71	276	15	3	0	3	370
構成比	0.3	0.3	19.2	74.6	4.0	0.8	0	0.8	100.0

表3：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	27	67	90	89	59	25	9	4	0	370
構成比	7.3	18.1	24.3	24.1	15.9	6.8	2.4	1.1	0.0	100.0

表4：平均年齢 (単位；歳)

平均	男性	女性
84.2	83.1	84.7

表5：入・退去状況 (単位；名)

	入居	退去	(死亡退去)
男	20	10	(8)
女	26	20	(19)
計	46	30	(27)

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

(単位；名)

	合計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	106	8	10	40	14	9	21	4
期末人数	113	11	17	44	11	13	12	5
月平均人数	111.7	9.5	16.3	40.7	12.2	10.4	17.5	5.1

## ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2018年度は、事業運営の3つの柱である「入居者満足・職員満足・経営安定」を支える取組みとして、Plan-Do-Check-Action (PDCA) サイクルによる評価と適正化を今まで以上に意識し改善と品質保証を図る年としてきた。入居者ニーズを捉えたその人らしいケアプランや適切なグリーンケアの対応など、パーソン・センタード・ケアの実践を職員間、職場間の連携を強めた上で行った。また入居者満足度調査等から得られた要望を具現化しハード的な整備も行うことができた。

2019年度より行われる働き方改革を先行し、業務改善によるハードワークの軽減に取り組み、また身体的負担を軽減する機器の導入を行い、働きやすい環境の整備にも努めた。

2018年度の募集活動は新入居26件32名と大きく目標を達成する事ができたが、退園者数は34名と、2017年度に続き多くの逝去による退園が続くこととなった影響で年度末の入居率は91.9%と年度当初より0.9ポイント下げる結果となった。

以下、2018年度の取組みを詳述する。

### 1. 入居者満足の向上への取組

- (ア) 入居者満足度調査などで提案されたA棟1階マッサージ室、音楽室を整備し、共用部の環境を整えることができた。
- (イ) 聖隷福祉事業団施設全体での料理対決において優秀賞を獲得した料理を提供することができた。また他施設の評判の高いレシピをメニューに追加することができた。
- (ウ) パーソン・センタード・ケアの観点からその方の生活歴や趣味、身元引受人や家族の想いや希望をケアプランに反映させ、実践する仕組みを作ることができた。
- (エ) 入居者への園運営の「見える化」は、入居者運営懇談会を通して園の取組進捗や計画などについて情報共有を継続することができた。また更にわかりやすい提供に努めていくこととした。

### 2. 職員満足の向上への取組

- (ア) 介助浴用の浴槽を更新し、利用者の安心と職員の身体的負担の軽減を行うことができた。
- (イ) ストレスチェック実施に伴いストレス軽減のアクションプランを構築し、職場内のワークライフバランスが保持されるよう取組を開始した。
- (ウ) 委員会開催の講義担当を委員会メンバーに役割移譲し、コミュニケーションや食コンディショニングに関する勉強会の実施から新たな知見と自己課題の理解を得ることができた。

### 3. 健全経営体制の維持への取組

- (ア) 新規入居契約は、年間26件32名と契約数においては、目標の123%と大きく上回ることができた。また2017年度同様、逝去等による退園者が34名と多く、期末の入居率は91.9%であった。
- (イ) 附属診療所は、1日平均入院患者数が13.5名と目標数を1.0名上回ることができた。1日平均外来患者数は33.0名と目標数を1.0名、2017年度数を0.2名下回った。
- (ウ) デマンド監視装置を新たに設置することで、電気基本料金の高値契約を防止する対策をとることができた。

#### 4. 安全・安心な暮らしの提供

- (ア) 近隣地域では 2017 年度以上にインフルエンザ感染が流行したものの、感染マニュアルをもとに園内での集団感染防止を迅速かつ的確に実行することができた。
- (イ) 階段用車椅子を用いた防災避難訓練を実施した。園全体では 3 回、診療所及び介護居室単独での防災訓練も実施した。また宝塚警察署による不審者侵入対応の講習・実技の研修会を開催した。
- (ウ) リスク、苦情の即時対応の徹底を継続し取り組んだ。対応した内容については、情報共有し評価をすることで、更なる取組に繋げることができた。

#### 5. 地域における公益的な取組

- (ア) ゆずり葉自治会と引き続き災害時の相互協力協定を締結し共同の総合防災訓練を実施した。
- (イ) 2018 年度より宝塚市と地域の高齢者への介護予防活動の取組（宝塚いきいき百歳体操推進事業）の協定を締結し、地域公民館等へリハビリテーション専門職員を派遣して実技指導の支援に取り組んだ。

#### 【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数(複数入居)	男性	女性	計
人数	375 (58)	105	328	433

表 2：地域別契約状況

	近畿	関東	東海	甲信越	中国	北海道	北陸	四国	九州	計
人数	380	20	16	1	8	1	1	4	2	433
構成比%	87.9	4.6	3.7	0.2	1.8	0.2	0.2	0.9	0.5	100

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	31	60	111	101	68	42	18	1	1	433
構成比%	7.2	13.9	25.6	23.3	15.7	9.7	4.2	0.2	0.2	100

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
83.5 歳	82.6 歳	83.8 歳

表 5：入・退去状況

人数	入居	退去	(死亡退去)
男	8	12	10
女	24	22	21
計	32	34	31

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	114.0	15.2	18.3	28.1	25.9	14.5	6.0	6.0
期末人数	103.3	8.0	10.4	28.6	21.9	17.1	11.3	6.0
月平均人数	109.2	9.5	14.5	29.4	24.1	17.5	7.2	7.0

## 介護付有料老人ホーム 松山エデンの園

2018年度、松山エデンの園では、継続した入居獲得が維持できる募集活動、安心して生活できる園の設備環境の整備を行い、新規入居契約の獲得による入居率90%達成を目指した。新規入居が10名となり、入居率の予算達成は実現できなかったが、二桁入居の継続は達成する事ができた。新しいセミナーの取組み等から新規入居検討者が増加しており、2019年度も引き続き多くの入居者を迎える事ができるよう継続した取組みを行いたい。

環境整備においては、安全に生活できるよう1・2号館の放送設備の増設や3号館（介護棟）の外壁補修工事を行った。7月に発生した西日本豪雨では、松山エデンの園では大きな被害はなかったものの土砂災害等がエデンの敷地内や隣接する松山ベテル病院、近隣各地で確認され、地域と施設が連携する大切さを学ぶ年であった。

引き続き地域行事や地域防災活動を行い、当園の存在価値を高めていくとともに、松山ベテル病院との連携をさらに深めて、より一層入居者の要望に応えていきたい。

### 1. 安定した園運営を永続するための入居率の向上

(ア) 新規契約戸数11戸12名を目標としたが、10戸10名であった。

(イ) 入居検討者が松山エデンの園に直接足を運び、見学や体験入居ができる募集活動を行う事ができた。

(ウ) 介護棟への直接入居検討者の見学から、直接入居希望者の獲得ができています。

### 2. 人材の育成

(ア) 基礎研修や全体研修等を通じて聖隷理念に基づく職業倫理・接遇の向上に取り組んだ。

(イ) 他施設との各種研修への参加や、他のエデンの園からの職員応援を受け、他施設との共有から育成の新しい気づきがあり、聖隷施設との連携の大切さを再認識する事ができた。

(ウ) コミュニケーション能力向上を目指し、全体研修や各課の職員と入居者が交流できる園内行事を開催した。

### 3. 質の高いケアの提供

(ア) 毎日が楽しく、安全に継続できる支援を目標に、入居者が望む支援を見出して支援するよう取り組んだ。介護保険利用者会や家族会等を開催し、松山エデンの園の取組みを入居者や家族の皆様理解してもらえよう努めた。

(イ) 入居者に日々の健康管理の重要性を理解して頂く為に、予防講演の実施や注意喚起を十分に行った。感染発症者は出たものの、2017年度に引き続き拡大には至らなかった。

(ウ) 入居者に介護予防活動に楽しく参加できるよう新しい体操や講演活動を行った。

(エ) ターミナルケアについては、家族との信頼関係を築きながらエデンの園で安心して最期を迎える事ができるよう職員体制に力を注いだ。

### 4. 安全で美味しい食事の提供

(ア) 出来立て、揚げたてを食べて頂く食事提供を行い、満足度向上に努めた。2019年度は食事メニューの改善や新たな取組み等、喫食増となる食事提供を目指す。



(イ) 2017年度に引き続き食材が高騰した状況があったが、業者選定や調理法等コスト削減を行った。

(ウ) 介護食については、入居者に食の楽しみを感じて頂く為に、ケアサービス課と食事サービス課が連携して対応に努めた。現在の提供方法のみではなく、美味しく食べて頂ける改善に引き続き取り組んでいく。

#### 5. 地域貢献・交流の推進

(ア) 地域の方及び医療法人聖愛会と防災活動を行っており、2019年度地域合同防災訓練を行う予定である。

(イ) 隣接する松山ベテル病院と合同研修や学会発表を行い、専門性を高め合う交流連携を深めている。

#### 6. 地域における公益的な取組

(ア) 市民清掃、地方祭等、地域との交流活動を積極的に行った。

(イ) 地域の方に介護予防講座を行い、2019年度も引き続き開催する。

### 【数値実績】

表1：契約状況 (単位：名)

	戸数 (複数入居)	男性	女性	計
人数	127戸 (17戸)	44	100	144

表2：地域別契約状況 (単位：名・%)

	四国	近畿	関東	東海	九州	中国	計
人数	116	10	8	6	1	3	144
構成比	80.5	6.9	5.6	4.2	0.7	2.1	100.0

表3：年齢構成 (単位：名・%)

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	8	31	42	20	28	6	5	3	1	144
構成比	5.6	21.5	29.1	13.9	19.4	4.2	3.5	2.1	0.7	100.0

表4：平均年齢 (単位：歳)

平均	男性	女性
84.08	83.02	84.54

表5：入・退去状況 (単位：名)

	入居	退去	(死亡退去)
男	4	3	(3)
女	6	8	(8)
計	10	11	(11)

表6：介護保険利用者 (介護保険請求者数) (単位：名)

	合計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	60	19	6	8	2	11	7	7
期末人数	57	18	2	9	6	10	8	4
月平均人数	58.4	18.8	4.3	7.3	4.7	10.7	8.2	4.4

## 介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2018年度はメディア放送後の余力もあり、予算を上回る新入居件数となり、多くの新入居者を迎えることができた。入居者募集活動への入居者の皆様のご理解とご協力によるものが大きく、感謝を申し上げたい。

運営面では入居者との関わりをより深めたサービス提供を意識し、少しではあるがサービス内容の可視化や適正化を図ることができた。設備整備については、介護共用棟空調改修や2階事務所廻り改修等、計画した整備が実施できた。また経営面では、新入居件数は予算を上回り入居率も向上したが、診療所の大幅な収益減により、施設会計が厳しい結果となった。施設会計の安定のためには、さらなる入居率の向上や診療所の経営改善が必須であり、入居者募集活動や診療所体制の立て直しに努力したい。

### 1. 安全、安心を基盤とした各種サービスの質向上

- (ア) トータルサービスについては概ね良いが、さらなる部署間連携が望まれる。
- (イ) 根拠データにより、少しずつサービス内容の可視化や適正化を図ることができた。
- (ウ) ニーズに沿った園行事の実施はできたが、新たな企画が望まれる。
- (エ) 昼食時のミニ講座や個別対応など実施したが、喫食率増加には結びつかなかった。
- (オ) 拘束・虐待は介護報酬上の減算対象となり、検討委員会等の実施など体制は整備された。
- (カ) リスクマネジメントは再発防止策が甘く、対策立案についての検証が必要である。

### 2. 自ら考え行動できる職員の育成

- (ア) 職場環境については、改修工事で事務所環境の充実が図られた。
- (イ) インカム（無線）運用により必要な情報連携は取られているが不十分な場合があった。
- (ウ) 介護、看護、調理補助といったサービス系職種の採用困難が続いた。
- (エ) 職員は、課題と感じ利用者の思いに気づくという感性をさらに養う必要がある。
- (オ) 施設内外での交流研修の実施はできた。
- (カ) ストレスチェック実施率（87.7%）は向上したが、分析や具体的計画の実践が不十分であった。

### 3. 安定した施設運営・経営

- (ア) 設備改修は計画的に実施できた。経年劣化や改修箇所が多いことが課題である。
- (イ) 新入居者件数は実績 36 件 43 名（予算 30 件 39 名）と予算を上回る結果となり、入居率 91% 以上を達成した。
- (ウ) 介護サービスの適切な移行を推進したが重度者の逝去が多く介護報酬に直結しなかった。
- (エ) 各課協力体制で業務改善を図り、効率性が向上した。
- (オ) 皮膚科の再開、整形外科開設、意見箱設置など向上に努めたが、予算患者数は入外とも未達で厳しい会計状況となった。
- (カ) EQC による書式統一が図られて、運用が進んでいるが部署により温度差が生じた。

### 4. 環境・省エネルギーへの取組みと地域との関わり

- (ア) 継続的に電気デマンド管理（最大需要電力管理）を実施し、省エネルギー化を図った。
- (イ) 介護フェスタ・納涼祭等の活動を実施したが、外部発信など工夫が必要である。

(ウ) 事務所改修により職場環境整備を図った。衛生委員会による職場巡視を実施した。

5. 災害時の対策、防災教育の徹底

(ア) 導入したインカム（無線）を活用して、地震・火災総合訓練と職員による夜間想定訓練を実施した。訓練方法の再構築が必要である。

(イ) 台風による自然災害猛威（停電等）もあり、少しずつ対策意識は向上した。

(ウ) 地域防災協定案について市と協議していく。

6. その他の公益的事業、地域における公益的な取組

(ア) 社会福祉協議会の協力のもと地域への開放も含めた介護フェスタを開催した。

(イ) 看護学生・専門学校の実習として 58 名、延べ 6 日間を受け入れた。

(ウ) 海外施設の見学を受け入れた。

【数値実績】

表 1：契約状況 (単位:名)

	戸数 (複数入居)	男性	女性	計
人数	390 (88)	151	327	478

表 2：地域別契約状況 (単位:名・%)

	関東	近畿	東海	九州	信越	四国	北海道	中国	東北	外国	計
人数	444	12	11	2	2	0	1	0	4	2	478
構成比	93.0	2.5	2.3	0.4	0.4	0.0	0.2	0.0	0.8	0.4	100.0

表 3：年齢構成 (単位:名・%)

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	31	90	116	105	76	35	21	4	0	478
構成比	6.5	18.8	24.3	22.0	15.9	7.3	4.4	0.8	0.0	100.0

表 4：平均年齢 (単位:歳)

平均	男性	女性
83.8	82.7	84.3

表 5：入・退去状況 (単位:名)

	入居	退去	(死亡退去)
男	17	15	(11)
女	26	23	(16)
計	43	38	(27)

表 6：介護保険利用者 (介護保険請求者数) (単位:名)

	合計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	121	13	19	26	18	14	18	13
期末人数	119	21	20	21	12	14	16	15
月平均人数	123.8	16.7	20.8	24.4	17.6	13.5	16.0	14.8

## 介護付き有料老人ホーム 浦安エデンの園

2018年度は平均年齢が83.5歳を超え、要支援・要介護認定者が増えている状況から、より安心した園生活を提供できるよう「居場所づくり」に重点を置き、ケアセンター1階入口の横にデイルームをオープンした。また、一般居室系の事務所をデイルームの正面に配置することで、支援を必要とする皆様が安心してお茶やレクリエーションを楽しめるスペースとなっている。入居者対応の迅速化、質の向上のためインカムを導入したことで、職員間のコミュニケーションを円滑にし、働きやすさにもつながった。施設改修面では、既存棟の給水管更生工事の実施により漏水のリスクが低下し、入居者の安心感を高めることができた。また、人件費や食材費の高騰を背景に、食事サービスにおける収支の改善が急務となり10年ぶりになる食事料金の値上げを実施した。募集活動においては、浦安地区に住み続けたいという地域特有のニーズに合わせたPR活動により、新規顧客の拡大につながった。年度末の入居率は93%となり、2019年度はさらに募集活動に注力し入居率95%を目指し安定した経営を推進していく。

### 1. 良質なサービスの追求

理念である「ご入居者を真ん中においた生活の創造」を実現するために、パーソン・センタード・ケアの考え方を研修により園全体に周知し、認知症ケアマッピングの継続により入居者に寄り添ったケアの質の向上を図っている。エデン・クオリティ・コントロール(EQC)を推進し、提供するサービスの可視化・標準化に取り組んでいる。また10年以上継続して実施している園内体操について、蓄積されたデータの分析・評価を行い、日本老年看護学会にて健康寿命の延伸に役立つことを報告した。入居者の声を反映した運営や食事提供に向けて意見交換会等を開催し、積極的に意見を伺った。

### 2. 働きがいのある職場風土の醸成

互いを尊重し継続して働ける環境づくりと、専門性を高めスキルアップを支援する体制づくりのため、理念の継承と目的を共有し、モチベーションの向上を図っている。各職種リーダーに取り組み、職場長による面談を通して意識向上に努めた。メンタルヘルス向上への取り組みとして、ストレスチェック受検の促しを行った結果、ほぼ100%の受検につながった。更によりよい環境とするために、職員同士の話し合いができる職場づくりに取り組むことが今後の課題である。

### 3. 安心・安全な施設づくり

施設関連では老朽化に伴う設備更新、給水管更生工事により、安心した生活環境を提供できた。防犯・防災訓練についても、継続実施し入居者の安全・安心につながられた。また、感染症に関しては、罹患する入居者及び職員はいたものの、感染拡大ゼロを達成することができた。リスク対策の強化のため、アクシデントやインシデントの分析と共有に努め、再発防止に努めた。

#### 4. 安定した施設経営の実現

経営面ではこの地域の新規顧客の拡大を狙い、地域ニーズに合ったイベントを開催し入居者募集に注力した結果、入居率向上につながった。介護保険請求に関しては適切な見直しと加算の算定を行い、引き続き漏れなく請求するよう努めている。レストランの利用促進については、喫食数 3%アップの目標には大きく届かなかったが、入りやすいレストランを目指し、レイアウト変更を行った。食事料金の値上げを実施し、食材の質の向上を図り、安定した食事提供と内容充実に向け取り組んだ。また、共同墓苑の入会促進のため、終活セミナーを開催し入会者の増加を図ることができた。

#### 5. 地域における公益的な取組

入居者と近隣保育園との合同高潮訓練の実施ができた。年 2 回の市内美化運動への入居者、職員合同での参加も定着し、地域での役割のひとつとなっている。イベント開催においても開放型を意識し地域に根差した施設を目指している。

#### 【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	208 戸（31 戸）	70 名	169 名	239 名

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	計
人数	220 名	7 名	3 名	3 名	0 名	6 名	239 名
構成比	92.0%	2.9%	1.3%	1.3%	0.0%	2.5%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	16 名	41 名	52 名	56 名	42 名	22 名	10 名	0 名	0 名	239 名
構成比	6.7%	17.1%	21.8%	23.4%	17.6%	9.2%	4.2%	0.0%	0.0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
83.5 歳	80.9 歳	84.6 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	5 名	8 名	(7 名)
女	14 名	7 名	(6 名)
計	19 名	15 名	(13 名)

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	71 名	15 名	8 名	19 名	10 名	3 名	11 名	5 名
期末人数	66 名	15 名	4 名	16 名	7 名	8 名	10 名	6 名
月平均人数	65.3 名	14.3 名	4.8 名	15.5 名	8.1 名	8.5 名	9.2 名	4.9 名

## 介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園

2018年度は各種ケアサービスの質の向上を目指し、「チームケア」を実践した年であった。「認知症ケア」については、認知症専門ケア加算をきっかけに、これまでの「認知症ケアマッピング」に加え認知症予防活動から進行防止等、様々なアクティビティ活動を日常生活に取り入れることにより、「お一人おひとりに寄り添えるケア」となった。

「エンド・オブ・ライフケア」については、聖隷横浜病院との協力・連携のもと、本人・家族の想いをタイムリーに受けとめ、適宜サービス担当者会議を開催し、継続的な「チームケア」へと繋げることが出来た他、デスカンファレンスに家族に参加していただいた事によりチームケアの結束力を強め、職員の喪失感が癒されたように思う。

一方、経営面については、入居率が94.1%（2017年度95.2%）で推移したことと、平均要介護度が2017年度の3.0より2.5に低下したことにより、介護保険収益に大きく影響し予算達成はできなかった。

### 1. 安全・安心・良質なサービスの提供

- (ア) 入居当初やターミナル期の他、入居者・家族参加型のサービス担当者会議を複数回開催し、情報交換・共有を行いチームケアの充実を図った。
- (イ) ケアに関する事故以外の重大事故にも、SHELL分析を実施しPDCAサイクルを実践することにより、適切な対策を講じて再発防止に努めた。
- (ウ) 認知症ケアマッピングの継続と認知症予防活動から進行防止等、様々なアクティビティ活動を定期開催し、認知症ケアの質の向上を図った。
- (エ) ターミナル期には本人・家族参加のサービス担当者会議の随時開催が定着した他、デスカンファレンスにも家族に参加していただくことができ、家族を含めたチームケアの結束を強めターミナルケアの充実を図ることができた。
- (オ) 入居者満足度調査の結果を踏まえ、課題に向けた改善計画を実践した。

### 2. 人財の育成

- (ア) 「エーデンな一カード」の活用継続により、職員のモチベーションアップとコミュニケーションの場となり、定着傾向であり今後も継続していきたい。
- (イ) 介護リーダーは浸透・定着傾向である。認知症実践者研修・認知症実践リーダー研修の他、施設内部研修も体系が整いつつある。
- (ウ) ストレスチェックの結果は2017年度同様だった。持病によるメンタル不全者については2019年度以降、更なる対策が必要である。

### 3. 経営基盤の安定と持続性の確保

- (ア) 2018年度の平均入居率は94.1%と、2017年度の95.2%を更に下回る結果となった。要因としては、医療機関等からの紹介をタイムリーに受け入れる体制が不十分であったことや、入居検討者の検討期間が長期化したことがあげられる。今後は介護保険法の改正を見据えた入居者募集が必須である。
- (イ) 平均入居率の低下、平均要介護度の低下に伴い減収した。収支構造の改革と共に、高騰す

る人件費への対応も検討していきたい。

(ウ) 予定通りの改修・修繕を実施した。

#### 4. 地域社会との連携と協働

(ア) 近隣消防署の立ち合いによる防災訓練、ALSOK による防犯訓練を実施した。

(イ) 町内会活動への参加、公園清掃や地元祭事への参加交流を継続した他、8月の自治会主催の「神輿」には職員3名が担ぎ手として参加した。近隣中学との交流も開始した。

#### 5. 環境・省エネルギー活動への取組の強化

(ア) 事業ゴミの適切な分別と削減に取り組み、事業ゴミは減少した。

(イ) 施設内の環境測定を定期的に継続したが、水光熱費は上昇している為、対策を検討した。

#### 6. 地域における公益的な取組

(ア) 園主催の「ミニセミナー」を地域住民に対して参加を呼びかけて交流を図った。

(イ) 近隣の保育園へ夕食を提供している（有料）。

### 【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	46戸(0戸)	9名	37名	46名

表2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	ハワイ	計
人数	42名	1名	2名	0名	0名	0名	1名	46名
構成比	91.3%	2.2%	4.3%	0%	0%	0%	2.2%	100%

表3：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	8名	16名	15名	3名	3名	0名	1名	0名	0名	46名
構成比	17.4%	34.8%	32.6%	6.5%	6.5%	0%	2.2%	0%	0%	100%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
89.0歳	88.3歳	89.3歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	3名	4名	(2名)
女	8名	8名	(7名)
計	11名	12名	(9名)

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	49名	3名	5名	9名	4名	11名	8名	9名
期末人数	46名	1名	4名	9名	8名	10名	7名	7名
月平均人数	48.3名	2.1名	4.7名	8.9名	6.8名	9.8名	8.8名	7.3名

## 聖隷藤沢ウェルフェアタウン

開設8年目を迎えた聖隷藤沢ウェルフェアタウンは、2017年度に引き続き、提供しているサービスの検証と、将来に向けた基盤づくりの検討を積み重ねてきた。運営においては、これまで掲げてきた「安心・安全」を最優先に、ウェルフェアタウンの各事業所間の情報交換・情報共有の体制をより強化し、質の高いサービスの提供に努めてきた。中でも、エンド・オブ・ライフや認知症ケアの理解と実践には、高齢者複合施設としてウェルフェアタウン全体で注力し取り組んできた。その他、EQCへの取り組みにおいては、第一段階の目標であったマニュアルや運用の点検・整備を行い、各事業所や職場において安定したサービスの提供と臨機応変に対応する力を向上させることができた。これらを踏まえ、以下に2018年度の聖隷藤沢ウェルフェアタウンの各事業の成果について報告する。

### 【藤沢エデンの園一番館】

二番館への住み替えは8名に上ったが、入居率は100%に近い率を維持することができた。しかし、要介護認定者も50名を超え、入居者の日常生活自立度も大きく変化していく中、住宅型有料老人ホームとしての運営体制や生活支援サービスの在り方について、様々な課題が表出し始めた一年であった。それら課題が把握できた背景には、今年度の第三者評価（全国有料老人ホーム協会）受審によるところも大きく、内部監査や監事監査以外の外部評価制度受審は意義あるものであった。その他に、基本チェックリストの実施、定期健康診断項目の精査と受診率向上への働きかけ、居室訪問等による日常生活の情報の把握と管理の強化に取り組み、それらを基にした適時・適切なアドバイスやサービスの提供によって、入居者がより安心して充実した生活を送るための環境を構築することに注力してきた。

### 【藤沢エデンの園二番館】

2018年度は、一番館入居者の一時静養利用と住み替えによる入居が、これまで以上に多数に上った一年であった。スタッフの確保も困難を極めたが、サービスが低下することなく運営ができたことは、スタッフ一人ひとりの知識と技術のレベルアップの表れと評価する。入居者のニーズをできる限り把握し、よりよいプランづくりのために多職種によるサービス担当者会議を計画的に実践できたことは、入居者家族から評価をいただいている。その他にも、年間を通してエンド・オブ・ライフをはじめ入居者や家族のニーズをより反映するための様々な取り組みを継続してきた。今後も、入居者にとって終の棲家である二番館が、より安全で安心な住まいとなるよう、職員一丸となって知識と技術の研鑽を継続していく。

### 【藤沢愛光園・在宅サービス部門】

年度途中の施設長交代もあったが、現場では「利用者一人ひとりを大切にされたケア」「入院させないケア」の実践を継続し、一定の利用率・入所率を維持することができた。また、利用者一人ひとりに、より最適なサービスを提供するために、ケアマネジメント業務を専属で行うスタッフを配置する体制を整えた。2019年度も、地域の皆様が困った時・必要な時に一番に利用したい施設を目指す。

訪問事業・通所事業も、エデンの園や愛光園と同様、2017年度以上にスタッフ確保に苦戦した一年であった。そのため、経営成績は予算を大きく下回った事業所もあるが、居宅介護支援事業



所をはじめ、困難なケースであってもサービス提供を断らない在宅部門の運営姿勢は、行政・地域包括支援センター・医療機関等から高い評価をいただいた。湘南大庭地区は、藤沢市の中でも高齢化率が突出していることから、企業や他法人の通所・在宅事業所の新規開設が続いているが、上述の運営姿勢を継続する他、特徴ある事業内容を可視化し、地域において必要不可欠な事業所を目指していく。

#### 1. 最善を追求したサービスの提供

2018年度も、職場や職種を超えてウェルフェアタウン全体で利用者中心のケアが行われるよう、虐待防止、身体拘束ゼロへの取り組み、エンド・オブ・ライフ、介護技術、認知症ケア等の理解と実践のために多くの機会を設けてきた。スタッフには、各種研修会・勉強会を通じて、ウェルフェアタウンの中でそれぞれが重要な役割を担っていることを再認識し、全員が主役となって運営していく風土の醸成を推進してきた。

#### 2. 「提案・改善・改革」の継続（PDCAの理解と実践）

日々の現場業務の中で「提案・改善・改革」を実践することに加え、一番館では全国有料老人ホーム協会第三者評価受審、その他タウン内各事業所でも内外の監査やEQCの取り組み等により「現状把握⇒課題発見⇒課題解決に向けた計画立案⇒実行⇒検証」のサイクルを一定レベルで機能させることができた。

#### 3. その時その場が育成の機会（OJTの強化）

いずれの事業所においても、職員育成がシステムとして機能するには至らず、十分な成果を上げることができなかった。2018年12月より、フィリピンとのEPAにより4名の介護福祉士候補者を二番館・愛光園で受け入れている。彼らの育成においても現場教育が大変重要であることを再認識し、2019年度はOJTの更なる強化を図りたい。

#### 4. 将来を見据えた施設の価値創造

「藤沢市家族介護者教室事業」への関わりも8年目となり、地域に根ざした公益的な活動として市民の皆様に認知されている。また、2017年度に引き続き、地域における公益的な取組として、自然災害をテーマに「シニアのための防災フェスタ」を開催した。その他、隣接するマンション入居者を対象とした健康セミナーの開催や、地域の福祉分野で学び・働く方々との合同研修会の実施等により、多職種連携も深まりつつある。今後も公益的活動や地域包括ケアシステムにおいて当タウンの役割を認識し、様々な取り組みを行っていく。

#### 5. 地域の行方不明高齢者ゼロ活動への参画

当タウンに隣接する藤沢明治地区では、市・自治会・企業の連携により認知症高齢者の見守りセーフティネットを構築しており、当タウンの職員も28名が登録し、認知症高齢者が行方不明になった際には捜索に協力するメンバーとなっている。2019年度以降、同様の活動がウェルフェアタウンの位置する湘南大庭地区でも試行される計画もあり、上述4の活動等と共に、公益的な取組として継続的に取り組んでいく。

※EQC:Eden Quality Control = エデンの園の、業務の質を管理・向上する取り組み

【藤沢エデンの園一番館－数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	203（57戸）	83名	177名	260名
サービス活動収益	388,567千円			
職員数（常勤換算）	52.86名			

\*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	四国	計
人数	228名	8名	17名	1名	3名	2名	1名	260名
構成比	87.6%	3.1%	6.5%	0.4%	1.2%	0.8%	0.4%	100.0%

表 3：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	3名	13名	57名	74名	64名	31名	18名	0名	0名	260名
構成比	1.2%	5.0%	21.9%	28.5%	24.6%	11.9%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
80.4歳	80.9歳	80歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	2名	5名	(2)名
女	8名	9名	(5)名
計	10名	14名	(7)名

【藤沢エデンの園二番館－数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	37戸（0戸）	13名	24名	37名
サービス活動収益	165,342千円			
職員数（常勤換算）	35.8名			

\*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	計
人数	31名	1名	2名	1名	1名	1名	37名
構成比	83.8%	2.7%	5.4%	2.7%	2.7%	2.7%	100.0%

表 3：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	3名	11名	8名	9名	4名	2名	0名	0名	0名	37名
構成比	8.2%	29.7%	21.6%	24.3%	10.8%	5.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
86.5歳	86.8歳	86.2歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	3名	4名	(4)名
女	5名	5名	(4)名
計	8名	9名	(8)名

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	38名	0名	3名	7名	12名	8名	4名	4名
期末人数	37名	0名	4名	6名	8名	10名	4名	5名
月平均人数	40.1名	0名	3.2名	6.7名	9.4名	11.8名	4.7名	4.3名

## 【藤沢愛光園－数値実績】

	特養入所		短期入所		合計
	既存	ユニット	既存	ユニット	
利用者定員	名	100名	名	20名	—
利用者延べ数	名	34,934名	名	6,165名	—
稼働延日数	365日		365日		—
一日平均利用者数	名	95.7名	名	16.8名	—
稼働率	%	95.7%	%	84.0%	—
単価(1人1日当り)	14,576円		13,991円		—
サービス活動収益	509,217円		86,257千円		595,474千円
職員数(常勤換算)	63.8名		13.2名		77名

\*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

## 【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

	月間 利用者数	月間 訪問数	年間 訪問数	単 価	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
実績	90.1名	575.8件	6,909件	10,037円	66,086千円	9.5名

\*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

## 【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

	介護給付			予防・総合事業		自立支援		単 価			サービス活 動収益	職員数 (常勤換算)
	月間 利用者数	月間 訪問数	年間 訪問数	月間 訪問数	年間 訪問数	月間 訪問数	年間 訪問数	介護給 付(回)	予防総合 事業(回)	自立支援 (回)		
実績	29.9名	376.2件	4,873件	134.8件	1,618件	217件	2,600件	3,600円	18,469円	4,320円	36,453千円	5.3名

\*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

	年間請求件数		単 価		訪問調査		サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
	介護	予防	介護	予防	件数	単価		
実績	1,332 件	559 件	16,881 円	4,446 円	84 件	5,000 円	25,324 円	4.1 名

\*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

	介護給付			予防・総合事業		単 価		サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
	一日 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	介護給付 (回)	予防総合 事業(回)		
一 日	18.8 件	571 件	6,851 件	19.1 件	230 件	10,077 円	40,719 円	84,464 千円	10.9 名
半 日	2.53 件	77.2 件	926 件			6,285 円			

\*サービス活動収益は内部取引前の数値

## ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2018年度は、2017年度より継続している「高齢者と認知症にやさしいエデンづくり」をさらに深めるために利用者の皆様と共に認知症について学び、正確に理解していくことに注力した。そして「エデン版地域包括ケアシステム」の運用を開始し、「いきいき生活室」を設置した。

有料老人ホームにおいては新規契約戸数の予算を上回る契約戸数を達成することができ、一般居室は高い入居率を継続した。介護居室は11月に4戸増室を行い、必要とされる方への住み替えを円滑に行うことができた。施設整備として、2017年度に全面改修を行った男女大浴場の濾過設備の更新、図書コーナーのリニューアル等環境整備を行った。クリニックにおいては、診療報酬改定が行われ、全体で0.55%のマイナス改定も影響し、厳しい経営状況となった。奈良ベテルホームにおいては、11月に「在宅強化型老健施設」として運用を開始し、利用者確保のための渉外活動も積極的に行ったが、通所リハビリテーションの利用者数が減少し、年間を通して大幅な収益減となった。在宅事業においては、地域ケア会議への積極的な参加などにより、医療・介護・地域との連携を強化することで、安定した利用者確保を目指し取り組んだが、利益計上が厳しい事業所があった。

なお、各施設別の取り組みについては、以下の通り報告する。

### ◆有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

#### 1. 聖隷理念の浸透とトータルケアサービスの実践

聖隷理念である隣人愛を基本に誰にでも優しい、困っている人がいないエデンの園を仕組みとして造る事に取り組んだ。各種相談受付の窓口として、「いきいき生活室」を立ち上げ、適切な解決の道に繋ぐことが出来た。デイサロン万葉の有効運営、各課の連携によるタイムリーな住み替え、介護予防プログラムの見直し、介護予防啓発4講座、ボランティアグループ「虹のわ」の活動等を通じ少しずつではあるが、認知症への理解が進み「助け合いの心」が生まれてきている。

しかし、まだまだ点のケアであり、その人らしさを生かした線の関わりになっていない。個人の尊厳が守られ望むエンド・オブ・ライフを経て意向に沿った看取りケアを行うことが出来るようマイメモリーシートの活用や職員の「考える力」を育てる事が今後の課題である。

#### 2. 安定した経営基盤の確立

介護居室の4室増室後は各課連携により、空室のない状況を続けた事でフル稼働運用を行った。一般居室の新入居も23件34名の入居契約につなげ、年間販売戸数の目標値2件増を達成した。入居率98.1%の高い入居率を維持したことで安定した収益確保に繋がられた。また介護報酬改定にあたり、新加算要件達成に向けての対応や適正な介護保険の区分変更(4件)、新規介護保険契約(30件)を推進したことで2017年度を上回る結果となった。大食堂の食事委託業者変更による運用が開始になり「エデン食堂」のアピールの為に誕生者会を会食形式にするなど、喫食数アップに向けて取り組んでいる。省エネルギー活動については、共用部のLED化計画的更新や2017年度のボイラー更新の効果(燃料費13%減少)により、費用削減に成果が得られた。

### 3. 人材の育成・活用・定着の強化

職員の高齢化と介護職員の採用困難な状況で、後継者の育成が急がれる中、ケア系係長の研修を行い、理念や組織で働く事の意味、係長の役割、次世代を育てる研修を実施した。またプリセプター育成のための自主勉強会は3年を終えたが学びを実践できる職員は少ない。課全体で職員を育てる風土を作ることが今後の課題である。障がい者雇用については、3.0%（目標2.3%）を達成し、多様な働き方に対応できる職場環境として継続する。

### 4. サービスの質・安全・効率の向上

感染予防委員会が中心となり、入居者・職員向けの勉強会や啓蒙活動の実施を行い、理解と協力を得ることが出来た。また、タイムリーな感染情報の発信と共有、マニュアルを遵守したことで集団感染防止に繋がり、入居者に「エデンの中にいるのが一番安全」と言ってもらえる事ができた。リスクにおいては転倒骨折事例が多く発生していることもあり、分析力の弱さから対策の甘さが浮き彫りとなり2019年度への課題となった。ハード面では危険箇所チェックを定期的に行い、順次補修工事を行っている事で共用部での事故は見られず今後も継続していく。接遇教育においては、人財育成委員会を中心に、マニュアルの改訂・巡視・職場へのフィードバックを行い改善は見られたが、職場により温度差がある。防災・防犯訓練は定着しているが、入居者を交えた実際に即した避難訓練等が必要である。園内外の美化については生活サービス課を中心に職員と入居者ボランティアが月1回の美化活動を1年間実施した。入居者の自発的参加数が少しずつ増え、園の整備が進みだした。

### 5. 地域における公益的な取組及び他施設との連携

河合町からの依頼で、地域住民を対象にした「しゃきっと教室」事業を委託され、リハビリテーション・介護・事務等の職員を派遣し体操の指導等を行っている。また6回目となる地域の総合防災訓練、炊き出し訓練や大和川一斉清掃に参加している。地域連携グループが中心となり「エデン介護教室」「河合町フリーマーケットへの参加」「介護の日ふれあいフェスタ」等の開催により、地域からの参加が増加している。認知症ケア委員会でも地域向けにD-book's Caféを毎月開催し、認知症の方の正しい理解を深める機会を持つことが出来た。園内学会においては、引き続き河合町や地域福祉事業所を招待し、研究成果を共有し交流を深めることができた。

#### ■入居者募集活動状況

新規契約戸数は23戸で、(対2017年度+3戸)その内、11戸が2人入居であった。また、退去が18戸(一般12戸、介護居室6戸)、介護居室への住替えが11戸(対2017年度比+1戸)あった。その結果、年度末の入居状況は一般居室356戸(対2017年度比+1戸)、介護居室48戸(対2017年度比+4戸)となり、入居率は一般居室98.3%、介護居室96.0%、全体で98.1%であった。

#### ■介護保険状況

介護保険認定者は2019年3月31日現在で要支援1:26名(含介護居室1名)、要支援2:28名(同0名)、要介護1:34名(同9名)、要介護2:17名(同8名)、要介護3:15名(同11名)、要介護4:16名(同15名)、要介護5:8名(同5名)、合計:144名(同49名)となった。

介護保険認定者数は、2018年度当初の130名から14名増加した。

【数値実績】

■表 1:契約状況

(3月末現在)

(3月末現在)

	居室数	契約数 (内複数入居)	入居率	男 性	女 性	全 体
一般居室	362	356 (108)	98.3%	155	358	513
介護居室	50	48 ( 1)	96.0%	30.2%	69.8%	100.0%
合 計	412	404 (109)	98.1%			

■表 2:地域別契約状況

(3月末現在)

	近畿	関東	中国	東海	北陸	四国	九州	北海道	合計
件 数	357	20	1	19	2	4	1	0	404
構成比	88.4%	5.0%	0.2%	4.7%	0.5%	1.0%	0.2%	0.0%	100.0%

■表 3:年齢構成

(3月末現在)

	～60	～64	～69	～74	～79	～84	～89	～94	95～	合計
人 数	0	6	29	52	113	95	124	67	27	513
構成比	0%	1.2%	5.6%	10.1%	22.0%	18.5%	24.2%	13.1%	5.3%	100.0%

■表 4:平均年齢

(3月末現在)

■表 5:入・退居状況

男 性	女 性	全 体	入 居	退去(内死亡退去)
81.0歳	82.6歳	82.1歳	13	8 (8)
			21	20 (18)
			34	28 (26)

■表 6:介護保険利用者 (介護保険請求者数)

	合 計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	118人	33人	18人	22人	13人	12人	14人	6人
期末人数	131人	22人	26人	31人	14人	14人	16人	8人
月平均人数	124.0人	26.2人	22.4人	26.4人	14.8人	12.9人	14.9人	6.4人

◆高齢者総合福祉センター「ふれあいプラザ」

女性をターゲットとした、クラフト系新規講座を計3回開催し予想を超える受講者があり好評であった。また、年1回開催のまほろばホールイベントでは「山田耕筰の世界」と題した演奏会は、ホール定員一杯となる来場者があり、地域の音楽イベントのニーズの高さを再認識した。

2018年度末より奈良の地の利を活かした外出企画を始め好評を得ている。一部の講座においては受講料の値上げを行い講師謝礼も増額することができた。現時点でのこの課題については完了したと考える。各企画開催数及び参加者数ともに計画数値を上回ることができた。重点課題についても概ね順調に達成できている状況である。今後はアセスメントや将来計画について十分な検討を重ねこの事業のあり方、構想を提案できるよう取り組んでいく。

◆ニッセイ聖隷クリニック

2018年4月に診療報酬改定が行われ、薬価・診療材料で1.74%、全体で0.55%のマイナス改定となった。リハビリ部門は、介護保険認定者に対するの対応がますます厳しくなる中、2019年

度以降の体制について方向性が見えてきた。入院部門は、終末期等の良い環境を提供するとの方向性で、5床の個室改修工事を行い、2019年4月より個室料を算定することになった。外来部門は、地域住民の高齢化が進んでおり、患者数が減少し続けている。また、入居者についても入退去の変化により受診者数が減少している。

#### ◆奈良ベテルホーム

2018年度は4月の介護報酬改定を受けて、在宅復帰・在宅療養支援を充実させることに注力した。結果、10月には「訪問リハビリテーション」を新規開設し、11月には「在宅強化型老健施設」として届け出ができた。しかし、通所リハビリテーションにおいては利用者数が減少し、年間を通して大幅な収益減となってしまった。ケア面においては認知症ケアの一環でスピーチロック廃止に取り組み、職員の意識改革を行った。また、在宅に戻る方への生活をイメージし、日々の生活場面に落とし込んだリハビリを実施した。環境面においては、ベッドの更新、棚や洗面、照明等大規模に設備改修することができ、利用者にとって更なる快適な環境を提供することが出来た。

#### ◆ニッセイせいい在宅介護サービスセンター・ベル 西大和店

訪問介護収益は、予防介護(総合事業対象者)の利用者数、時間、回数とも増加したが、要介護利用者等の入院や逝去・施設入所が重なったことで、利用者数、収益ともに予算未達となった。また、ケアパートナー不足により新規利用者の受入が上手く出来なかったことも利用者減の原因となった。園内では、居室サービス課、ベテルホームの介護人員不足により職員派遣を行った。

#### ◆訪問看護ステーション西大和

医療保険での訪問件数は増加したが、介護保険利用者の逝去などが多数で訪問件数が減少し平均利用者数、訪問件数共に予算未達となった。医療保険での訪問はターミナル期の依頼が多く、地域医療機関との連携と、きめ細やかな対応に努め、在宅での看取りに注力した。

#### ◆ニッセイせいいケアプランセンター西大和

介護報酬改定に対応し、特定事業所加算Ⅱ取得継続に向けて可視化を進め、「西和地域7町における入退院連携マニュアル」の活用や地域ケア会議への参加などにより、医療・介護・地域との連携を強化したことが利用者数の増加に繋がり、予算を達成し利益を上げることができた。

#### ◆その他公益的事業及び地域における公益的な取組

- (ア) 実習生受入(実人数 11名 延べ日数 116日)
- (イ) ボランティア受入(実人数 20名 延べ日数 217日)・行事ボランティア(実人数 176名)
- (ウ) 介護の日ふれあいフェスタ開催(入居者約 100名、外部約 30名)
- (エ) 文化教養講座(開催数 45回 参加者 1,132名)
- (オ) 地域住民・入居者を対象としたコンサート・講演会(開催数 12回 参加者 2,263名)
- (カ) 河合町総合防災訓練への参加(5名、内入居者 1名)
- (キ) 河合町開催マーケットへ参加・売上金は町社協寄贈(来場者約 700名、売上 59,210円)
- (ク) 大和川清掃活動への参加(職員 18名)
- (ケ) RUN 伴 2018 への参加(入居者、利用者 9名、外部 4名、職員 13名)
- (コ) エデン介護教室(年 2回開催(2回台風にて中止):参加者 43名)
- (サ) 献血(実人数 41名)



## ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

入居状況はここ数年の好調を維持し、一般居室の入居率はほぼ100%の状況であった。しかし、開園から22年が経過し、入居者の平均年齢は84.7歳、100歳以上の方2名を含め90歳以上の入居者が116名となり、介護認定を受けられる方も144名と増加する結果となった。そのような中で、介護報酬改定に対しては各課が連携を図り情報収集を行う事で、新規加算項目の速やかな取得を実現させた。また、2017年度から直営化とした食事の提供については、入居者からのリクエストをメニューに反映させたり、食材の発注先を変更したりするなど新たな取り組みをおこなった。その効果もあり、朝食、昼食、夕食とも2017年度比喫食率を上回る結果となった。引き続き選ばれる食堂運営に取り組んでいきたいと考える。一方で、2018年度の目標とした「松戸市しあわせ村構想の次なるステップを具体化する」については、明確な方針が決まるには至らなかったが、引き続き松戸市及び松戸市立福祉医療センター東松戸病院等との連携、情報共有を密にし、計画を前進させていきたいと考える。

### 1. 有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

#### (ア) 各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上

募集見学会時においても「介護・看護・看取り体制」についてのセミナーを開催するなど、将来的な自分自身の方針を具体化してもらおう契機を提供を行った。また、有料老人ホームとクリニックの看護師業務一元化を図り、確実な情報伝達に努めた。

#### (イ) 人材育成と連携

パートを含めた全採用職員対象の基礎研修を実施し、当園で働く意義や目的について共通認識を持たせることで“辞めさせない”組織風土づくりに取り組んだ。

#### (ウ) 経営基盤の安定

募集広報室が企画する見学会では、各課職場長が持ち回りでセミナー講師を担当するなど、施設全体で入居者募集に取り組んだ。更には、ホームページの更新率を高め入居者募集ツールとしての質の向上を図った。それ以外では、医療依存度の高い方に、クリニック病床を優先的に使用して頂くことで、一時介護室の適正利用を図っただけでなく、各課の情報共有を密にすることで、円滑な住替えを図った。

#### (エ) リスク管理体制の強化

2018年度は、12月に全国有料老人ホーム協会主催の『サービス第三者評価』を受審しB評価が一つのみで他はすべてA評価という非常に高い評価結果であった。感染対策については、課別に吐物処理訓練を実施し、全職員の意識統一を図ったことでノロウイルスやインフルエンザの感染拡大を防止する結果となった。

#### (オ) 社会・地域への貢献と連携

地域へも開放した転倒予防教室を7月に実施し、地域の方6名の参加があった。また、近隣の特別支援学校からの障害者雇用(2.0カウント)を通じて、社会・地域への貢献を図った。

## 2. 松戸ニッセイ聖隷クリニック

2018年度の診療報酬改定を受け、診療単価は予算を上回る結果となった。一方で患者数については、特に外来部門において、皮膚科外来を新規開設したものの予算人数には若干の未達であった。2017年度に導入した電子カルテにより、業務の効率化だけでなく、患者情報の一元管理や記録保存が確実に行われる事で、誤投薬等のリスク軽減にもつながった。

## 3. 高齢者総合福祉センター

新規教室の立ち上げは行わなかったが、既存教室で受講者数が少ない教室（押し花・パッチワーク・能楽・エンジョイアート）のPRをニッセイエデン便りで行い、あわせて見学・体験会を実施した事で、能楽教室5名、押し花教室2名、エンジョイアート1名の新規入会に繋げることができた。またテレビでも活躍中のソプラノ声楽家である白石佐和子さんをお招きし、多くの入居者に喜んでいただいた。

## 4. ニッセイエデンヘルパーステーション（訪問介護）

年度末まで毎月の新規契約が続き好調であった。しかしながら入所や逝去により介護保険利用者の数が増減を繰り返し、突出した利用者数になっていない。例年、夏は熱中症、冬は風邪やインフルエンザなど利用者・介護者ともに感染のリスクがあり気が抜けないが、2018年度においては少数で終わることができた。総合事業対象者においては、支援から介護への移行も数名いたが、ほぼ同数の新規依頼を受け、一定の利用者数を保ち続けることができた。障害者支援に関しては、順調な伸びを保っている。

## 5. 地域における公益的な取組

- (ア) 教職員免許特例法に基づく介護等体験受入を行った。(実人数1名、延べ日数5日間)
- (イ) 「ニッセイ夏祭りフェス」へ参加した。
- (ウ) 「ニッセイみどりの財団」主催の森のめぐみに触れる活動の場として、間伐材を使用した「かわり屏風」やヒノキなどを使った「クリスマスリース」作りを近隣児童対象に開催した。
- (エ) ペットボトルキャップ回収により、113 kg分をNPO法人エコキャップ推進協会へ寄付した。

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	344（78）	108	314	422

表2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	北海道	甲信越	東北	北陸	中国	計
人数	399	3	10	0	0	3	3	2	2	422
構成比	94.5	0.7	2.4	0	0	0.7	0.7	0.5	0.5	100.0

表3：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	26	90	132	77	50	29	16	1	1	422
構成比	6.2	21.3	31.3	18.2	11.9	6.9	3.8	0.2	0.2	100.0

表4：平均年齢

平均	男性	女性
84.7	83.1	85.3

表5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	10	8	（8）
女	10	9	（9）
計	20	17	（17）

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	118	29	13	27	18	11	11	9
期末人数	125	31	17	25	19	8	14	11
月平均人数	125.4	30.7	14.9	27.0	19.9	9.5	13.0	10.4

## ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

2018年度、開設して23年目を迎えた明日見らいふ南大沢（東京都住宅供給公社からの運営受託事業）は、新入居者18名を迎え（退居者24名）、入居者375名、平均年齢が85.8歳（2017年度比0.3歳上昇）で終えることとなった。

また、2018年4月1日より、明日見らいふ南大沢が1996年に開設して以来、3食合計額としては初めての食事料金値上げを行った。入居者にとって負担増となる改定であるが、人件費高騰や物価上昇へ対応であることの理解を得たことは大変有難いことであった。今後も安定して食事提供できる体制を堅持していきたい。

以下、2018年度事業の結果成果について報告する。

### 1. 入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供

#### (ア) 「健康長寿」に繋がるプログラムの定着と新しいプログラムの提供

SSE（スクエアステップエクササイズ）定着とともに新プログラムとして「スクエア9」を試験導入することができた。

#### (イ) 介護基準生活利便サービスの検討と再考

生活支援係を中心に介護基準の検証を行った。

#### (ウ) 要介護未認定入居者や困難事例に対する支援体制づくり

生活サービス課と生活支援係が支援を必要とする入居者を早期に発見対応していくための合同カンファレンスを行うなど体制づくりを行った。

#### (エ) 入居時からシームレスな情報共有

#### (オ) 入居者の意志を聞き取る体制づくり

居室訪問を見直し、事務部門ケア部門2名で訪問し、生活状況の聞き取り、確認に加え、基本チェックリストの確認、看取り指針の説明、意志確認などを行える体制を整えた。

### 2. 人材の育成

#### (ア) 役職者のマネジメント能力の向上（問題発見解決能力、判断力、組織性専門性の両立、動機づける力、承認できる力）

各役職者が自己目標を設定して能力向上に取り組んだ。

#### (イ) やりがいのある職場風土の醸成

達成感ややりがいにつなげるためにグループ活動に取り組んだ。

#### (ウ) 課を超えた正確な情報の共有ができる人材の育成

#### (エ) 他部署の仕事を知る機会をつくる

### 3. 地域における公益的な取組

#### (ア) 納涼祭介護セミナー等を通じて開かれた施設づくり

地域の小中学生に向けた介護看護の職業体験を開始した。

#### (イ) 高齢者あんしんセンターとの繋がりを持ち、専門職として地域へ出ていく機会をつくる

(ウ) 入居者の経験や知識を活かした地域貢献活動の場所づくり  
納涼祭で入居者有志によるバザーが行われた。

#### 4. 環境エコロジー活動への取組

- (ア) 入居者と共同協働による活動（ペットボトルキャップ回収等）
- (イ) 環境美化活動の継続（周辺ゴミ拾い活動）

#### 5. 入居者募集

- (ア) セミナー他、公社募集業務への協力と連携
- (イ) 募集事務所との連携強化による新規ご入居者のスムーズな受入れ
- (ウ) 職員全員が入居者募集担当であるとの自覚を持って、入居検討者をお迎えする

#### 【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男 性	女 性	計
人 数	338 戸（44 戸）	103 名	272 名	375 名

表2：地域別契約状況 (単位：名%)

	関東	近畿	東海	九州	北海道	甲信越	東北	計
人 数	354 名	7 名	7 名	1 名	2 名	3 名	1 名	375 名
構成比	94.3%	1.9%	1.9%	0.3%	0.5%	0.8%	0.3%	100.00%

表3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人 数	17 名	86 名	131 名	86 名	41 名	12 名	2 名	0 名	0 名	375 名
構成比	4.5%	22.9%	35.0%	23.0%	10.9%	3.2%	0.5%	0%	0%	100.0%

表4：平均年齢

全 体	男 性	女 性
85.8 歳	85.4 歳	86.0 歳

表5：入退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男 性	2 名	7 名	(6 名)
女 性	15 名	17 名	(16 名)
計	17 名	24 名	(22 名)

表6：介護保険利用者（介護保険請求）

	合 計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	114 名	15 名	17 名	25 名	20 名	10 名	17 名	10 名
期末人数	105 名	15 名	12 名	25 名	14 名	15 名	14 名	10 名
月平均人数	108.8 名	15.8 名	14.2 名	25.7 名	16.1 名	12.5 名	14.4 名	10.1 名

## 法人本部

2018年度は診療報酬、介護報酬そして障害福祉サービス等報酬の3つが同時に改定され、働き方改革についても議論が進んだ。これらは団塊の世代がすべて後期高齢者となる2025年を見据えた改定であるが、2025年以降2040年に向けて、高齢化のスピードは鈍化するものの、現役世代の減少が急速に進む。厚生労働省では「2040年を展望した社会保障・働き方改革」のなかで「医療福祉サービス改革」として、■ロボット、AI、ICT等の実用化推進、データヘルス改革■タスクシフティングを担う人材、シニア人材の活用推進■組織マネジメント改革（経営管理等を担う人材育成、生産性の向上等）■経営の大規模化・協働化の4点の推進を明記している。これらは、まさに聖隷福祉事業団が先進的に取り組んできたことであり、法人本部として2018年度に推進した業務と合致している。新人事制度など医療福祉人材の中長期的な確保と育成のための制度整備、障がい者雇用や外国人介護職員の採用・高齢人材の活用といった多様な雇用の推進、働き方改革に対応できる勤怠管理システムの変更や健康経営に向けての労働環境の向上、電子カルテや情報システムの導入・更新の支援、コンプライアンス意識の高い組織文化の醸成などが推進された。特に2018年度は台風により法人本部ビルが被害を受け、また大規模停電に直面するなど、防災対策について大きな知見を得る経験をした。法人本部による事業部への支援機能が整備されており、結果として中期事業計画に沿った経営を推進し、健全な財務内容確保に貢献できた。

### 【各部の報告】

#### 《総務部》

2018年度は、2019年4月施行の働き方改革関連法に対応するための検討を行い、長時間労働のを是正、有給休暇取得義務化等への対策として勤怠管理システムの変更やリアルタイムに確認できる管理帳票等を作成し、各会議体において周知を図り管理者の労務管理における意識付けを行った。

多様な人材が活躍し、働きがいのある組織とするために、病気と仕事の両立支援における新たな制度を検討し、失効年休積立制度などを導入した「がんと就労支援に関する規則」を2019年4月より施行することができた。非正規雇用者については同一労働同一賃金を見据えて、処遇・待遇を検証し通勤手当の支給見直しを行い、2019年4月より規則変更を行った。定年延長については人事企画部と連携し退職金を含め賃金シミュレーションを作成し検討を行った。

健康経営については、有所見者の再検査受診率を向上させるための体制を検討し、聖隷健康保険組合とも連携し体制整備を行うことができた。ホワイト500などの認定制度は継続して取得することができた。

2018年度は自然災害が多く、7月には強風による聖隷ビルタワーパーキング損壊、9月には静岡県西部地域広域停電が起きた。実際に災害対応することにより、実運用を盛り込んだ、広域防災に対する初動対応マニュアル、各事業部との連絡体制の構築を行った。

## 《人事企画部》

2018年4月より新人事制度の運用を開始した。新規採用職員（医師を除く）からブロック職採用を廃止し、地域で働きたい職員のニーズに対応する制度に変更した。既存職員にも大きな混乱、トラブルが発生することなく円滑にスタートした。また学校教員、学生に対して新人事制度の説明を丁寧に行うことで制度の理解が促進でき、学生ニーズにも対応できた。併せて人材育成のための事業団キャリアパスの活用を開始し、育成の体制を見える化した。研修や育成ツールを整備し、階層別研修の充実を図った。2018年度は新たな研修としてマネジャー3研修を開催し、参加者からは高評価が得られた。今後、さらにマネジャー4研修やリーダー1・2研修を開催していく。加えてパート・アルバイト職員への教育も整備し、職員一人ひとりの育成の全体整備を行った。

採用は、新規事業に向けて必要な社会福祉士・精神保健福祉士を専門職として採用することとした。また、シニア層をターゲットにしたお仕事相談会を開催し、介護補助や送迎ドライバー等の採用に繋げることができた。さらに、事業団内就労支援施設と連携し、実習から雇用に繋げるなど、現場の障がい者受け入れ促進により、障がい者法定雇用率が向上した。関西地区においては、就職に繋げるために講師派遣やインターンシップの受入れを行い、大学との産学連携事業を促進した。

2009年度から受け入れしているEPA介護福祉士候補者は、2019年度受け入れ予定者21名を含め計98名の受け入れ実績となり、現在82名が介護人材として活躍している。またインドネシアの視察および現地の看護短期大学関係者との意見交換、単独説明会を開催した結果、今後はフィリピンとインドネシアの2か国を対象にEPA介護福祉士候補者を受け入れる方向性を見出した。

事業団が提供する外部事業は、介護職員初任者研修・介護福祉士実務者研修・喀痰吸引等研修・医療的ケア教員講習会を実施し、法人内外の福祉施設の介護職、看護職のスキルアップに貢献した。また、新たに生活援助従事者研修の申請を行い、2019年度開講につなげることができた。静岡県主催「外国人介護人材受け入れセミナー」「外国人介護職員日本語研修」の委託については、継続して企画運営した。

人事企画部として、事業団の採用から育成、制度構築や地域への研修提供など大きな整備をする1年であった。

## 《財務部》

2018年度は大規模投資が事業団全体において継続する中、財務部としては四半期ごとの年度末決算予測、今後5年間のリスクシナリオの作成等、将来を見据えた経営管理の実践に取り組んだ。

中でも「有利子負債比率30%以内・純資産比率40%以上」とう中期事業計画の安全性指標を達成すべく、可能な限り銀行借入に頼らず、自己資金でカバーすることを実行し、目標を達成することができた。なお、資金運用についても、安全性を第一とした投資に限定した上で、流動資産の増加に寄与することができた。

また、今後ますます「効率性」が重視される中、業務効率の向上と経営管理情報の有効的な活用を目的とした「次期財務システム」の更新作業を開始し、2020年4月のスタートに向けて準備を進めている。

さらに、施設においてニーズの高かった「法人クレジットカード」を導入し、ネット購入への

対応と現金業務効率化に向けた土台作りをすることができた。

将来に向けての経理職員養成では、研修において、給与計算のしくみの理解、消費税増税対応等の講義を通して業務の視野を広げるとともに、特養の財務3表分析を通して経営者補佐機能という意識を高めることができた。

関連3法人（芙蓉協会、恵愛会、聖愛会）への関わりもより緊密となり、経営分析、資金管理、予算策定等の経営支援を総合企画室とともに実施することができた。

#### 《総合企画室》

中期事業計画 2016-2020 の定期進捗振り返りを行い、中期事業計画をベースとする事業運営の定着を促進した。聖隷淡路病院、聖隷横浜病院、聖隷健康サポートセンター *Shizuoka*、聖隷沼津病院、聖隷富士病院、医療法人聖愛会、社会福祉法人さくま等の経営支援を引き続き行い、経営の安定に向けた取り組みに協力することができた。経営改善に加えて施設設備関連についても支援を開始した。

2017年度のホームページリニューアル後、目標とする月間 30,000 アクセスに届かない時期が続いていたが、2018年度下半期から 30,000 アクセスを回復。コンテンツ強化を図った効果が出た。アクセス分析により内部アクセスが多いと判明したため、職員向けの広報媒体としての内容を充実した。「訪問看護師」特集を機関誌とホームページでクロス展開。特集として好評を得ると共に、秘書広報課職員の取材能力の強化につながった。西日本豪雨災害に対する支援チーム派遣の事務局を務めると共に台風 24 号による大規模停電被害を受けて、停電時の運営状況についてホームページでの告知体制を整備し、危機管理機能の充実を図ることができた。

#### 《総合情報システム部》

2018年度は、情報システムグランドデザインに基づき、事業ごとのシステム統一作業が本格的に実施される年となった。2017年度の聖隷横浜病院・聖隷佐倉市民病院の電子カルテ構築に引き続き、2018年度は聖隷浜松病院・聖隷三方原病院の電子カルテ更新が実施され、法人本部としてもプロジェクト実施における後方支援を行った。稼働直後は一部混乱も発生したが、無事にシステムを稼働できた。2019年度は、浜松市リハビリテーション病院・聖隷袋井市民病院・聖隷淡路病院の3病院で新病院システム稼働も控えており、これまでの経験からノウハウを蓄積し、安定したシステム構築を行う土台固めにつなげることができた。

また、高齢者公益事業部では、現行システムの老朽化に伴い、次期システムとしてタブレット端末などを活用した新たな記録システムの構築に着手した。次期システムでは、業務効率化を目標としたシステムを目指しており、2020年4月の本稼働を目指して構築作業を実施している。他事業部においても、無線 LAN やモバイル端末などの積極的な活用による業務効率化を目指したシステムの活用が進んでおり、既存システム連携や構築の支援を積極的に実施している。財務システムも AI 技術を搭載した次世代 ERP システムの構築を開始しており、スピード経営や現場業務の効率化に更なる貢献を行いたい。

災害対策の観点では、2017年度に引き続き、各システムのクラウド化や遠隔バックアップなどの対応を進めている。新たな稼働を迎えた各業務システムのデータ保存及び閲覧の機能を遠隔地で構築し、BCP 実効性を向上させている。広義の意味での災害対策として、サイバーインシデント



対応についても検討を開始。CSIRT 構築などの社内体制整備やインシデント対策研修などによるソフト面の充実を図る予定である。

また、将来の情報部門の在り方について、情報責任者会を中心とした検討部会を発足し、次世代の情報部門を担う人材育成方法を含めた検討を開始した。今後も事業団の各サービスの質向上に寄与するシステム構築に努めたい。

#### 《監査室》

監査室は内部監査、内部通報窓口、コンプライアンス啓発活動を主たる業務としているが、慢性的な人手不足感は否めず、リスクベースの内部監査実施に向けた具体的準備には至らなかった。

内部監査はコントロールベースによる従来通りの手法を踏襲したが、全体の指摘数は2017年度に比べて大幅に増加しており、精度の向上を図ることができた。

内部通報窓口における相談件数は、2016年度から2017年度にかけて半減したが、2018年度は監査室職員が不在にする日を極力抑える取り組みを行った結果、2016年度を超える件数を数えることができ、事業団のコンプライアンス維持に寄与した。

コンプライアンス啓発活動については、2017年度と同様、研修用教材の作成、提供を行った。また、2006年に作成したコンプライアンスガイドラインの改定案を作成し、コンプライアンス委員会で承認を得、改定版を発行することができた。

## 2018年度施設整備事業報告

施設種別	病院
施設名	聖隷浜松病院
所在地	静岡県浜松市住吉2-12-12
工事名	透析機能移転及び厨房改修工事（2期）
事業完了年月日	2期工事全体は2018年9月30日
施設の構造	鉄筋コンクリート造、他
延床面積	A棟地下1階厨房改修分：700.69㎡、その他S棟部分改修：934.76㎡
総事業費	¥428,760,000.-（税込、工事費のみ）
財源	借入金を含む自己資金
備考	



## 法人の概要

- ・ 法人名 社会福祉法人 せいらいふくしじぎょうだん 聖隷福祉事業団
- ・ 創立 1930年（昭和5年）5月
- ・ 基本理念 キリスト教精神に基づく「隣人愛」
- ・ 代表者 理事長 やまもと としひろ 山本 敏博
- ・ 所在地 静岡県浜松市中区住吉2丁目12番12号（法人登記）
- ・ 事業内容
  1. 医療事業（病院・診療所・ホスピスなど）
  2. 保健事業（健康増進・健康診断・人間ドック・疾病予防・労働環境測定など）
  3. 福祉事業（特別養護老人ホーム・障害者支援施設・救護施設・無料又は低額診療・保育事業・有料老人ホーム事業など）
  4. 介護サービス事業（介護老人保健施設・通所事業・訪問看護ステーション・在宅訪問事業など）
- ・ 事業規模 施設・事業数： 152施設 349事業（2019年3月時点）  
職員数： 15,060名（非常勤含む）（2019年3月時点）  
サービス活動収益： 1,160億円（2018年度）

# 実施する事業の概要

## 【第1種社会福祉事業】

2019年3月31日現在

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
救護施設	聖隷厚生園讃栄寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	奄美佳南園	80	1974年5月1日	鹿児島県奄美市
特別養護老人ホーム	宝塚栄光園	70	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
特別養護老人ホーム	横須賀愛光園	104	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
特別養護老人ホーム	森町愛光園	80	1993年4月1日	静岡県周智郡森町
特別養護老人ホーム	森町愛光園天宮サテライト	29	2012年4月1日	静岡県周智郡森町
特別養護老人ホーム	いなさ愛光園	70	1997年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園	102	1999年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園初生サテライト	29	2012年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園和合サテライト	29	2014年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	浜北愛光園	150	1999年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	花屋敷栄光園	108	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
特別養護老人ホーム	淡路栄光園	60	1999年4月1日	兵庫県淡路市
特別養護老人ホーム	浦安市特別養護老人ホーム(受託経営)	100	1999年8月1日	千葉県浦安市
特別養護老人ホーム	松戸愛光園	100	2003年5月1日	千葉県松戸市
特別養護老人ホーム	浦安愛光園	74	2006年4月1日	千葉県浦安市
特別養護老人ホーム	藤沢愛光園	100	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
特別養護老人ホーム	聖隷カーネーションホーム	54	2014年4月1日	兵庫県淡路市
特別養護老人ホーム	宝塚すみれ栄光園	100	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
軽費老人ホーム	もくせいの里	50	1978年12月1日	静岡県浜松市
軽費老人ホーム	ケアハウス花屋敷	100	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
軽費老人ホーム	浦安市ケアハウス(受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市
軽費老人ホーム	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
障害者支援施設	障害者支援施設 みるとす	20	2003年4月1日	静岡県浜松市
障害者支援施設	聖隷厚生園信生寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市
障害児入所施設	聖隷おおぞら療育センター	170	2006年10月1日	静岡県浜松市

## 【第2種社会福祉事業】

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
医療保護施設	聖隷三方原病院	934	1942年11月9日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園わかば	200	1966年11月1日	静岡県浜松市
保育所	こうのとり保育園	120	1971年11月1日	静岡県磐田市
保育所	春日保育園	120	1972年4月1日	鹿児島県奄美市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園桜ヶ丘	190	1975年4月1日	静岡県浜松市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園ひかりの子	230	1976年4月1日	静岡県浜松市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり東	200	1978年4月1日	静岡県磐田市
保育所	逆瀬川あゆみ保育園	45	2002年4月1日	兵庫県宝塚市
保育所	御殿山あゆみ保育園	120	2003年4月1日	兵庫県宝塚市
保育所	野上あゆみ保育園	90	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり豊田	155	2011年4月1日	静岡県磐田市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園めぐみ	160	2017年4月1日	静岡県浜松市
事業所内保育所	聖隷浜松病院ひばり保育園	145	2015年4月1日	静岡県浜松市
事業所内保育所	聖隷めぐみ保育園	30	2015年4月1日	静岡県浜松市
地域子育て支援拠点事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
地域子育て支援拠点事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市
地域子育て支援拠点事業	磐田市子育て支援総合センター のびのび(受託経営)	—	2003年7月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	春日保育園	—	2009年4月1日	鹿児島県奄美市
一時預かり事業	聖隷こども園桜ヶ丘	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	聖隷こども園ひかりの子	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり東	—	2009年4月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	逆瀬川あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
一時預かり事業	御殿山あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
一時預かり事業	野上あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり豊田	—	2011年4月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	聖隷こども園めぐみ	—	2017年4月1日	静岡県浜松市
病児保育事業	聖隷こども園わかば	4	2015年4月1日	静岡県浜松市
病児保育事業	こうのとり保育園	6	2015年4月1日	静岡県磐田市
病児保育事業	聖隷こども園こうのとり東	4	2015年4月1日	静岡県磐田市
児童厚生施設	御殿山児童館	—	2003年4月1日	兵庫県宝塚市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
児童厚生施設	野上児童館	—	2008年11月4日	兵庫県宝塚市
助産施設	聖隷浜松病院併設助産所	10	1969年6月1日	静岡県浜松市
助産施設	聖隷三方原病院併設助産所	6	1994年9月19日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	横須賀愛光園デイサービスセンター	30	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
老人デイサービスセンター	奄美佳南園デイサービスセンター	20	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
老人デイサービスセンター	森町愛光園デイサービスセンター	42	1993年4月1日	静岡県周智郡
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	40	1995年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	奄美佳南園春日デイサービスセンター	15	1996年11月1日	鹿児島県奄美市
老人デイサービスセンター	いなさ愛光園デイサービスセンター	45	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	和合愛光園デイサービスセンター	62	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	高菌デイサービスセンター	40	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	花屋敷デイサービスセンター	59	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	デイサービスセンター淡路	35	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人デイサービスセンター	浦安市高洲高齢者デイサービスセンター(受託経営)	25	1999年8月1日	千葉県浦安市
老人デイサービスセンター	浦安市猫実高齢者デイサービスセンター(受託経営)	25	1999年10月1日	千葉県浦安市
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬川デイサービスセンター	40	2000年4月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター住吉	35	2001年8月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	松戸愛光園デイサービスセンター	29	2003年5月1日	千葉県松戸市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター初生	50	2004年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザIN高丘	65	2007年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹	12	2010年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター三方原	65	2011年3月15日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター藤沢	30	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター結い	18	2013年6月3日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷カーネーションホーム デイサービスセンター	42	2014年4月1日	兵庫県淡路市
老人デイサービスセンター	宝塚すみれ栄光園デイサービス センター	30	2014年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザいなさ	45	2015年10月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンターゆい	20	2017年4月1日	沖縄県中頭郡
老人短期入所事業	老人短期入所事業(横須賀愛光園)	16	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(森町愛光園)	12	1993年4月1日	静岡県周智郡
老人短期入所事業	老人短期入所事業(宝塚栄光園)	15	1993年4月1日	兵庫県宝塚市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
老人短期入所事業	老人短期入所事業(いなさ愛光園)	20	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(和合愛光園)	20	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(浜北愛光園)	40	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(花屋敷栄光園)	12	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(淡路栄光園)	17	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人短期入所事業	浦安市特別養護老人ホーム (受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(奄美佳南園)	10	1999年4月1日	鹿児島県奄美市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(松戸愛光園)	20	2003年6月1日	千葉県松戸市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(藤沢愛光園)	20	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
老人短期入所事業	聖隷カーネーションホーム	16	2014年4月1日	兵庫県淡路市
老人短期入所事業	老人短期入所事業 (宝塚すみれ栄光園)	20	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
老人介護支援センター	奄美佳南園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
老人介護支援センター	いなさ愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人介護支援センター	森町愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1998年10月1日	静岡県周智郡
老人介護支援センター	聖隷在宅介護支援センター淡路 (受託経営)	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人居宅介護等事業	奄美佳南園	—	1993年10月1日	鹿児島県奄美市
老人居宅介護等事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1997年10月1日	兵庫県宝塚市
老人居宅介護等事業	森町愛光園ホームヘルパーステーション	—	1998年10月1日	静岡県周智郡
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター初生	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
認知症対応型老人共同生活援助事業	ほのぼのケアガーデン	9	2001年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	奄美佳南園	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション 横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション初生	—	2012年7月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	2017年11月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	奄美佳南園	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション初生	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーセンター	—	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	2012年3月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2013年3月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション初生	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(生活訓練)	生活訓練事業所ナルド	10	2010年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(生活訓練)	聖隷チャレンジ工房磐田	6	2017年4月10日	静岡県磐田市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(機能訓練)	聖隷厚生園まじわりの家	6	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	聖隷厚生園信生寮	60	1993年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	生活訓練事業所ナルド	10	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	聖隷厚生園まじわりの家	14	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	障害者支援施設 みるとす	40	1999年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	あさひ	35	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	聖隷厚生園きらめき工房	10	2017年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	森町愛光園デイサービスセンター	基準 該当	2017年4月1日	静岡県周智郡
(障害福祉サービス事業) 生活介護	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	基準 該当	2017年10月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	花屋敷栄光園デイサービスセンター	基準 該当	2017年10月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター	共生 型	2018年10月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 療養介護	聖隷おおぞら療育センター	150	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷厚生園信生寮	10	1978年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷厚生園讃栄寮	4	1978年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	障害者支援施設 みるとす	2	2003年4月1日	静岡県浜松市



施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷おおぞら療育センター	20	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	奄美佳南園	—	2015年6月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	浜北愛光園	—	2013年1月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	森町愛光園	—	2013年11月1日	静岡県周智郡
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園	—	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園初生サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷カーネーションホーム	—	2016年9月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	淡路栄光園	—	2016年9月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	宝塚すみれ栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	花屋敷栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	宝塚栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	松戸愛光園	—	2018年2月1日	千葉県松戸市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	浦安愛光園	—	2018年4月1日	千葉県浦安市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	浦安ベテルホーム	—	2018年9月1日	千葉県浦安市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	横須賀愛光園	—	2019年1月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	ナルド工房	15	2007年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷厚生園チャレンジ工房	15	2012年3月15日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷厚生園きらめき工房	15	2014年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷チャレンジ工房磐田	14	2017年4月10日	静岡県磐田市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷チャレンジ工房カナン	6	2017年4月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	ナルド工房	15	2007年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業A型	ナルド工房	10	2017年9月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	聖隷厚生園チャレンジ工房	15	2012年3月15日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業A型	聖隷厚生園チャレンジ工房	10	2018年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	聖隷厚生園きらめき工房	15	2014年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	聖隷チャレンジ工房磐田	6	2017年4月10日	静岡県磐田市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	聖隷チャレンジ工房カナン	14	2017年4月1日	鹿児島県奄美市
地域活動支援センター	ナルド(受託経営)	—	2003年4月1日	静岡県浜松市
移動支援事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
移動支援事業	奄美佳南園	—	2007年7月1日	鹿児島県奄美市
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
移動支援事業	聖隷ヘルパーセンター初生	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
無料又は低額診療事業	聖隷淡路病院	152	1999年12月1日	兵庫県淡路市
無料又は低額診療事業	聖隷横浜病院	300	2003年3月1日	神奈川県横浜市
無料又は低額診療事業	聖隷佐倉市民病院	400	2004年3月1日	千葉県佐倉市
無料又は低額介護老人保健施設	三方原ベテルホーム	150	1991年5月1日	静岡県浜松市
無料又は低額介護老人保健施設	浦安ベテルホーム	100	2006年4月1日	千葉県浦安市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	のぞみ園	25	2014年1月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	のぞみ園	20	2014年1月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	のぞみ園	—	2015年3月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業	磐田市発達支援センターはあと (受託経営)	—	2007年11月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	児童発達支援センターひかりの子	15	2012年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	児童発達支援センターひかりの子	5	2013年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	児童発達支援センターひかりの子	—	2015年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	聖隷こども発達支援センターかるみあ	30	2013年10月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	聖隷こども発達支援センターかるみあ	—	2013年10月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	聖隷かがやき	10	2016年6月1日	鹿児島県大島郡
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	聖隷かがやき	—	2016年6月1日	鹿児島県大島郡
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田	10	2016年4月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田	—	2017年4月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	聖隷放課後クラブはなえみ和合	10	2016年10月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	聖隷放課後クラブはなえみ高丘	10	2017年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	聖隷放課後クラブはなえみ森町	10	2017年4月1日	静岡県周智郡
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	聖隷放課後クラブはなえみ磐田	10	2017年4月10日	静岡県磐田市
障害児相談支援事業	信生	—	2012年6月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	浜松東	—	2013年9月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2015年4月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	指定相談支援事業所おぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市
障害児相談支援事業	聖隷相談支援事業所森町	—	2017年3月1日	静岡県周智郡
障害児相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ北神戸	—	2018年6月1日	兵庫県神戸市
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ浦安	—	2018年4月1日	千葉県浦安市
一般相談支援事業	信生	—	2013年4月1日	静岡県浜松市
一般相談支援事業	ナルド	—	2013年4月1日	静岡県浜松市
一般相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ北神戸	—	2018年6月1日	兵庫県神戸市
特定相談支援事業	浜松東	—	2007年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	信生	—	2012年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	ナルド	—	2012年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2012年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市
特定相談支援事業	指定相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市
特定相談支援事業	聖隷相談支援事業所森町	—	2017年3月1日	静岡県周智郡
特定相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ北神戸	—	2018年6月1日	兵庫県神戸市
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ浦安	—	2018年4月1日	千葉県浦安市

### 【公益事業】

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
医療施設	聖隷浜松病院	750	1962年3月5日	静岡県浜松市
医療施設	聖隷浜松病院附属診療所 聖隷健康診断センター	—	1975年5月16日	静岡県浜松市
医療施設	宝塚エデンの園附属診療所	19	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
医療施設	油壺エデンの園附属診療所	15	1986年11月1日	神奈川県三浦市
医療施設	診療所聖隷予防検診センター	11	1987年4月1日	静岡県浜松市
医療施設	診療所聖隷クリニック南大沢	—	1996年6月1日	東京都八王子市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
医療施設	浜名湖エデンの園診療所	—	2000年3月15日	静岡県浜松市
医療施設	浦安せいれいクリニック	—	2006年4月1日	千葉県浦安市
医療施設	浜松市リハビリテーション病院 (受託経営)	225	2008年4月1日	静岡県浜松市
医療施設	袋井市立聖隷袋井市民病院 (受託経営)	150	2013年5月1日	静岡県袋井市
医療施設	聖隷健康サポートセンター <i>Shizuoka</i>	—	2010年4月1日	静岡県静岡市
医療施設	聖隷静岡健診クリニック	—	2013年4月1日	静岡県静岡市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	520	1973年5月1日	静岡県浜松市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	1980年6月20日	愛媛県松山市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	1986年11月1日	神奈川県三浦市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市
有料老人ホーム	住宅型有料老人ホーム 藤沢エデンの園一番館	418	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウエル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	奈良ベテルホーム	116	1992年4月1日	奈良県北葛城郡
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市
ケア付高齢者住宅	明日見らいふ南大沢 (受託経営)	536	1996年6月1日	東京都八王子市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉	—	1993年1月18日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション細江	—	1995年3月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション浅田	—	1995年10月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション宝塚	—	1995年10月1日	兵庫県宝塚市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション貴布祢	—	1997年2月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション北神戸	—	1997年5月1日	兵庫県神戸市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション高丘	—	1997年11月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	せいれい訪問看護ステーション横浜	—	1997年12月1日	神奈川県横浜市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション油壺	—	1998年10月1日	神奈川県三浦市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション横須賀	—	1998年11月1日	神奈川県横須賀市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション淡路	—	2000年3月1日	兵庫県淡路市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	せいれい訪問看護ステーション佐倉	—	2010年1月1日	千葉県佐倉市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉第二	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション山本	—	2012年11月1日	兵庫県宝塚市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーションゆい	—	2013年3月1日	沖縄県中頭郡
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション浦安	—	2016年3月1日	千葉県浦安市
高齢者生活支援ハウス	やまぶき(受託経営)	5	1999年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜松	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター細江	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜北	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター森町	—	2000年4月1日	静岡県周智郡
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター宝塚	—	2000年4月1日	兵庫県宝塚市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター北神戸	—	2000年4月1日	兵庫県神戸市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター横須賀	—	2000年4月1日	神奈川県横須賀市
居宅介護支援事業	奄美佳南園 在宅介護支援センター	—	2000年4月1日	鹿児島県奄美市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター花屋敷	—	2003年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅介護支援事業	松戸愛光園ケアプランセンター	—	2004年4月1日	千葉県松戸市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター和	—	2007年2月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター淡路	—	2010年5月1日	兵庫県淡路市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター藤沢	—	2011年3月1日	神奈川県藤沢市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浦安	—	2011年6月1日	千葉県浦安市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターすみれ	—	2014年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅介護支援事業	聖隷居宅介護支援センターゆい	—	2015年1月1日	沖縄県中頭郡
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ南部	—	2015年10月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浅田	—	2016年10月1日	静岡県浜松市
居宅介護等事業	聖隷ケアプランセンター淡路第二	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
訪問入浴介護事業	奄美佳南園訪問入浴事業所	—	2000年4月1日	鹿児島県奄美市
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	1990年4月1日	静岡県浜松市
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅療養管理指導事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
訪問看護事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	地域包括支援センター和合 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	地域包括支援センター細江 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	花屋敷地域包括支援センター (受託経営)	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市
地域包括支援センター	地域包括支援センター北浜 (受託経営)	—	2007年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	逆瀬川地域包括支援センター (受託経営)	—	2007年4月1日	兵庫県宝塚市
地域包括支援センター	西第二地域包括支援センター (受託経営)	—	2008年4月1日	神奈川県横須賀市
地域包括支援センター	地域包括支援センター高丘 (受託経営)	—	2012年10月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	浦安市高洲地域包括支援センター (受託経営)	—	2016年4月1日	千葉県浦安市
身体障害者向け住宅の事業	シオンハウス (身体障害者用住宅)	5	1992年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所 くすのき(受託経営)	—	1999年4月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所 ナルド(受託経営)	—	2003年4月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所 信生(受託経営)	—	2003年4月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	聖隷おおぞら療育センター	—	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	聖隷厚生園信生寮	—	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	みるとす	—	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所 浜松東(受託経営)	—	2007年4月1日	静岡県浜松市
入浴、排せつ、食事、外出時の移動、コミュニケーション、スポーツ・文化的活動、就労、住環境の調整等を支援する事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	1990年4月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
入浴、排せつ、食事、外出時の移動、コミュニケーション、スポーツ・文化的活動、就労、住環境の調整等を支援する事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
浜松市生活困窮者自立促進支援モデル事業	浜松市生活自立相談支援センターつながり(受託事業)	—	2014年4月1日	静岡県浜松市
社会福祉の増進に資する人材の育成・確保に関する事業	法人本部	—	2007年4月1日	静岡県浜松市

**【収益事業】**

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
貸事務所	法人本部	—	2005年1月1日	静岡県浜松市

## 社会福祉法人 聖隷福祉事業団 役員名簿

理事会  
開催日

	氏 名	役 職 名
理事	青木 善治	常務執行役員 (財) 芙蓉協会理事
理事	荻野 和功	専務執行役員・聖隷三方原病院院長 (学) 聖隷学園理事
理事	日下部 行宏	常務執行役員 (財) 恵愛会常務理事
理事	鈴木 睦明	常務執行役員・高齢者公益事業部長 (公財) ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事
理事	津幡 佳伸	常務執行役員・在宅・福祉サービス事業部長 (福) 十字の園理事・(福) 神戸聖隷福祉事業団理事
理事	岡 俊明	専務執行役員・聖隷浜松病院院長 (学) 聖隷学園理事
理事	平川 健二	常務執行役員・法人本部総務部長 (公財) ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員
理事	福田 崇典	専務執行役員・保健事業部長 (財) 芙蓉協会評議員
理事長	山本 敏博	代表執行役員 (公財) ニッセイ聖隷健康福祉財団会長

4月 13日
4月 27日
5月 11日
5月 25日
6月 1日
6月 22日
7月 13日
7月 27日
8月 24日
9月 14日
9月 28日
10月 12日
10月 26日
11月 9日
11月 30日
12月 7日
12月 21日
1月 11日
1月 25日
2月 8日
2月 22日
3月 8日
3月 15日
3月 22日

	氏 名	役 職 名
監事	石打 剛義	
監事	上野 桂子	(社) 全国訪問看護事業協会理事
監事	佐野 國治	
監事	白木 政幸	

## 社会福祉法人 聖隷福祉事業団 評議員名簿

評議員会  
開催日

	氏 名	役 職 名
評議員	青木 雅人	一般財団法人日本老人福祉財団理事長
評議員	伊藤 孝	一般財団法人芙蓉協会副理事長・聖隷沼津病院院長
評議員	大石 一雄	社会福祉法人さくま理事長
評議員	小野田 全宏	特定非営利法人静岡県ボランティア協会理事長
評議員	小里 俊幸	一般財団法人恵愛会副理事長・聖隷富士病院院長
評議員	小柳 守弘	学校法人聖隷学園専務理事・法人事務局長
評議員	背戸 好廣	一般財団法人恵愛会顧問・一般財団法人芙蓉協会顧問
評議員	遠松 健史	公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事
評議員	中村 勇	東京海上日動バスターライフサービス株式会社代表取締役社長
評議員	湯口 哲世	浜松商工会議所理事

6月 22日
10月 26日
3月 22日

(2019年3月31日時点・五十音順)



## 附属明細書

該当ありません。